秋田県文化財調査報告書第378集

狐　森　遺　跡

――日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＩ――

２００４・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

狐森遺跡

（きつね　もり　い　せき）

――日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＩ――

２００４・３

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道の建設事業に先立って、平成10年度から２ヵ年にわたって琴丘町で実施した狐森遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。

調査では、縄文時代前期の竪穴住居跡と掘立柱建物跡や膨大な量の遺物が見つかり、縄文時代の人々の営みを考えるうえで、貴重な情報を得ることができました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました日本道路公団東北支社秋田工事事務所、琴丘町教育委員会、五城目町教育委員会、八郎潟町教育委員会、山本町教育委員会など関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成16年３月

秋田県教育委員会

教育長　小 野 寺　　清

例　　言

1．本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書である。

2．本書は、平成10・11年度（1998・1999年度）に発掘調査をした、秋田県山本郡琴丘町鹿渡字狐森に所在する狐森遺跡の調査成果を収めたもので、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては、21冊目にあたる。

3．調査内容については、これまで秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料などで公表しているが、本報告書を正式なものとする。

4．本報告書の執筆・編集は、村上義直・高橋忠彦が行った。

5．本書に使用した図は、日本道路公団東北支社秋田工事事務所提供の工事路線計画図1,000分の１『日本海沿岸東北自動車道琴丘北地区』および建設省国土地理院発行の50,000分の１地形図『森岳』、『五城目』と25,000分の１地形図『鹿渡』である。

6．遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』1998年版に拠った。

7．第５章の自然科学分析は下記に委託した。

放射性炭素年代測定、樹種同定分析：株式会社古環境研究所

放射性炭素年代測定、出土石器等の岩質鑑定：パリノ・サーヴェイ株式会社

8．一部遺物の作図作業は下記に委託した。

土器・石器の実測及びトレース：株式会社シン技術コンサル

9．本報告書を作成するにあたり、以下の方々からご指導・ご助言を賜わりました。記して感謝申し上げます。（五十音順）

岡田康博・小笠原雅行・小野貴博・木村鐵次郎・木村将来・茅野嘉雄・児玉大成・斉藤岳

鈴木克彦・中村美杉・成田滋彦・秦光次郎・藤田亮一・三宅徹也

凡　　例

1．遺構番号は、その種類ごとに略記号を付し、検出順に連番としたが、柱穴様ピットだけは検出順に221以降の番号を付した。これらの中には精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。遺構の種類に用いた略記号は下記の通りである。

ＳＩ：竪穴住居跡	ＳＫ：土坑	ＳＢ：掘立柱建物跡
ＳＤ：溝跡	ＳＲ：土器埋設遺構	ＳＮ：焼土遺構
ＳＫＰ：柱穴様ピット	ＳＫＦ：フラスコ状土坑	ＳＤ：溝状遺構
ＳＱ：集石遺構		

2．土層番号に用いた数字はローマ数字を遺跡基本層序に、算用数字を遺構内層序に使用した。

3．遺物の縮尺は、主に土器が1/3、剥片石器類が1/2、礫石器類を1/3とした。

目　　次

序…… i
例言・凡例…… ii
目次…… iii
挿図目次…… iv
表目次…… v
図版目次…… v

第１章　はじめに
　第１節　調査に至る経過…… 1
　第２節　調査要項…… 1
第２章　遺跡の環境
　第１節　遺跡の位置と立地…… 7
　第２節　歴史的環境……10
第３章　発掘調査の概要
　第１節　遺跡の概観……13
　第２節　調査の方法……13
　第３節　調査の経過……15
　第４節　整理作業の方法と経過……16
第４章　調査の記録
　第１節　基本層序……17
　第２節　縄文時代の遺構と遺物……22
　　１．遺構と出土遺物……22
　　（１）竪穴住居跡……22
　　（２）掘立柱建物跡……24
　　（３）竪穴状遺構……37
　　（４）フラスコ状土坑……51
　　（５）土坑……54
　　（６）土器埋設遺構……61
　　（７）焼土遺構……65
　　（８）溝状遺構……66
　　（９）柱穴様ピット……66
　　(10) 捨て場……66
　　２．遺構外出土遺物……86
　第３節　古代の遺構と遺物 ……142
　　１．遺構と出土遺物 ……142
　　（１）掘立柱建物跡 ……142
　　（２）土坑 ……142
　　（３）炭窯 ……143
　　（４）集石遺構 ……144
　　（５）溝状遺構 ……147
　　２．遺構外出土遺物 ……151
第５章　自然科学分析
　第１節　狐森遺跡出土石器等の岩質鑑定 ……152
　第２節　放射性炭素年代測定 ……160
　第３節　樹種同定 ……163
第６章　まとめ
　第１節　遺構について ……168
　第２節　遺物について ……171
報告書抄録

挿図目次

第１図　日本海沿岸東北自動車道
（昭和～琴丘間）と関連遺跡……3･4
第２図　工事計画と調査範囲……6
第３図　遺跡の位置……7
第４図　遺跡周辺の地形……8
第５図　遺跡周辺の地質……9
第６図　周辺の遺跡 ……12
第７図　グリッド配置図 ……14
第８図　基本土層位置図 ……18
第９図　基本土層図（１）……19
第10図　基本土層図（２）……20
第11図　遺構配置図 ……21
第12図　ＳＩ22竪穴住居跡 ……23
第13図　ＳＩ101竪穴住居跡 ……25･26
第14図　ＳＢ13･19掘立柱建物跡 ……27･28
第15図　ＳＢ60･66掘立柱建物跡 ……29･30
第16図　ＳＢ60掘立柱建物跡……31･32
第17図　ＳＢ66掘立柱建物跡……33･34
第18図　ＳＢ83掘立柱建物跡 ……38
第19図　ＳＢ87掘立柱建物跡……39･40
第20図　ＳＢ109掘立柱建物跡 ……41･42
第21図　ＳＢ107掘立柱建物跡 ……43･44
第22図　ＳＢ108掘立柱建物跡 ……45･46
第23図　ＳＢ110掘立柱建物跡 ……47･48
第24図　ＳＢ24･216掘立柱建物跡、
ＳＫ23土坑……49･50
第25図　ＳＫＩ59･104竪穴状遺構 ……52
第26図　ＳＫＦ04･05･06･14フラスコ状土坑…53
第27図　ＳＫＦ20フラスコ状土坑、
ＳＲ21土器埋設遺構、
ＳＫ02･10･11土坑 ……55
第28図　ＳＫ31･33･54･55･71･72･76土坑 ……59
第29図　ＳＫ73～75･77･86･88･89･94･99･
105土坑……62
第30図　ＳＫ106･201･202･203･204土坑
ＳＲ09･12･30土器埋設遺構 ……63
第31図　ＳＲ15･62･69･78･84･85
土器埋設遺構 ……67
第32図　ＳＮ03･18･61･70･102焼土遺構、
ＳＤ25･100溝跡 ……68
第33図　遺構内出土遺物（１）……69
第34図　遺構内出土遺物（２）……70
第35図　遺構内出土遺物（３）……71
第36図　遺構内出土遺物（４）……72
第37図　遺構内出土遺物（５）……73
第38図　遺構内出土遺物（６）……74
第39図　遺構内出土遺物（７）……75
第40図　遺構外出土土器（１）……89
第41図　遺構外出土土器（２）……90
第42図　遺構外出土土器（３）……91
第43図　遺構外出土土器（４）……92
第44図　遺構外出土土器（５）……93
第45図　遺構外出土土器（６）……94
第46図　遺構外出土土器（７）……95
第47図　遺構外出土土器（８）……96
第48図　遺構外出土土器（９）……97
第49図　遺構外出土土器(10) ……98
第50図　遺構外出土土器(11) ……99
第51図　遺構外出土土器(12)……100
第52図　遺構外出土土器(13)……101
第53図　遺構外出土土器(14)……102
第54図　遺構外出土土器(15)……103
第55図　遺構外出土土器(16)……104
第56図　遺構外出土土器(17)……105
第57図　遺構外出土土製品……106
第58図　遺構外出土石器（１）……110
第59図　遺構外出土石器（２）……111
第60図　遺構外出土石器（３）……112
第61図　遺構外出土石器（４）……113
第62図　遺構外出土石器（５）……114
第62図　遺構外出土石器（５）……114
第63図　遺構外出土石器（６）……115
第64図　遺構外出土石器（７）……116
第65図　遺構外出土石器（８）……117
第66図　遺構外出土石器（９）……118
第67図　遺構外出土石器(10)……119
第68図　遺構外出土石器(11)……120
第69図　遺構外出土石器(12)……121
第70図　遺構外出土石器(13)……122
第71図　遺構外出土石器(14)……123

第72図　遺構外出土石器(15)……124
第73図　遺構外出土石器(16)……125
第74図　遺構外出土石器(17)……126
第75図　遺構外出土石器(18)……127
第76図　遺構外出土石器(19)……128
第77図　遺構外出土石器(20)……129
第78図　遺構外出土石器(21)……130
第79図　遺構外出土石器(22)……131
第80図　遺構外出土石器(23)……132
第81図　遺構外出土石器(24)……133
第82図　遺構外出土石器(25)……134
第83図　遺構外出土石器(26)……135
第84図　遺構外出土石器(27)……136
第85図　遺構外出土石器(28)……137
第86図　遺構外出土石器(29)・石製品（１）…138
第87図　遺構外出土石製品（２）……139
第88図　遺構外出土石製品（３）……140
第89図　遺構外出土石製品（４）……141
第90図　ＳＢ28掘立柱建物跡……145・146
第91図　ＳＫ27・35・47・57・90・91・93土坑、
　　ＳＱ37・38配石遺構 ……148
第92図　ＳＱ39・45配石遺構、ＳＷ01・28・34・
　　41炭窯……149
第93図　ＳＤ95～98溝跡……150
第94図　遺構外出土遺物……151
第95図　岩種別石材……158
第96図　狐森遺跡と周辺の遺跡……172

表　目　次

第１表　柱穴様ピット一覧（１）……76
第２表　柱穴様ピット一覧（２）……77
第３表　柱穴様ピット一覧（３）……78
第４表　柱穴様ピット一覧（４）……79
第５表　柱穴様ピット一覧（５）……80
第６表　柱穴様ピット一覧（６）……81
第７表　柱穴様ピット一覧（７）……82
第８表　柱穴様ピット一覧（８）……83
第９表　柱穴様ピット一覧（９）……84
第10表　柱穴様ピット一覧（10）……85
第11表　石器の岩種別構成……159
第12表　狐森遺跡出土炭化材の
　　樹種同定結果……160
第13表　放射性炭素年代測定結果……165
第14表　樹種同定結果……168
第15表　狐森遺跡出土石器の
　　器種別出土量……173
第16表　上ノ山Ⅱ遺跡出土石器の
　　器種別出土量……173

図 版 目 次

図版１：狐森遺跡遠景（南→）
　　捨て場精査
図版２：北側調査区終了（北東→）
　　北側調査区終了（南東→）
図版３：側道南側終了（北西→）
　　98年度調査区終了（北西→）
　　南側調査区終了（北東→）
図版４：側道南側土層断面（北西→）
　　南側調査区土層断面（西→）
　　南側調査区土層断面（西→）
図版５：捨て場遺物出土状態（北西→）
　　捨て場遺物出土状態（北西→）
　　捨て場遺物出土状態（南東→）
図版６：ＳＩ22完掘（南東→）
　　ＳＩ101完掘（東→）
図版７：ＳＢ13・19完掘（西→）
　　ＳＢ13・19完掘（西→）
　　ＳＢ24完掘（北西→）
図版８：ＳＢ60・66周辺（南東→）
　　ＳＢ60確認（南→）
図版９：ＳＢ60・66（南東→）
　　ＳＢ66Ｐ15　遺物出土状態（上位）
　　ＳＢ66Ｐ16　遺物出土状態（上位）
　　ＳＢ66Ｐ15　遺物出土状態（下位）
　　ＳＢ66Ｐ16　遺物出土状態（下位）
図版10：ＳＢ87・ＳＢ109周辺（南西→）
　　ＳＢ215完掘（北西→）

図版11：ＳＢ87・ＳＢ109・ＳＢ110（南西→）
ＳＫＩ59（南→）
図版12：ＳＫＩ104完掘（南東→）
ＳＫＦ04土層断面（南西→）
ＳＫＦ04完掘（南西→）
ＳＫＦ05土層断面（南西→）
ＳＫＦ05・14土層断面（南→）
図版13：ＳＫＦ06土層断面（南→）
ＳＫＦ06完掘（南東→）
ＳＫＦ20土層断面（西→）
ＳＫＦ20完掘（南西→）
ＳＫ02完掘（西→）
ＳＫ10土層断面（南西→）
ＳＫ11完掘（南西→）
ＳＫ31完掘（西→）
図版14：ＳＫ33完掘（西→）
ＳＫ54完掘（西→）
ＳＫ55完掘（南西→）
ＳＫ71完掘（東→）
ＳＫ72完掘（東→）
ＳＫ76完掘（南→）
ＳＫ73周辺完掘（南東→）
ＳＫ86完掘（南西→）
図版15：ＳＫ88完掘（南西→）
ＳＫ89完掘（南西→）
ＳＫ94完掘（南西→）
ＳＫ99完掘（南→）
ＳＫ105完掘（南→）
ＳＫ201土層断面（西→）
ＳＫ202土層断面（北東→）
ＳＫ203土層断面（北東→）
図版16：ＳＫ204土層断面（南→）
ＳＲ09断面（南西→）
ＳＲ12断面（南→）
ＳＲ15断面（南東→）
ＳＲ30断面（南西→）
ＳＮ61周辺（南東→）
ＳＲ62断面（南西→）
ＳＲ69断面（南→）
図版17：ＳＲ78断面（南→）
ＳＲ84・85断面（西→）
ＳＮ03確認（南東→）
ＳＮ18確認（南→）
ＳＮ61確認（南東→）
ＳＮ70確認（南西→）
ＳＮ102確認（西→）
ＳＤ25完掘（南西→）
図版18：ＳＢ28完掘（西→）
ＳＢ28Ｐ３（南西→）
ＳＢ28Ｐ４（南→）
ＳＢ28Ｐ６（南西→）
ＳＢ28Ｐ８（西→）
図版19：ＳＫ27完掘（北→）
ＳＫ35遺物出土状態（南→）
ＳＫ47土層断面（東→）
ＳＫ57完掘（南→）
ＳＫ90土層断面（南→）
ＳＫ91土層断面（南→）
ＳＫ93完掘（南→）
ＳＱ37確認（南→）
図版20：ＳＱ38確認（南→）
ＳＱ39確認（西→）
ＳＷ01炭化材出土状態（南西→）
ＳＷ01完掘（南→）
ＳＷ28土層断面（南→）
ＳＷ28完掘（南西→）
ＳＷ34完掘（北西→）
ＳＷ41土層断面（西→）
図版21：ＳＤ95～98確認（南→）
98年11月中旬の大雪
図版22：遺構外出土土器（１）
図版23：遺構外出土土器（２）
図版24：遺構外出土石器（１）
図版25：遺構外出土石器（２）
図版26：遺構外出土石器（３）
図版27：遺構外出土石器（４）
図版28：遺構外出土石器（５）
図版29：遺構外出土石器（６）
図版30：遺構外出土石製品（１）

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市にかけての日本海沿岸や県内の高速交通体系の改善など、地域の生産活動と県民生活に必要な情報や物資の交流を促進することを目的として計画された総延長340㎞の高速道路である。このうち、秋田県内では、国土交通省によって一部事業化されている象潟仁賀保道路及び仁賀保本荘道路、秋田外環状道路、琴丘能代道路、大館西道路と連結して、小坂ＪＣＴで東北自動車道に接続する。1997(平成９)年２月に新潟市～青森市までが日本海沿岸東北自動車道として路線指定され、このうちの秋田南Ｉ・Ｃ～昭和男鹿半島Ｉ・Ｃ間の25.7㎞については、同年11月13日に開通している。また、2001(平成13)年７月には河辺Ｉ・Ｃ～秋田空港Ｉ・Ｃ間が、2002(平成14)年には、３月に琴丘･森岳Ｉ・Ｃ～能代南Ｉ・Ｃ間(17.1㎞)、９月に昭和･男鹿半島Ｉ・Ｃ～琴丘･森岳Ｉ・Ｃ間(20.7㎞)、10月には岩城Ｉ・Ｃ～秋田空港Ｉ・Ｃ間(14.8㎞)が既に開通している。

狐森遺跡に係る昭和～琴丘間の20.7㎞については、1991(平成３)年12月に整備計画区間に、1993(平成５)年12月には実施計画認可を経て1994(平成６)年11月に路線が発表された。

これを受けて県教育庁文化課では、路線上における埋蔵文化財の確認のため、1996(平成８)年９・12月に分布調査を実施し、その結果、狐森遺跡を含む新たに発見した遺跡16箇所と、周知の遺跡３箇所の計19遺跡が予定路線内に存在することが明らかとなった。

狐森遺跡の確認調査は、12,000㎡を対象として1998(平成10)年８月４日から８月22日にかけて実施され、縄文時代前期の捨て場を伴う集落跡として、工事区域内遺跡面積は9,400㎡であるとされた。

なお、狐森遺跡は平成10年には県営ほ場整備事業に伴い、平成12年は一般国道７号琴丘能代道路建設事業に伴い発掘調査が行われている。

第２節　調査要項

遺　跡　名	狐森遺跡（略記号３ＫＭ）
遺跡所在地	秋田県山本郡琴丘町鹿渡字狐森33番地外
調査期間	平成10年４月27日～11月27日
	平成11年４月26日～11月12日
調査面積	9,400㎡（平成10年：2,400㎡、平成11年：7,000㎡）
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	平成10年度
	磯村　　亨（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）
	村上　義直（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事）
	加藤　　竜（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事）
	千葉　史宏（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

戸嶋　正明（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）
平成11年度
村上　義直（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事）
佐藤　錠司（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事、鳥海町派遣職員）
千葉　史宏（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）
鎌田　　勉（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

調査協力機関　日本道路公団東北支社秋田工事事務所　琴丘町教育委員会

総務担当者　平成10年度
菅原　　晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査）
佐藤　幸嗣（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
平成11年度
菅原　　晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査）
佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
平成12年度
菅原　　晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査）
佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
成田　　誠（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
平成13年度
土橋　謙一（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
平成14年度
土橋　謙一（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
平成15年度
藤原　康悦（秋田県埋蔵文化財センター総務課副主幹）

《参考文献》

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997（平成９）年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第281集　1998（平成10）年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第291集　1999（平成11）年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第308集　2000（平成12）年
秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ＸＩＸ－古野遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第253集　1995（平成７）年
秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ＸＸ－蟹子沢遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第261集　1996（平成８）年

第１図　日本海沿岸東北自動車道（昭和～琴丘間）と関連遺跡

秋田県教育委員会　『戸平川遺跡－東北横断自動車道秋田線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸⅣ－』　秋田県文化財調査報告書第294集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会　『兵ヶ沢遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調報告書第296集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会　『元木山根Ⅱ遺跡・毘沙門遺跡・六ツ鹿沢遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第309集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会　『狐森遺跡－県営ほ場整備事業（琴丘南地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第302集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会　『岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』　秋田県文化財調査報告書第314集　2001(平成13)年

秋田県教育委員会　『北遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－』　秋田県文化財調査報告書第314集　2001(平成13)年

秋田県教育委員会　『中谷地遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－』　秋田県文化財調査報告書第316集　2001(平成13)年

秋田県教育委員会　『古開Ⅱ遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－』　秋田県文化財調査報告書第317集　2001(平成13)年

秋田県教育委員会　『大平遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－』　秋田県文化財調査報告書第314集　2001(平成13)年

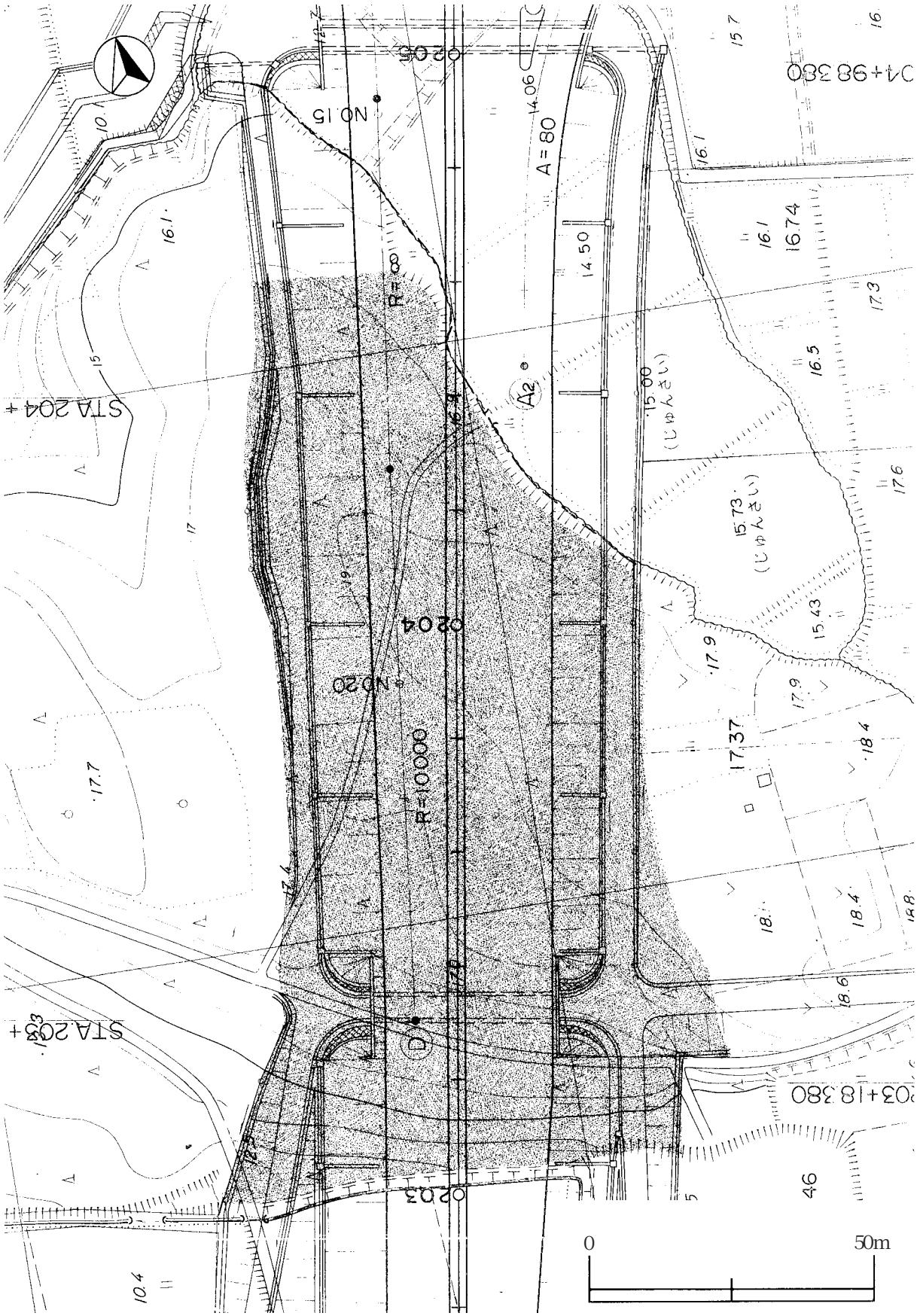
秋田県教育委員会　『鹿来館跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅠ－』　秋田県文化財調査報告書第332集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『後山遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅡ－』　秋田県文化財調査報告書第340集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『岱Ⅱ遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅢ－』　秋田県文化財調査報告書第341集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『小林遺跡Ⅰ(縄文時代編)－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅣ－』　秋田県文化財調査報告書第341集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『狐森遺跡－一般国道７号琴丘能代道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ｘ－』秋田県文化財調査報告書第345集　2002(平成14)年



第２図　工事計画と調査範囲

第２章　遺跡の環境

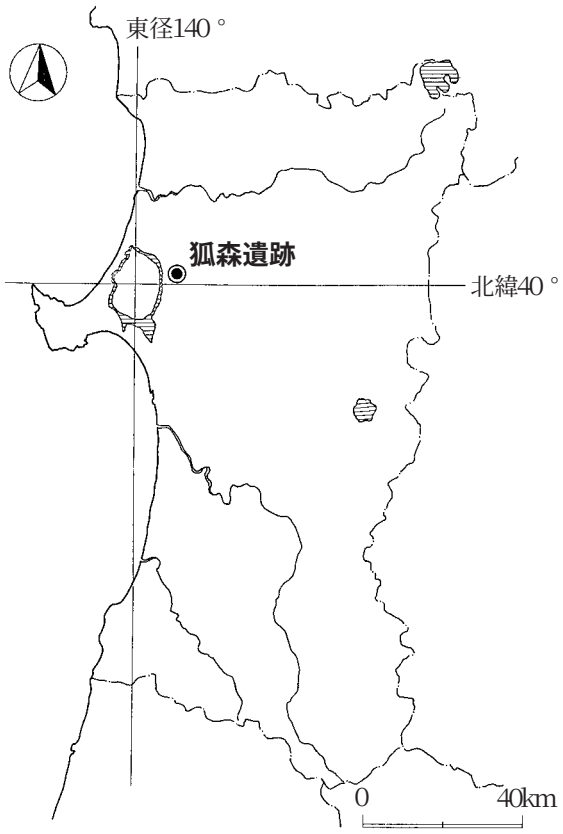
第１節　遺跡の位置と立地

遺跡のある琴丘町は、西側の東部承水路から東側の出羽丘陵の間にある狭小な平野部を中心に集落が点在する町である。旧八郎潟の東岸に沿って南北に延びる平野のほぼ中央を、国道７号とＪＲ奥羽本線が南北に平行しており、遺跡はこのＪＲ奥羽本線鹿渡駅から南東へ2.7㎞ほどの北緯40度１分44秒、東経140度５分24秒に位置している。

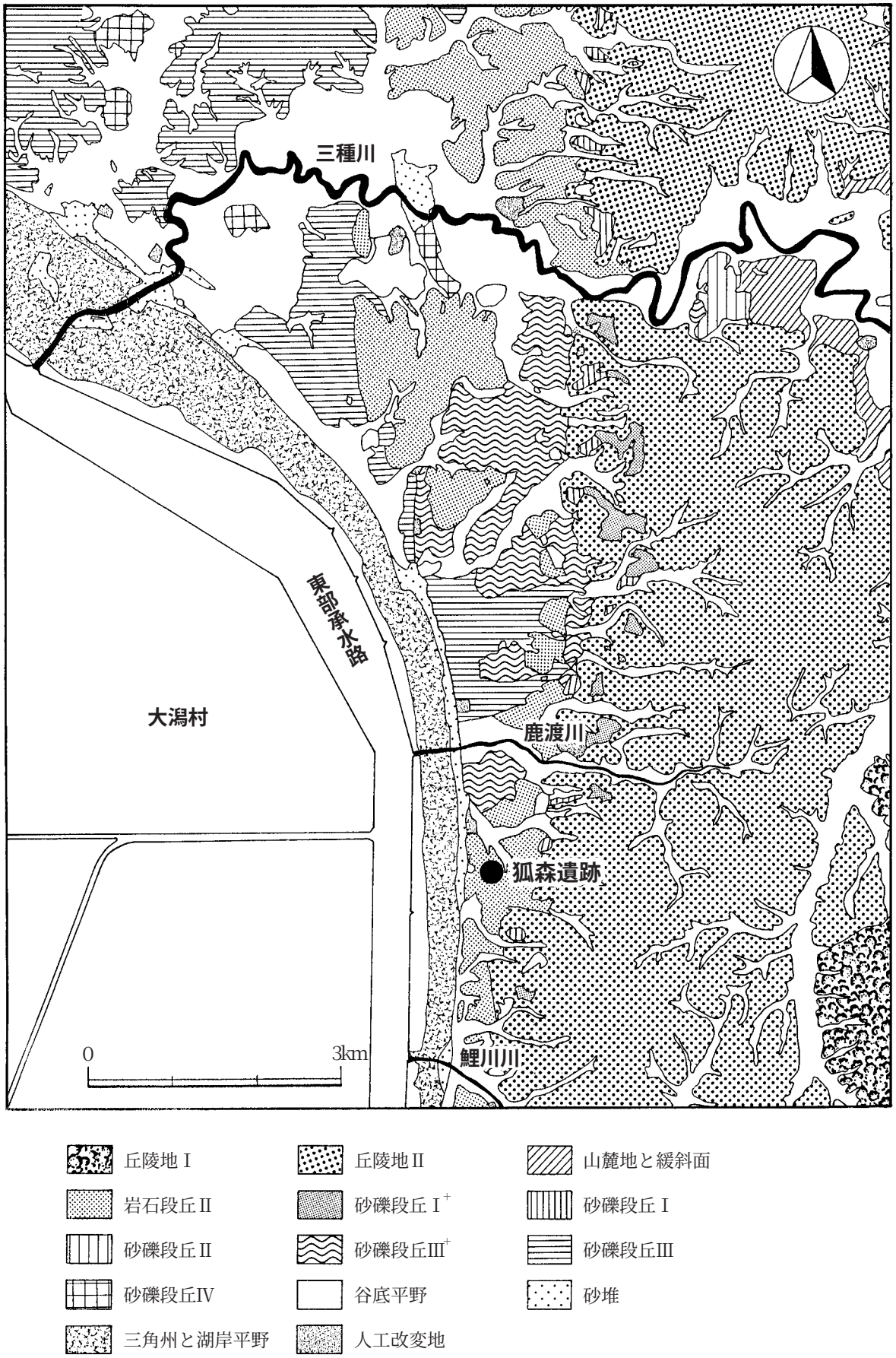
琴丘町を含む旧八郎潟東岸地域は、出羽丘陵地の北寄りに位置し、東は奥羽脊梁山地から分岐する太平山地に連なる七座山地・房住山山地、北は白神山地、西は日本海に面している。遺跡の東側で南北に聳える房住山山地と北の七座山地を結ぶ山頂部は、標高300～400mの高位浸食小起伏面群で、西側にはこれらの山腹をとりまくように丘陵頂部の標高が40～100mの斉高性のある浸食小起伏面群が発達している。また、この丘陵頂部の東側で山地に接する地形は急斜面となっており、西側では低位段丘面が平野面とともに低地面を形成し、この地域では山地、丘陵地、台地・低地の三段化した地形が規則正しく連なっている。平野面を形成する水系は、遺跡から北に7.5㎞ほどを西流するこの地区最大の三種川の他は、遺跡周辺で鹿渡川や鯉川川が八郎潟干拓地の東部承水路に注ぎ込んでいるに過ぎない。

狐森遺跡は、鯉川川水系により侵食を受ける鹿渡丘陵地、第四紀更新世に形成された潟西層の砂および泥層上に立地し、遺跡の標高は13～18mである。

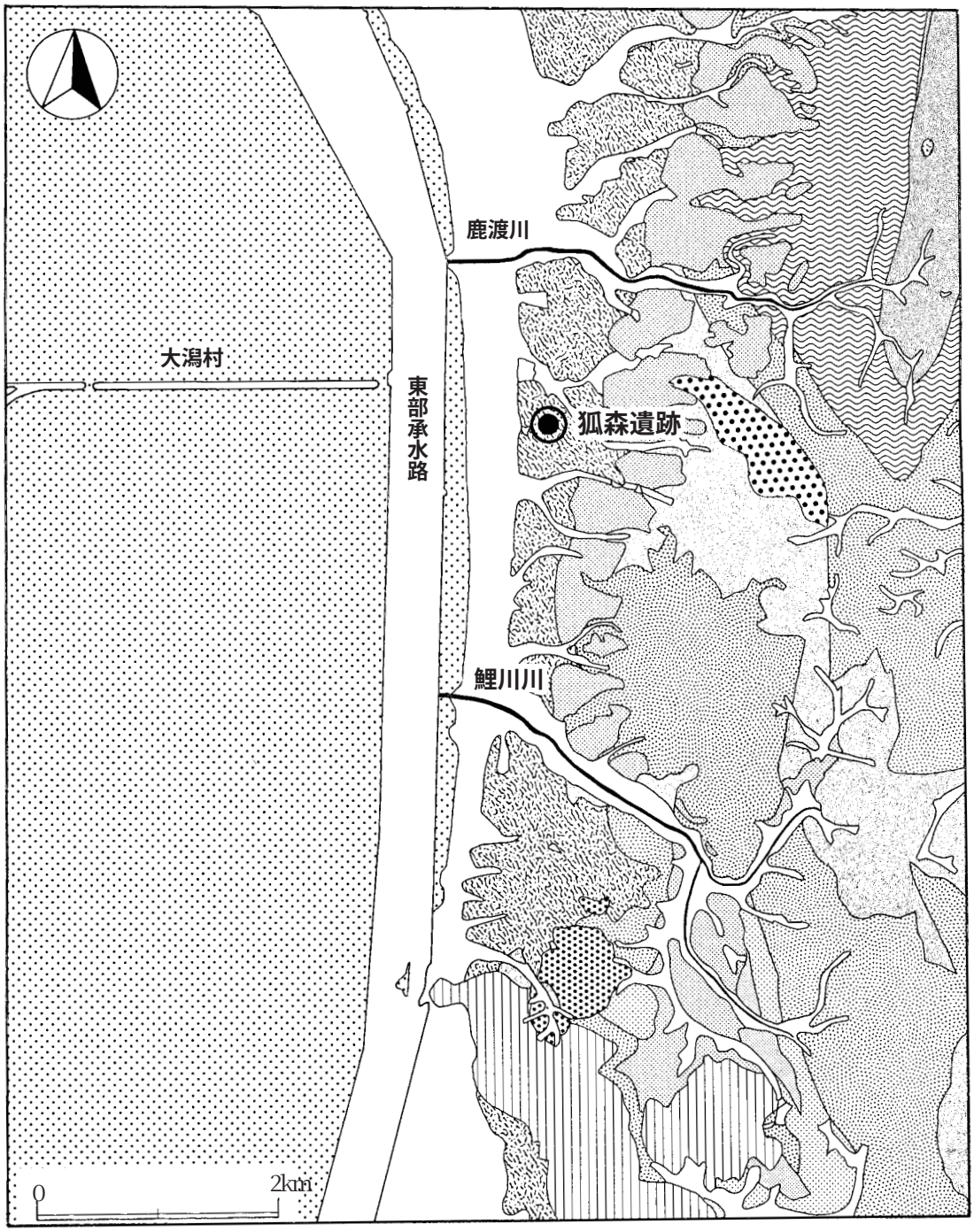
遺跡周辺の地質は下位から新第三紀中新世の小谷沢層、女川層、船川層、天徳寺層、鮮新世の笹岡層、第四紀更新世の潟西層、段丘堆積物、完新世の段丘堆積物、沖積低地堆積物で構成されている。山地から湖岸に向かって地質時代の古い地層から若い地層が順に重なっているが、地層が褶曲しているため、南北の褶曲軸に沿って同一層が繰り返し露出している。このため湖岸に近い丘陵地の一部では、船川層の泥岩、女川層の珪質頁岩がみられる。また、鹿渡丘陵地、森山高岳山山地にそれぞれ火山岩類層がみられ、遺跡の南北にそれぞれ分布する。鹿渡丘陵地にみられる火山岩類は馬ノ松火山岩類と呼ばれおり、岩種は石英安山岩、角閃石安山岩など多種にわたる。森山、高岳山では石英安山岩がみられる。狐森遺跡から出土した石器の原材は、潟西層や段丘礫層に由来している。



第３図　遺跡の位置


三種川
東部承水路
大潟村
鹿渡川
狐森遺跡
鯉川川
0
3km
丘陵地Ⅰ
丘陵地Ⅱ
山麓地と緩斜面
岩石段丘Ⅱ
砂礫段丘Ⅰ+
砂礫段丘Ⅰ
砂礫段丘Ⅱ
砂礫段丘Ⅲ+
砂礫段丘Ⅲ
砂礫段丘Ⅳ
谷底平野
砂堆
三角州と湖岸平野
人工改変地

第４図　遺跡周辺の地形



砂
泥岩及び酸性凝灰岩
暗灰色泥岩
流紋岩
硬軟互層及び漸移層
礫・砂及び泥
シルト岩
玄武岩及び同質火砕岩
八郎潟干拓地
硬質泥岩
酸性軽石凝灰岩及び酸性細粒・中粒凝灰岩
塊状泥岩
普通輝石含有黒雲母・角閃石石英安山岩

第５図　遺跡周辺の地質

第２節　歴史的環境

遺跡のある琴丘町は、八郎潟東部承水路（八郎潟残存湖）東岸に位置する町である。町の東側には出羽丘陵が南北に連なり、承水路東岸との間には狭小な平野が存在し、多くの遺跡が平野に面した丘陵先端部に立地している。近年の道路整備事業や大規模ほ場整備事業に伴う発掘調査により、琴丘町を含む旧八郎潟東岸地域における旧石器時代以降の歴史が明らかにされてきた。

家の下遺跡は、町内北部の標高24mほどの低丘陵上（森岳段丘面）にあり、縦長剥片を素材とするナイフ形石器や米ヶ森型台形石器が出土しており、ＡＴ降灰以前（約25,000年前）に位置付けられている。秋田市以北で調査された旧石器時代の遺跡としては、能代市此掛沢Ⅱ遺跡に次いでの旧石器時代の調査であるばかりでなく、その石器組成などからほぼ同時期の遺跡と考えられている。また、堂の下遺跡のナイフ形石器は、ほぼ両遺跡と同時期と考えられるが、両遺跡の旧石器の出土点数が15,000点以上であるのに対して、堂の下遺跡の旧石器は10点である。同時期における出土石器の点数、石器組成、遺跡の立地の違いなどからも、25,000年前前後の能代山本地域における旧石器時代の遺跡が多様であったことがうかがえる。

家の下遺跡から南へ５㎞に狐森遺跡がある。遺跡は平野部に張り出した、標高15m前後の丘陵先端部にあり、これまでに３次にわたる発掘調査が行われている。平成10・11年に行われた調査では、縄文時代前期（円筒下層様式）全般にわたる捨て場が確認され、多量に出土した礫石錘や半円状扁平打製石器からは、遺跡内で行われた当時の生業の実態が解明されつつある。同遺跡では、縄文時代中期前半の竪穴住居や後期前半の土坑なども見つかっており、長期間にわたって営まれた遺跡であることがわかってきている。狐森遺跡から南東2.5㎞の標高50～60mの丘陵上にある小林遺跡では、中期後半の竪穴住居跡や陥し穴状土坑などが確認されている。中期の遺跡としては、狐森遺跡と同時期の竪穴住居跡が見つかった宝竜前遺跡が、標高15m前後の丘陵末端に立地している。縄文時代後期には、家の下遺跡で後期前半のフラスコ状土坑が多数調査され、堂の下遺跡においては、後期後半の竪穴住居跡が見つかっている。縄文時代晩期になると、家の下遺跡や狐森遺跡などが立地する段丘面に、高石野Ⅰ遺跡（旧：高石野遺跡）がある。昭和57年の琴丘町教育委員会による調査では、縄文時代後期後半から晩期の中頃までの遺物が多数出土しており、中でも晩期前半の大洞Ｂ・ＢＣ式に伴う土製品が多く、特に海獣を模したと思われる土製の土笛は、琴丘町のシンボルにもなっている。

旧石器時代から縄文時代の遺跡の多くは、既述のとおり平野に面した標高20m前後の丘陵先端部に立地していることが概観できる。特に、縄文時代にあっては海進・海退が繰り返され、これら縄文時代の遺跡は、当時八郎潟の汀線近くに面していたことが考えられ、海進・海退が縄文人の住環境や生業に大きく影響を与えたものと想像され、遺跡の立地と検出遺構や出土遺物の状況もそれを強く反映した結果であると考えられる。

平安時代になると、小林遺跡では竪穴住居や掘立柱建物のある大規模な集落が現れ、製鉄炉や鉄製品なども見つかっていることから、製鉄から鍛冶までを集落内で行っていたことがわかってきた。小林遺跡から北へ3.5㎞にある盤若台遺跡と金仏遺跡や泉沢中台遺跡でも平安時代の製鉄関連遺構の他に竪穴住居や掘立柱建物などが多数見つかっており、これら遺跡群が製鉄を中心とする生産遺跡であったことがわかってきた。平安時代にこの地域で、盛んに製鉄が行われたのは、原料となる砂鉄が

容易に獲得できたからである。このことは、堂の下遺跡で13世紀ころの製鉄炉や大量の鋳型が見つかり、製鉄から鋳造まで行われていたことでも明らかである。堂の下遺跡の製鉄及び鋳造技術が、小林遺跡などの平安時代の技術とは別の系譜であり、北陸地方の技術がもたらされたものであることが、現在整理作業の進めている段階でわかってきている。中世の琴丘地区では、大規模な製鉄業と鋳造業が営まれ、鋳造品はおそらくは、八郎潟から日本海に出る海運によって消費地に供給されたことが考えられる。これまで、琴丘地域の古代から中世の歴史については明確ではなかったが、既述のとおり、近年の発掘調査結果からこの地域における当時の社会を解明できるようになってきた。江戸時代には羽州街道が整備され、現在の国道７号とほぼ平行して八郎潟東岸を通っており、旧石器時代からの歴史をたどることが可能になってきたと言える。

参考文献

藤岡一男・高安泰助　「八郎潟周辺の地質及び地形」『八郎潟の研究』1965(昭和40)年

琴丘町教育委員会　『宝竜前遺跡緊急発掘調査報告書』　1978(昭和53)年

琴丘町教育委員会　『高石野遺跡発掘調査概報』　1983(昭和58)年

秋田県教育委員会　『歴史の道調査報告Ⅵ－北部羽州街道』　秋田県文化財調査報告書第132集　1985(昭和60)年

秋田県教育委員会　『家の下遺跡(２)旧石器時代編－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第275集　1998(平成10)年

秋田県教育委員会　『泉沢中台遺跡－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』　秋田県文化財調査報告書第276集　1998(平成10)年

秋田県教育委員会　『兵ヶ沢遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第296集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会　『狐森遺跡－県営ほ場整備事業(琴丘南地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第344集　2000(平成12)年

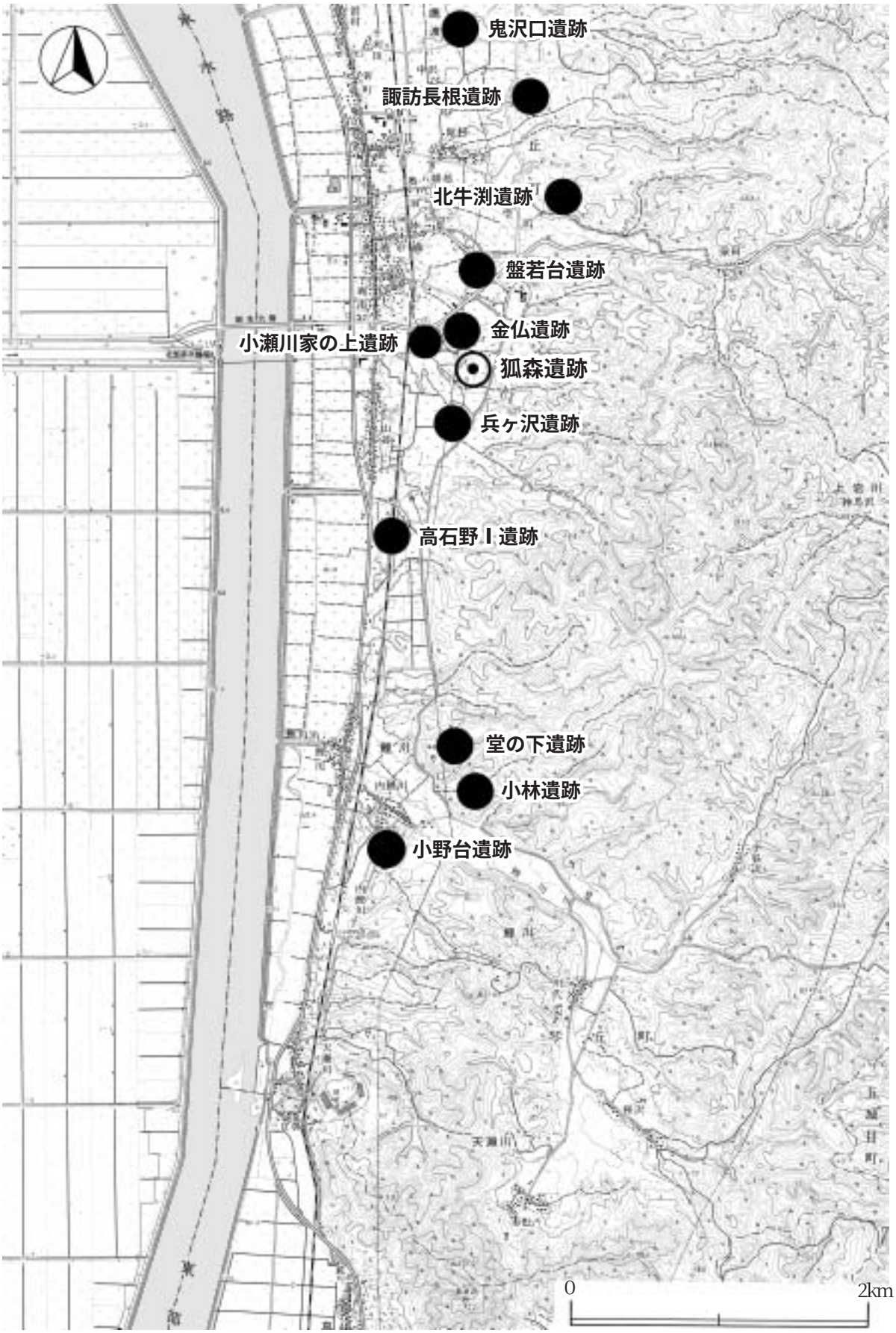
秋田県教育委員会　『盤若台遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る発掘調査報告書Ⅷ－』　秋田県文化財調査報告書第319集　2001(平成13)年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(山本地区版)』　2002 (平成14) 年

秋田県教育委員会　『金仏遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－』　秋田県文化財調査報告書第333集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『小林遺跡Ⅰ縄文時代編－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ－』　秋田県文化財調査報告書第344集　2002(平成14)年

秋田県教育委員会　『狐森遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ－』　秋田県文化財調査報告書第345集　2002(平成14)年


鬼沢口遺跡
諏訪長根遺跡
北牛渕遺跡
盤若台遺跡
金仏遺跡
小瀬川家の上遺跡
狐森遺跡
兵ヶ沢遺跡
高石野Ⅰ遺跡
堂の下遺跡
小林遺跡
小野台遺跡
0
2km

第６図　周辺の遺跡

３章　調査の概要

第１節　遺跡の概観

狐森遺跡の範囲（第96図参照）は広く、当調査区はその一部にすぎない。今回の道路公団部分の調査と前後して、国土交通省部分（平成12年度）、ほ場整備事業部分（平成10年度）のそれぞれの狐森遺跡の調査が行なわれている（位置関係については第96図を参照）。

当調査区は、出羽丘陵から西に延びる台地の先端部と基部との間の部分にある。調査区の中央部が台地の尾根筋にあたり、南北の台地の側縁に向かってなだらかに傾斜している。台地の縁は、南側が低地へと向かう緩斜面で、北側は急斜面になっている。南側の縁については低地と約１ｍ比高があり、水田造成にともない斜面の先端が削平されている。調査区内の標高は13～18mほどで、調査区中央のなだらかな尾根筋にあたる部分が最高地点である。台地の南北にある低地は大きな沢である。北側の沢を挟んだ台地には金仏遺跡（平成11年度調査）、南側の沢を挟んだ台地には兵ヶ沢遺跡（平成10年度調査）がある。

今回の調査結果から、当遺跡は縄文時代前期・中期、古代の遺跡であることがわかった。このうち主体となる時期は縄文時代前期の後半で、南側の緩斜面には大規模な捨場が広がっていることがわかった。

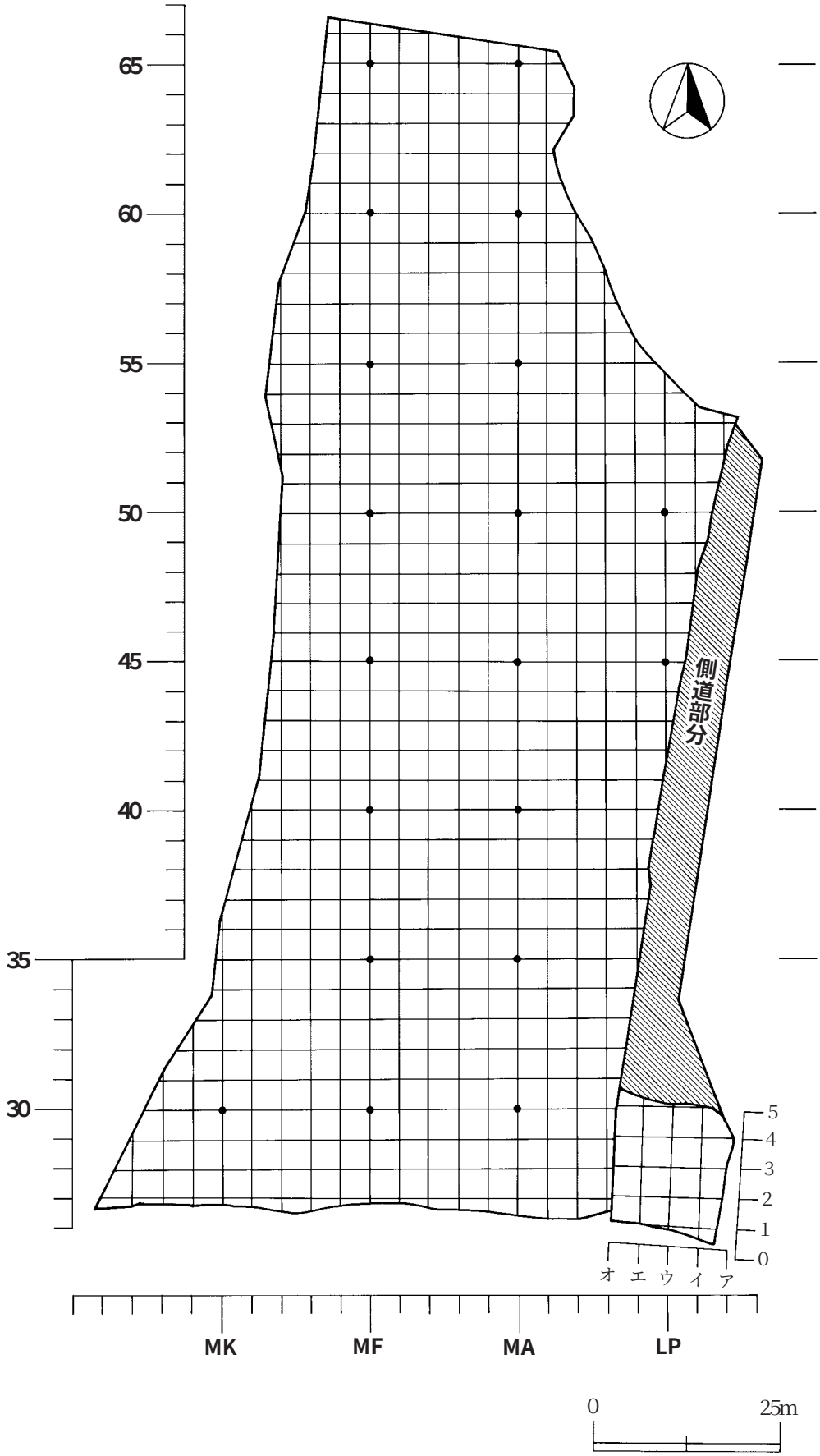
縄文時代の遺構は調査区の全域で検出したが密度は高くない。フラスコ状土坑は調査区中央部より南側で多く検出されている。土器埋設遺構は中央部でややまとまる傾向にある。その他、柱穴様ピットは調査区の全域で検出されたが、建物としての復元には至らなかったものが多い。

古代以降については、炭窯、掘立柱建物跡などの遺構が調査区の南側で検出されている。遺物は、土師器、須恵器や鉄滓が少量出土しているが、遺構から出土したものはほとんどなかった。

第２節　調査の方法

調査は工事工程に合わせ、４回に分けて行なわれた。１回目は平成10年度の側道部分の調査、２回目は同年の側道南部分の調査、３回目は同年のＢＯＸ部分の調査、４回目は平成11年度の調査である。この中で１・２回目の調査は特に緊急を要するもので、工事用の仮杭を基準にして急遽グリッド設定を行なった。このため、側道部分では他の部分とは異なるグリッド設定が行なわれる結果となった。調査の方法や各区のグリッド設定の基準は以下のとおりである。

調査の方法は、グリッド法を採用した。側道部分以外の調査区については日本海沿岸東北自動車道建設工事のセンター杭（ＳＴＡ.Ｎｏ.204+00）を基点として真北方向をとり、４ｍ×４ｍの方眼杭を打設してグリッドを設定した。具体的には、基点にＭＡ50の呼称を付し、西に行くに従いＭＢ、ＭＣ、ＭＤ……というアルファベットを、北に行くに従い51、52、53……という二桁の算用数字を用い、これを組み合わせた記号で位置を示した。その際、４ｍ方眼の南東隅に位置する杭を当該グリッドの名称とした。側道南部分については、工事用の仮杭に平行した「ア」～「エ」ラインを算用数字で区切



第７図　グリッド配置図

るかたちで交点に杭を打設し、４ｍ×４ｍの方眼によるグリッドを設定した。算用数字は他の設定と同様に北に行くに従い大きな番号になる。グリッドの呼称に用いた杭は他と同じ南東杭である。グリッドの呼称はアー１、アー２とういう具合になる。

検出した遺構は発見順に（柱穴様ピットは221番から）略記号および番号を付して区別した。

調査は表土（耕作土）の掘り下げ、包含層の掘り下げ、遺構精査という手順で進めた。表土除去は重機で、遺物が多く含まれている包含層や遺構確認面までの掘り下げは手作業で行った。出土した遺物については遺跡名・出土位置・出土層位・出土年月日を記録し、必要に応じて写真撮影記録を行った。遺物番号を付したものは出土レベルも記録した。検出遺構・遺物は、35㎜判モノクロネガフィルム・リヴァーサルフィルム・カラーネガフィルムで撮影記録した。

第３節　調査の経過

狐森遺跡の調査は２ヶ年に渡って行なわれた。平成10年度は先に工事が行なわれる側道部分とＢＯＸ部分の調査を行ない、平成11年度はそれ以外の部分の調査を行った。

平成10年

４月下旬～８月下旬までは側道部分の調査、側道南部分の確認調査、調査区全体の確認調査などを行った。このうち、側道部分の調査は主に５～６月、側道南部分の確認調査は４～５月、調査区全体の確認調査は７～８月にかけて行った。側道部分以外の調査は、これらの確認調査の結果を受けて行なわれる運びとなった。この中で側道部分の調査は特に緊急を要し、周辺工事との調整をはかりながら、断続的に行われた。

８月21日：側道南部分の調査を開始。方眼杭打設作業、表土の掘り下げを実施。
８月24日：ＢＯＸ区の方眼杭打設作業開始（25日終了）。
８月25日：捨て場から縄文時代前期の土器が多数出土。
９月８日：ＢＯＸ区の本格的な調査にさきがけベルトコンベア等の機材搬入を実施。直線上に並ぶ３つの焼土を竪穴住居跡の地床炉と認定。
９月９日：側道南側部分の調査が終了。
９月10日：ＢＯＸ区の本格的な調査を開始。
10月９日：ＢＯＸ区の東側からＳＫＦ05を検出（後にＳＫＦ14も検出）。
10月20日：ＳＢ13を検出。
10月23日：捨て場からの遺物量が急増。
10月27日：ＳＫＦ05覆土中で焼土層を確認。
11月18日：ＳＫＦ20を検出。
11月19～20日：大雪（約30㎝の積雪）と寒波のため調査時間を短縮。
11月27日：終了写真撮影、調査区内のレベリング、機材の整理を行ない本年度の調査を終了。

平成11年

４月26日：調査開始。資材の運搬、条件整備等を実施。
４月27日：重機による表土除去を開始。

５月10日：方眼杭打設作業開始。
５月12日：ベルトコンベア等機材の搬入。
５月13日：作業員説明会を実施。
５月17日：作業員が就労。事務所、プレハブ等の環境整備を実施。
５月19日：南側調査区（昨年度調査ＢＯＸ区の南側）の本格的な調査を開始。
６月１日：多量の出土遺物に対処するため、自動注記システムによる注記を開始（現場事務所）。
６月３日：捨場からの遺物量が増加。
６月15日：捨場遺物出土状態写真撮影（Ⅳ層面）。
７月２日：鹿渡小学校３年生、遺跡見学・体験発掘実施。
８月２日：南側調査区の調査を終了。
９月９日：ＳＢ60を検出。
９月16日：ＳＢ66を検出。
10月１日：ＳＢ66柱穴底面から石錘等を含む礫が多数出土。
10月26日：ＳＲ84、85検出。
11月９日：ＳＩ01を検出。地床炉などを確認。
11月12日：調査終了写真撮影。調査完了。

第４節　整理作業の方法と経過

２ヵ年の調査では、18リットルコンテナに換算すると縄文土器等1,550箱、石器1,020箱の遺物が出土した。この膨大な遺物に対処するために遺物の洗浄・注記作業を毎日、発掘調査現場でも行なった。それにもかかわらず、全ての遺物の洗浄を終えたのは平成13年の夏であった。

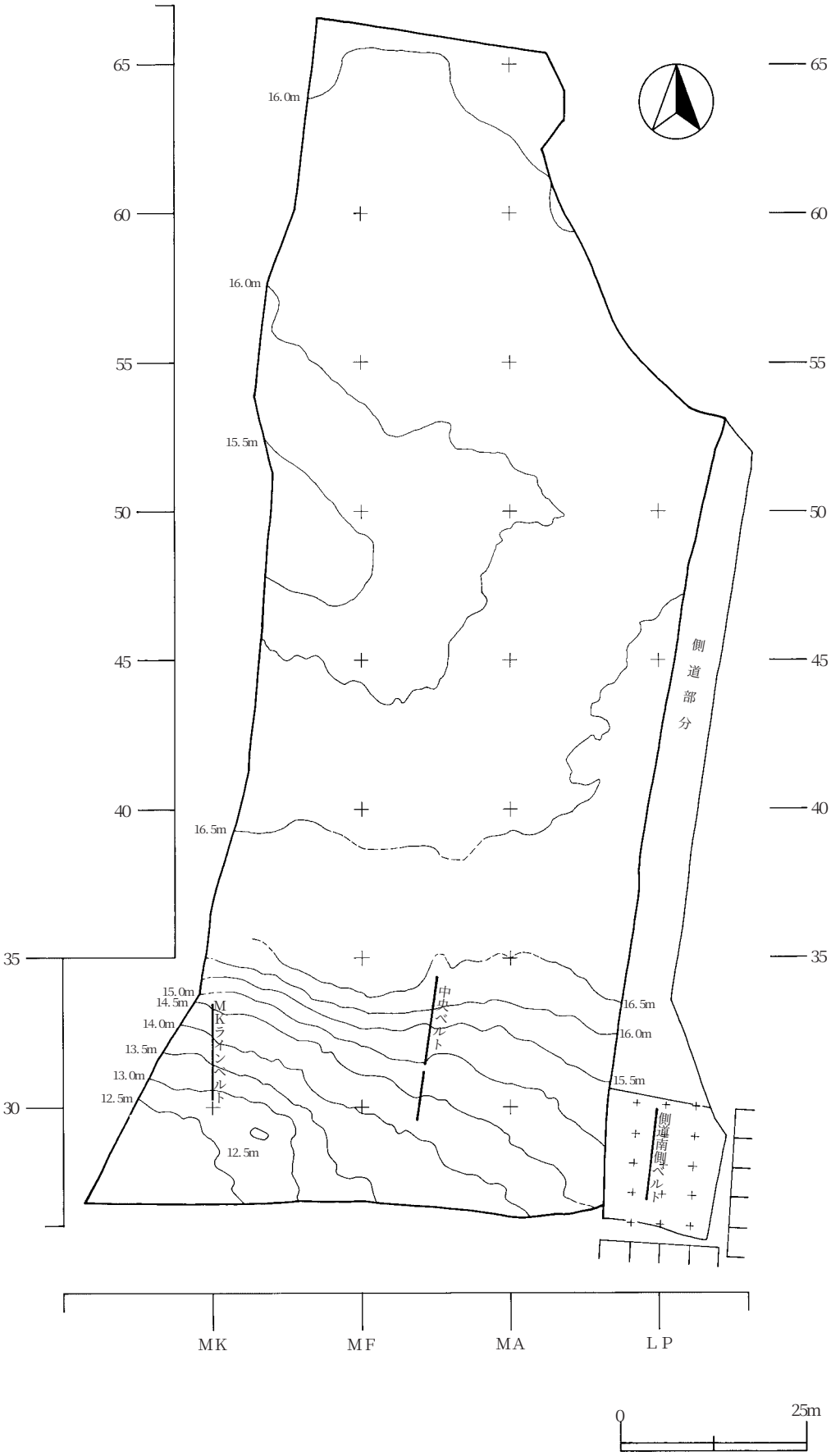
整理作業は、主に秋田県埋蔵文化財センター中央調査課で行なった。遺物は洗浄・注記をしたのち、集計、分類、接合作業などを行なった。一部の土器の実測は株式会社シン技術コンサルへ、石質の肉眼鑑定はパリノサーヴエイ株式会社に委託した。遺構図面については村上が中心となって第２原図を作成し、それをトレースしたものを原稿とした。

第４章　調査の記録

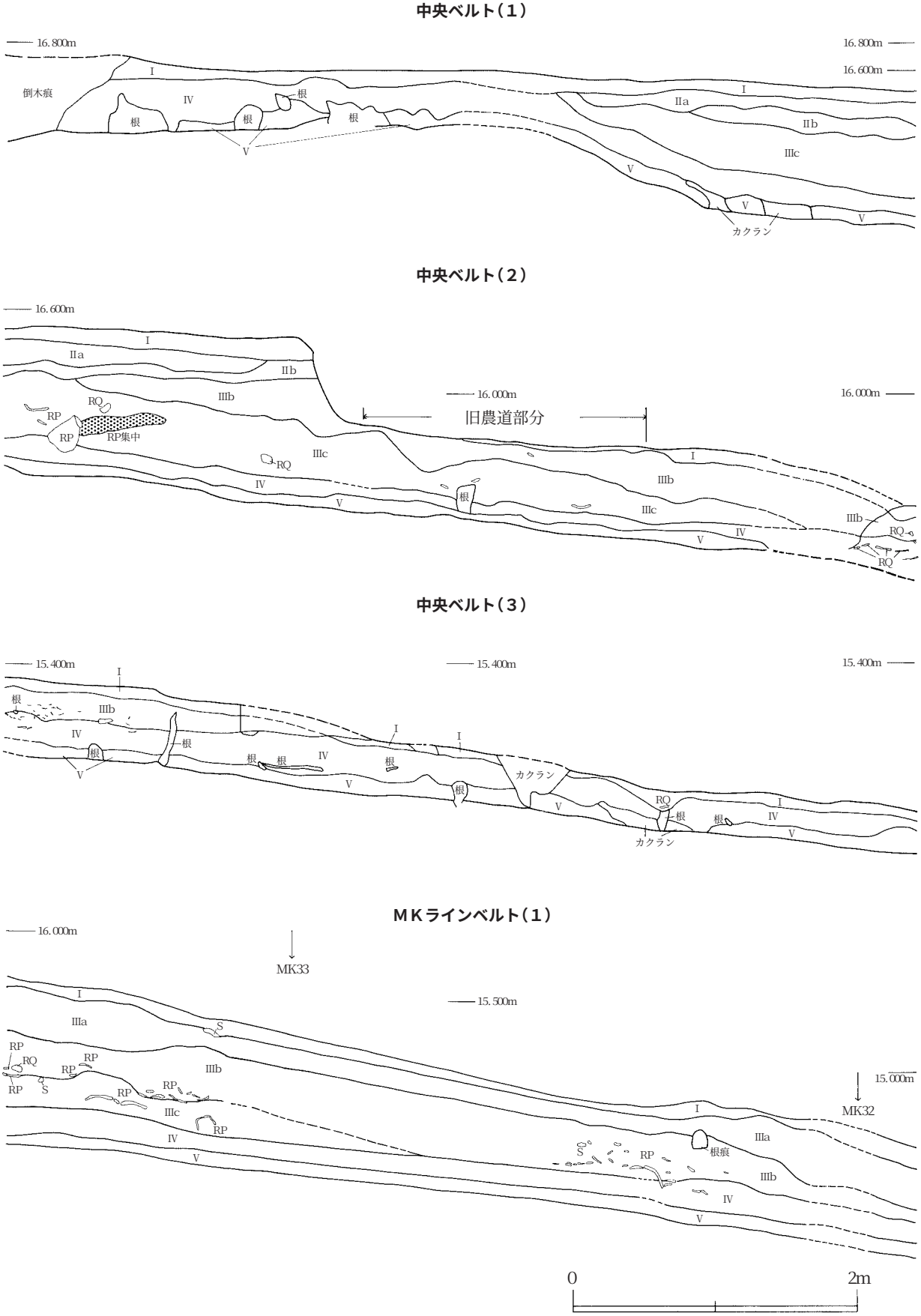
第１節　層序

第Ⅰ層　表土　10ＹＲ３／２～３／３　黒褐色～暗褐色　シルト　層厚10㎝前後。
第Ⅱ層　古代～縄文時代の遺物包含層
　Ⅱａ層　10ＹＲ３／２　黒褐色　シルト　層厚20㎝前後。
　Ⅱｂ層　10ＹＲ３／３　暗褐色　シルト　層厚20㎝前後。
第Ⅲ層　縄文時代前期～中期初頭の遺物包含層
　Ⅲａ層　10ＹＲ３／３　暗褐色　シルト（捨場西側に分布）　層厚20～40㎝。
　Ⅲｂ層　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　シルト　層厚20～40㎝。
　Ⅲｃ層　10ＹＲ３／３　暗褐色　シルト　層厚20～40㎝。
　Ⅲｄ層　10ＹＲ３／２　黒褐色　シルト（捨場東側の一部）　　層厚20㎝。
第Ⅳ層　縄文時代前期の遺物包含層
　Ⅳａ層　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　シルト　層厚30～35㎝。
　Ⅳｂ層　10ＹＲ　３／２～３／３　黒褐色～暗褐色　シルト　層厚20～30㎝。
第Ⅴ層　漸移層　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色～10ＹＲ４／４　褐色　シルト　層厚10㎝。
第Ⅵ層　地山
　Ⅵａ層　7.5ＹＲ４／６　褐色　シルト。
　Ⅵｂ層　7.5ＹＲ５／６　明褐色　細粒砂。

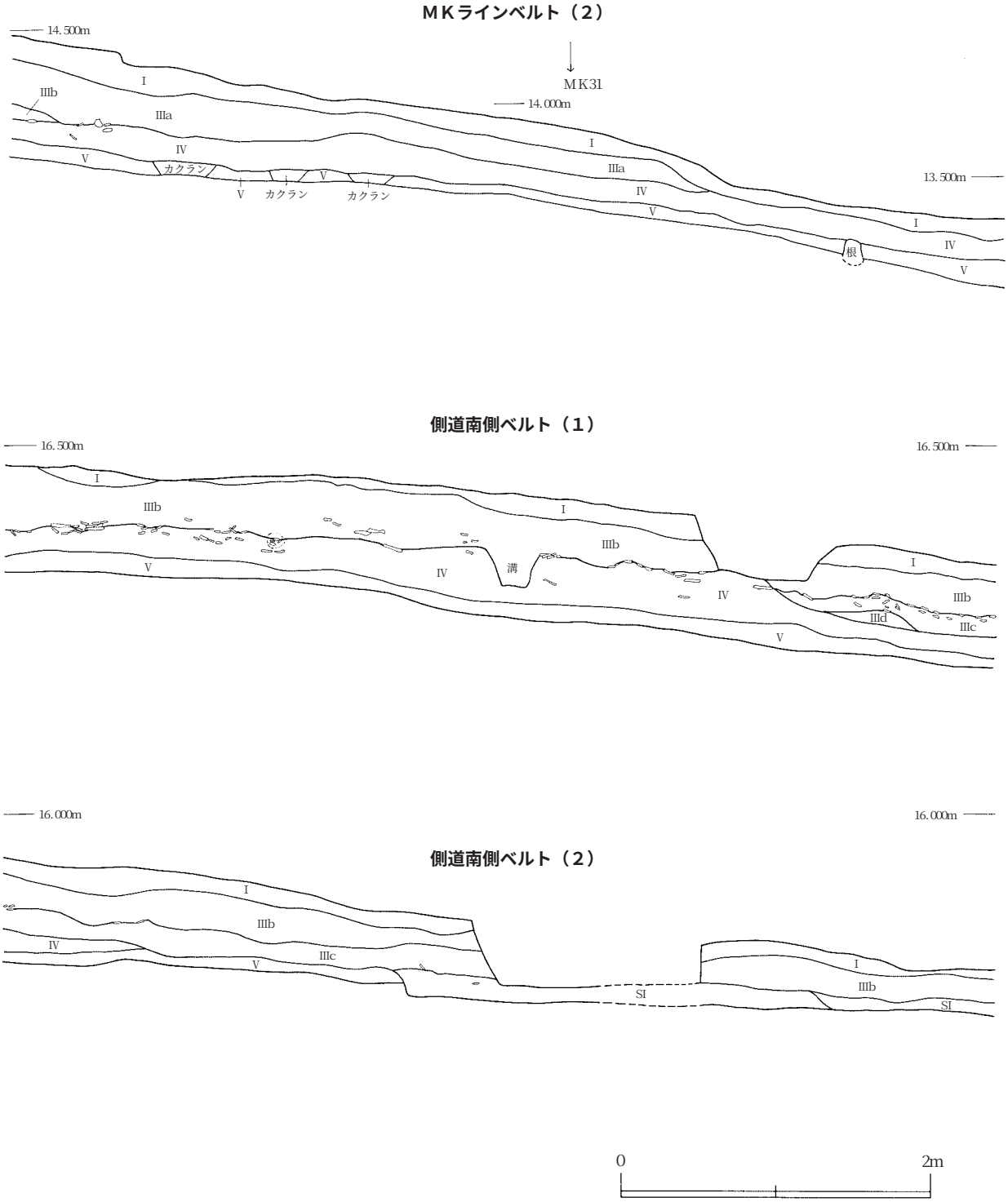
調査では、Ⅰ層からⅥ層までを確認した。Ⅰ層は表土で層厚は10㎝ほどである。Ⅱ～Ⅳ層までは遺物包含層である。Ⅱ層は黒褐色～暗褐色の土層で２層に分けられる。層厚はともに20㎝前後で古代～縄文時代の遺物を少量含む。Ⅳ層と類似するため、Ⅲ層がみられない部分（台地平坦面）では分層が困難であった。Ⅲ層は調査区南側斜面の捨場に広がるにぶい黄褐色～暗褐色の土層で縄文時代前期の土器を中心とする大量の遺物を含む。４層に分けられるが、中心をなすのはⅢｂ、Ⅲｃ層でⅢａ、Ⅲｄは部分的な層である。これらのⅢ層には地山ブロックや焼土ブロックなどが含まれているため人為的な堆積層と考えられる。各層の厚さは20～40㎝ほどであるが、Ⅲ層の各層を合わせた厚さが70㎝に達する部分もある。Ⅳ層は２層に分けられる。Ⅳａ層は台地平坦面に存在する暗褐色の土層で縄文時代前期の遺物を含む。層厚は30～35㎝ほどである。Ⅳｂ層は台地平坦面から南側斜面にかけて広く分布する黒褐色の土層である。層厚は20～30㎝ほどで捨場では縄文時代前期の土器を大量に含む。遺物は本層の上位で多く出土するため、捨場が形成される前の地表面と考えられる。Ⅴ層は漸移層で10㎝前後の層厚である。Ⅵ層は地山である。ほとんどの遺構はⅥａ層で確認した。Ⅵ層より下は台地の基盤層と考えられるが調査では確認できなかった。


65
60
55
50
45
40
35
30
16.0m
16.0m
15.5m
16.5m
15.0m
14.5m
14.0m
13.5m
13.0m
12.5m
12.5m
16.5m
16.0m
15.5m
MKラインベルト
中央ベルト
側道南側ベルト
側道部分
MK
MF
MA
LP
0
25m

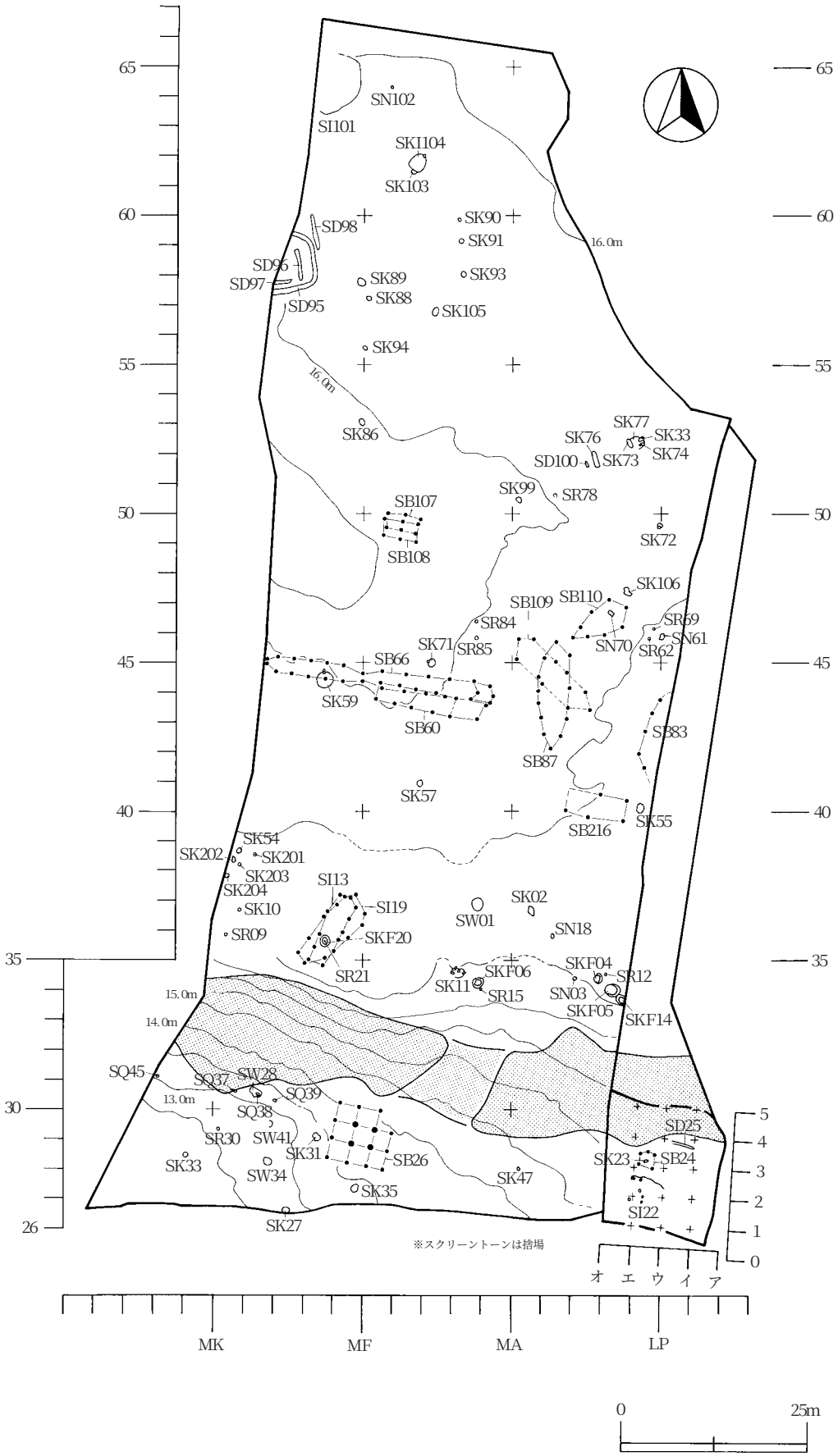
第８図　基本土層位置図


中央ベルト（１）
16.800m
16.600m
倒木痕
根
IV
I
IIa
IIb
IIIc
V
カクラン
中央ベルト（２）
16.600m
16.000m
旧農道部分
IIIb
RP
RQ
RP集中
中央ベルト（３）
15.400m
カクラン
MKラインベルト（１）
16.000m
15.500m
15.000m
MK33
MK32
IIIa
S
根痕
0
2m

第９図　基本土層図（１）


ＭＫラインベルト（２）
14.500m
MK31
14.000m
13.500m
I
IIIb
IIIa
IV
V
カクラン
根
側道南側ベルト（１）
16.500m
溝
IIIc
IIId
側道南側ベルト（２）
16.000m
SI
0
2m

第10図　基本土層図（２）


SN102
SI101
SKI104
SK103
SD98
SK90
SK91
16.0m
SD96
SD97
SK89
SK93
SK88
SD95
SK105
SK94
16.0m
SK86
SK77
SK76
SK33
SK74
SD100
SK73
SK99
SR78
SB107
SK72
SB108
SK106
SB109
SB110
SR69
SR84
SN61
SK71
SR85
SN70
SR62
SB66
SK59
SB60
SB83
SB87
SK57
SK55
SB216
SK54
SK202
SK201
SK203
SK204
SI13
SK10
SI19
SK02
SW01
SR09
SKF20
SN18
SR21
SKF04
SKF06
SR12
SK11
SR15
SN03
SKF05
SKF14
15.0m
14.0m
SQ45
SQ37
SW28
SQ39
13.0m
SQ38
SR30
SW41
SK31
SB26
SD25
SK33
SW34
SK23
SB24
SK47
SK35
SI22
SK27
※スクリーントーンは捨場
65
60
55
50
45
40
35
30
26
5
4
3
2
1
0
オ
エ
ウ
イ
ア
MK
MF
MA
LP
0
25m

第11図　遺構配置図

第２節　縄文時代の遺構と遺物

１．遺構と出土遺物

調査で確認した遺構は縄文時代と古代以降の大きく２つの時期に分けられる。縄文時代の遺構には、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、フラスコ状土坑、土坑、土器埋設遺構、焼土遺構、溝状遺構、柱穴様ピット等がある。古代以降の遺構には、掘立柱建物跡、土坑、集石遺構、溝状遺構、炭窯等がある。

遺構構築期を決める判断要素としては、遺物や遺構プランの特徴を最優先したが、他に覆土も参考にした。当遺跡の縄文時代の遺構の覆土は総じてしまりが強く、粘性を伴う傾向がある。由来はⅣ～Ⅴ層にあるものと考える。これに対して、古代以降のものは、しまりの弱い黒褐色土を覆土とするものが多い。従って遺物や遺構プランで時期決定できないものについては覆土の特徴から、おおよその時期を推測した。

（１）竪穴住居跡

ＳＩ22（第12図、図版６）

位置：イ－２、ウ－１・２、エ－１・２グリッド

規模：長軸（北西－南東）4.6m以上、短軸（北東－南西）3.4m以上

Ⅵ層で直線上に並ぶ３つの焼土を確認したため、竪穴住居に伴う地床炉と判断した。その後、北側で住居の壁の一部を確認した。南側は、壁、柱穴ともに確認できなかった。

当遺構はⅥ層を掘り込んでつくられている。床面は締まりが強い。床面や住居周辺でいくつかの柱穴様ピットを確認したが、規則的な配置は認められなかった。遺構の覆土は２層で、この上にⅢｂ、Ⅲｃ層などの縄文時代前期の遺物包含層が堆積しているため、当遺構はこれよりは古いといえる。遺物は出土しなかった。

時期については複数の炉の存在、住居の規模、包含層との関係等から縄文時代前期後半の竪穴住居跡と考える。

ＳＩ101（第13図、図版６）

位置：ＭＦ63・64・65、ＭＧ63・64・65グリッド

規模：長軸（東北東－西南西）7.5m以上、短軸（北北東－南南東）６m前後

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みを確認し、掘り下げを行なったところ地床炉を検出した。そのため竪穴住居跡と判断した。プランの西側は、調査区外にあるため全体のプランは不明である。北側については壁を確認することができなかった。

当遺構はⅥ層を掘り込んでつくられている。床面には主柱穴と推測される５つの柱穴（Ｐ１～５）と２つ地床炉（ＳＮ１・２）がある。地床炉は1.5mの間隔で形成されている。このうちＳＮ２の炉上からは約３㎝の間層を挟み、長さ0.6mの扁平な礫が出土した。

遺構の時期については、複数の炉の存在や柱穴の配置、住居の規模等の特徴から縄文時代前期後半から中期前半の竪穴住居跡と考える。

第12図　ＳＩ22竪穴住居跡

（２）掘立柱建物跡

調査時に確認したものと図上復元したものがある。図上復元したものについては、柱穴の平面形・深さ・覆土の特徴等を参考に遺構プランを推定した。桁行きの柱列が直線的なものと、そうでないものの２つに分けられる。後者は竪穴住居の可能性もある。

ＳＢ13・19（第14図、図版７）

位置：ＭＥ36、ＭＦ35～37、ＭＧ34～36グリッド

規模：長軸9.8m、短軸2.8m（ＳＢ13）

　　長軸10.7m、短軸4.1m（ＳＢ19）

12基の柱穴による方形状の配列をⅥ層で確認し、これを掘立柱建物跡ＳＢ13とした。その後の精査で、長軸方向が東よりにずれる一回り大きい柱穴の配列を確認したため、これを掘立柱建物跡ＳＢ19とした。

ピットの大きさ深さとも、ＳＢ19の方が大きく、しっかりとした構造であったと推測できる。これらの遺構の確認面は通常のⅥ層の締まりであり、竪穴住居跡の床面のように特に固く締まった場所はなかった。ピットの配列はロングハウスの柱穴配置に似ているが、ともに焼土は存在しないため、掘立柱建物跡と判断した。この２つの遺構は、ほとんど同じ場所にあるため、建て替えによる新旧の建物跡の可能性が高い。ＳＢ19のＰ３からは、使用痕のある剥片が２点、剥片５点が出土したが、時期決定になるような遺物は確認できなかった。

時期については、柱穴の配置プランから縄文時代前期後半から中期前半にかけての遺構と考える。

ＳＢ24（第24図、図版７）

位置：ウ－２・３グリッド

規模：長軸（北北東－南南西）2.0m、短軸（西南西－東南東）1.8m

Ⅵ層で確認した５基の柱穴による５角形状配列を掘立柱建物跡とした。

時期決定になるような遺物の出土状態は確認できなかったが、柱穴の覆土は平安時代の遺構と異なるため、縄文時代の遺構と判断した。

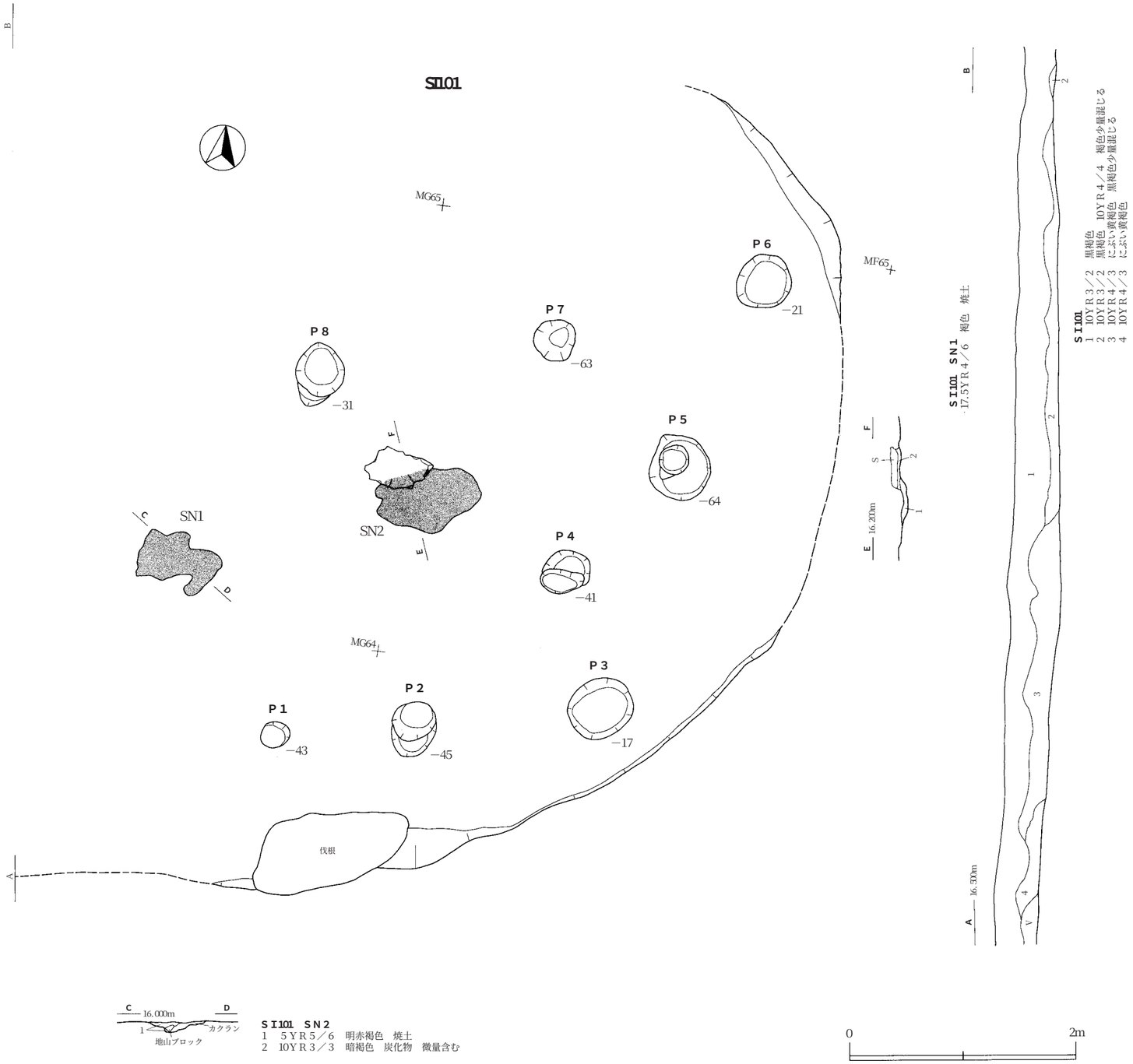
ＳＢ60（第15・16図、図版８）

位置：ＭＡ43～ＭＥ43、ＭＣ43、ＭＣ～ＭＥ44グリッド

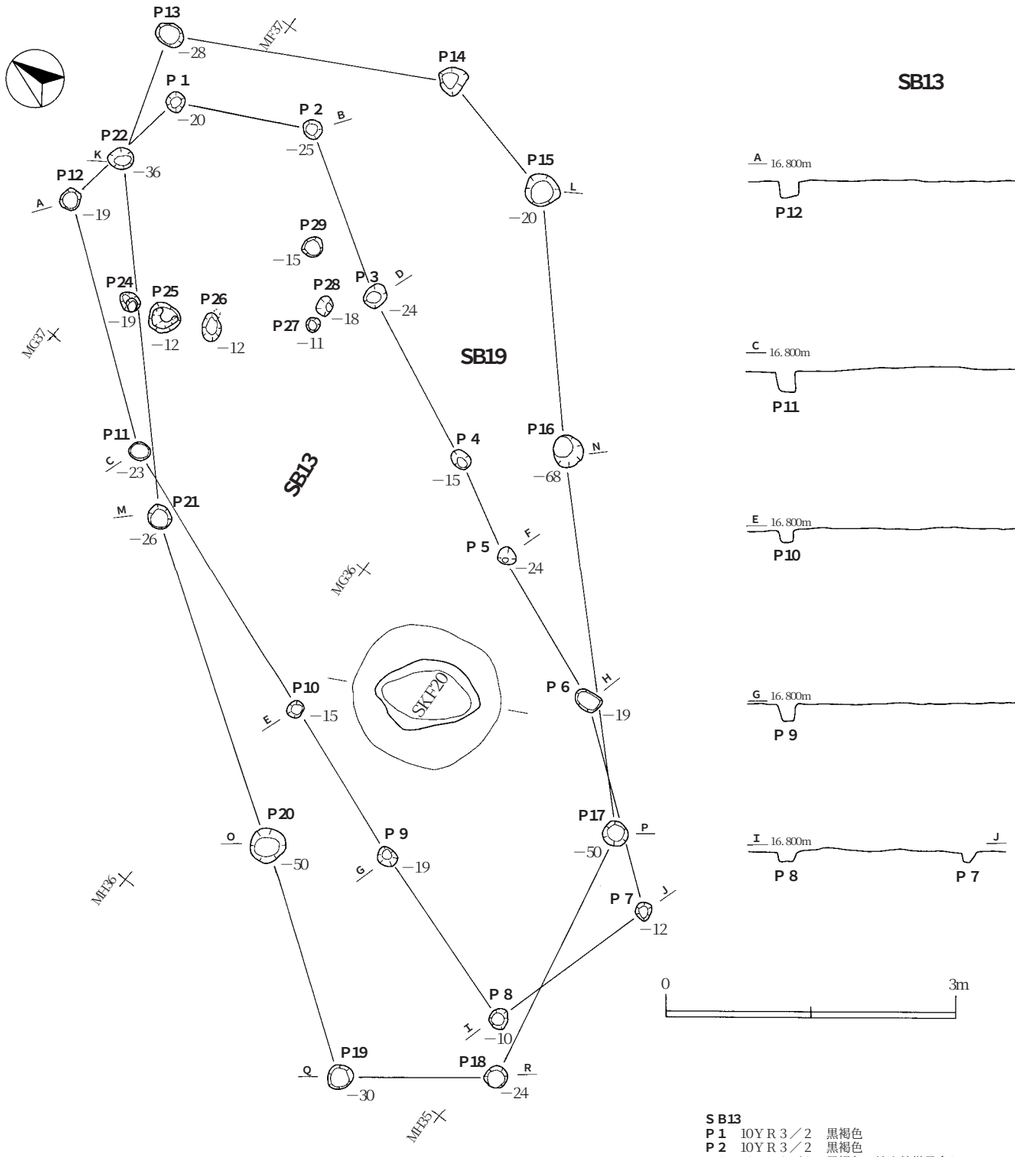
規模：長軸（西北西－東南東）13.6（Ｐ１～６）m、短軸（北北東－南南西）2.48（Ｐ11～12）m

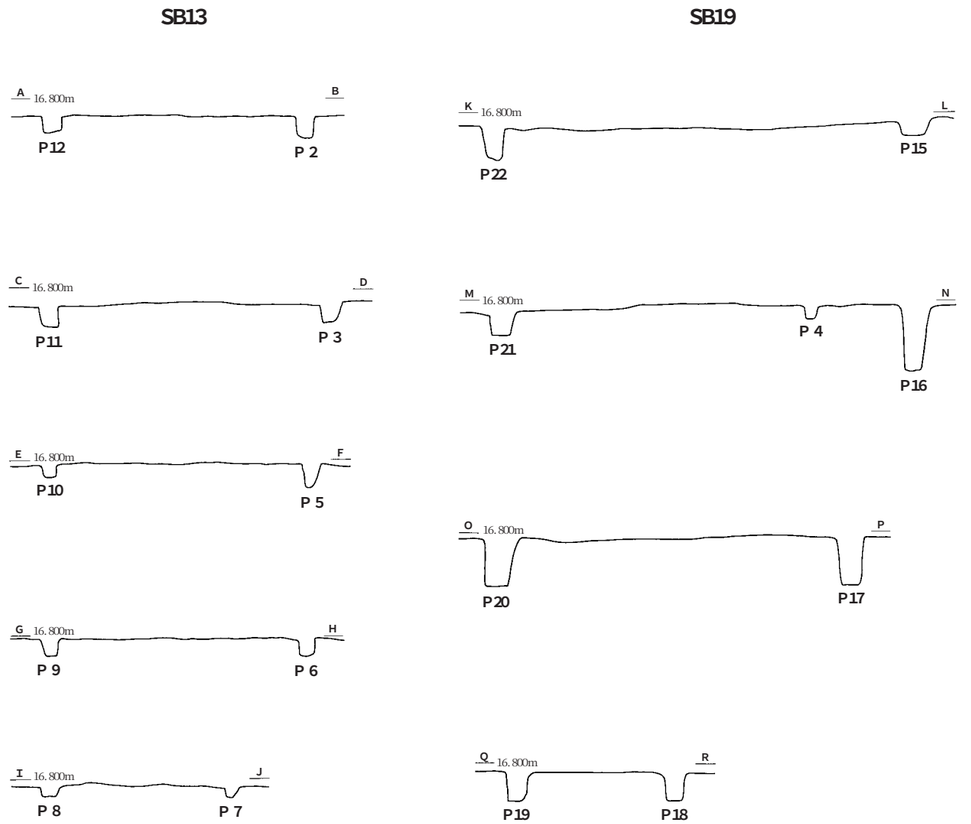
当初、Ⅵ層で確認した６基の柱穴（Ｐ１・２・３・10・11・12）による方形配列を掘立柱建物跡として精査を行なったが、その後の精査によって遺構は東側に延びることが判明した。最終的には、１間×５間の規模と判断した。長軸方向はN78°Wである。桁行き方向の柱穴の配置にほとんどずれがないため、かなり精度の高い建築物だったと推測する。柱穴の配列をみるとロングハウスのようであるが、焼土が伴わないため、作業場か倉庫のような施設であったと考える。遺物は、Ｐ１・２・３・５・６・８・９・10・11・12から出土したが量は少ない。遺物の種類は、土器片、石器、被熱した礫等である。石器の中には、石錐、削器等が含まれている。

遺構の時期については桁行きの方向がＳＢ66と大差ないことから、ＳＢ66に近い時期と考える。新旧関係については不明である。



第13図　ＳＩ101竪穴住居跡





ＳＢ13

Ｐ１	10ＹＲ３／２	黒褐色	
Ｐ２	10ＹＲ３／２	黒褐色	
Ｐ３	10ＹＲ３／２	黒褐色	地山粒微量含む
Ｐ４	10ＹＲ３／３	暗褐色	地山ブロック含む
Ｐ５	10ＹＲ３／３	暗褐色	
Ｐ６	10ＹＲ３／２	黒褐色	
Ｐ７	10ＹＲ３／３	暗褐色	径２～３㎜の地山ブロック少量含む
Ｐ８	10ＹＲ３／３	暗褐色	地山ブロック状にやや多く混じ
Ｐ９	10ＹＲ３／３	暗褐色	地山粒微量含む
Ｐ10	10ＹＲ４／４	褐色	径約５㎜の炭化物微量含む
Ｐ11	10ＹＲ３／３	暗褐色	
Ｐ12	10ＹＲ３／２	黒褐色	

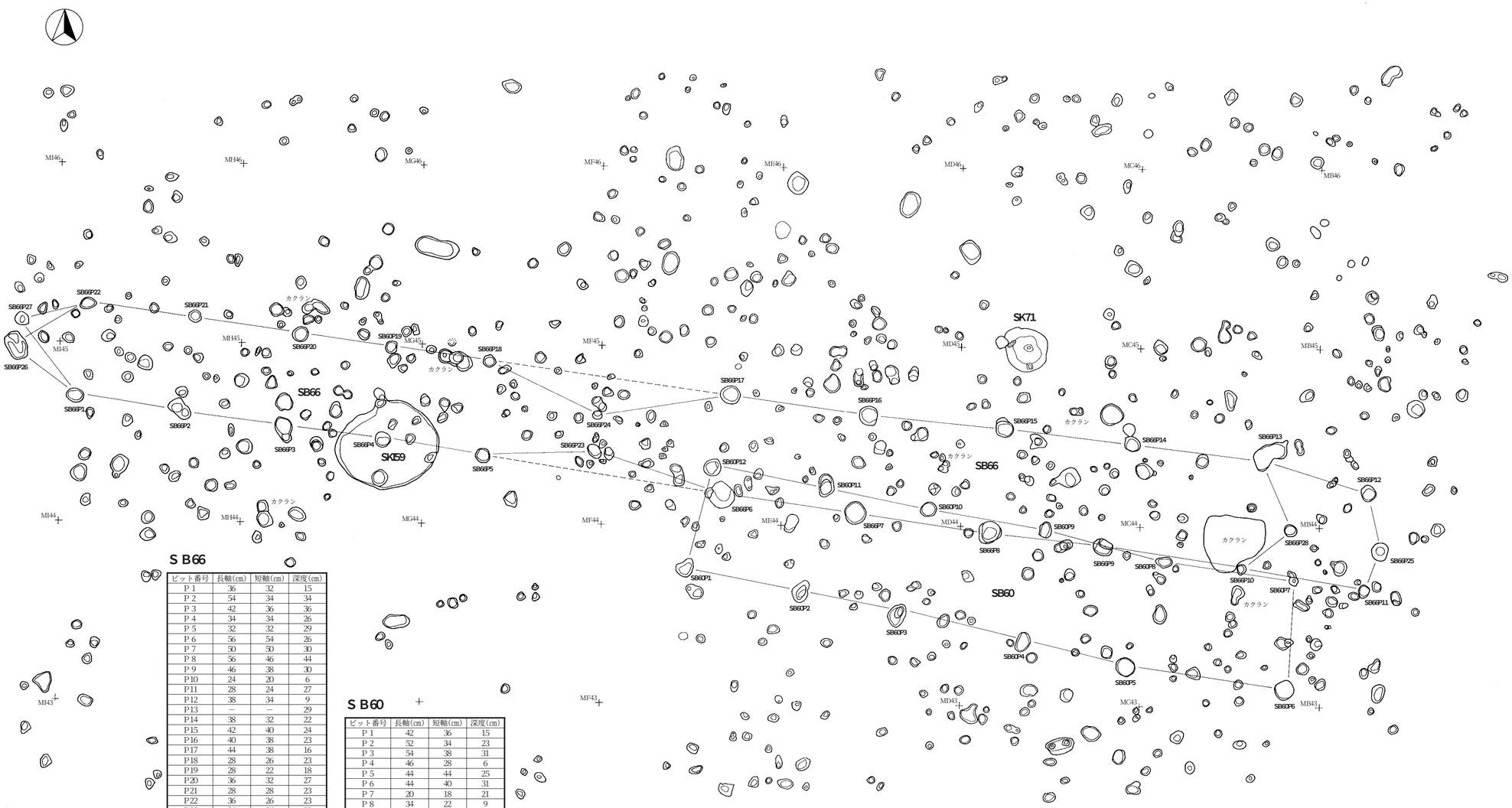
ＳＢ19

Ｐ13	註記なし。		
Ｐ14	10ＹＲ４／２	灰黄褐色	径５約㎜の炭化物まばらに含む
Ｐ15	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	地山ブロック状に混じる 焼土ブロック状に微量混じる
Ｐ16	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	
Ｐ17	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	地山ブロック状に少量混じる
Ｐ18	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	
Ｐ19	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	径約10㎜の地山ブロックやや多く含む
Ｐ20	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	地山ブロック状に混じる
Ｐ21	10ＹＲ３／４	暗褐色	にぶい黄褐色ブロック状に混じる 焼土ブロック状に混じる
Ｐ22	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	径10㎜程度の地山ブロックやや多く含む

その他

Ｐ24	10ＹＲ４／２	灰黄褐色	
Ｐ25	10ＹＲ３／２	黒褐色	下部は10ＹＲ５／４にぶい黄褐色がブロック状に多く混じる
Ｐ26	10ＹＲ３／２～10ＹＲ３／３	黒褐色～暗褐色	
Ｐ27	10ＹＲ４／２	灰黄褐色	焼土ブロック含む
Ｐ28	10ＹＲ４／２	灰黄褐色	地山ブロック状にやや多く含む
Ｐ29	10ＹＲ３／３	暗褐色	地山ブロック状に少量含む 焼土ブロック微量含む

第14図　ＳＢ13･19掘立柱建物跡



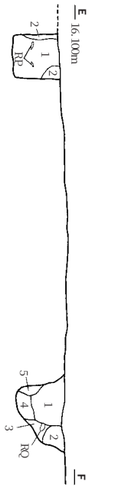
ＳＢ66

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	36	32	15
Ｐ２	54	34	34
Ｐ３	42	36	36
Ｐ４	34	34	26
Ｐ５	32	32	29
Ｐ６	56	54	26
Ｐ７	50	50	30
Ｐ８	56	46	44
Ｐ９	46	38	30
Ｐ10	24	20	6
Ｐ11	28	24	27
Ｐ12	38	34	9
Ｐ13	—	—	29
Ｐ14	38	32	22
Ｐ15	42	40	24
Ｐ16	40	38	23
Ｐ17	44	38	16
Ｐ18	28	26	23
Ｐ19	28	22	18
Ｐ20	36	32	27
Ｐ21	28	28	23
Ｐ22	36	26	23
Ｐ23	36	26	28
Ｐ24	20	16	30
Ｐ25	40	36	67
Ｐ26	64	44	34
Ｐ27	32	30	21
Ｐ28	28	28	22

ＳＢ60

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	42	36	15
Ｐ２	52	34	23
Ｐ３	54	38	31
Ｐ４	46	28	6
Ｐ５	44	44	25
Ｐ６	44	40	31
Ｐ７	20	18	21
Ｐ８	34	22	9
Ｐ９	34	30	29
Ｐ10	34	32	34
Ｐ11	50	34	7
Ｐ12	40	36	12

第15図　ＳＢ60･66掘立柱建物跡



E－F

P10
1　10YR３／３～４　暗褐色　径10mmの地山ブロック少量含む
2　10YR３／４　暗褐色　径10mmの地山ブロック多く含む
径１mmの炭化物微かに含む

P３
1　7.5YR３／４　暗褐色　径20～50mmの地山ブロック多く含む
径２～５mmの焼土粒少量含む
径１mmの炭化物少量含む
2　7.5YR３／４　暗褐色　径５～10mmの地山ブロック少量含む
径５～10mmの焼土粒少量含む
径１mm以下の炭化物少量含む
3　10YR３／３　暗褐色　径１～２mmの地山ブロック多く含む
径１mmの炭化物微かに含む
4　7.5YR３／２　黒褐色　径１mmの炭化物少量含む
5　10YR４／４　褐色　径10mmの炭化物微かに含む

P４　10YR３／２　黒褐色　地山ブロック少量含む　炭化物微かに含む
P５　10YR３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む　炭化物微かに含む
焼土粒微かに含む
P６　10YR３／４　暗褐色　焼土粒やや多く含む
P７　10YR３／３　暗褐色　地山ブロックやや多く含む
P８　10YR３／３　暗褐色　炭化物微かに含む
P９　10YR３／３　暗褐色　地山ブロック多く含む　炭化物少量含む
焼土粒微かに含む

C－D

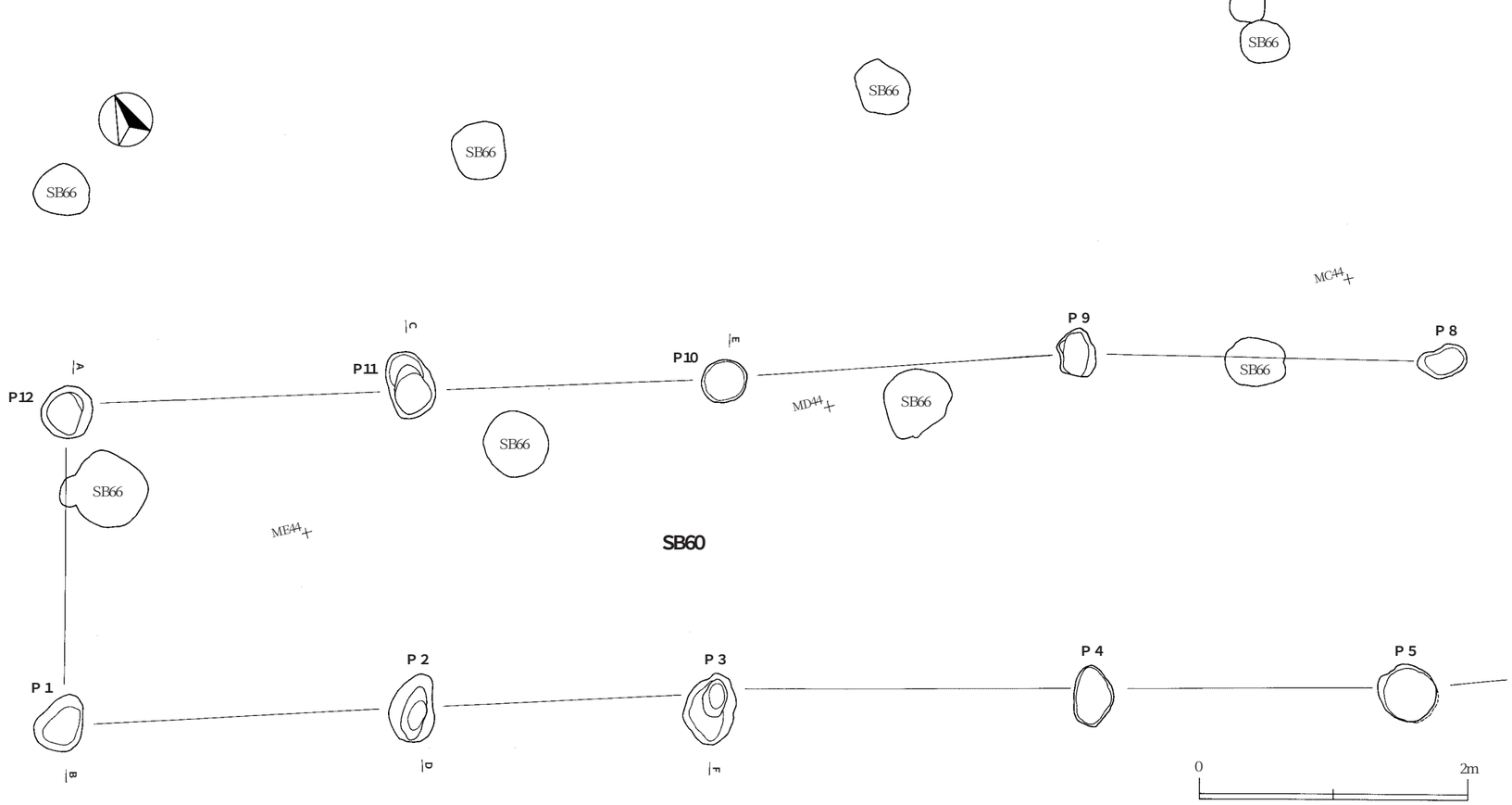
P11
1　7.5YR３／４　暗褐色　径１～２mmの地山ブロック少量含む
径１～２mmの焼土粒少量含む
2　10YR３／３　暗褐色　径１mm以下の炭化物微かに含む
3　10YR４／６　褐色　地山土多く含む

P２
1　10YR３／３　暗褐色　径２～５mmの地山ブロック少量含む
2　7.5YR３／２～10YR３／２　黒褐色～暗褐色　焼土粒やや多く含む

A－B

P12
1　10YR３／３　暗褐色　径２～５mmの地山ブロックやや多く含む
2　10YR５／３　にぶい黄褐色　暗褐色少量混じる
3　10YR５／８　黄褐色　径１～２mmの地山粒少量含む
径１～５mmの炭化物少量含む

P１
1　10YR３／３　暗褐色　径１～20mmの地山ブロック粒状に多く含む
2　10YR３／４　暗褐色　暗褐色少量混じる



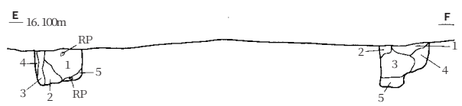
第16図　ＳＢ60掘立柱建物跡

A－B
P16
1　10ＹＲ３／２　　黒褐色　径５～10㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径約１㎜の炭化物僅かに含む
2　7.5ＹＲ３／４　　暗褐色　径１㎜の地山粒少量含む
3　10ＹＲ３／２　　黒褐色　径１～２㎜の地山粒少量含む
　　径１～５㎜の炭化物少量含む
4　10ＹＲ４／４　　褐色　地山斑状に多く含む　径約１㎜の炭化物僅かに含む。
5　10ＹＲ４／６　　褐色　径１～２㎜の地山粒少量含む
6　10ＹＲ５／４～６　にぶい黄褐色～黄褐色　木の根による攪乱土混じる。

Ｐ７
1　10ＹＲ３／４　　暗褐色　地山土多く含む　径１～５㎜の炭化物少量含む
　　径２～５㎜の焼土ブロック少量含む
2　10ＹＲ４／４　　褐色　地山斑状に多く含む　径約１～２㎜の炭化物少量含む
3　7.5ＹＲ３／３～４　暗褐色　径約１～25㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径１～３㎜の炭化物少量含む
4　7.5ＹＲ３／３　　暗褐色　径１～50㎜の地山ブロック多く含む
　　径１～５㎜の炭化物少量含む
5　10ＹＲ３／２～３　黒褐色～暗褐色　径５～10㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径１～５㎜の炭化物少量含む
6　10ＹＲ３／３　　暗褐色　径１～５㎜の地山ブロック多く含む
　　径１～２㎜の炭化物少量含む
　　径１㎜の地山粒僅かに含む
7　10ＹＲ４／３　　にぶい黄褐色　径１～２㎜の炭化物僅かに含む

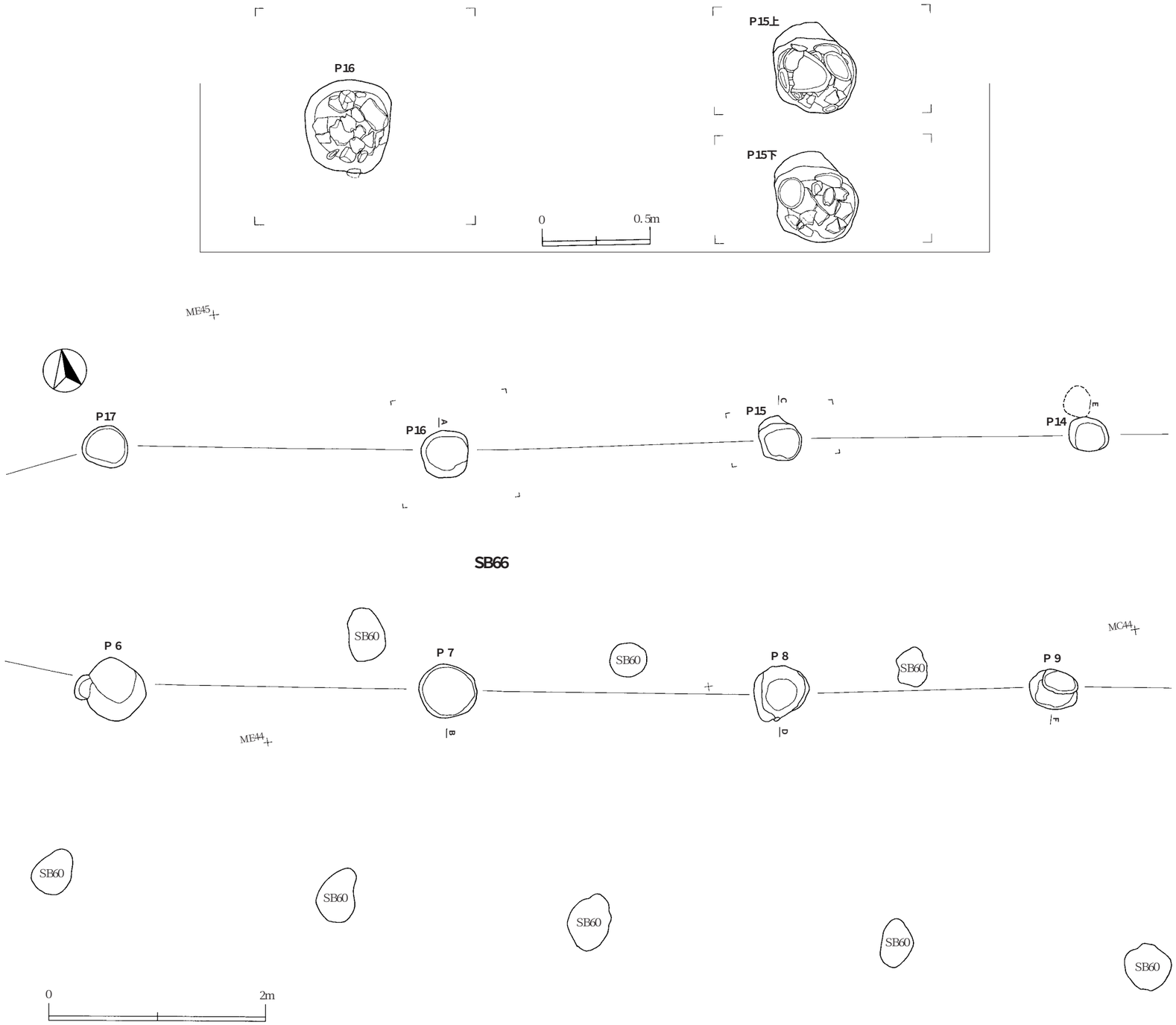
Ｃ－Ｄ
Ｐ15
1　10ＹＲ３／３　　暗褐色　径１㎜以下の炭化物僅かに含む
2　10ＹＲ３／３～４　　暗褐色　径１～20㎜の地山ブロック少量含む
　　径１㎜の炭化物含む
3　10ＹＲ３／３～４　　暗褐色　径１～10㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径１㎜の炭化物僅かに含む
4　10ＹＲ６／４～６／６　にぶい黄橙色～明黄褐色
5　10ＹＲ５～４／４　　にぶい黄褐色～褐色
6　10ＹＲ４／３　　にぶい黄褐色　径２～10㎜の地山ブロック多く含む
　　径１㎜の炭化物やや多く含む
　　径２㎜の焼土ブロック多く含む

Ｐ８
1　10ＹＲ３／２～３　　黒褐色～暗褐色　径１～２㎜の地山ブロック少量含む
　　径１～５㎜の炭化物やや多く含む
2　10ＹＲ４／３～４／４　にぶい黄褐色～褐色
3　10ＹＲ３／３　　暗褐色　径２～５㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径２～５㎜以下の炭化物少量含む
4　10ＹＲ４／４　　褐色　径約２～10㎜の地山ブロックやや多く量含む
　　径１～５㎜の炭化物少量含む
5　10ＹＲ４～３／２　　灰黄褐色～黒褐色　径１～３㎜の地山ブロック少量含む
　　径２～５㎜の炭化物やや多く含む
6　10ＹＲ５～６／６　　黄褐色～明黄褐色
7　10ＹＲ４／３～３／３　にぶい黄褐色～暗褐色　径２～10㎜の地山ブロックやや多く含む
8　10ＹＲ５～６／６　　黄褐色～明黄褐色　　径５～10㎜の地山ブロック斑状にやや多く含む
9　10ＹＲ３／２～３　　黒褐色～暗褐色　　径２～10㎜の地山ブロックやや多く含む



Ｅ－Ｆ
Ｐ14
1　10ＹＲ４～３／３　暗褐色～褐色　径２～50㎜の地山ブロック多く含む
　　径１～５㎜の炭化物僅かに含む
　　径１㎜以下の焼土粒僅かに含む
2　10ＹＲ４／４　　褐色　にぶい黄褐色混じる　径１～５㎜の炭化物僅かに含む
3　10ＹＲ３／４　　暗褐色　径２～20㎜の地山ブロックやや多く含む
　　径約１㎜の炭化物僅かに含む
4　10ＹＲ４／４　　褐色
5　10ＹＲ４／４　　褐色　黒褐色少量混じる　径１～30㎜の地山ブロック多く含む
　　径約１㎜の炭化物僅かに含む

Ｐ９
1　10ＹＲ３／３　　暗褐色　径１～２㎜の炭化物少量含む
2　7.5ＹＲ３／４　　暗褐色　10ＹＲ３／３やや多く混じる
3　10ＹＲ４／３　　にぶい黄褐色　10ＹＲ３／２～３
　　黒褐色～暗褐色ブロック少量含む
　　径１～２㎜の地山ブロック少量含む
　　径約１～５㎜の炭化物少量含む
4　7.5ＹＲ４／３　　にぶい黄褐色　径１～10㎜の10ＹＲ３／２～３
　　黒褐色～暗褐色ブロックやや多く含む
　　径１～２㎜の地山ブロック多く含む
　　径１～５㎜の炭化物僅かに含む
5　10ＹＲ３／４　　暗褐色　径20～30㎜の10ＹＲ３／２～３
　　黒褐色～暗褐色ブロック多く含む
　　径８～10㎜の地山ブロック少量含む



第17図　ＳＢ66掘立柱建物跡

ＳＢ66（第15・17図、図版８・９）

位置：ＭＡ～ＭＣ43・44、ＭＤ～ＭＦ44、ＭＧ～ＭＩ44・45グリッド

規模：長軸30.68m（Ｐ25～26）、短軸2.27（Ｐ８～15）m

当初、Ⅵ層で確認した６基の柱穴（Ｐ６・７・８・15・16・17）による方形配列を１つの掘立柱建物跡として精査を行なったが、その後の精査により、遺構は東西に延びることが判明した。長軸方向はN82°Wである。ＳＢ60と同様、桁行き方向の柱穴の配置にほとんどずれがないため、かなり精度の高い建築物だったと推測する。南北に並ぶＰ23、Ｐ24を境に東に１間×５間、西に１間×４間の掘立柱建物が構築されていたと考えられるが、東西の建物は直線上にあるため一連の建物とした。東側の構造については、Ｐ10、Ｐ28、Ｐ13を結ぶラインで収束するようにもみえるため、構築当初は１間×４間の東西対称の建物だったものを後に東に一間増設したことも考えられる。なお、Ｐ23、Ｐ24を当遺構に伴うものとした理由については、２つの柱穴を結ぶ軸方向と建物の梁行の方向が一致すること、２つの柱穴を結ぶラインから東西それぞれの建物との距離がほぼ同じであること、当遺構に伴なわない周辺の柱穴に比べともに深く、２つの柱穴は対と考えられること等の点があげられる。

遺物は、Ｐ１～３・７～９・11・13～17・20～22・25・26から出土している。遺物量が比較的多いものは、Ｐ１・２・15・16・20である。このうち、Ｐ15・16からは石器、礫などが集中して出土した。Ｐ15には石錘２点、台石１点が、Ｐ16には石錘３点、半円状扁平打製石器１点、敲石１点、石皿片１点、台石片１点が含まれている。これらの遺物は、礫とともに底面付近に敷詰められるような状態で出土した。このような遺物の出土状態は他の柱穴にはみられず、地鎮のような行為を推測させる。

遺構の機能については、ＳＢ60と同様に倉庫か作業場のような施設であったと考える。時期については、ＳＢ60と桁行きの方向が大差ないため、ＳＢ60に近い時期の遺構と推測するが、新旧関係は不明である。柱穴から出土した土器には円筒下層ａ・ｂ式期のものと、円筒下層ｄ式期のものが混じっているため、遺構の下限は下層ｄ式期に近いと考える。なお、Ｐ８の各層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定では、１層がＢＰ4790、５層がＢＰ4930という年代が得られている。この結果も考慮すると、当遺構は縄文時代前期末から中期初頭に構築された可能性が高いといえる。

ＳＢ83（第18図）

位置：ＬＰ41～43グリッド

規模：長軸（北東－南西）9.7m以上、短軸（北西－南東）2.5m以上

遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。東側のプランは先の調査では確認することができなかった。長軸方向はN18°Ｅである。柱穴は半楕円状に配置されている。その配置からはロングハウスのような構造が推測できるが、炉は確認できなかった。ただし、当遺構を構成する柱穴や周辺の柱穴の覆土からは焼土が混じっているため、当初存在した炉が撹乱され消失したと考えることもできる。当遺構の柱穴の覆土は他の柱穴の覆土より、赤みを帯び焼土や地山のブロックが混入している特徴がある。

遺物は、Ｐ１・２の覆土から出土した。遺物には土器（Ｐ１・２）、石器（Ｐ１・２）等がある。土器はそれぞれ数点しか出土していない。原体の確認できるものは少ないが、複節縄文を施したもの（Ｐ２）等がある。石器は剥片（Ｐ１から４点、Ｐ２から１点）が出土している。

時期については、出土した土器から縄文時代前期後半と考える。

ＳＢ87（第19図、図版11）

位置：ＬＳ42～45、ＬＴ43～44グリッド

規模：長軸（南－北）14.9m、短軸（東－西）4.51m

遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。長軸方向はＮ２°Ｅである。柱穴は楕円状に配置されている。柱穴の配置からロングハウスのような構造が推測できるが、炉は確認できなかった。ただし、当遺構を構成する柱穴や周辺の柱穴の覆土には焼土が混じっているため、当初存在した炉が撹乱され消失したと考えることもできる。

遺物は、Ｐ１・４・５・９・10・13・14～15の覆土から出土した。遺物には縄文時代前期の土器片（Ｐ１・５・９・15)、２次加工のある剥片（Ｐ９)、剥片（Ｐ４・５・９・10・15)、石核（Ｐ13)、半円状扁平打製石器（Ｐ４)、石錘（Ｐ９・10)、礫・礫片（Ｐ１・４・14から各１点、Ｐ15から２点）等がある。

時期については、出土した土器から縄文時代前期後半と考える。

ＳＢ107（第21図）

位置：ＭＤ49、ＭＥ49～50グリッド

規模：長軸（西北西－東南東）4.52m、短軸（北北東－南南西）2.04m

図上復元した遺構である。遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。長軸方向はN77°Wである。ＳＢ108とプランが重複し、かつ長軸方向がほぼ同じため建て替えによるものと考える。遺物は、Ｐ１から剥片２点、Ｐ６から礫が１点出土している。

時期については、ＳＢ60・66と長軸方向がほぼ同じであるため、これらに近い時期の遺構と考えることもできる。

ＳＢ108（第22図）

位置：ＭＤ48～49、ＭＥ48～49グリッド

規模：長軸（西北西－東南東）4.83m、短軸（北北東－南南西）2.4m

図上復元した遺構である。遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。軸方向はN79°Wである。ＳＢ107とプランが重複し、かつ長軸方向がほぼ同じため、建て替えによるものと考える。遺物は、Ｐ３・４・６から縄文土器片が少量出土した。文様が確認できるものは１点のみで、斜行縄文が施されている。胎土の特徴から縄文前期後半の土器と考える。

時期についてはＳＢ60・66と長軸方向がほぼ同じであるため、これらに近い時期の遺構と考えることもできる。

ＳＢ109（第20図、図版11）

位置：ＬＲ43～44、ＬＳ42～45、ＬＴ43～45グリッド

規模：長軸（北西－南東）13.45m、短軸（北北東－南南西）3.79m

図上復元した遺構である。遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。長軸方向はN45°Wである。柱穴の配置からロングハウスのような構造が考えられるが、炉は確認できなかった。当遺構と重複するＳＢ87と柱穴の配置を比較すると桁行き方向の柱列が直線的であることが特徴といえる。

遺構の機能としては、倉庫や作業場のような施設と考える。

遺物は、Ｐ１・３・４・10～13から出土した。遺物には、縄文時代前期後半の土器（Ｐ１・３・４・10・11)、削器（Ｐ１)、半円状扁平打製石器（Ｐ４・12から２点)、石錘（Ｐ３)、２次加工のある剥

片（Ｐ４から１点）、剥片（Ｐ１・４・10・12から各１点、Ｐ11から２点、Ｐ３から３点、Ｐ４から11点）、敲石（Ｐ４）、ベンガラ小塊（Ｐ４）、礫・礫片（Ｐ１・11・12から各２点、Ｐ３・４から各４点、Ｐ10から１点）等がある。

時期については、周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半と考える。

ＳＢ110（第23図、図版11）

位置：ＬＱ46～47、ＬＲ45～46グリッド

規模：長軸（北東－南西）8.52m、短軸（北西－南東）4.37m

図上復元した遺構である。遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。長軸方向はN60°Ｅである。遺構プランの中軸線付近にＳＮ70があるため、これを地床炉とする竪穴住居跡の可能性もある。ただし、ＳＮ70は包含層中（黒褐色土）に形成されているため、当遺構を竪穴として捉えた際の掘り込みは確認できていない。遺物はＰ４から石錘の未製品１点、剥片２点、礫・礫片４点が出土した。

時期については、周辺から出土した土器から縄文時代前期後半と考える。

ＳＢ216（第24図、図版10）

位置：ＬＱ39・40、ＬＲ39・40、ＬＳ39・40グリッド

規模：長軸（西北西－東南東）7.82m、短軸（北北東－南南西）2.85m

遺構を構成する柱穴はⅥ層で確認した。長軸方向はN81°Ｗである。Ｐ１に対応する位置の柱は撹乱により確認できなかった。柱穴の配置からロングハウスのような構造が考えられるが、炉は確認できなかった。遺構の機能としては、倉庫や作業場のような施設と考える。

遺物はＰ１～３から出土した。遺物の種類は、縄文前期後半の土器（Ｐ１・３）、石器（Ｐ１から１点、Ｐ２から２点、Ｐ３から４点）等である。土器は出土量が少なく微細なものばかりである。石器は全て剥片である。

時期については、ＳＢ60・66と長軸方向がほぼ同じであるため、これらに近い時期の遺構と考えることもできる。

（３）竪穴状遺構

炉はもたないが住居に準じた施設と判断した遺構である。

ＳＫＩ59（第25図、図版11）

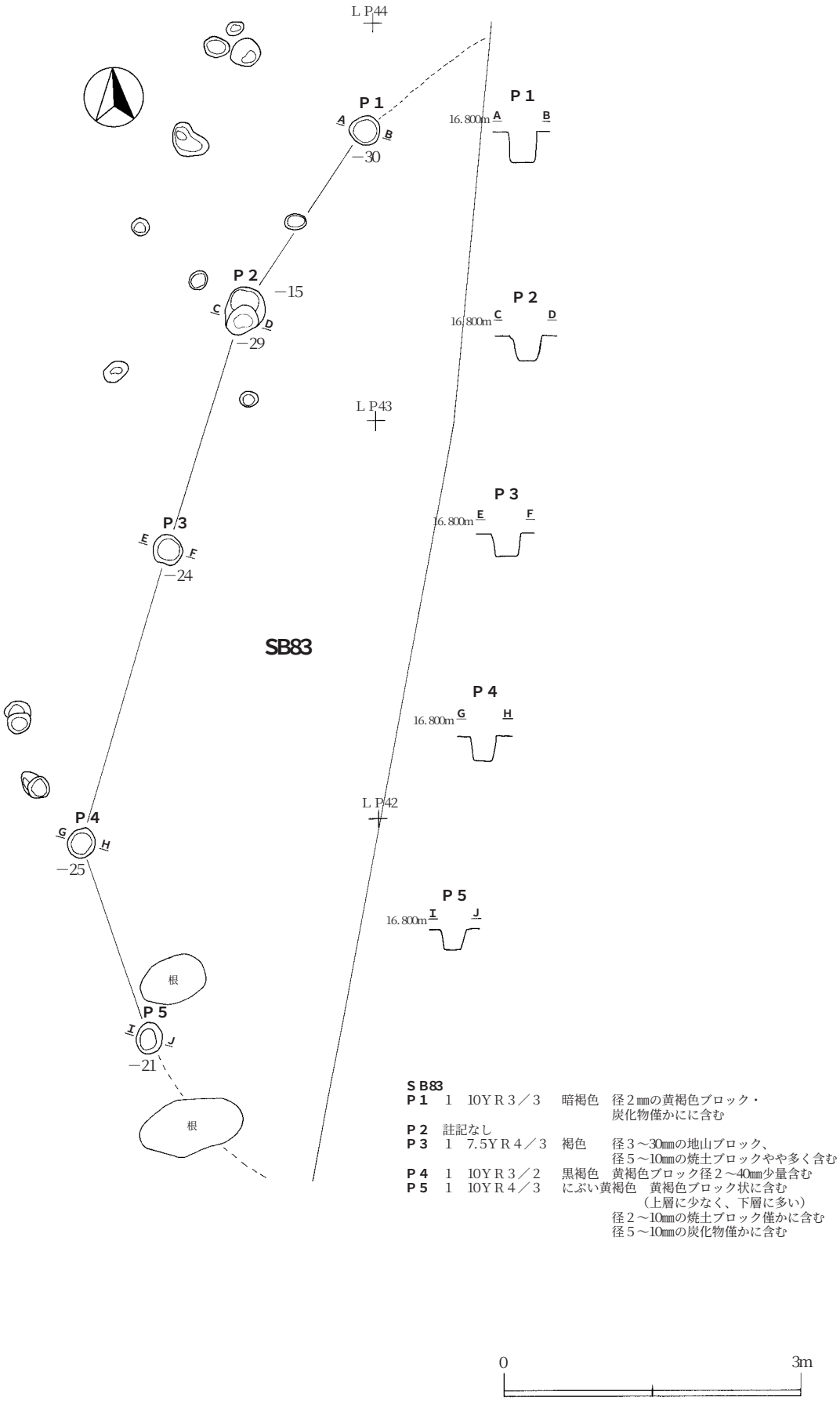
位置：ＭＦ44、ＭＧ44グリッド

規模：長軸（東－西）2.3m、短軸（北－南）1.85m

Ⅵ層で円形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。底面は硬く締まり、周囲のⅥ層との比較では締まりが明らかに異なる。底面からは７基の柱穴様のピットを検出したが、このうち中央部のピットはＳＢ66を構成する柱穴であることがわかった。その他のピットは浅く、配置にも規則性がないため、この遺構に付随するものかどうかは不明である。上屋構造に伴う柱穴は遺構外に存在する可能性もある。

遺物は覆土から縄文時代前期の下層ａ・ｂ式期の土器片、２次加工のある剥片、剥片、礫等が少量出土した。ＳＢ66との新旧関係は明らかにできなかった。

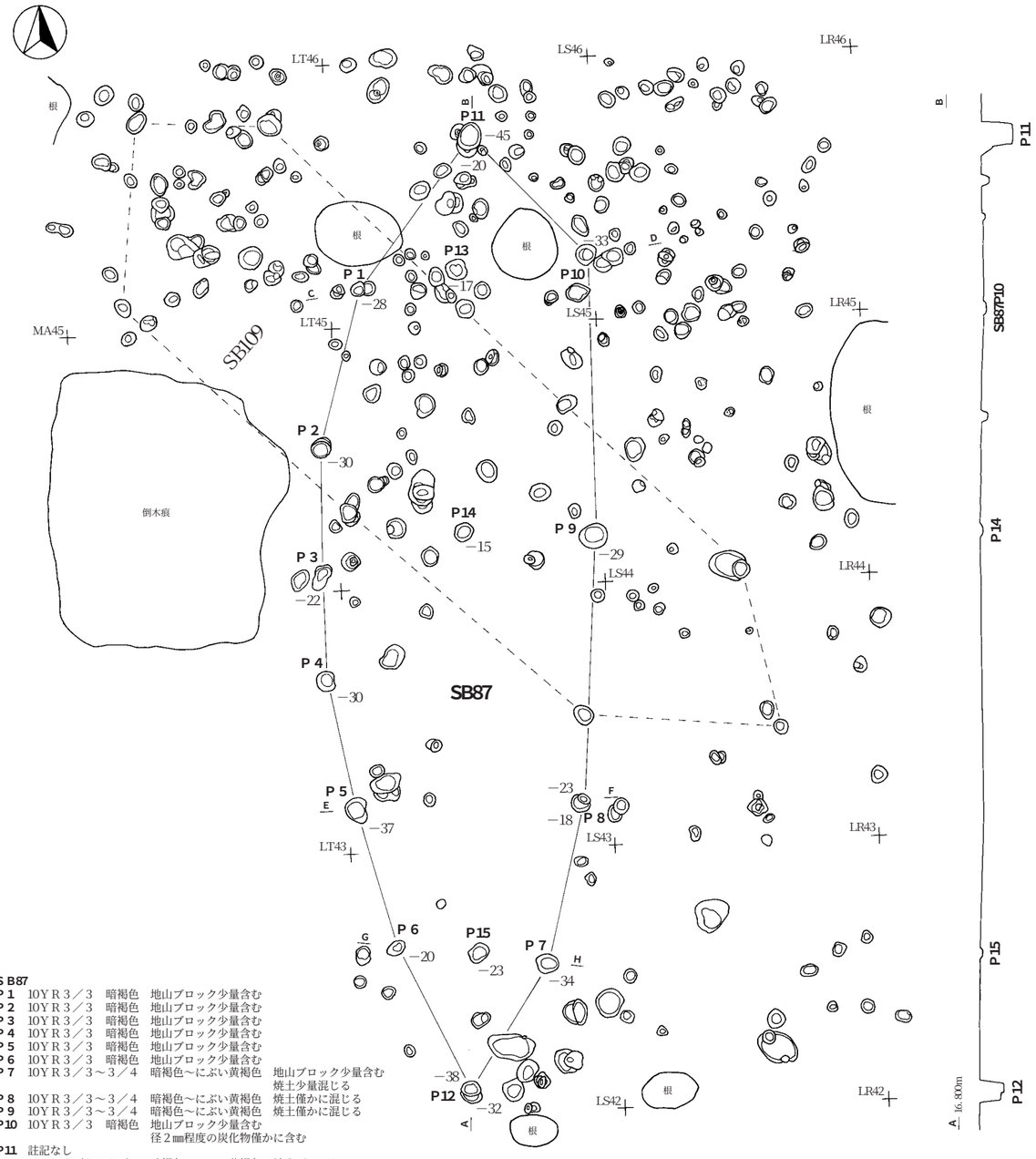
遺構の時期については縄文時代前期後半と考える。

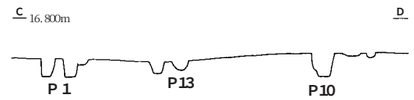


ＳＢ83

Ｐ１	１	10ＹＲ３／３	暗褐色	径２㎜の黄褐色ブロック・炭化物僅かにに含む
Ｐ２	註記なし			
Ｐ３	１	7.5ＹＲ４／３	褐色	径３～30㎜の地山ブロック、径５～10㎜の焼土ブロックやや多く含む
Ｐ４	１	10ＹＲ３／２	黒褐色	黄褐色ブロック径２～40㎜少量含む
Ｐ５	１	10ＹＲ４／３	にぶい黄褐色	黄褐色ブロック状に含む（上層に少なく、下層に多い）径２～10㎜の焼土ブロック僅かに含む径５～10㎜の炭化物僅かに含む

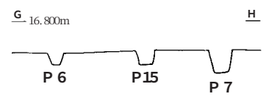
第18図　ＳＢ83掘立柱建物跡





ＳＢ87

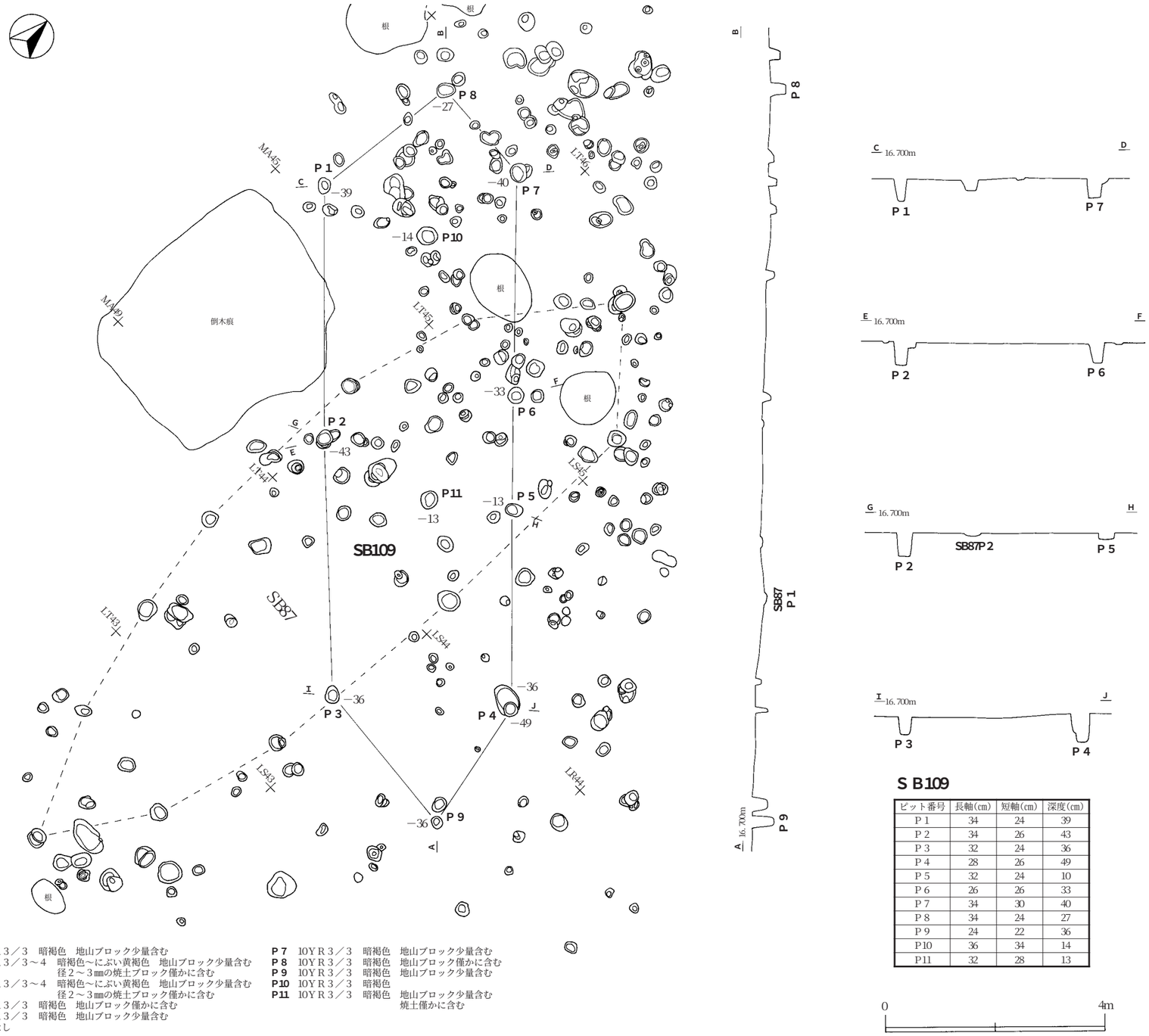
ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	24	40	30
Ｐ２	32	28	30
Ｐ３	32	20	21
Ｐ４	30	30	30
Ｐ５	38	34	37
Ｐ６	30	20	20
Ｐ７	32	28	34
Ｐ８	30	30	23
Ｐ９	42	34	29
Ｐ10	32	28	33
Ｐ11	52	34	45
Ｐ12	32	30	38
Ｐ13	32	28	17
Ｐ14	30	26	15
Ｐ15	32	28	23



ＳＢ87
Ｐ１　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ２　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ３　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ４　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ５　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ６　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ７　10ＹＲ３／３～３／４　暗褐色～にぶい黄褐色　地山ブロック少量含む
焼土少量混じる
Ｐ８　10ＹＲ３／３～３／４　暗褐色～にぶい黄褐色　焼土僅かに混じる
Ｐ９　10ＹＲ３／３～３／４　暗褐色～にぶい黄褐色　焼土僅かに混じる
Ｐ10　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
径２㎜程度の炭化物僅かに含む
Ｐ11　註記なし
Ｐ12　10ＹＲ３／３～３／４　暗褐色～にぶい黄褐色　地山ブロック、
径２～３㎜の焼土ブロック僅かに混じる
Ｐ13　10ＹＲ３／３　暗褐色～にぶい黄褐色
Ｐ14　10ＹＲ３／４　にぶい黄褐色　径５～７㎜の炭化物、
径５㎜の焼土ブロック僅かに混じる
Ｐ15　7.5ＹＲ３／３　暗褐色

0　4m

第19図　ＳＢ87掘立柱建物建物跡



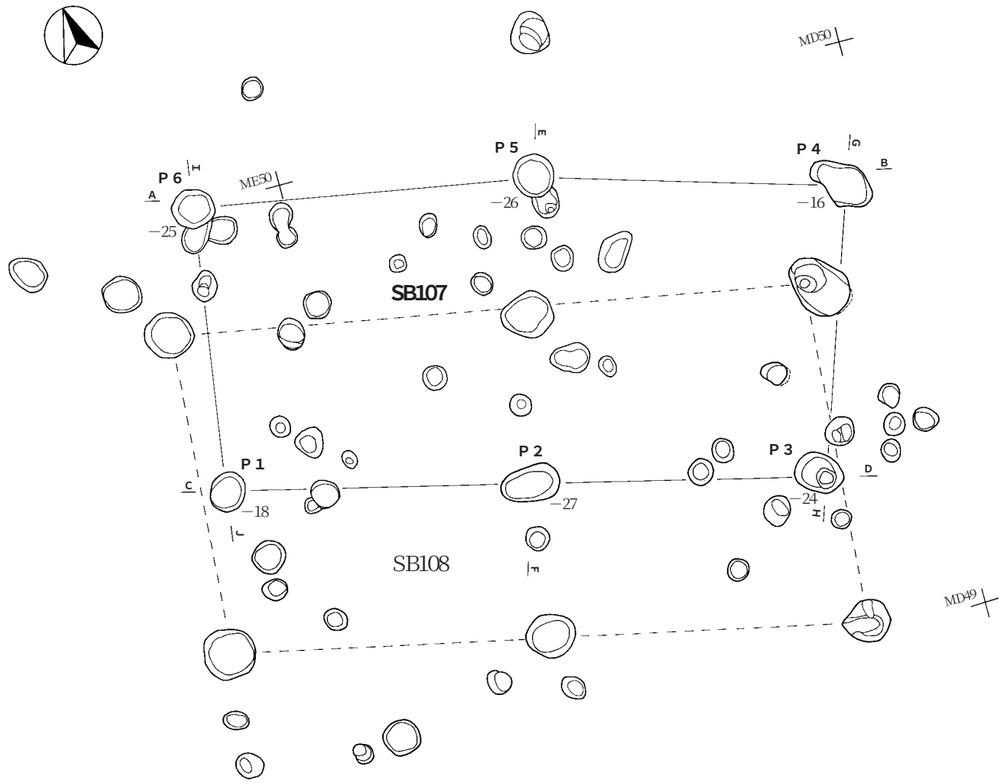
ＳＢ109

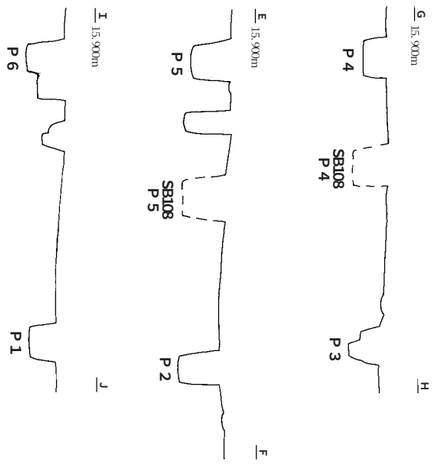
Ｐ１　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ２　10ＹＲ３／３～４　暗褐色～にぶい黄褐色　地山ブロック少量含む
径２～３㎜の焼土ブロック僅かに含む
Ｐ３　10ＹＲ３／３～４　暗褐色～にぶい黄褐色　地山ブロック少量含む
径２～３㎜の焼土ブロック僅かに含む
Ｐ４　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック僅かに含む
Ｐ５　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ６　註記なし
Ｐ７　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ８　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック僅かに含む
Ｐ９　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ10　10ＹＲ３／３　暗褐色
Ｐ11　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
焼土僅かに含む

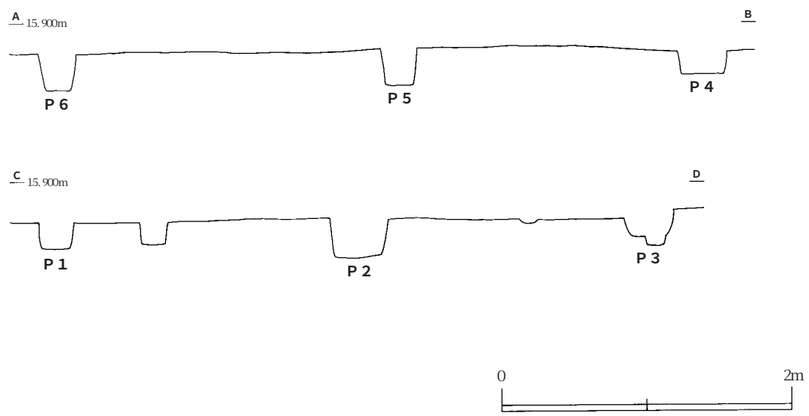
ＳＢ109

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	34	24	39
Ｐ２	34	26	43
Ｐ３	32	24	36
Ｐ４	28	26	49
Ｐ５	32	24	10
Ｐ６	26	26	33
Ｐ７	34	30	40
Ｐ８	34	24	27
Ｐ９	24	22	36
Ｐ10	36	34	14
Ｐ11	32	28	13

第20図　ＳＢ109掘立柱建物跡





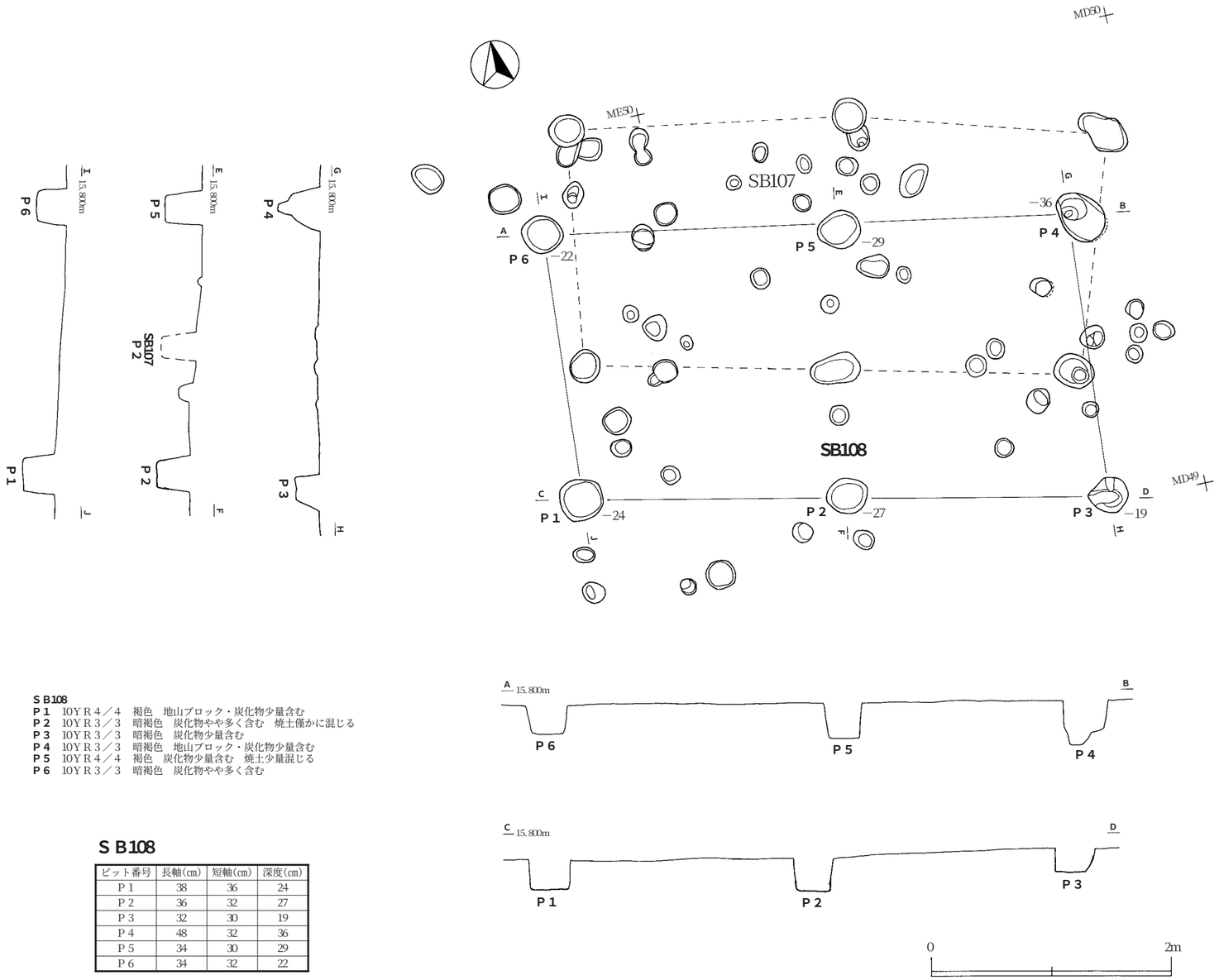


ＳＢ107
Ｐ１　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　地山ブロック・炭化物少量含む
Ｐ２　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量、炭化物やや多く含む
Ｐ３　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック僅かに含む　炭化物少量含む
Ｐ４　10ＹＲ４／４　褐色　炭化物少量含む　焼土少量混じる
Ｐ５　10ＹＲ３／３　暗褐色　炭化物少量含む
Ｐ６　10ＹＲ３／２　黒褐色　炭化物やや多く含む　焼土僅かに混じる

ＳＢ107

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	28	23	18
Ｐ２	24	−	27
Ｐ３	32	28	24
Ｐ４	44	30	16
Ｐ５	32	28	26
Ｐ６	36	30	25

第21図　ＳＢ107掘立柱建物跡

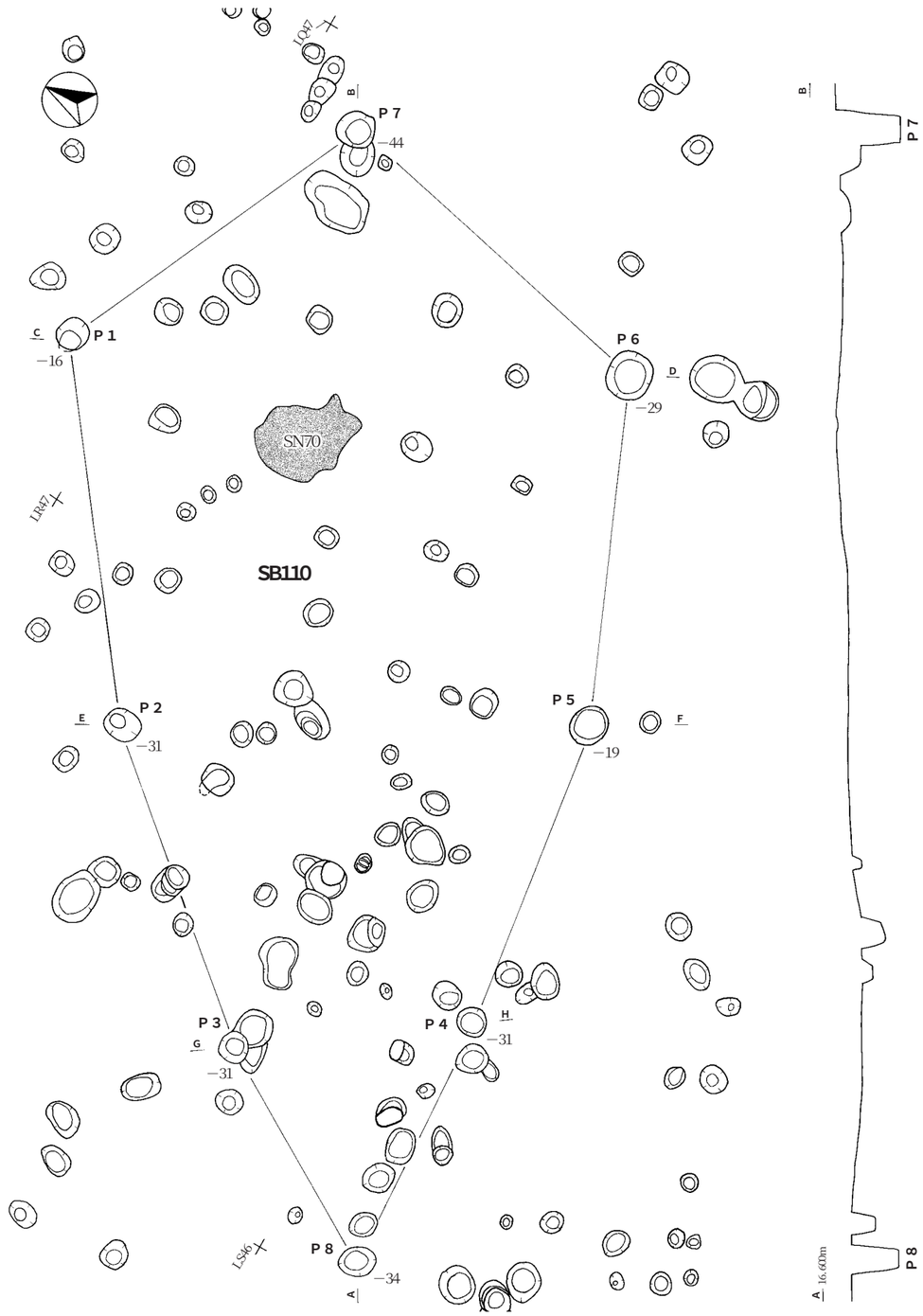


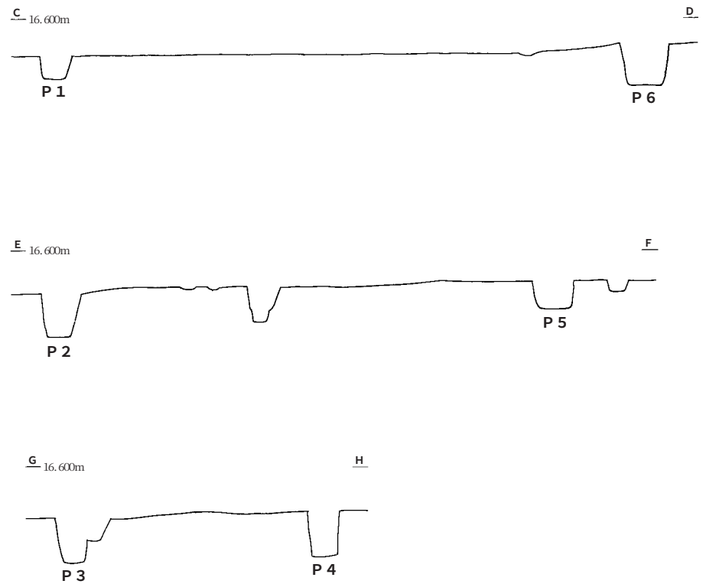
ＳＢ108
Ｐ１　10ＹＲ４／４　褐色　地山ブロック・炭化物少量含む
Ｐ２　10ＹＲ３／３　暗褐色　炭化物やや多く含む　焼土僅かに混じる
Ｐ３　10ＹＲ３／３　暗褐色　炭化物少量含む
Ｐ４　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック・炭化物少量含む
Ｐ５　10ＹＲ４／４　褐色　炭化物少量含む　焼土少量混じる
Ｐ６　10ＹＲ３／３　暗褐色　炭化物やや多く含む

ＳＢ108

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	38	36	24
Ｐ２	36	32	27
Ｐ３	32	30	19
Ｐ４	48	32	36
Ｐ５	34	30	29
Ｐ６	34	32	22

第22図　ＳＢ108掘立柱建物跡





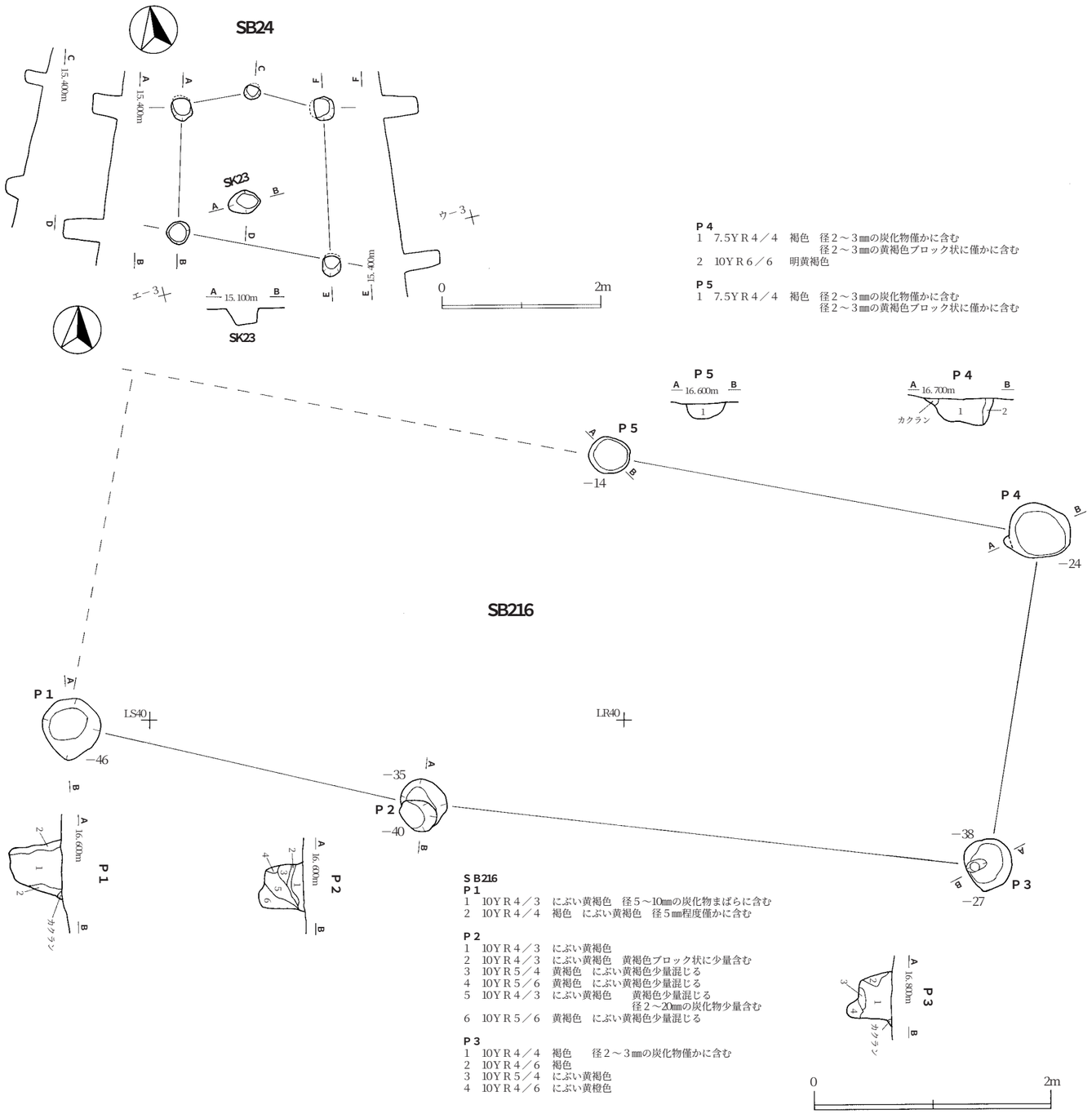
ＳＢ110
Ｐ１　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ２　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ３　10ＹＲ３／３～４　暗褐色～にぶい黄褐色　地山ブロック少量含む
径２㎜の焼土ブロック僅かに含む
Ｐ４　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ５　註記なし
Ｐ６　10ＹＲ３／２～３　黒褐色～暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ７　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
Ｐ８　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック少量含む
径約２㎜の炭化物僅かに含む

ＳＢ110

ピット番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深度(cm)
Ｐ１	26	26	16
Ｐ２	28	26	31
Ｐ３	30	20	31
Ｐ４	22	22	31
Ｐ５	30	26	19
Ｐ６	38	32	29
Ｐ７	26	30	44
Ｐ８	26	24	34

0　2m

第23図　ＳＢ110掘立柱建物跡



第24図　ＳＢ24・216掘立柱建物跡、ＳＫ23土坑

ＳＫⅠ104（第25図、図版12）

位置：ＭＣ61・62、ＭＤ61・62グリッド

規模：長軸（北東－南西）2.5m、短軸（北西－南東）2.1m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積である。当遺構はⅥ層を掘り込んでつくられている。底面からは３基の柱穴を確認した。このうち、中央部のＰ２は70㎝の深さがあるため主柱穴と推測する。切り合い関係は、Ｐ４は当遺構よりも古く、ＳＫ103は当遺構より新しい。遺物は出土しなかった。

時期については縄文時代前期後半と考える。

（４）フラスコ状土坑

ＳＫＦ04（第26図、図版12）

位置：ＬＱ・ＬＲ34グリッド

規模：開口部　長軸（北北西－南南東）1.05m、短軸（西北西－東南東）0.95m

　　底　部　長軸（北北西－南南東）1.21m、短軸（西北西－東南東）1.0m

Ⅳ層で確認した。開口部から底面にかけての断面は「く」の字状である。頸部から底面までは20㎝ほどの深さしかなく、フラスコ状というより袋状に近い形態である。底面はほぼ平坦で、底面から径20㎝程の礫が折り重なるような状態で出土した。遺物は覆土から、縄文時代前期の土器片、削器、石箆、石匙、石錘、２次加工のある剥片、礫などが出土した。また、ピットからは径10㎝ほどの円礫が出土した。撹乱部分からは半円状扁平打製石器が出土した。時期は縄文時代と考えるが詳細な時期については不明である。

ＳＫＦ05（第26図、図版12）

位置：ＬＱ33・34グリッド

規模：開口部　長軸（北西－南東）1.6m、短軸（北東－南西）1.2m

　　底　部　径約1.9m

Ⅵ層で確認した。開口部から底面にかけての断面は「く」の字状である。底面はほぼ平であるが縁辺部がやや斜傾している。開口部は北西部分が広く不自然な形になっているが、これは古い段階で撹乱を受けた結果と考える。覆土には焼土ブロックを含む層が多くあるが、３・６層は焼土層で遺構の埋没過程における窪みを利用して火が焚かれたと推定する。10層は炭化物を多量に含む黒色土であるが、貯蔵物の保存等に使用された敷物が炭化して形成された層の可能性がある。底面付近でＳＫＦ14と切り合っているが新旧関係を明らかにすることはできなかった。出土した遺物には、土器、石器、礫等がある。土器は縄文時代前期後半のものが出土した。石器は掻器、石錘、剥片、台石、ベンガラの付着した礫等が出土した。遺構の時期は縄文時代と考えるが詳細な時期については不明である。

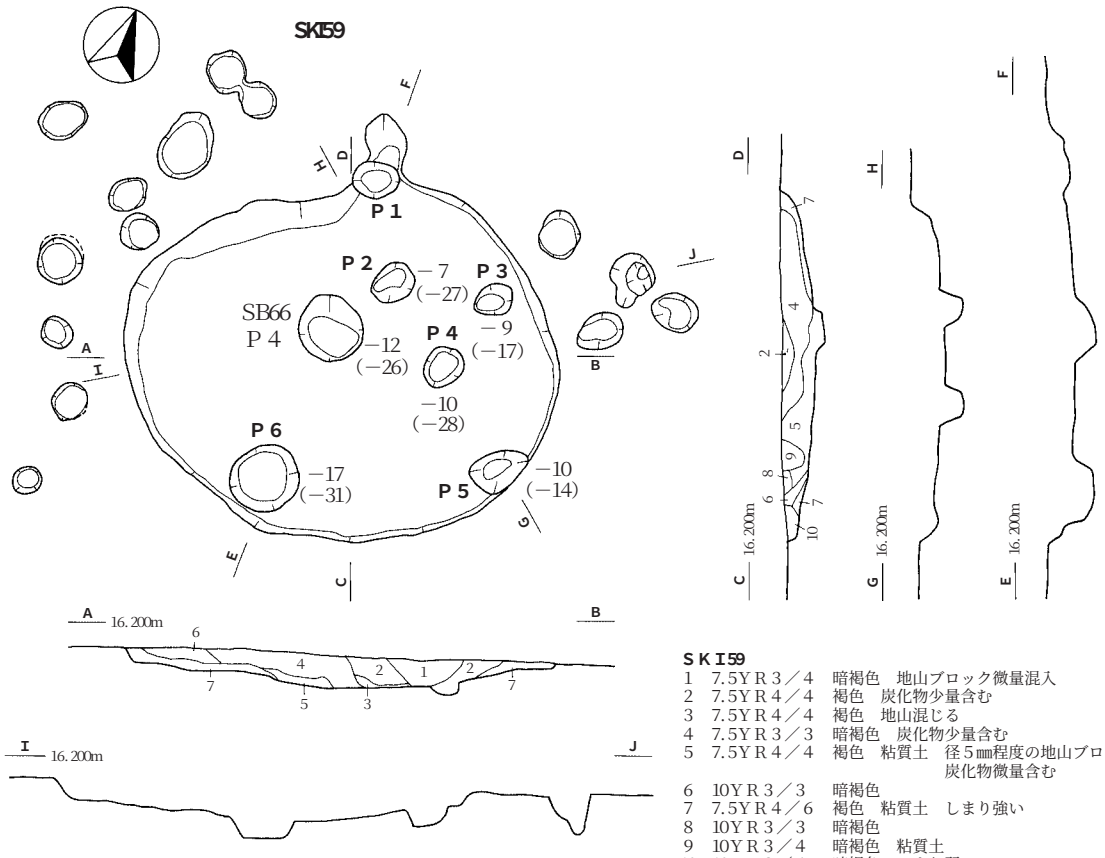
ＳＫＦ06（第26図、図版13）

位置：ＭＡ・ＭＢ34グリッド

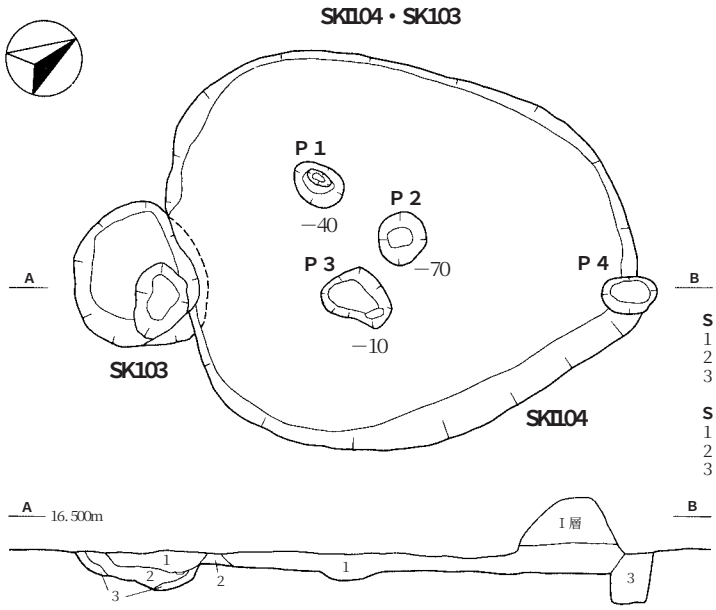
規模：開口部　長軸（東－西）1.06m、短軸（南－北）0.92m

　　底　部　直径約1.5m

Ⅵ層で確認した。確認面から底面までの深さは0.5m程で、底面はほぼ平である。覆土は自然堆積



ＳＫＩ59
1　7.5Ｙ Ｒ３／４　暗褐色　地山ブロック微量混入
2　7.5Ｙ Ｒ４／４　褐色　炭化物少量含む
3　7.5Ｙ Ｒ４／４　褐色　地山混じる
4　7.5Ｙ Ｒ３／３　暗褐色　炭化物少量含む
5　7.5Ｙ Ｒ４／４　褐色　粘質土　径５㎜程度の地山ブロック含む
　　炭化物微量含む
6　10Ｙ Ｒ３／３　暗褐色
7　7.5Ｙ Ｒ４／６　褐色　粘質土　しまり強い
8　10Ｙ Ｒ３／３　暗褐色
9　10Ｙ Ｒ３／４　暗褐色　粘質土
10　10Ｙ Ｒ３／４　暗褐色　しまり弱い

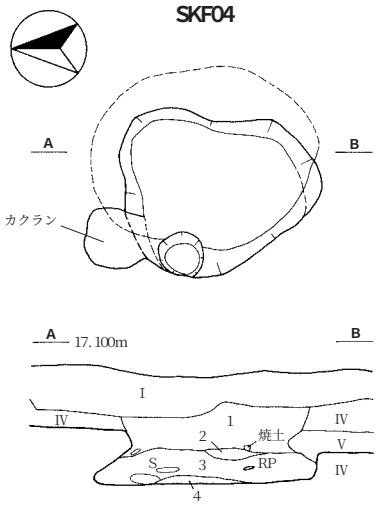


ＳＫ103
1　10Ｙ Ｒ３／４　暗褐色
2　10Ｙ Ｒ３／４　暗褐色　径20㎜の地山ブロック・炭化物少量含む
3　10Ｙ Ｒ４／６　褐色

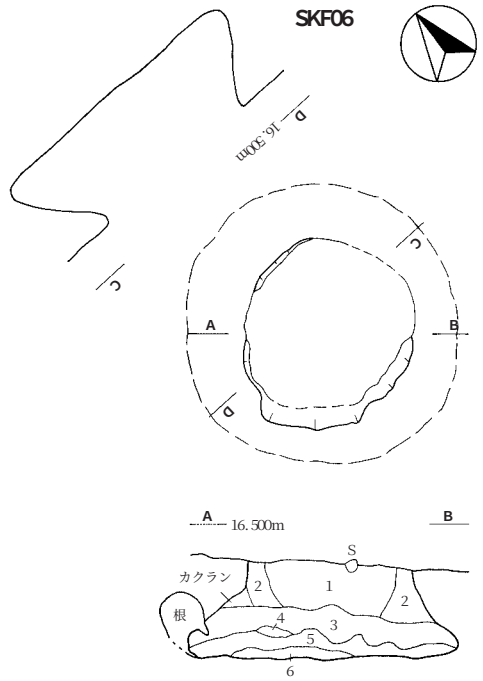
ＳＫＩ104
1　10Ｙ Ｒ３／３　暗褐色
2　10Ｙ Ｒ４／４　褐色　地山ブロック斑状に混じる
3　10Ｙ Ｒ４／６　褐色

0　2m

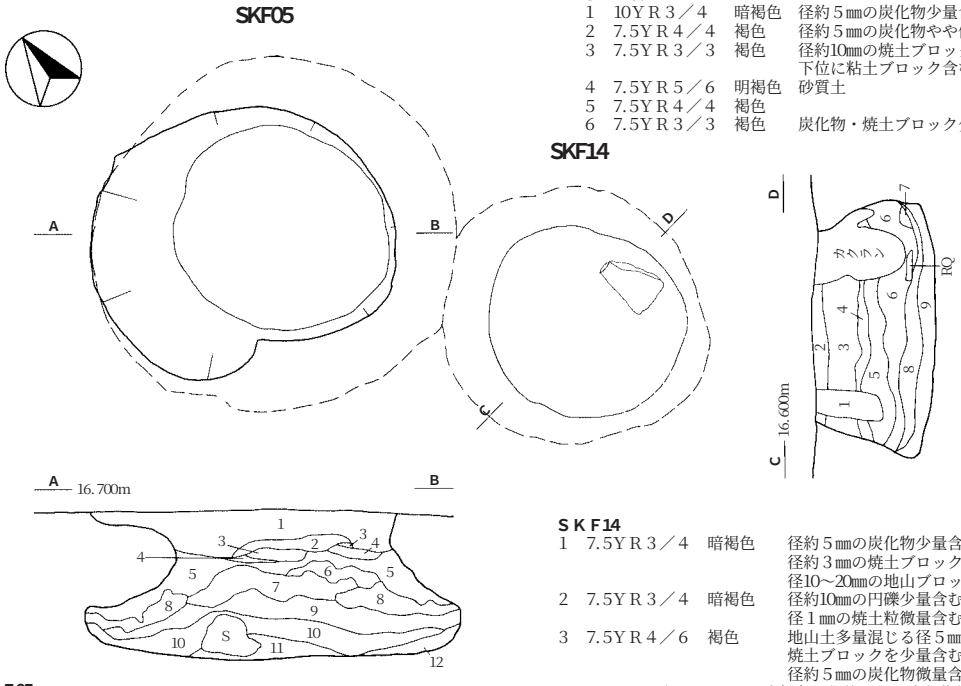
第25図　ＳＫＩ59･104竪穴状遺構



ＳＫＦ04
1　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　焼土ブロック含む
2　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　地山斑状に多く混じる
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径約10㎜の炭化物やや多く含む
　　径約５㎜の焼土ブロック僅かに含む
4　7.5ＹＲ５／４　にぶい褐色　炭化やや多く含む
　　径約10㎜の焼土ブロック僅かに含む



ＳＫＦ06
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径約５㎜の炭化物少量含む
2　7.5ＹＲ４／４　褐色　径約５㎜の炭化物やや僅かに含む
3　7.5ＹＲ３／３　褐色　径約10㎜の焼土ブロック少量含む
　　下位に粘土ブロック含む
4　7.5ＹＲ５／６　明褐色　砂質土
5　7.5ＹＲ４／４　褐色
6　7.5ＹＲ３／３　褐色　炭化物・焼土ブロック少量含む



ＳＫＦ05
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径３㎜程度の焼土ブロック・炭化物微量含む
　　径３～10㎜　の円礫少量含む
2　５ＹＲ４／４　にぶい赤褐色　焼土粒少量含む
3　2.5ＹＲ４／６　赤褐色　焼土　径約１㎜の炭化物微量含む
4　10ＹＲ５／８　黄褐色　径約１㎜度の炭化物微量含む
5　10ＹＲ３／４　暗褐色　径２～５㎜の炭化物少量含む
　　径２㎜の焼土ブロックを微量含む
　　径30㎜の地山ブロック少量含む
　　径10～30㎜の円礫微量含む
6　2.5ＹＲ４／４　にぶい赤褐色　焼土　径10㎜の炭化物微量含む
7　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　径１～50㎜の地山ブロック多量含む
　　径１～５㎜の炭化物少量含む
　　径３㎜の焼土ブロック微量含む
8　7.5ＹＲ５／６　明褐色　地山土
9　10ＹＲ４／６　褐色　径10～50㎜の地山ブロック多量含む
　　径約３㎜の炭化物少量含む
　　径１～３㎜の焼土ブロック少量含む
10　10ＹＲ1.7／１　黒色　径10～30㎜の炭化物多量に含む
11　10ＹＲ３／３　暗褐色　径約５㎜の炭化物少量含む
　　径約３㎜の焼土ブロック少量含む
12　10ＹＲ４／４　褐色　径10～30㎜の円礫を少量含む
　　径約１㎜の炭化物を微量含む

ＳＫＦ14
1　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　径約５㎜の炭化物少量含む
　　径約３㎜の焼土ブロック微量含む
　　径10～20㎜の地山ブロック少量含む
2　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　径約10㎜の円礫少量含む
　　径１㎜の焼土粒微量含む
3　7.5ＹＲ４／６　褐色　地山土多量混じる径５㎜の
　　焼土ブロックを少量含む
　　径約５㎜の炭化物微量含む
4　５ＹＲ４／４　にぶい赤褐色　径約３㎜の炭化物微量含む
　　径約10㎜焼土ブロック多量含む
5　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　地山土少量混じる
　　暗褐色、径約１㎜の炭化物微量含む
6　7.5ＹＲ４／４　褐色　地山土少量混じる
　　径約３㎜の炭化物微量含む
　　径約５㎜の焼土ブロック少量含む
7　５ＹＲ３／６　暗赤褐色　径約１㎜の炭化物微量含む
　　径１～10㎜の焼土多量含む
8　10ＹＲ３／４　暗褐色　径約３㎜の炭化物少量含む
　　焼土微量含む
　　径約30㎜地山ブロック一部で含む
9　10ＹＲ４／６　褐色　径約１㎜の炭化物微量含む

0　2m

第26図　ＳＫＦ04･05･06･14フラスコ状土坑

と考える。最下層には焼土や炭化物が含まれるため、遺構周辺で当時火を使用していたと考える。遺物は、覆土から土器、石器等がポリ袋で２袋づつ出土した。土器は縄文時代前期後半のもので、石器には削器、石篦、石斧、半円状扁平打製石器、石錘、剥片等がある。時期は縄文時代と考えるが詳細な時期については不明である。

ＳＫＦ14（第26図、図版12）

位置：ＬＱ33・34グリッド

規模：開口部　径約１ｍ

　　底　部　径約1.4m

Ⅵ層で確認した。底面はほぼ平である。底部から開口部への立ち上がりは急角度であるため、底面と確認面付近の径の差はあまりない。遺構東側部分の覆土は根により撹乱を受けている。当遺構の覆土を切って径12㎝の小ピットが掘り込まれている。２層は円礫を多く含む層でＳＫＦ05の１層と類似する。３、６層は地山土に由来する埋め戻し層と考えられるが、それらの下層には焼土を多く含む４、７層が位置するため、繰り返し埋め戻しが行なわれていたと考えられる。底面付近でＳＫＦ05と切り合っているが新旧関係を明らかにすることはできなかった。遺物は、覆土から、土器片、石器が出土している。土器は縄文時代前期後半のものが出土している。石器は、削器、石核、剥片、石皿、被熱痕のある礫等が出土している。

時期は縄文時代と考えられるが詳細な時期については不明である。

ＳＫＦ20（第27図、図版13）

位置：ＭＧ35グリッド

規模：開口部　長軸（北西－南東）1.12m、短軸（南西－南東）0.79m

　　底　部　径約1.53mの円形

Ⅵ層で確認した。開口部から底部にかけての断面は「く」字状であり、遺構の頸部は狭くなっている。底面はほぼ平坦である。覆土は自然堆積と考える。確認面の覆土からは土器底部が出土した。２層は焼土層であるため、遺構の埋没過程で生じた窪地を利用して火が焚かれていたと考える。遺物は、覆土から土器片、石器、礫等が出土した。土器はポリ袋で３袋出土したがほとんどは円筒下層ａ・ｂ式である。石器はポリ袋で１袋出土した。石錘、２次加工のある剥片、剥片等が含まれている。時期については縄文時代と考えるが詳細な時期は不明である。

（５）土坑

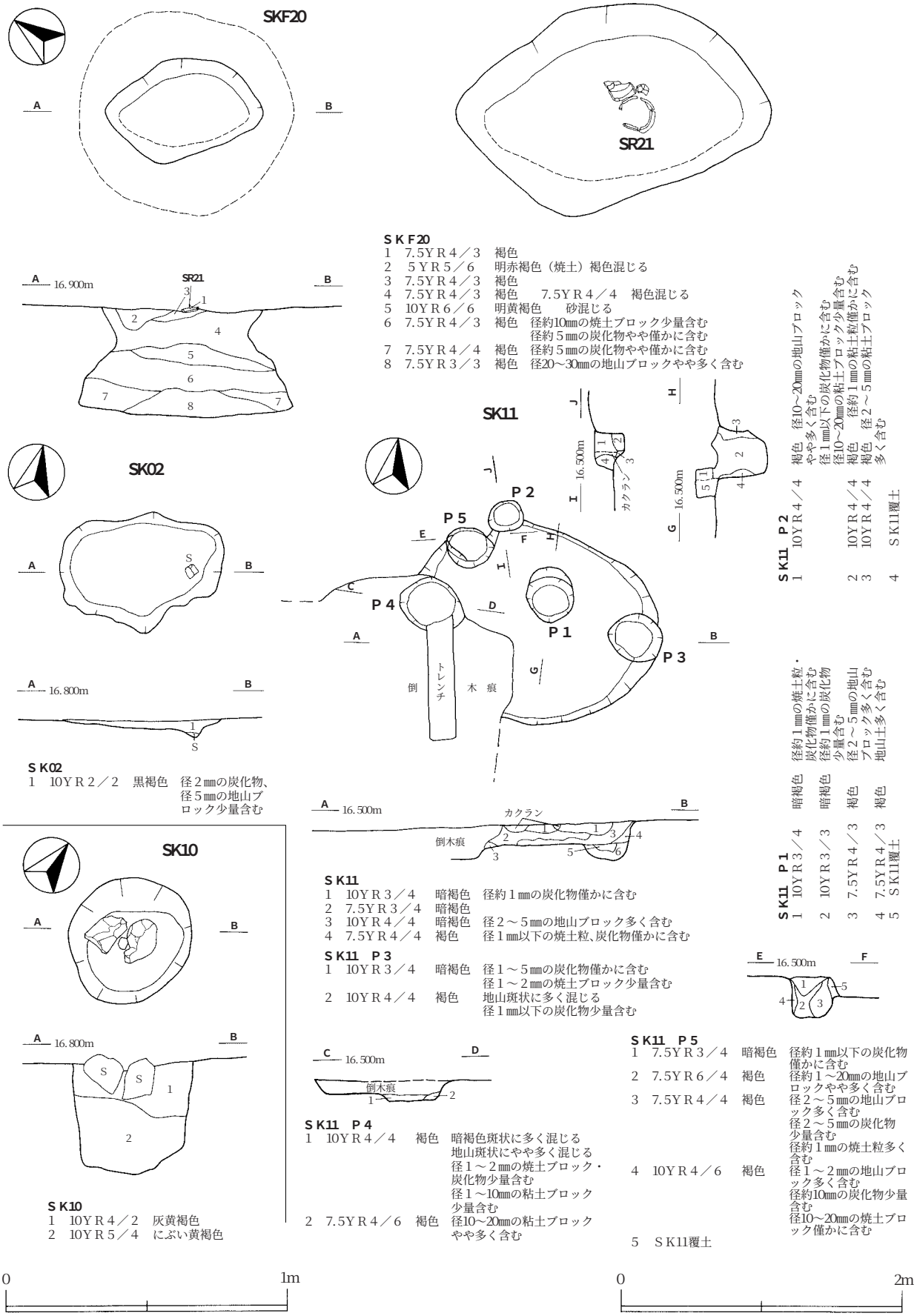
ＳＫ02（第27図、図版13）

位置：ＬＴ36グリッド

規模：長軸（北北東－南南東）1.19m、短軸（西南西－東南東）0.86m

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの掘り込みは、ごく浅いため、壁の立ち上がりは不明瞭である。覆土には炭化物や焼土を含む。遺物は、底面の緩やかな窪みから半円状扁平打製石器が１点出土した。

遺構の性格については、覆土に含まれる焼土や炭化物の存在から焼成に関係した遺構と推測する。時期は縄文時代と考えられるが詳細な時期は不明である。



ＳＫＦ20
1　7.5ＹＲ４／３　褐色
2　５ＹＲ５／６　明赤褐色（焼土）褐色混じる
3　7.5ＹＲ４／３　褐色
4　7.5ＹＲ４／３　褐色　7.5ＹＲ４／４　褐色混じる
5　10ＹＲ６／６　明黄褐色　砂混じる
6　7.5ＹＲ４／３　褐色　径約10㎜の焼土ブロック少量含む
径約５㎜の炭化物やや僅かに含む
7　7.5ＹＲ４／４　褐色　径約５㎜の炭化物やや僅かに含む
8　7.5ＹＲ３／３　褐色　径20～30㎜の地山ブロックやや多く含む

ＳＫ02
1　10ＹＲ２／２　黒褐色　径２㎜の炭化物、径５㎜の地山ブロック少量含む

ＳＫ11
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径約１㎜の炭化物僅かに含む
2　7.5ＹＲ３／４　暗褐色
3　10ＹＲ４／４　暗褐色　径２～５㎜の地山ブロック多く含む
4　7.5ＹＲ４／４　褐色　径１㎜以下の焼土粒、炭化物僅かに含む

ＳＫ11　Ｐ３
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径１～５㎜の炭化物僅かに含む
径１～２㎜の焼土ブロック少量含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　地山斑状に多く混じる
径１㎜以下の炭化物少量含む

ＳＫ11　Ｐ４
1　10ＹＲ４／４　褐色　暗褐色斑状に多く混じる
地山斑状にやや多く混じる
径１～２㎜の焼土ブロック・炭化物少量含む
径１～10㎜の粘土ブロック少量含む
2　7.5ＹＲ４／６　褐色　径10～20㎜の粘土ブロックやや多く含む

ＳＫ11　Ｐ５
1　7.5ＹＲ３／４　暗褐色　径約１㎜以下の炭化物僅かに含む
2　7.5ＹＲ６／４　褐色　径約１～20㎜の地山ブロックやや多く含む
3　7.5ＹＲ４／４　褐色　径２～５㎜の地山ブロック多く含む
径２～５㎜の炭化物少量含む
径約１㎜の焼土粒多く含む
4　10ＹＲ４／６　褐色　径１～２㎜の地山ブロック多く含む
径約10㎜の炭化物少量含む
径10～20㎜の焼土ブロック僅かに含む
5　ＳＫ11覆土

ＳＫ11　Ｐ２
1　10ＹＲ４／４　褐色　径10～20㎜の地山ブロックやや多く含む
径１㎜以下の炭化物僅かに含む
径10～20㎜の粘土ブロック少量含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　径約１㎜の粘土粒僅かに含む
3　10ＹＲ４／４　褐色　径２～５㎜の粘土ブロック多く含む
4　ＳＫ11覆土

ＳＫ11　Ｐ１
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径約１㎜の焼土粒・炭化物僅かに含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　径約１㎜の炭化物少量含む
3　7.5ＹＲ４／３　褐色　径２～５㎜の地山ブロック多く含む
4　7.5ＹＲ４／３　褐色　地山土多く含む
5　ＳＫ11覆土

ＳＫ10
1　10ＹＲ４／２　灰黄褐色
2　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色

0　1m　　0　2m

第27図　ＳＫＦ20フラスコ状土坑、ＳＲ21土器埋設遺構、ＳＫ02･10･11土坑

ＳＫ10（第27図、図版13）

位置：ＭＪ36グリッド

規模：長軸（北－南）0.47m、短軸（東－西）0.43m

Ⅵ層で２個の礫を囲む灰黄褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。壁は底面から急角度で立ち上がる。覆土は自然堆積と考える。遺構の性格や時期を特定する遺物は出土しなかったが、覆土から出土した炭化物の放射性炭素代測定では、ＢＰ4840±60という結果が得られた。

ＳＫ11（第27図、図版13）

位置：ＭＢ・ＭＣ34グリッド

規模：長軸（東－西）1.78m、短軸（南－北）1.4m

Ⅵ層で暗褐色の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。遺構の南西側は倒木痕により壊されている。底面は平で壁は急角度で立ち上がる。覆土は自然堆積と考える。遺物は土器や石器などが、覆土の上層部から出土している。当遺構はＳＫＰ１～５と切り合うが、当遺構より古いものがＰ３で、新しいものがＰ１・５である。Ｐ２・４については新旧を明らかにできなかった。遺構の性格は不明である。

遺物の出土量は土器・石器それぞれ18リットルコンテナの半分ほどである。土器は縄文時代前期の円筒下層ａ・ｂ式期の土器と下層ｄ式期の土器が混在している。石器は石匙、石箆、石錘、擦石、石箆、石核、剥片等が出土している。遺構の時期については、下層ｄ式期かそれ以降と考える。

ＳＫ23（第24図、図版７）

位置：ウ－３グリッド

規模：長軸（東－西）0.4m、短軸（南－北）0.3m

Ⅵ層で確認した。ＳＢ23のプラン内に位置するが関係は不明である。底面はほぼ平で東壁の立ち上がりは急であるのに対し西壁はやや緩やかである。覆土からは石核、剥片などの石器を検出した。土器を全く含まないため、デポのような性格と考える。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ31（第28図、図版13）

位置：ＭＧ28・29グリッド

規模：長軸（北北西－南南東）1.4m、短軸（西南西－東南東）1.04m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。遺構の所々が、木の根による撹乱を受けているため、底面、壁の立ち上がりとも不明瞭である。覆土から縄文時代前期後半の土器７点と剥片２点が出土したが、遺構の性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ33（第28図、図版14）

位置：ＭＫ27グリッド

規模：径0.8mほどの円形

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。遺構の南側が撹乱を受けている。底面は丸底気味で壁は緩い角度で立ち上がる。遺物は２層から土器片が多く出土した。出土遺物は縄文時代前期後半の土器片（30数点）、剥片（４点）等である。遺構の性格については不明である。時期は

縄文時代前期後半以降と考える。

ＳＫ54（第28図、図版14）

位置：ＭＪ38グリッド

規模：長軸（北東－南西）1.1m、短軸（北西－南東）0.78m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は凹凸があり、北西壁よりにはピット状の掘り込みがある。壁の立ち上がりは場所によって異なり、南壁が急角度である他は緩い角度で立ち上がる。遺物は、縄文前期後半の土器片が３点出土した。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ55（第28図、図版14）

位置：ＬＲ40グリッド

規模：長軸（北－南）1.35m、短軸（東－西）1.05m

Ⅵ層で褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は自然堆積である。遺物は、縄文時代前期後半の土器３点と石器の剥片が５点出土した。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ71（第28図、図版14）

位置：ＭＣ44・45グリッド

規模：長軸（北西－南東）1.07m、短軸（北東－南西）1.0m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は丸底気味である。壁は緩い角度で立ち上がる。底面にはＰ１、壁際にはＰ２があり、覆土はともに７層と似ていることから、当遺構に伴うものと判断した。西側の柱穴との新旧関係は明らかにできなかった。遺物は、覆土から縄文時代前期後半の土器片２点、剥片が１点出土した。Ｐ１の覆土からは、縄文時代前期後半の土器片３点が出土した。遺構の性格や時期については不明であるが、中央部に位置するＰ１の存在から、上屋構造が存在した可能性が考えられる。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ72（第28図、図版14）

位置：ＬＰ49グリッド

規模：長軸（北西－南東）（0.75）m、短軸（南西－北東）（0.6）m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。遺構の約半分が撹乱を受けているため、底面や壁は不明瞭である。南側でＳＫＰ221と切り合い、当遺構が新しいことがわかった。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ73・74・75・77（第29図、図版14）

位置：ＬＰ・ＬＱ51グリッド

規模：ＳＫ73　長軸（北西－南東）　1.1m、短軸（南西－北東）0.72m、ＳＫ74長軸（北西－南東）0.6m、短軸（南西－北東）0.49m、ＳＫ75長軸（北東－南西）0.88m、短軸（北西－南東）0.73m、ＳＫ77（北西－南東）1.95m

Ⅵ層で褐色～暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面における土色の違いや土層断面観察から複数の遺構の切り合いであることがわかった。形状がはっきりしているものは、ＳＫ73・74・75である。ＳＫ73は楕円形の土坑で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は埋め戻しの様相を示

している。ＳＫ74はピット状の土坑で、はっきりとした底面はなく、壁の立ち上がりは直線的ではない。ＳＫ75は掘り込みの浅い土坑で、底面の高さはＳＫ77の底面より僅かに低い程度である。ＳＫ77は確認面からの掘り込みが浅いため、遺構の南側が消失している。新旧関係はＳＫ77→ＳＫ73・74・75である。ＳＫ73～75の新旧は不明である。遺物はＳＫ75覆土から、剥片が１点出土している。性格はそれぞれ不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ76（第28図、図版14）

位置：ＬＲ51・52グリッド

規模：長軸（北北東－南南東）2.4m、短軸（西南西－東南東）0.72m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。長方形状のプランをもつ。確認面から底面までは浅い。遺物は、覆土から縄文時代前期後半の土器片４点、両面調整石器１点、掻器１点、剥片４点が出土した。遺物の密度が低い地区にもかかわらず覆土から様々な遺物が出土しているため、これらの遺物は埋納あるいは廃棄したものと考える。遺構プランや出土遺物から縄文時代の墓の可能性がある。なお、当遺構の西側にＳＤ100があり、長軸方向が一致するため関連した施設の可能性がある。

ＳＫ86（第29図、図版14）

位置：ＭＥ・Ｆ53グリッド

規模：長軸（北西－南東）1.0m、短軸（南西－北東）0.8m

Ⅵ層で褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。壁は緩い角度で立ち上がる。遺物は出土しなかった。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ88（第29図、図版15）

位置：ＭＥ57グリッド

規模：径約0.6mの円形。

Ⅵ層で褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は自然堆積である。遺物は、縄文時代前期後半の土器が17点出土した。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ89（第29図、図版15）

位置：ＭＥ・Ｆ57グリッド

規模：径約１mの円形。

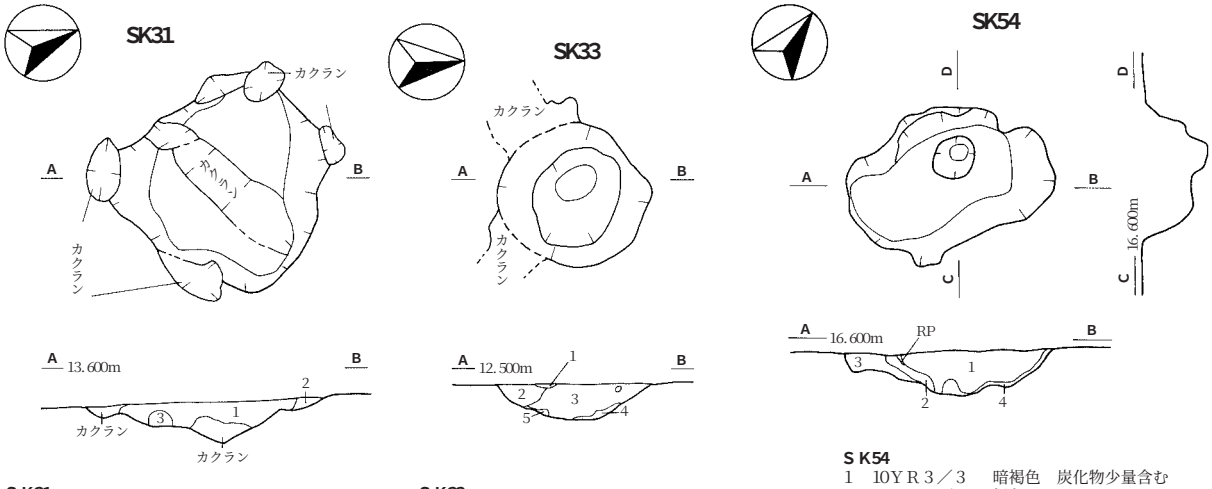
Ⅵ層で黒褐色～暗褐色の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平で壁は急角度で立ち上がる。覆土は２～４層のしまりが強いのが特徴で、２層には炭化物や地山ブロックが混入していた。遺物は、縄文時代前期後半の土器片が30点、剥片が５点出土した。性格については不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ94（第29図、図版15）

位置：ＭＥ55グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.77m、短軸（北東－南西）0.57m

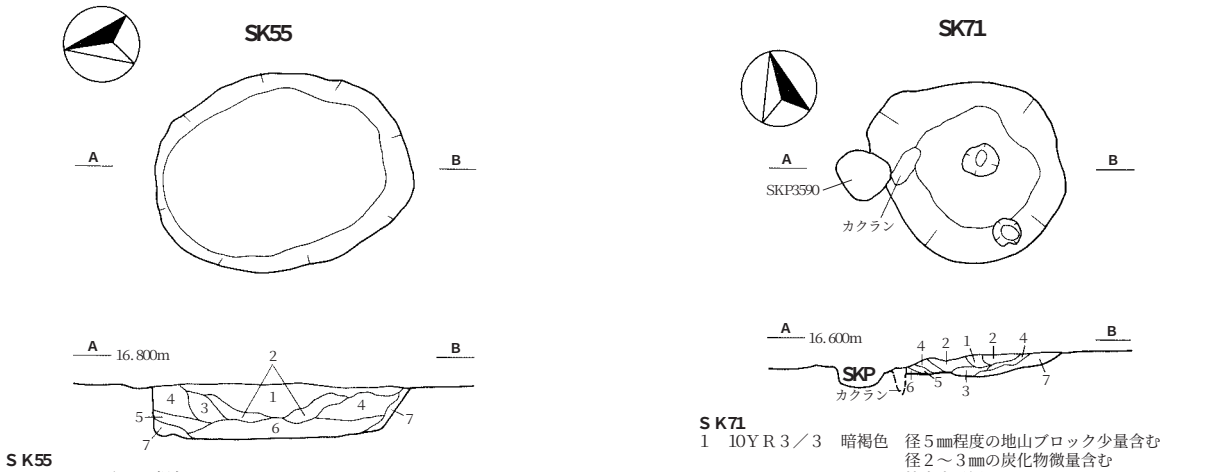
Ⅵ層で黒褐色土と暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。壁は急角度で立ち上がる。遺物は出土しなかった。性格については不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については



ＳＫ31
1　10ＹＲ３／４　暗褐色　径10～20㎜の地山ブロック少量混入
2　10ＹＲ３／４　暗褐色　径１～５㎜の地山ブロック多量混入
3　10ＹＲ５／６　黄褐色　地山ブロック

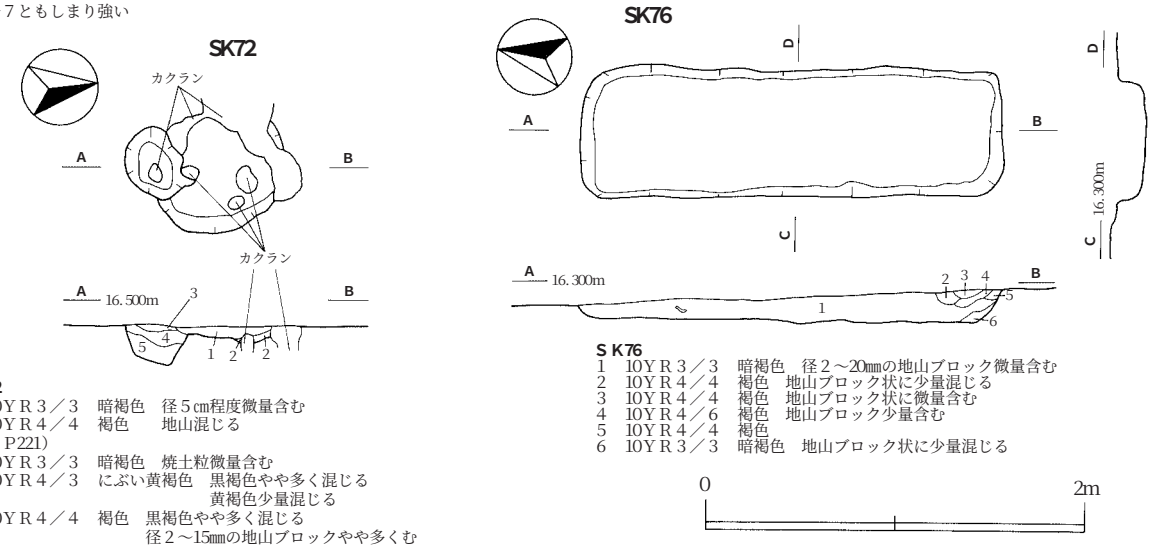
ＳＫ33
1　10ＹＲ３／２　黒褐色
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　黄褐色筋状に流れ込む
3　10ＹＲ３／２　黒褐色　径２～３㎜の地山ブロック少量含む
4　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色　黒褐色混じる
5　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　暗褐色混じる

ＳＫ54
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　炭化物少量含む
2　10ＹＲ４／６　褐色
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
4　7.5ＹＲ４／６　明褐色　暗褐色混じる



ＳＫ55
1　10ＹＲ４／４　褐色
2　10ＹＲ５／２　灰黄褐色　黒褐色（粘土状）少量混じる
径２～３㎜の炭化物少量含む
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
4　10ＹＲ４／４　褐色
5　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径２～３㎜の地山ブロック微量含む
6　10ＹＲ５／２　灰黄褐色　粘土質　地山ブロック状に少量混じる
7　7.5ＹＲ５／６　明黄褐色
※１～７ともしまり強い

ＳＫ71
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５㎜程度の地山ブロック少量含む
径２～３㎜の炭化物微量含む
焼土少量混じる
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック状に微量含む
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　地山少量混じる
4　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５～10㎜の地山ブロック　やや多く含む
5　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色　暗褐色微量混じる
6　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
7　10ＹＲ３／２　黒褐色　地山ブロック状に微量含む



ＳＫ72
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５㎝程度微量含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　地山混じる
（ＳＫＰ221）
3　10ＹＲ３／３　暗褐色　焼土粒微量含む
4　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　黒褐色やや多く混じる
黄褐色少量混じる
5　10ＹＲ４／４　褐色　黒褐色やや多く混じる
径２～15㎜の地山ブロックやや多くむ

ＳＫ76
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～20㎜の地山ブロック微量含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　地山ブロック状に少量混じる
3　10ＹＲ４／４　褐色　地山ブロック状に微量含む
4　10ＹＲ４／６　褐色　地山ブロック少量含む
5　10ＹＲ４／４　褐色
6　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山ブロック状に少量混じる

0　2m

第28図　ＳＫ31･33･54･55･71･72･76土坑

不明である。

ＳＫ99（第29図、図版15）

位置：ＬＴ50グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.85m、短軸（北東－南西）0.77m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの掘り込みが浅いため、壁と底面の境界は不明瞭である。覆土は人為堆積の可能性がある。遺物は、覆土から縄文時代前期後半の土器片が約40点、剥片が３点、礫が２点出土した。性格については不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ103（第25図、図版12）

位置：ＭＤ61グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.77m、短軸（北東－南西）（0.71）m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平坦であるが、底面の南東部に一段深い掘り込みがある。壁は急角度で立ち上がる。ＳＫＩ104を切ってつくられているため、ＳＫＩ104より新しいといえる。遺物は、覆土から縄文時代前期後半の土器片５点出土した。性格は不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ105（第29図、図版15）

位置：ＭＣ56グリッド

規模：長軸（北東－南西）1.28m、短軸（北西－南東）0.93m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平で、壁は急角度で立ち上がる。底面のしまりは強い。覆土は人為堆積の可能性がある。遺物は、覆土から石匙が出土した。性格については不明である。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ106（第30図）

位置：ＬＧ47グリッド

規模：長軸（北西－南東）1.34m、短軸（北東－南西）0.87m

Ⅵ層でにぶい黄褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの掘り込みが浅いため、壁と底面の境界は不明瞭である。覆土は人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。性格については不明である。中央に柱穴状のピットがあり、当遺構を切って掘り込まれている。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ201（第30図、図版15）

位置：ＭＩ38グリッド

規模：約0.5mの不整円形

Ⅵ層で褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平坦である。覆土から土器片が多数出土した。遺物は土器片がポリ袋で２つ、使用痕のある剥片と剥片が各１点出土した。土器片は小片がほとんどある。文様には斜行縄文、羽状縄文がみられる。これらの遺物は当遺構に廃棄されたものと考える。時代は縄文時代前期後半と考える。

ＳＫ202（第30図、図版15）

位置：ＭＪ38グリッド

規模：長軸（北－南）0.91m、短軸（東－西）0.87m

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの深度は浅く、底面は丸みをおびる。遺物は出土しなかった。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ203（第30図、図版15）

位置：ＭＪ38グリッド

規模：長軸（北東－南西）0.53m、短軸（北西－南東）0.48m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの深度は浅いが、底面、壁の区別は明瞭である。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、中央部にピット状の掘り込みがある。遺物は出土しなかった。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＫ204（第30図、図版16）

位置：ＭＪ37グリッド

規模：長軸（北－南）0.72m、短軸（東－西）0.67m

Ⅵ層で褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。遺物は剥片１点と小礫１点が出土した。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

（６）土器埋設遺構

ＳＲ09（第30図、図版16）

位置：ＭＪ35グリッド

規模：径0.14m

Ⅵ層で確認した。土器埋設時の掘り形は確認できなかった。土器は底部付近のみで胴～口縁部がないため、削平された可能性がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半の円筒下層式期と考える。

ＳＲ12（第30図、図版16）

位置：ＬＱ34グリッド

規模：径0.2m

Ⅵ層で確認した。確認面から土器底面までの深さは12㎝である。土器埋設時の掘り形は確認できなかった。口縁部付近がないため、削平された可能性がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

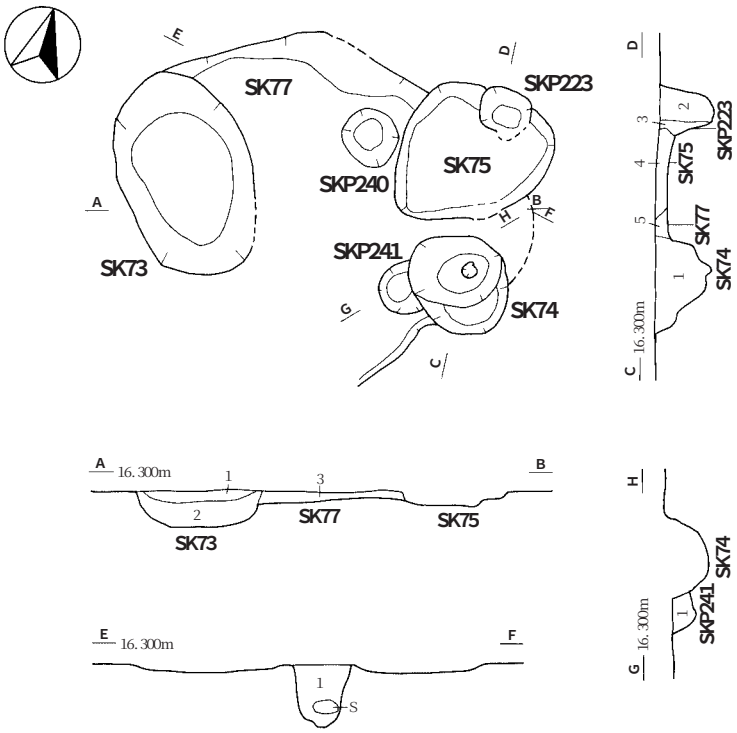
ＳＲ15（第31図、図版16）

位置：ＭＢ34グリッド

規模：径0.14m

Ⅵ層で確認した。確認面から土器底面までは５㎝ほどしかない。土器埋設時の掘り形は土器より一回り大きい。胴部から口縁部にかけて欠損しているため、削平された可能性がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ21（第27図）



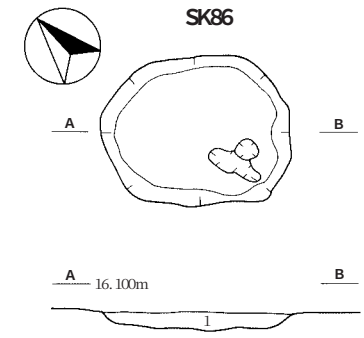
ＳＫ73・74・75・77

Ａ－Ｂ
1　10ＹＲ４／４　褐色
2　10ＹＲ４／４　褐色　にぶい黄褐色やや多く混じる
3　10ＹＲ４／４　褐色　暗褐色やや多く混じる

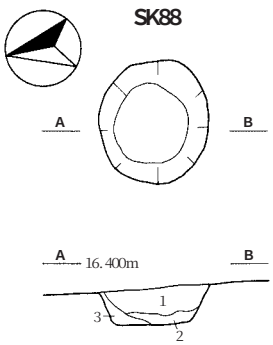
Ｅ－Ｆ
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径３～10㎜の地山ブロック少量含む

Ｃ－Ｄ
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～20㎜地山ブロックやや多く含む
径２～３㎜の炭化物微量含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　にぶい黄褐色少量混じる
3　10ＹＲ３／３　暗褐色　にぶい黄褐色少量混じる　部分的に赤褐色化
4　10ＹＲ４／４　褐色　にぶい黄褐色、地山少量混じる
5　10ＹＲ４／６　褐色　黒褐色混じる

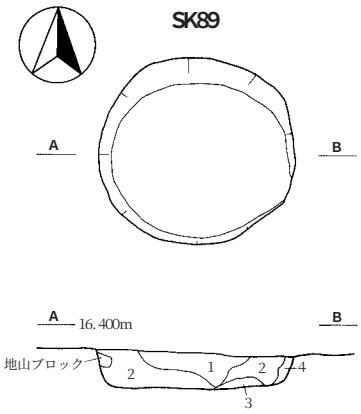
Ｇ－Ｈ
1　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　地山ブロック状に少量混じる
径２～３㎜の炭化物微量含む



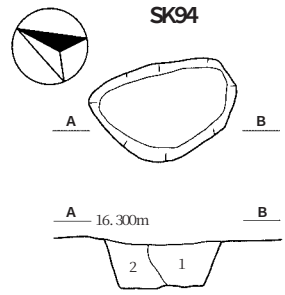
ＳＫ86
1　10ＹＲ４／４　褐色　径５㎜程度の地山ブロック少量含む
しまり強い



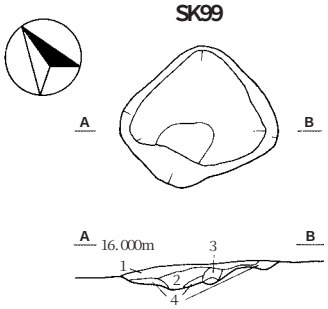
ＳＫ88
1　10ＹＲ４／４　褐色
2　10ＹＲ３／４　にぶい黄褐色
3　10ＹＲ４／６　褐色
※１～３ともしまり強い



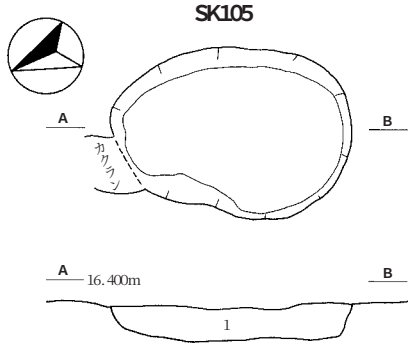
ＳＫ89
1　10ＹＲ３／２　黒褐色
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　径10㎜程度の炭化物少量含む
地山ブロック状に少量混じる
3　10ＹＲ４／４　褐色
4　10ＹＲ４／４　褐色　黄褐色少量混じる
※全体的にしまるが２～４がとくにしまる



ＳＫ94
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５㎜程度の地山ブロック微量含む
2　10ＹＲ３／2.5　黒褐色～暗褐色



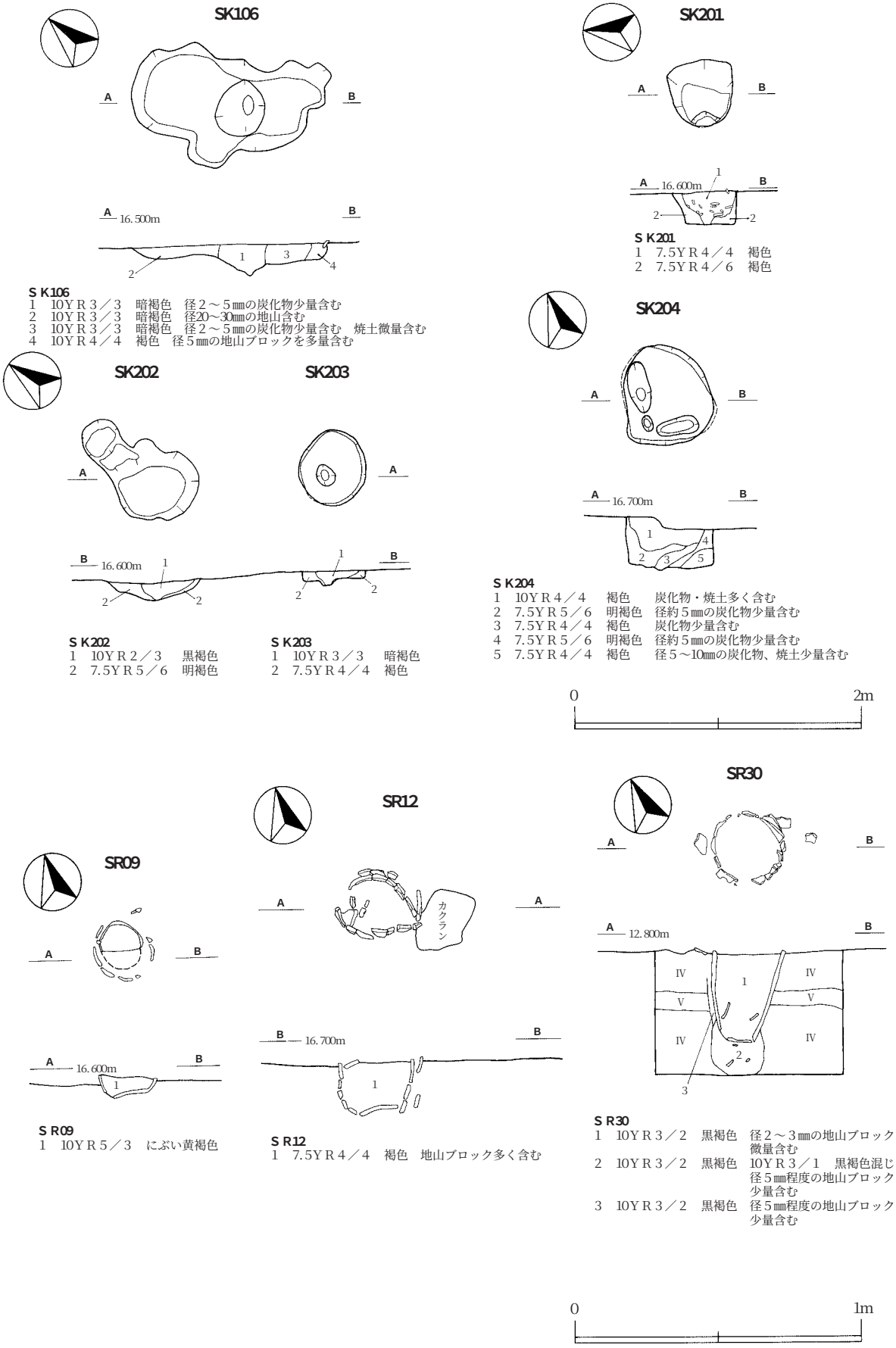
ＳＫ99
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径10㎜程度の地山ブロック少量含む
径５㎜程度の炭化物やや多く含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　径10㎜程度の地山ブロックやや多く含む
3　10ＹＲ３／３　暗褐色　１がブロック状に沈下した部分
4　7.5ＹＲ５／６　明褐色　暗褐色少量混じる



ＳＫ105
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径10㎜の地山ブロック少量含む

0　2m

第29図　ＳＫ73～75・77・86・88・89・94・99・105土坑



ＳＫ106
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～５㎜の炭化物少量含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　径20～30㎜の地山含む
3　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～５㎜の炭化物少量含む　焼土微量含む
4　10ＹＲ４／４　褐色　径５㎜の地山ブロックを多量含む

ＳＫ201
1　7.5ＹＲ４／４　褐色
2　7.5ＹＲ４／６　褐色

ＳＫ202
1　10ＹＲ２／３　黒褐色
2　7.5ＹＲ５／６　明褐色

ＳＫ203
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　7.5ＹＲ４／４　褐色

ＳＫ204
1　10ＹＲ４／４　褐色　炭化物・焼土多く含む
2　7.5ＹＲ５／６　明褐色　径約５㎜の炭化物少量含む
3　7.5ＹＲ４／４　褐色　炭化物少量含む
4　7.5ＹＲ５／６　明褐色　径約５㎜の炭化物少量含む
5　7.5ＹＲ４／４　褐色　径５～10㎜の炭化物、焼土少量含む

ＳＲ09
1　10ＹＲ５／３　にぶい黄褐色

ＳＲ12
1　7.5ＹＲ４／４　褐色　地山ブロック多く含む

ＳＲ30
1　10ＹＲ３／２　黒褐色　径２～３㎜の地山ブロック微量含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　10ＹＲ３／１　黒褐色混じる径５㎜程度の地山ブロック少量含む
3　10ＹＲ３／２　黒褐色　径５㎜程度の地山ブロック少量含む

第30図　ＳＫ106・201・202・203・204土坑、ＳＲ09・12・30土器埋設遺構

位置：ＭＧ35グリッド
規模：径0.17m
　ＳＫＦ20の覆土で確認した。底部付近しか残っていないため、土器埋設時の掘り形は確認できなかった。ＳＫＦ20の埋没過程で生じる窪地を利用してつくられた土器埋設遺構と考えられる。胴部から口縁部にかけて欠損しているため、削平された可能性がある。時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ30（第30図、図版16）
位置：ＭＪ28グリッド
規模：径0.25m
　Ⅳ層で確認した。確認面から土器底面までの深さは約30㎝で、掘り込みはⅥ層に達している。土器埋設時の掘り形は底部から下の部分で確認した。２層は土器埋設時に深く掘り過ぎた部分を埋め戻した層とみられる。時期は縄文時代後期後半と考える。

ＳＲ62（第31図、図版16）
位置：ＬＰ45グリッド
規模：径0.28m
　Ⅳａ層で確認した。断割りにより、伏せた形で埋設された土器であることが判明した。明瞭な掘り形は確認できなかったが、遺構周辺に褐色土と焼土粒が混入した部分（１層）が認められた。遺構周辺は固く締まっている。Ⅳａ層を掘り込んでつくった土器埋設遺構と考える。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ69（第31図、図版16）
位置：ＬＰ46グリッド
規模：径0.25m
　Ⅳａ層で確認した。確認面から土器底面までの深さは約25㎝である。土器埋設時の掘り形は部分的に確認できた。遺構周辺は固く締まっている。Ⅳａ層を掘り込んでつくった土器埋設遺構と考える。土器は斜位に埋設されている。南西に隣接して石錘が出土した。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ78（第31図、図版17）
位置：ＬＳ50グリッド
規模：径0.24m
　Ⅴ層で確認した。当遺構はⅤ・Ⅵ層を掘り込んでつくられている。確認面から土器底面までの深さは約20㎝である。土器埋設時の掘り形は径40㎝ほどである。土器の内部に土器片が多く入り込んでいるため、遺構がつくられてからあまり時間の経たないうちに撹乱された可能性がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ84（第31図、図版17）
位置：ＭＢ40グリッド
規模：径0.15m
　Ⅵ層で確認した。確認面から土器底面までの深さは５㎝である。土器埋設時の掘り形は土器よりも一回り大きい。土器は掘り形底面を少し埋め戻した後、正立させた状態で埋設している。口縁部付近

がないため、削平された可能性がある。南に１m離れたところにはＳＲ85がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

ＳＲ85（第31図、図版17）

位置：ＭＢ39

規模：径0.12mグリッド

Ⅵ層で確認した。確認面から土器底面までの深さは約20㎝である。土器埋設時の掘り形は径20㎝ほどである。土器は掘り形底面に正立させた状態で埋設している。口縁部付近がないため、削平された可能性がある。北に１m離れたところにはＳＲ84がある。土器の特徴から、時期は縄文時代前期後半と考える。

（７）焼土遺構

ＳＮ03（第31図、図版17）

位置：ＬＲ34グリッド

規模：長軸（南西－北東）0.5m、短軸（北西－南東）0.38m

Ⅵ層で焼土の広がりを確認した。確認面からは礫が出土した。焼土と捉えた範囲はブロック状の焼土が密集した部分であり、その場で形成された焼土か疑問が残るところもある。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＮ18（第32図、図版17）

位置：ＬＳ35グリッド

規模：長軸（北東－南西）0.55m、短軸（北西－南東）0.48m

Ⅵ層で焼土の広がりを確認した。南東部が撹乱の影響を受けている。被熱は最深部で確認面下約10㎝に及ぶ。時期は縄文時代と考えられるが詳細については不明である。

ＳＮ61（第32図、図版17）

位置：ＬＯ・ＬＰ45グリッド

規模：長軸（北北西－南南東）0.78m、短軸（西南西－東南東）0.78m

Ⅳ層で焼土の広がりを確認した。被熱は最深部で確認面下約10㎝に及ぶ。遺構の周囲は固くしまり、土器片が多く出土した。当遺構に伴う掘り込みがないため、当時の生活面上に近いレベルで形成された焼土と推測する。時期は周辺の遺物の出土状態から、縄文時代前期後半と考える。

ＳＮ70（第32図、図版17）

位置：ＬＱ46グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.8m、短軸（北東－南西）0.64m

Ⅳ層で焼土の広がりを確認した。中央部が特に焼土の発達が良い。被熱は最深部で確認面下約10㎝に及ぶ。遺構の周囲は固く締まり、土器片が多く出土した。当遺構に伴う掘り込みがないため、当時の生活面上に近いレベルで形成された焼土と推測する。時期は周辺の遺物の出土状態から、縄文時代前期後半と考える。

ＳＮ102（第32図、図版17）

位置：ＭＥ64グリッド

規模：長軸（南－北）0.5m、短軸（東－西）0.44m

Ⅵ層で焼土の広がりを確認した。南側が焼土の発達が良い。被熱は最深部で確認面下約13㎝に及ぶ。確認面に縄文土器片が突き刺さるような状態で出土した。時期の詳細については不明である。

（８）溝状遺構

ＳＤ25（第32図、図版17）

位置：イ－３グリッド

規模：長さ（西北西－東南東）３m以上、幅（北北東－南南西）0.2～0.3m

Ⅳ層で確認した。覆土はⅢ層である。底面はほぼ平で壁は急角度で立ち上がる。遺物は、土器片ポリ袋で２袋、半円状扁平打製石器２点、剥片ポリ袋１袋　が出土した。時期はⅢ層が堆積していることによって縄文時代前期後半と考える。測道南側土層ベルト断面で溝状の掘り込みを確認したが同一のものである可能性が高い。

ＳＤ100（第32図、図版14）

位置：ＬＲ51グリッド

規模：長さ（北北西－南南東）0.9m、幅（西南西－東北東）0.33m

Ⅵ層で確認した。ＳＫ76の西に平行する位置にある。覆土は記録できなかった。底面はほぼ平坦である。遺物は出土しなかった。ＳＫ76と長軸方向が一致するため、関連した施設の可能性がある。

（９）柱穴様ピット（付図）

北側調査区の主に42ライン以北で多く検出した。覆土には、地山ブロックが混入しているものが多い。縄文時代の遺構覆土の特徴である粘性としまりがあるものを縄文時代の柱穴として扱った。本来は建物を構成したものである可能性が高いが、検出数が膨大なため、復元できたものは僅かな数に留まった。

（10）捨て場（第11図、図版１・５）

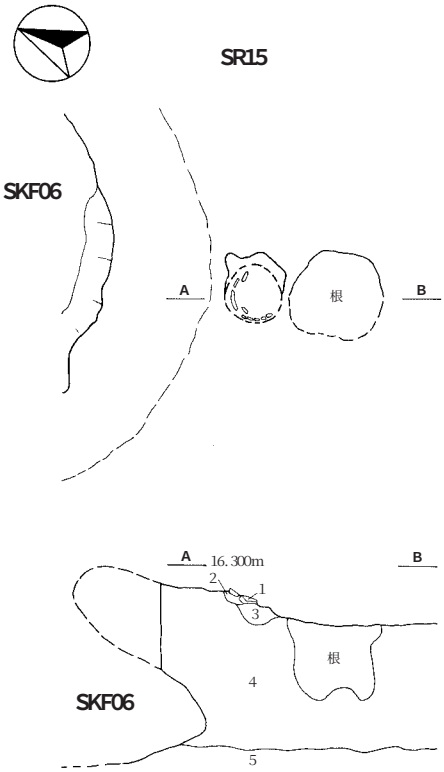
調査区南側の緩斜面で検出した。その広がりは調査区外東西にも及ぶ。縄文時代前期後半の遺物を包含するが、時期は主に２時期に分けられる。１つは円筒下層ａ・ｂ式前後の時期、１つは円筒下層ｄ式前後の時期である。遺物量は前者の方が多い。これら２時期の遺物は円筒下層式が中心であるが、大木系の土器も含まれている。

捨て場では人為的な堆積層を確認した。この層（Ⅲ層）は黄褐色土を主体とする層で、所々に焼土を含む。これらの層は、捨て場上位にある台地平坦面から運び出されたと考える。具体的には、遺構構築に伴い生じた排土を捨てたものと考える。

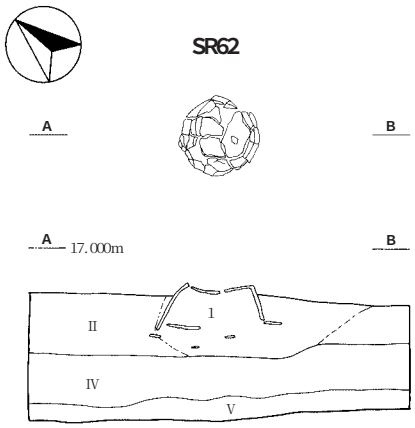
遺物分布の特徴として、調査区内の捨て場中央部の緩やかな谷からの遺物出土量が少ないことがあげられる。そのため、この谷が何らかの境界として機能していた可能性がある。

捨て場からは大量の土器や石器が出土した。土器については、胎土に植物繊維を含んだものが多いためか保存状態が悪く、復元できたものは少ない。また、文様については不明瞭なものが多かった。

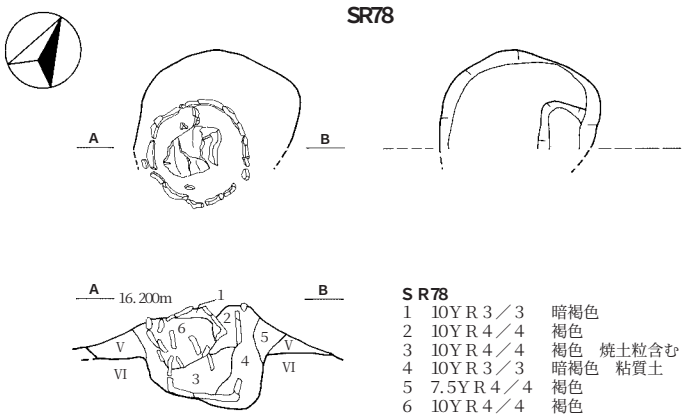
石器は、石錘、半円状扁平打製石器、円盤状石製品の出土量が多い。



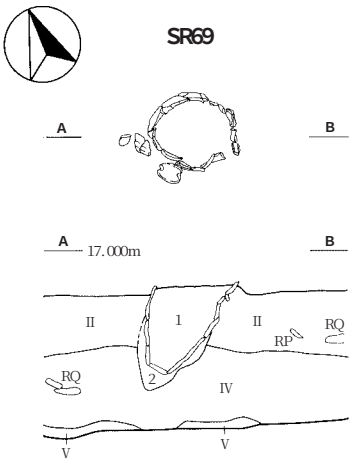
ＳＲ15
1　7.5ＹＲ４／４　褐色
2　7.5ＹＲ４／６　褐色　　炭化物僅かに含む
3　7.5ＹＲ３／４　暗褐色
4　7.5ＹＲ４／６　褐色（VIａ層　シルト）
5　7.5ＹＲ５／６　明褐色（VIｂ層　細粒砂）



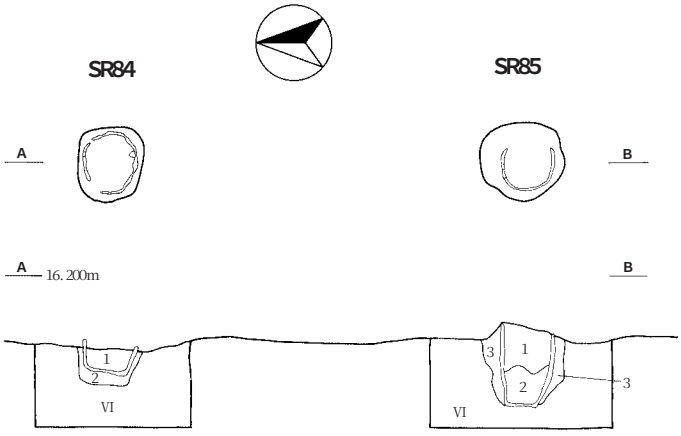
ＳＲ62
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　褐色混じる　径２㎜程度の焼土粒微量含む



ＳＲ78
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　10ＹＲ４／４　褐色
3　10ＹＲ４／４　褐色　焼土粒含む
4　10ＹＲ３／３　暗褐色　粘質土
5　7.5ＹＲ４／４　褐色
6　10ＹＲ４／４　褐色



ＳＲ69
1　7.5ＹＲ３／４　暗褐色
2　7.5ＹＲ３／３　暗褐色

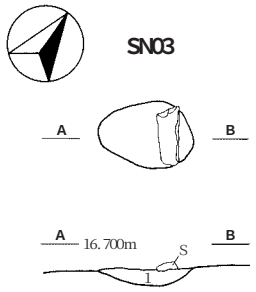


ＳＲ84
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５㎜の地山・焼土ブロック僅かに含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　褐色少量混じる

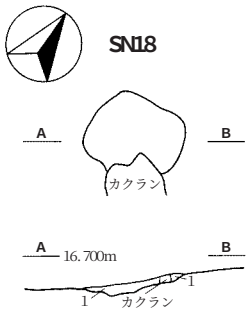
ＳＲ85
1　10ＹＲ２／３　暗褐色　径約10㎜の地山ブロック僅かに含む
2　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色
3　10ＹＲ５／３　にぶい黄褐色　暗褐色少量混じる

0　1m

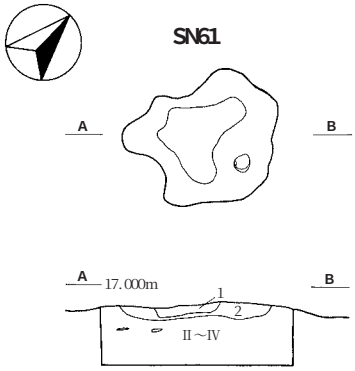
第31図　ＳＲ15・62・69・78・84・85土器埋設遺構



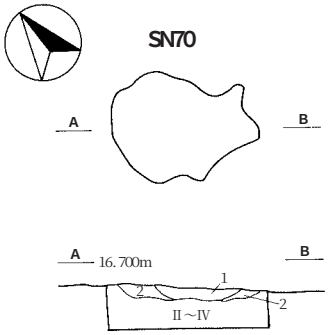
S N03
1　7.5ＹＲ３／３　暗褐色　径３～30㎜の焼土ブロックを多く含む
径約１㎜の炭化物を僅かに含む



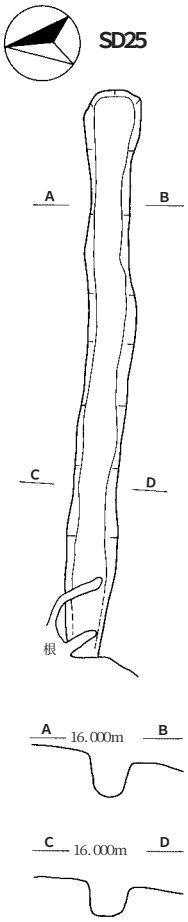
S N18
1　５ＹＲ５／４　にぶい赤褐色（焼土）

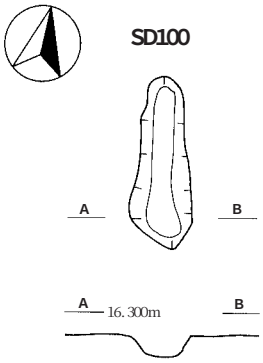


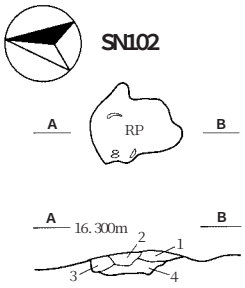
S N61
1　５ＹＲ４／４　にぶい赤褐色　黒褐色少量混じる
2　7.5ＹＲ３／３　暗褐色　径２～３㎜の炭化物少量含む



S N70
1　５ＹＲ５／４　にぶい赤褐色
2　7.5ＹＲ３／３　暗褐色　５ＹＲ５／４　にぶい赤褐色少量混じる
炭化物僅かに含む



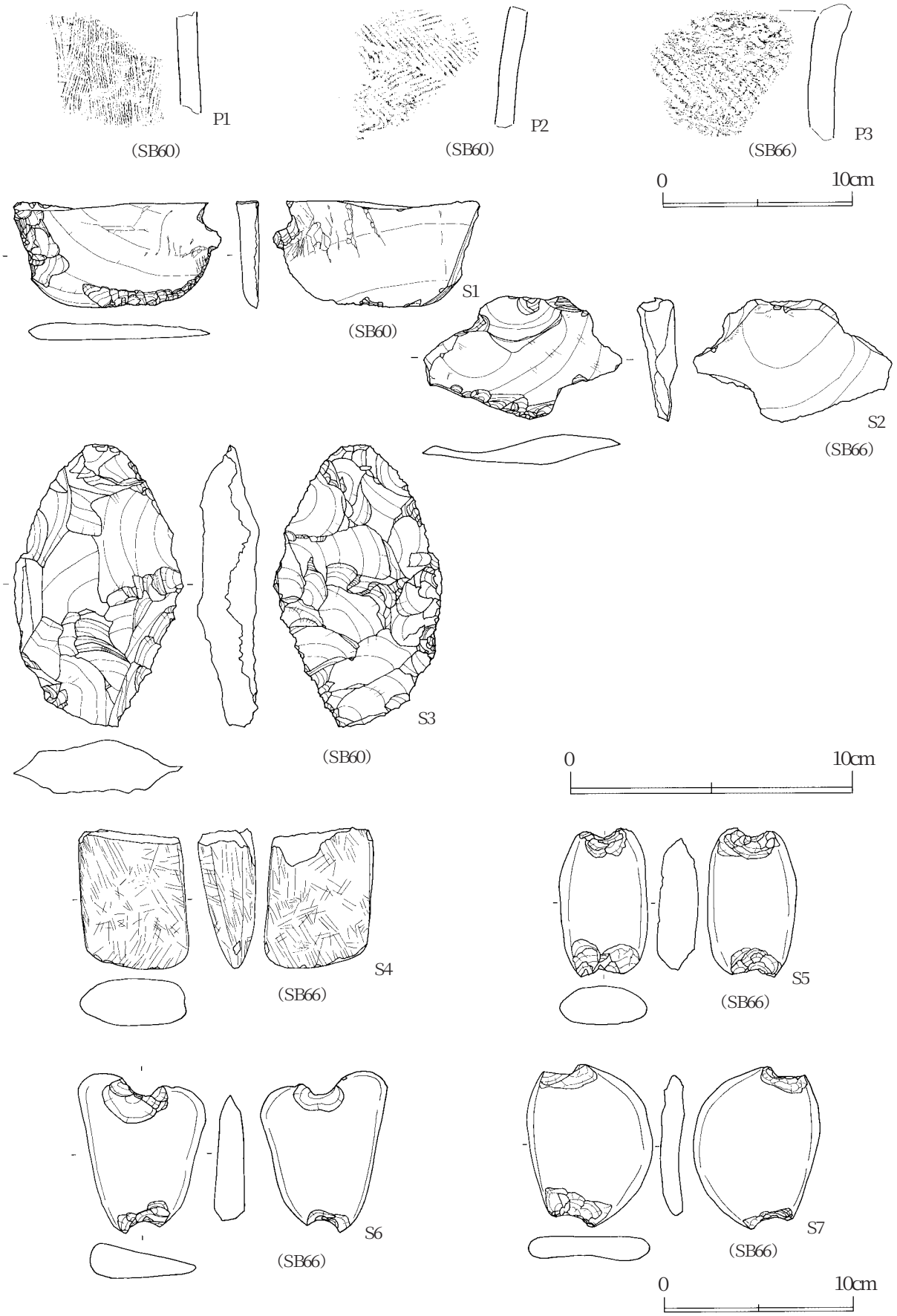




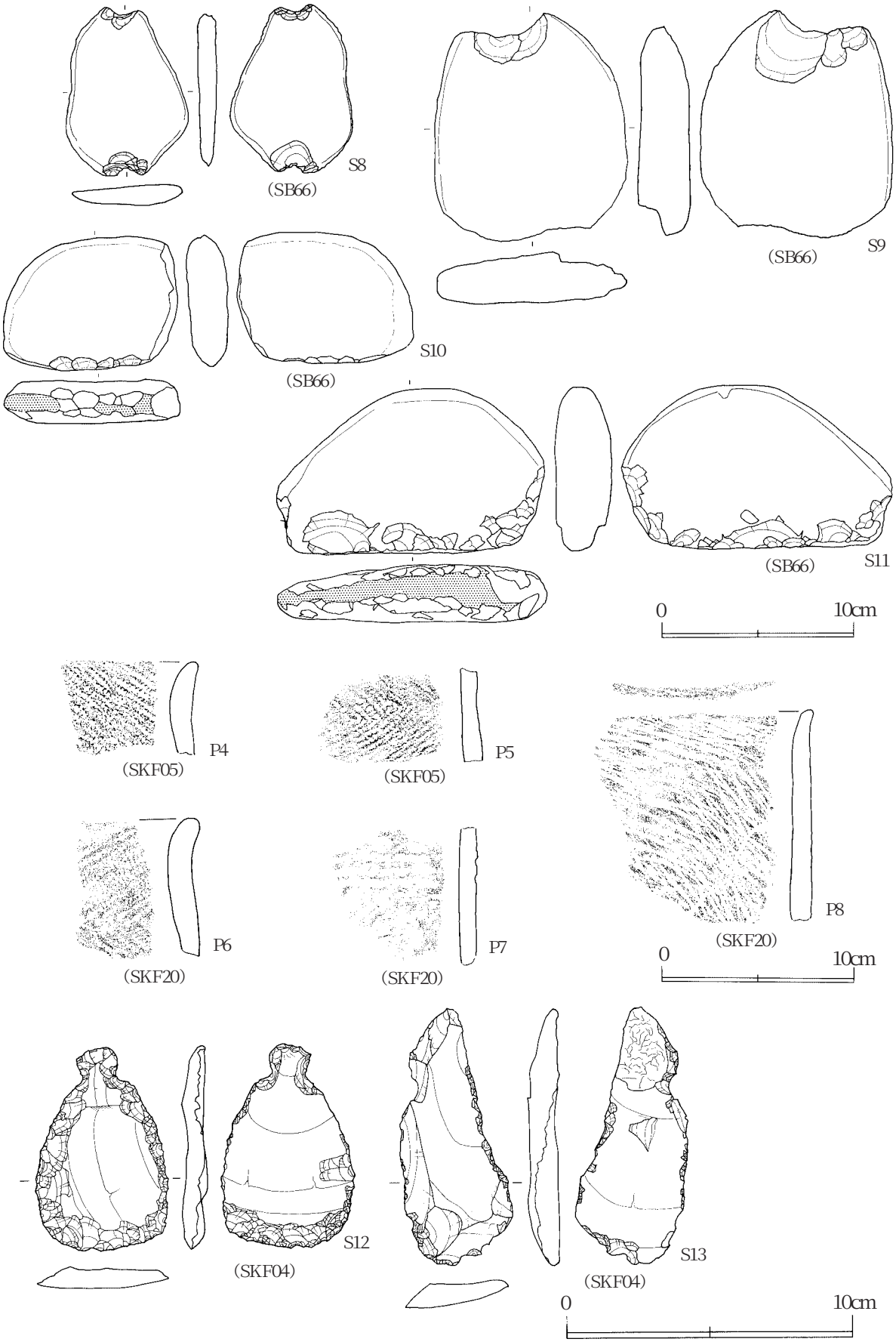
S N102
1　10ＹＲ５／８　明赤褐色　焼土
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　土器多く含む
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
4　7.5ＹＲ４／４　褐色
※１～４ともに硬化

0　2m

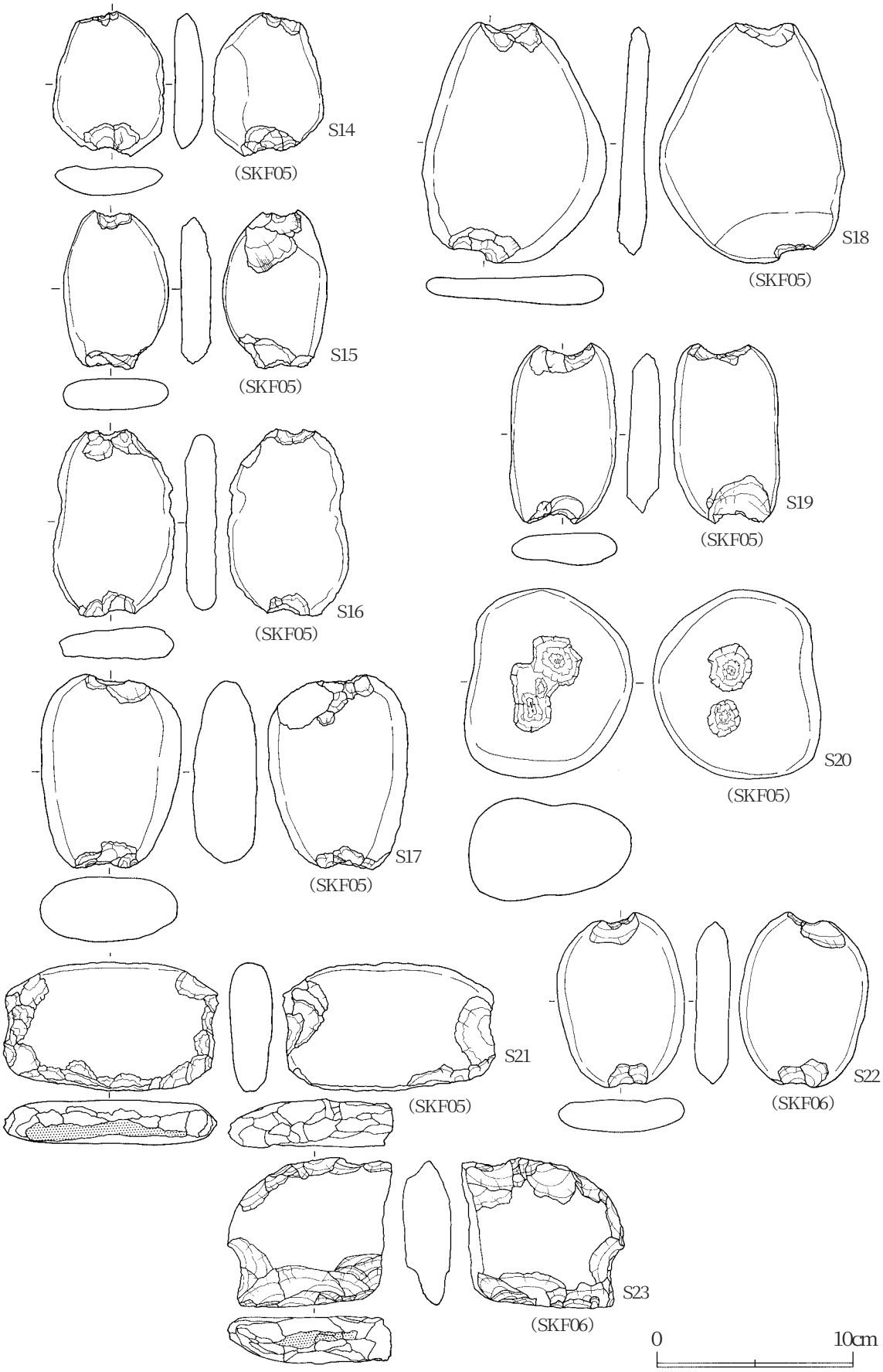
第32図　ＳＮ03・18・61・70・102焼土遺構、ＳＤ25・100溝跡



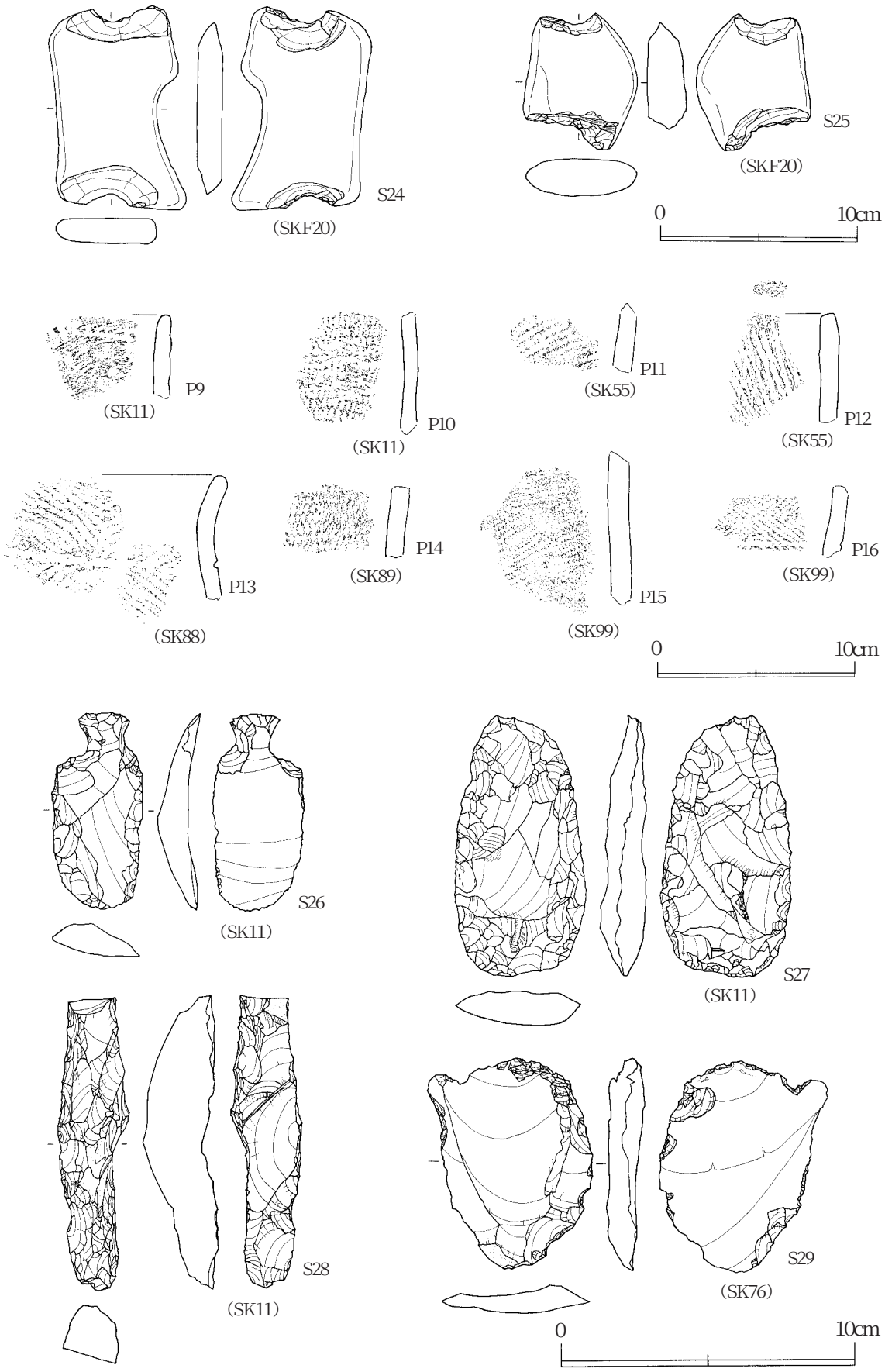
第33図　遺構内出土遺物（１）



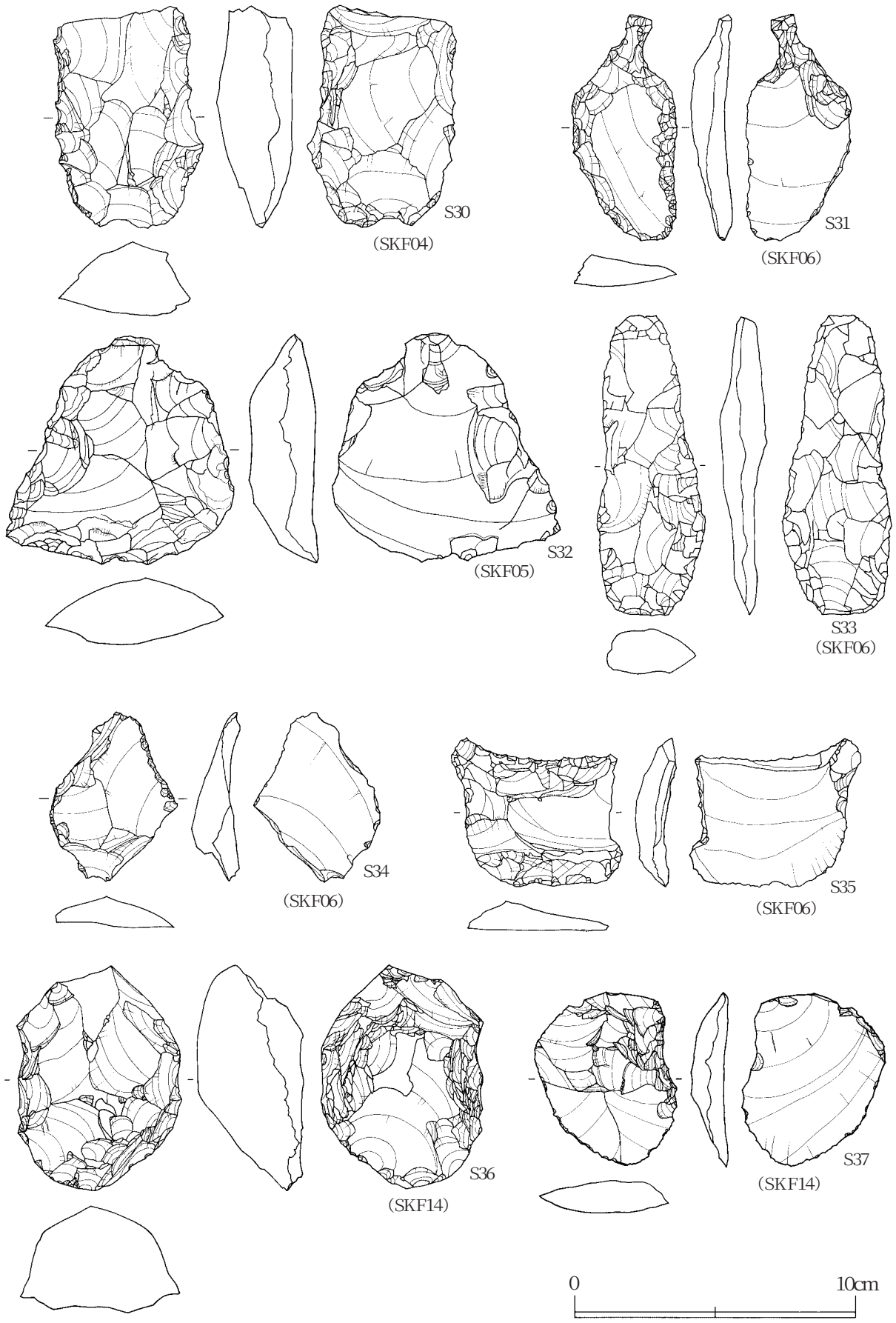
第34図　遺構内出土遺物（２）



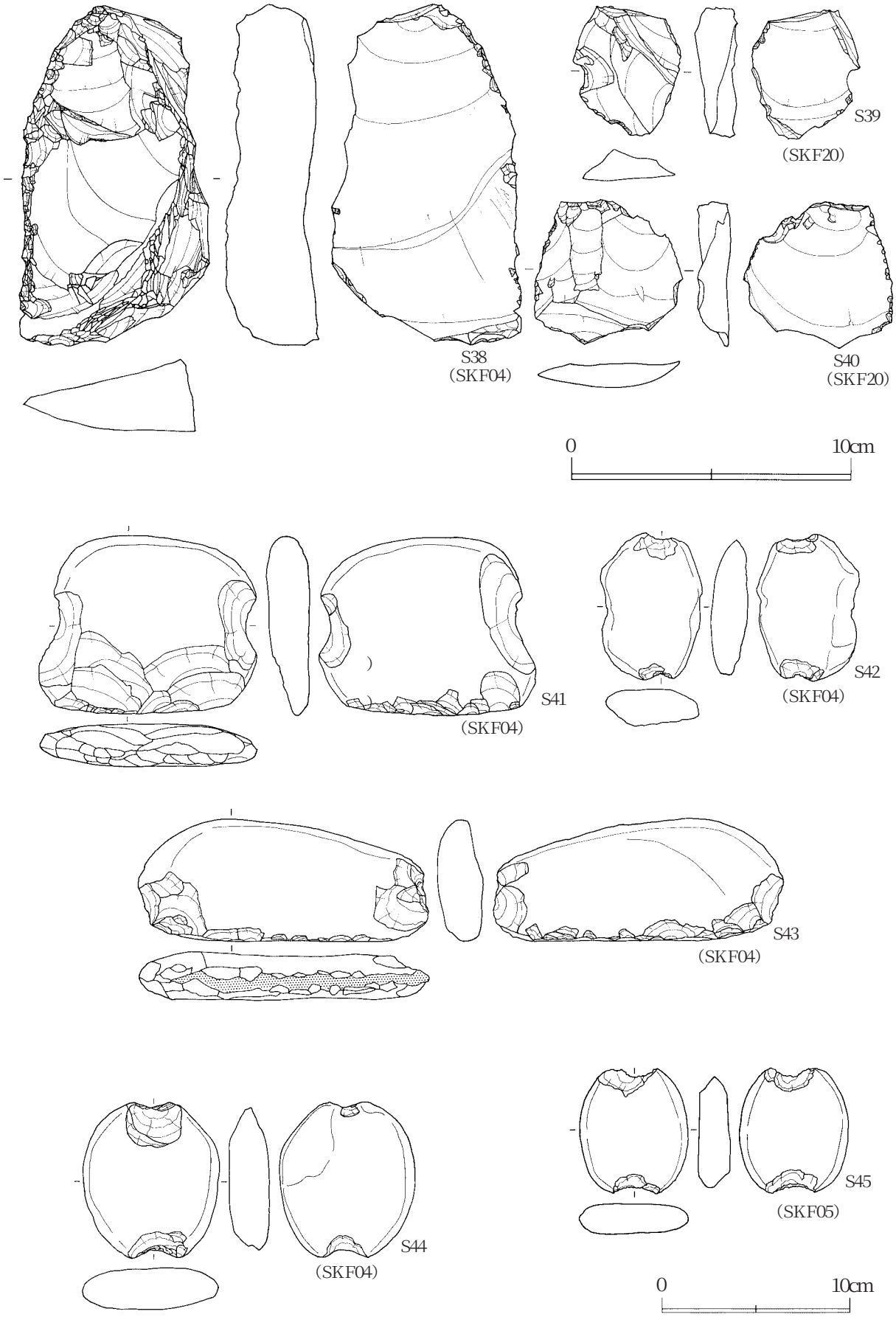
第35図　遺構内出土遺物（３）



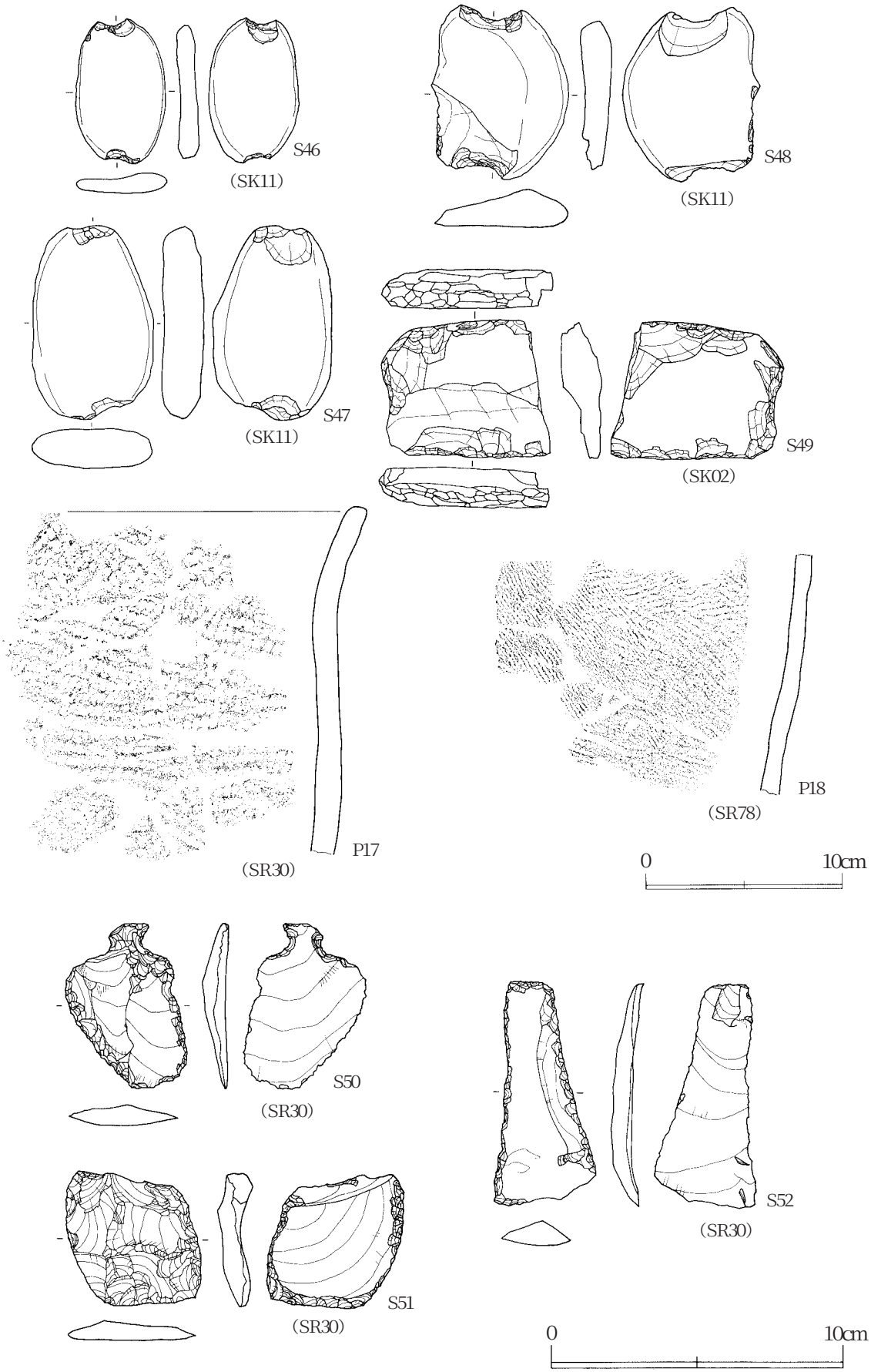
第36図　遺構内出土遺物（４）



第37図　遺構内出土遺物（５）



第38図　遺構内出土遺物（６）



第39図　遺構内出土遺物（７）

第１表　柱穴様ピット一覧（１）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
221	LP49	40	22	
222	MG44	36	25	
223	LP52	30	30	
224	LS41	38	8	
225	LS40	22	18	
226	LS40	26	5	
227	LS40	24	11	
228	LS40	28	38	
229	LT39	24	10	
231	LT40	16	10	
232	LT40	24	12	
233	LT40	22	14	
234	LT40	20	10	
235	LT41	20	4	
236	LT41	18	5	
237	LT41	16	5	
238	LT41	22	6	
239	LT40	26	5	
240	LP52	32	34	
241	LP52	28	12	
242	LR45	24	10	
243	LR45	20	12	
244	LR45	20	15	
245	LR45	14	11	
246	LR45	20	9	土器片出土
247	LR45	28	8	
248	LR45	20	3	
249	LR45	26	18	土器片出土
250	LR45	20	23	
251	LR45	20	23	
252	LR45	24	17	
254	LR45	26	17	フレイク出土
255	LR45	18	18	
256	LR45	18	19	
257	LR45	22	15	
258	LR45	20	15	土器片、フレイク出土
259	LR45	24	7	
260	LR45	20	16	炭化物少量混入
261	LR45	20	12	
262	LR45	44	28	土器片出土
263	LR45	28	12	
264	LR45	22	20	
265	LR45	18	12	
266	LR45	24	14	
267	LR45	32	30	
268	LR45	12	15	
269	LR45	12	6	
270	LR45	16	6	
271	LR45	12	16	
272	LR45	22	17	
273	LR45	12	6	
274	LR45	16	6	偏平小礫出土
275	LR45	26	37	
277	LR45	20	19	
278	LR45	20	20	フレイク数点出土
279	LR45	26	13	
280	LR45	46	29	
281	LR45	32	29	
282	LR45	16	18	
283	LR45	10	12	
284	LR45	26	18	
285	LR45	30	16	
286	LR45	14	12	
287	LR45	26	18	焼土粒極小微量混入
288	LR45	28	13	
289	LR45	26	19	フレイク、土器片出土
290	LR45	22	9	
292	LR46	12	5	
293	LR46	16	5	焼土粒極小微量混入
294	LR46	12	12	
295a	LR46	20	31	
295b	LR46	46	9	土器片出土
295c	LR46	28	16	
296a	LR46	40	17	b→a
296b	LR46	40	〃	焼土粒極小少量混入
297	LR46	28	23	土器片出土
298a	LR46	30	15	b→a、c→a
298b	LR46	16	12	
298c	LR46	28	25	
299	LR46	16	20	
300	LR46	22	16	
301	LR46	16	16	
302a	LR46	16	16	
302b	LR46	28	7	
303	LR46	16	9	
304	LR46	24	15	
305	LR46	16	10	
306	LR46	12	20	
307	LR44	22	11	土器片出土
308	LR44	26	18	フレイク出土
309	LR44	26	28	
310	LR44	18	2	
311	LR44	28	13	
312a	LR44	18	18	b→a
312b	LR44	14	7	
313	LR44	20	26	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
314	LR44	14	17	
315	LR44	14	13	
316	LR44	14	8	
317	LR44	26	22	
318	LR44	14	8	
319	LR45	52	18	フレイク出土
320	LR45	12	16	
321	LQ45	32	6	
322	LQ45	34	20	
323	LQ45	20	20	
324a	LQ45	24	17	土器片、小円礫出土
324b	LQ45	18	17	b→a
325a	LQ45	34	9	土器片、フレイク、小円礫出土。Bを切る。
325b	LQ45	22	18	b→a
326a	LQ45	24	15	焼土粒小微量混入
326b	LQ45	24	9	b→a
327a	LQ45	38	17	焼土粒極小微量混入
327b	LQ45	28	20	焼土粒極小微量混入
328	LQ46	20	5	小円礫、フレイク出土
329	LQ45	18	12	
330	LQ45	16	11	
331	LQ45	20	－	
332	LQ45	18	18	
333	LQ45	12	7	
334	LQ45	28	18	
335	LQ45	28	18	焼土粒微量混入
336	LQ45	20	6	
337	LQ45	16	7	
338	LQ45	14	11	
339	LQ44	14	6	
340	LP45	28	19	
341	LP45	18	9	
342	LP45	14	15	
343	LP45	24	10	
344	LP45・44	22	22	
345	LP45	14	12	出土礫
346	LP45	20	14	
347	LP45	14	13	
348	LP45	28	13	
349	LP45	16	13	
350	LP45	12	17	
351	LP45	20	18	
352	LP45	14	10	
353	LP45	34	36	
354	LP45	18	24	
355	LP45	22	20	
356	LP45	18	13	
357	LP45	18	20	
358	LP45	16	30	
359	LP45	32	8	
360	LP45	20	22	
361	LP45	18	23	
362	LP45	16	16	
363	LP45	24	13	
365	LP44	16	17	
366	LP44	18	9	
367	LP44	18	9	
368	LP44	22	20	
369	LP44	24	6	
370	LP44	14	17	焼土粒極小微量混入
371	LP44	30	16	焼土粒極小微量混入
372	LP43	18	10	
373	LP43	26	17	
374	LP43	26	7	
375	LP44	26	12	焼土粒極小微量混入
376	LP44	28	17	
377	LQ44	24	12	
378	LQ44	22	11	
379	LQ44	18	4	
380	LQ44	24	11	
381	LQ44	22	18	
382	LQ44	16	8	
383	LQ44	22	15	
384	LQ44	22	11	
385	LQ44	24	16	
386	LQ44	16	7	
387	LQ44	24	13	
388	LQ44	16	15	
389	LQ44	18	17	
390	LQ44	30	16	
391a	LO45	50	11	b→a　径(391a～b～c)
391b	LO45	50	15	径（391a～b～c）
391c	LO45	50	20	c→b径（391a～b～c）
391d	LO45	20	13	
392	LO45	40	16	
393a	LO45	50	6	径（393a～b～c）
393b	LO45	50	23	径（393a～b～c）
393c	LO45	50	21	径（393a～b～c）
394	LO45	24	22	
395	LO45	24	31	
396a	LO46	18	15	
396b	LO46	18	15	
396c	LO46	18	20	
397	LO46	14	26	
398	LO46	16	6	
399	LO46	16	7	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
400	LO46	18	19	
401	LO49	26	13	石錘、土器底部出土
402	LO49	24	24	
403	LO49	16	8	
404	LP49	34	32	
405	LO49	30	26	
406	LO49	42	20	
407	LO49	16	－	
408	LO49	22	22	
409	LO49	26	32	
410	LO49	18	18	
411	LO49	20	10	
412	LO49	28	19	
413	LO50	16	10	
415a	LO50	84	―	b→a、c→a、径（b～a～c）
415b	LO50	84	26	径（b～a～c）
415c	LO50	84	26	径（b～a～c）
416	LO50	22	20	
417	LO50	40	32	
420	LO50	22	13	
421	LO50	22	17	
422	LO50	18	6	
423	LO51	32	46	土器片出土
424	LO50	22	－	
425	LO51	24	9	
426	LN51	30	33	
427	LN52	24	31	
428	LO52	24	14	
429	LO52	20	15	
430	LO52	24	3	
431	LO52	20	12	
433	LP52	22	18	
434	LP51	18	11	
435	LP51	26	18	楕円形の扁平礫出土
436a	LP50	28	13	
436b	LP50	28	12	
437	LP50	34	14	
438	LP49・50	30	16	
439	LP50	26	15	
440	LP50	24	24	440→441
441	LP50	18	13	
442	LP50	28	19	
443	LP50	24	35	
444	LP50	22	12	
445	LP50	28	22	
447	LP49・50	34	19	
448	LP50	20	10	
449	LP50	20	9	土器片出土
450	LP50	24	27	
451	LR47	24	15	
452	LR48	52	21	焼土粒極小微量混入
453	LR47	54	47	
454	LR47	22	16	
455a	LR47	48	25	径（455ａ～ｂ）
455b	LR47	48	19	径（455ａ～ｂ）
456	LR47	54	9	
457	LR47	30	43	
458	LR47	22	23	
459	LR47	20	20	
460	LR47	28	21	
461	LR47	42	16	径（461～462）
462	LR47	42	28	径（461～462）
463	LR46	14	21	
464	LR47	24	32	
465	LR47	30	12	
466	LR47	54	15	径（466～467）
467	LR47	54	31	径（466～467）
468	LR47	16	14	
469	LR47	20	14	
470	LR47	30	40	
472	LR47	16	14	
473	LR47	14	21	
474	LR47	16	20	
475	LR47	32	11	
476	LR・LS47	22	20	
477	LR47	14	7	
478	LR47	18	22	
479	LR47	20	29	
480	LR47	20	21	
481	LR47	54	17	
482	LR・LS47	18	10	
483	LR・LS47	44	25	
484	LR・LS47	22	14	
485	LR・LS47	24	12	
486	LS47	28	9	
487	LS47	22	16	
488	LS48	16	15	
489	LS47	22	13	
490	LS47	28	10	
491	LS47	32	18	
492	LS47	12	23	
493	LS47	24	16	
494	LS47	18	19	
495	LS47	22	13	
496	LS47	48	20	
497	LS47	46	16	

第２表　柱穴様ピット一覧（２）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
498	LS47	26	29	
499	LS47	14	9	
500	LS48	12	6	
501	LS48	18	28	
502	LS48	16	11	
503	LS47	24	21	
504	LS47	12	18	
505	LS47	34	19	
506	LS47	30	13	
507	LS47	32	33	
508	LS47	30	7	
509	LS47	38	39	
510	LS47	40	18	
511	LS47	12	8	
512	LS47	20	26	
513	LS47	18	14	
514	LS47	18	22	
515	LS46	30	10	
516	LS46	26	12	
517	LS47	32	19	
518	LO47	22	10	
519	LO47	22	23	
520	LP47	18	6	
521	LO47	18	11	
522	LO47	20	12	
523	LO47	12	13	
524	LO47	16	12	
525	LO47	24	10	
526	LO47	62	15	
527	LP47	16	18	527, 528, 529は切り合うが、新旧は不明
528	LP47	32	38	
529	LP47	36	25	
530	LP47	22	15	
531	LP47	22	21	焼土粒含む
532	LP47	32	20	
533	LP47	50	32	土器片出土
534	LP47	22	19	
535	LP47	38	8	
536	LP47	32	17	
537	LP47	32	15	
538	LP47	20	8	
539	LP47	22	–	
540	LP47	30	7	
541	LP47	38	11	
542	LP47	14	6	
543	LO46	16	5	
544	LO46	14	13	
545	LO46	28	10	径（545～546）
546	LO46	28	17	土器片出土、径（545～546）
547	LO46	32	4	
548	LO46	12	7	
549	LO46	18	5	
550	LO46	18	2	
551	LO46	14	19	礫出土
552	LO46	12	5	
553	LO46	18	14	
554	LO46	20	23	
555	LO46	30	19	
556	LP46	12	–	
558	LP46	24	22	
559	LP46	32	9	
561	LP46	18	9	
563	LP48	30	23	
564a	LP48	20	24	565と切り合う
564b	LP48	24	17	
565	LP48	16	10	根固め礫出土
566	LO47	32	30	
567	LO47	38	23	568と切り合う
568	LO47	36	26	
569	LO47	30	29	
570	LO47	22	20	焼土粒含む、571→570
571	LO47	26	22	
572	LO48	62	13	径（572～573）
573	LO48	62	9	径（572～573）
574	LO48	70	9	
575	LO48	22	17	
576	LO48	20	20	
577	LP48	20	24	
578	LP48	24	10	
579	LP48	20	17	
580	LP48	26	23	
581	LP48	16	11	
582	LP48	22	34	
583	LP48	18	7	
584	LP48	22	27	
585a	LP48	20	26	
585b	LP48	22	25	
586	LP48	24	20	
587	LP48	26	37	
588	LP48	16	22	
589	LS46	18	16	
590	LS46	28	8	
591	LS45	22	25	
592	LS45	34	29	
593	LS45	28	9	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
594	LS45	34	22	
595	LS45	12	6	
596	LS45	12	7	
597	LS45	22	11	
598	LS45	16	11	
599	LS45	18	10	
600	LS45	28	9	
601	LS45	36	19	
602	LS45	28	28	
603	LS45	42	36	
604	LS45	26	13	
605	LS45	12	19	
606	LS45	24	6	
607	LS45	12	9	
608	LS45	16	18	
609	LS45	16	13	
610	LS45		17	
611	LS45	16	22	
612	LS45	26	21	
613	LS45	38	37	
614	LS45	24	13	
615	LS44	20	35	
616	LS44	24	9	
617	LS45	20	22	
618	LS45	32	18	
619	LS45	12	10	
620	LS45	18	15	
621	LS45	14	16	
622	LS45	22	17	
623	LS45	26	27	
624	LT45	30	20	
625	LT45	24	14	
626	LT45	24	22	
629	LT46	16	10	
630	LT45・46	22	17	
631	LT45・46	22	25	
632	LT46	18	16	
633	LT45	42	16	
634	LT45	24	14	
635	LS45	42	23	
636	LT45	18	12	
637	LT45	28	8	
638	LT45	16	17	
639	LT45	32	13	
640	MA・LT45	42	21	
641	LT45	52	19	
642	LT45	34	14	径（642～643）
643	LT45	34	9	径（642～643）
644	LT45	20	10	
645	LT45	20	13	
646	LT45	16	12	
647	LT45	22	36	
648	LT45	40	20	径（648～649）
649	LT45	40	14	土器片出土、径（648～649）
650	LT45	32	19	土器片、円礫出土
651	LS45	20	19	
652	LT45	26	6	
653	LT45	18	11	
654	LT45	32	16	
655	LT45	22	11	
657	LT45	24	12	
658	LT45	26	30	
659	LT44・45	26	13	
660	LS45	24	10	
661	LS44	20	7	
672	LT45	24	14	
673	LT45	26	11	
674	LT45	28	11	
675	LT45	20	19	
676	LS44	30	33	
678	LS44	32	37	
679	LS44	20	28	
681	LS44	14	13	
682	LS44	22	10	
683	LS44	22	25	焼土粒小微量混入
684a	LS44	22	37	
684b	LS44	14	21	
685	LS44	20	12	
686	LR44	24	17	
687	LR44	46	21	
689	LR44	23	15	
690	LR44	28	29	
691	LQ43	30	21	
692	LQ43	16	14	
693	LQ44	44	35	
694	LQ43	16	14	
696	LR43	26	19	
697	LR43	24	26	
698	LR43	16	12	
699	LR43	14	12	
700	LR43	18	12	
701	MA44	22	6	焼土塊混入、土器片出土
702	MA44	22	8	土器片、フレイク出土　柱痕あり
703	MA44	26	7	
704	MA44	28	29	焼土粒極小微量混入

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
705	MB44	38	23	焼土粒小少量・白色粘土塊少量混入
706	MA44	30	6	土器片出土
707	MB44	34	11	
709	MB44	92		
711	MB44	20	11	焼土粒少量混入、土器片・石器遺構底部より出土
713	MB44	22	12	焼土粒極小少量混入、フレーク出土
715	MB44	14	16	
716	MB44	28	11	土器片出土
717	MB45	18	12	フレーク出土
718	MB45	20	11	土器片出土
720	MB45	50	14	木根による攪乱あり、土器片出土
721	MB45	34	37	焼土粒極小微量混入
722	MB44	20	11	土器片出土
724	MB44	18	6	焼土粒極小少量混入、フレーク出土
725	MA43	18	14	
726	MB44	14	10	
727	MB44	20	7	
730	MB44	34	20	焼土極小からやや大多量混入
733	MB44・45	36	–	焼土粒極小微量混入
734	MB44	14	51	焼土粒極小少量混入、土器片混入
735	MB44	14	9	
736	MB44	10	10	
737	MB44	46	44	焼土粒極小微量混入
739	MB44	24	16	焼土粒極小微量混入
741	MB44	22	9	
743	MB44	10	29	
744	MB44	14	15	土器片出土、1123→744
746	MB43・44	27	22	
748	MC43	22	17	
750	MA44	38	12	
753	MA44	26	19	
754	MA44	22	14	
755	MA44	24	25	土器片出土
756	MA44	18	10	
757	MA44	20	15	土器片、フレーク出土
758	MA45	16	10	
759	MA45	40	35	土器片出土
760	MA45	20	20	
761	MA45	22	29	土器片、石器出土
763	MA・MB44	28	11	
764	MA43	32	14	
765	MA・MB43	14	14	
766	MA43	12	6	土器片出土
767	MA・MB43	20	9	
768	MB43	20	15	
769	MB43	36	11	
770	MB43	20	21	
771	MB43	10	5	
773	MA43	26	7	
774	MA43	24	8	土器片出土
776	MA43		27	土器片出土
777	MA43	14	3	
779	MA43	20	24	
780	MA43	14	9	
781	MA・MB43	26	15	土器片出土
782	MB43	16	6	土器片出土
783	MB43	42	7	
785	MB43	28	11	
786	MB43	44	31	焼土極小やや多量混入、柱痕あり
787	MB43	16	9	
788	MB43	18	10	
789	MA・MB43	26	15	
790	MB43	14	8	
791	MB43	24	9	
792	MB43	16	8	
793a	MB43	28	12	b→a
793b	MB43	18	12	
794	MB43	30	8	
795	MB43	24	6	
796	MB43	18	9	焼土粒極小微量混入
797	MB43	22	9	焼土極小少量混入、焼土は遺構南西部分に集中
798	MA43	22	12	
799	MB43	16	5	
800	MB43	14	4	
801	MB43	22	13	
802	MB43	14	9	
804a	MB43	46	11	焼土粒少量混入径（804ａ～b）
804b	MB43	46	9	b→a　径(804ａ～b)
806	MB43	38	7	径（806～807）
807	MB43	38	3	径（806～807）
808	MB43	16	4	
809	MB43	34	9	
811	MB43	15	4	
813	MC43	16	13	
815	MC44	26	11	焼土粒極小微量混入、フレーク出土
816	MC44	20	14	焼土粒極小少量混入
817	MC44	12	9	フレーク出土

第３表　柱穴様ピット一覧（３）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
818	MC44	14	4	焼土粒極小微量混入、フレーク出土
819	MC44	48	55	
820	MC44	14	12	焼土粒微量混入、フレーク出土
821	MC44	20	12	
823	MC44	7	16	
824	MC44	24	12	
825	MC44	20	15	土器片出土
826	MC44	34	29	焼土粒極小微量混入、土器片出土
827	MC44	14	8	
828	MC44	20	3	焼土粒極小微量混入
829	MC44	20	9	焼土粒極小少量混入
830	MC44	22	28	焼土極小少量混入、柱痕跡
831	MC44	18	10	
832	MC44	50	40	層下部に焼土多量に混入
833	MC44	22	20	
834	MC44	28	16	焼土粒やや多量混入、土器片出土
837	MC44	16	13	
839	MC44	18	16	
840	MC43	28	21	焼土粒極小微量混入
841	MC43	12	8	
842	MC43	18	8	
843	MC43	34	10	
844	MC43	12	7	焼土粒極小微量混入
845	MC43	26	7	
846	MC43	18	9	土器片出土
847	MC43	16	14	
850	MB43	24	9	
851	MB43	22	10	
852	MB43	28	7	
856	MB43	18	8	
858	MB42	16	6	
859	MC42	18	11	
860	MC42	18	8	
861	MB43	20	8	土器片出土
862	MB42	14	9	
863	MB42	28	38	
864	MB42	18	8	
865	MB42	18	6	
866	MB42	40	14	土器片出土
867	MB42	18	13	
868	MB42	28	－	
870	MB42	34	10	
871	MB42	18	9	
872	MB42	20	9	土器片出土
873	MB・MC42	32	10	
874	MC42	34	10	焼土極小やや多量混入
875	MC42	16	4	
876	MC42	44	－	
877	MC42	64	15	焼土粒極小少量混入
878	MC43	28	27	
879	MC42	28	10	
880	MC42	28	4	焼土粒極小微量混入
881	MC42	20	10	
882	MC42	30	6	焼土ブロックやや多量混入
883	MC42	20	6	
884	MC42	36	5	
885	MC42	22	8	
886	MC43	12	10	底面付近に焼土集中
888	MC43	26	13	焼土極小微量混入、土器片出土
891	MC43	28	11	焼土粒極小少量混入、土器片出土
892	MC43	26	24	
893	MC43	44	34	
895	MC43	20	15	
896	MC43	24	9	土器片・フレーク出土
897	MC43	18	4	
898	MC43	24	12	
899	MA43	28	15	焼土粒極小微量混入
900	MA43	18	9	
901	MC43	18	10	
902	MC43	14	8	土器片出土
903	MC43	20	12	
904	MD43	18	6	焼土粒やや大微量混入
906	MC42	46	13	フレーク出土
908	MC42	14	2	土器片出土
909	MC42	24	3	白色粘土ブロック状少量混入、土器片出土
910	MD42	16	13	フレーク出土
911	MC42	22	9	土器片出土
912	MC42	26	6	
913	MD42	18	8	
914	MC44	18	11	
916	MC44	28	21	焼土粒極小微量混入
917	MC44	22	9	
918	MC44	32	33	中央部に土器片出土
919	MC44	30	13	焼土粒極小微量混入、フレーク・土器片出土
920	MC44	20	16	
921	MC44	18	21	焼土極小少量混入
922	MC44	26	14	焼土粒極量微量混入
923	MC44	18	12	焼土粒極量微量混入

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
924	MC45	20	6	焼土粒極量微量混入
925	MC45	30	21	焼土粒極量微量混入
926	MC44	20	20	
927	MC44	20	13	中央部に撹乱あり
928	MC44	18	22	
929	MC44	14	10	
930	MD44	22	9	土器片出土
931	MD45	16	8	
932	MD45	12	5	
933	MD45	18	8	
935	MD44	16	1	
936	MD44	30	23	焼土粒極小微量混入、土器片出土
937	MD44	18	18	
938	MD44	24	21	焼土小少量混入、土器片多量出土
939	MD44	30	24	土器片出土
940	MD44	42	14	
941	MC44	20	17	
942	MD44	28	8	
943	MD44	20	22	土器片出土
944a	MD44	30	19	
944b	MD44	16	20	
945	MD44	24	8	
946	MD44	18	20	
947	MD44	30	19	土器片出土
948	MD44	16	9	土器片出土
949	MD44	10	6	土器片出土
950	MD44	18	10	
951	MD44	18	14	土器片出土
952	MD43・44	20	11	
953	MD43	18	11	焼土粒極小少量混入、フレーク出土
954a	MD43	20	5	土器片出土
954b	MD43	14	―	
955	MD43	16	10	
956	MD43	16	8	
958	MD43	20	4	
959	MD43	22	7	
960	MD43	18	5	
962	MD43	20	9	
964	MD・ME43	18	10	
965	MD43	18	13	
966	MD43	24	21	
967	MD43	14	5	
968	MD43	18	10	
969	MD43	22	10	
970	MD43	14	17	焼土粒極小微量混入
971	MD44	16	9	土器片出土
974	MD43・44	46	18	
975	ME・MD44	20	16	
977	MD44	14	7	
978	MD44	16	9	
980	MD44	34	16	
981	MD44	20	4	
982	MD44	9	7	
983	MD44	46	12	
984	MD44	20	10	
985	MD44	16	－	
987	MD45	16	5	
988	MD45	20	10.3	
989	MD45	20	9	
990	MD45	10	23	
991	MD45	26	4	
992	MD45	16	8	
993	MD45	18	7	
994	MD45	16	6	
995	MD44	22	16	
996	MD44	22	14	
997	MD44	28	12	
998	MD45	32	31	
999	MD44・45	30	22	
1000	MD44	20	14	
1001	MD44	20	7	
1002	MD44	24	13	
1003	ME44	26	16	
1004	MD44	14	20	
1005	MD・ME44	14	7	
1007	MD44	10	10	
1008	ME44	28	5	
1009	MD43	26	12	
1011	ME43	28	10	
1012	ME43	20	7	
1013	ME43	20	10	
1014	ME43	40	18	
1015	ME43	20	7	
1016	ME43	20	4	
1017	ME43	20	5	
1018	ME44	30	8	
1019	ME44	22	17	
1020	ME44	28	5	
1022	ME44	20	5	
1024	ME44	16	3	
1026	ME44	14	6	
1027	ME44	14	16	
1029	ME45	18	12	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1030	ME45	20	14	
1031	ME45	18	6	
1032	ME45	40	20	
1033	ME45	28	21	
1034	ME45	30	20	
1035	ME45	20	17	
1036	ME・MD45	24	10	
1037	MD45	14	15	
1038	MD45	18	11	
1039	ME45	24	12	
1040	ME45	26	16	
1041	ME45	30	12	
1042	ME45	26	16	
1043	ME45	20	10	
1044	ME45	26	16	
1046	ME44	20	7	
1048	ME44	20	12	
1049	ME44	30	19	
1050	ME44	26	6	
1051	ME44	16	9	
1052	ME44	14	6	
1053	ME44	16	7	
1054	ME44	22	18	
1055	ME44	26	4	
1057	ME44	12	5	
1058	ME43・44	18	11	
1059	ME43	24	5	
1060	ME43・44	24	8	
1062	ME44	18	6	
1063	ME44	36	11	
1064	ME44	16	7	
1065	ME44	30	8	
1066	ME45	14	12	
1067	ME45	16	13	
1068	ME45	18	－	
1069	ME45	52	14	
1070	ME45	30	18	
1071	ME45	28	5	
1072	ME45	22	11	
1073	ME45	30	15	
1074	ME45	28	20	
1075	ME45	24	7	
1076	ME45	24	20	
1077	ME45	20	8	
1078	ME44	10	7	
1079	ME44	26	8	
1080	ME44	30	17	
1081	ME・MD45	42	31	
1082	ME45	14	11	
1083	ME45	18	11	
1085	ME45	18	9	
1086	ME44	50	16	
1087	ME44	30	19	
1088	ME44	24	13	
1089	ME・MF44	18	10	
1090	MF44	18	6	
1092	MF44	26	22	
1093	MF44	16	26	
1094	MF44	8	12	
1095	ME44	22	15	
1096	ME44	24	11	
1098	ME44	20	21	
1099	MF44	20	24	
1100	ME44	20	22	
1101	MF44	16	10	
1102	ME44	16	7	
1104	MF45	24	8	
1105	ME45	22	18	
1106	ME45・46	60	19	1154、1174と直線上
1107	ME45	18	8	
1108	ME45	16	5	
1109	ME45	20	4	
1114	ME43	22	8	
1115	ME43	18	11	
1116	ME43	26	9	
1119	MD43	18	15	
1120	MD43	20	21	
1127	ME46	20	7	
1128	ME46	14	19	
1129	ME46	16	16	
1130	ME45	16	8	
1131	ME46	20	21	
1132	ME46	10	13	
1133	ME46	24	11	
1134	ME46	24	12	
1135	ME46	14	17	
1136	ME46	28	6	
1137	ME46	16	11	
1138	ME46	24	25	焼土粒極小少量混入
1139	ME46	16	8	
1140	ME46	18	10	
1141	ME46	18	10	
1142	ME46	14	10	
1144	ME46	30	12	
1145	ME46	20	6	
1146	ME46	16	14	

第４表　柱穴様ピット一覧（４）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1147	ME46	14	11	
1148	ME46	16	7	
1149	ME46	28	15	
1150	ME45	20	6	中央部に木根あり。
1152	ME46	16	6	
1153	ME45	18	14	
1154	MD45	50	18	1106と1174と直線上
1155	ME・MD46	28	13	ブロック極小微量混入
1156	ME46	16	18	
1157	ME・MD46	28	7	
1158	MD46	20	13	
1159	MD46	20	8	
1160	MD46	22	5	
1161	MD46	8	5	
1162①	MD46	14	5	
1163	MD46	20	10	
1164	MD46	26	7.8	
1165	MD46	28	8	
1166a	MD46	24	7.3	
1166b	MD46	〃	7	
1167a	MD46	20	15	
1167b	MD46	24	13	a→b
1168	MD46	30	14	
1169	MD46	16	5	
1170	MD46	16	5	
1171	MD46	18	15	
1172	MD46	26	7	
1173	MD46	18	17	
1174	MD45	58	17	1106と1154と直線上
1175	MD46	20	7	焼土ブロック状小微量混入
1176	MD46	18	6	
1177	MC46	28	9	
1178	MC46	18	12	1179→1178
1179	MC46	14	17	
1180	MC46	30	15	
1181	MC46	12	21	礫混入
1182	MC46	18	13	
1183	MC46	20	14	
1184	MC46	22	5	
1185	MC46	20	6	
1186	MC46	26	8	
1188	MC46	28	16	
1189	MC46	20	16	
1190	MC46	24	2	
1192	MC46	14	7	
1193	MC46	16	13	
1194	MC46	18	10	
1195a	MC45・46	26	3	土器片出土
1195b	MC45・46	26	5	
1196	MC45	18	3	
1197	MC45	20	9	
1198	MC45	32	13	フレーク出土
1199	MC45	24	15	焼土粒極小微量混入
1200a	MC46	44	14	焼土粒極小微量混入
1200b	MC46	44	〃	
1201	MC46	28	19	焼土粒極小微量混入
1202	MC46	16	11	
1203	MC46	30	16	
1204	MC46	16	15	
1205	MC46	20	13	
1206	MC46	16	21	焼土極小微量混入
1207	MC46	22	21	焼土粒小微量混入、土器・フレーク出土。1206→1207
1208	MC46	18	8	
1209	MC46	18	15	
1210	MB46	30	12	
1211	MB46	22	11	
1212	MB46	18	13	フレーク出土
1213a	MB46	22	13	
1213b	MB46	22	〃	
1214	MC45	16	24	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1215	MB46	22	9	
1216	MC45	30	11	
1217	MC45	16	18	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1218	MC45	38	41	焼土ブロック状小微量混入
1219	MB45	20	7	
1220	MB45	24	14	
1221	MB45	28	9	焼土ブロックやや大微量混入、土器片・フレーク出土
1222	MB45	28	23	土器片混入
1223	MB46	24	17	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1224	MB46	26	23	土器片出土
1225	MB46	16	17	
1226	MB46	36	20	焼土ブロック極小微量混入、土器片出土
1227	MB46	20	16	土器片出土
1228	MB46	26	13	
1229	MB46	20	23	土器片出土
1230	MB46	20	8	土器片出土
1231	MB46	30	1	土器片出土
1232	MB45	32	9	土器片出土
1233	MB45	24	17	
1234	MB45	34	23	土器片出土
1235	MD45	26	13	焼土粒極小微量混入、フレーク出土
1236	MB45	22	9	
1237	MB45	20	3	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1238	MA45	30	17	土器片・フレーク多量出土
1239	MD45	28	24	
1240	MD45	16	11	
1241	MD45	30	18	
1242	MC45	60	24	焼土ブロック極小微量混入、土器片出土
1243	MD45	18	6	
1244	MC45	22	24	
1245	MD42	14	－	
1246	MD42	18	－	
1250	MD45	20	－	土器片・フレーク出土
1251	MD45	18	－	
1253	MD45	24	－	
1258	MD45	22	－	焼土小少量混入、土器片出土
1259	MD45	16	－	
1261	ME42	36	－	
1262	MD42	18	－	
1263	MD42	20	－	
1264	MD42	18	－	
1265	MD42	38	－	土器片出土
1267	MD42・43	22	―	
1269	ME42	24	―	
1270	ME42	18	―	
1271	MD・ME42	32	－	
1272a	MD42	34	－	b→a
1272b	MD42	34	―	フレーク出土
1273	ME42	12	－	
1274	ME42	20	－	
1275	ME42	16	－	
1276	ME42	30	－	
1277	ME42	24	－	
1278	ME42	26	－	焼土小少量混入
1279	ME42	20	－	
1280	ME42	20	－	
1282	ME42	30	－	
1283	ME42	12	－	
1285	ME42	16	－	
1286	ME42	32	－	
1287a	ME42	26	－	a→b
1287b	ME42	26	―	
1290	ME42	18	－	
1291	ME42	14	－	
1292	MF42	28	10	
1293	MF42	18	13	
1295	MF42	22	6	
1296	MF42	28	10	
1297	MF42	18	6	
1298	MF42	18	15	
1299	MF42	26	17	土器片混入
1301	MF42	24	8	
1302	MF43	22	12	
1306	MF43	18	26	
1307	MF43	20	8	
1308	MF43	18	6	
1310	MF44	18	10	
1311	MF43	18	9	
1312	MF43	28	5	
1313	MF43	14	10	土器片出土
1314	MG43	60	21	
1315	MG43	26	15	
1316	MG43	22	16	
1318	MG43	20	5	
1319	MG43	28	9	
1320	MG43	24	10	
1321a	MG43	34	10	b→a
1321b	MG43	34	〃	土器片出土
1322	MG43	26	18	
1323	MG43	20	12	
1324	MG42	18	7	
1325	MH42	16	11	
1326	MH42	20	9	
1327	MH42	20	12	
1328	MH42	26	5	
1331	MH42	20	7	
1332	MG43	22	25	
1333	MG43	26	11	
1334	MG43	26	19	
1335	MG43・44	36	32	
1336	MH44	26	17	
1337	MG44	18	9	
1338	MG44	36	26	土器片出土、焼土ブロック極小微量混入
1339	MH44	26	20	
1340	MH44	28	18	土器片出土
1341	MH44	22	17	焼土ブロック小少量混入
1342	MG・MH44	30	31	焼土ブロック極小微量混入、土器片・フレーク出土
1344	MG44	18	6	
1345	MH44	18	9	
1346	MH44	20	17	
1347	MH44	20	14	
1348	MH44	18	8	土器片出土
1350	MH45	20	18	土器片混入
1351	MH45	28	14	焼土ブロック小少量混入
1352	MH45	20	10	
1353	MH45	24	11	土器片出土

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1355	MH44	24	9	土器片出土
1356	MH44	26	18	土器片出土
1359	MH44	24	22	
1360	MH44	30	32	焼土ブロック極小微量混入、土器片混入
1362	MG44	40	－	
1365	MH44	20	8	焼土ブロック極小少量混入
1366	MH44	32	17	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1368	MH43	22	9	
1369	MH43	20	12	焼土極小微量混入
1370	MH43	36	35	土器出土。
1371	MH44	28	20	焼土ブロック小やや多量混入、覆土は被熱によって赤みをおびる
1372	MH44	28	10	土器片出土
1373	MH44	20	7	土器片出土
1374	MH44	20	9	
1375	MH44	50	21	フレーク出土、焼土極小少量混入
1376	MH44	20	8	
1377	MH44	30	14	
1378	MH44	26	18	
1379	MH44	36	14	焼土小少量混入
1380	MH44	24	19	
1381	MH44	22	27	土器片出土
1382	MH45	28	11	焼土ブロック状小やや多量混入
1383	MH45	16	7	土器片出土
1384	MH45	18	6	土器片出土
1385	MH45	14	5	
1386	MH45	22	12	
1388	MH45	20	9	
1389	MH45	30	35	焼土ブロック状やや大少量混入
1390	MH45	24	13	焼土ブロック状極小微量混入、土器片出土
1391	MH45	26	12	焼土ブロック極小微量混入、土器片出土
1392	MH45	30	17	焼土ブロック極小微量混入
1393	MH45	18	19	
1395	MH45	20	8	土器片出土
1398	MH45	20	19	
1399	MH45	16	4	
1401	MH45	16	12	
1402	MH45	30	11	
1403	MH44	20	4	
1405	MH44	16	8	土器片出土
1407	MH44	26	26	土器片出土
1408	MH44	40	－	土器片出土
1409	MH44	24	17	焼土粒極小微量混入
1410	MH43	22	17	焼土粒極小微量混入
1411	MH43	16	9	
1412	MH43	24	12	
1413	MH43	22	9	
1414	MH43	30	21	
1415	MI42	30	15	
1416	MI42	30	10	
1417	MI43	20	8	
1418	MI43	40	7	
1421	MH45	28	13	
1423	MH45	30	10	
1424	MH45	20	20	
1425	MI45	26	14	
1426	MI45	20	16	
1427	MI45	24	26	土器片出土
1428	MH45	22	12	土器片出土
1429	MG44	22	31	土器片・礫出土
1431①	MG44	36	11	土器片出土
1432①	MG・MH44	28	31	
1433	MG44	20	9	
1434	MG44	20	－	土器片出土
1435	MG44	20	12	焼土粒極小少量混入、土器片出土
1436	MG45	18	11	焼土粒極小微量混入
1437	MG45	30	27	土器片出土
1438	MG45	18	8	
1439	MG45	30	12	土器片出土
1440	MG45	24	12	土器片出土
1441	MG45	30	36	
1442	MG45	20	12	
1443	MG45	50	19	焼土ブロック極小微量混入、土器片出土
1444	MG45	20	10	土器片出土
1445	MG45	16	7	
1446	MG45	46	12	土器片出土
1448	MG45	24	10	土器片出土
1450	MG44	12	7	
1452	MG45	18	10	
1455	MG44	16	14	
1456	MG44	20	16	
1457	MG45	28	17	土器片出土
1458	MG45	18	10	
1459	MG45	18	16	
1460	MG45	18	16	
1461	MG44	40	19	土器片出土
1462a	MG・MF45	98	39	土器片出土、a→b
1462b	MG・MF45	98	〃	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1462c	MG・MF45	98	〃	焼土ブロック小少量混入、土器片・フレーク出土、a→c
1463	MG45	10	11	土器片出土
1464	MG45	28	15	土器片出土

第５表　柱穴様ピット一覧（５）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1465	MG45	26	15	土器片出土
1467	MG44	20	11	
1468	MG44	36	11	土器片出土
1469	MG44	20	16	土器片出土
1471	MG45	24	25	焼土ブロック極小少量混入、土器片出土
1472	MF45	20	9	
1474	MF44	20	16	
1476	MF44	18	6	
1477	MF45	22	4	
1478	MF44	50	13	土器片・フレーク出土
1479	MF45	20	9	
1481	MF44	28	16	
1482	MF44	22	10	
1483	MF44	24	8	
1485	MF44	34	7	
1486	MF44	20	23	土器片出土
1487	MF44	26	9	土器片出土
1489	MF44	18	26	
1490	MF44	24	10	
1491	MF45	26	13	
1493	MF45	26	21	焼土ブロック極小微量混入
1494	MF44	24	11	
1495	MF44	20	21	
1496	MF44	14	11	
1497	MF44	22	23	
1499	MF44	18	8	
1501	LR51	42	12	
1502	LR51	30	44	
1503	LR51・52	38	14	
1504	LR52	24	19	
1505	LR52	40	19	
1506	LR52	28	17	フレーク出土
1507	LR52	44	42	焼土極小少量混入
1508	LR52	54	17	
1509	LR52	22	9	
1510	LR53	34	18	土器片、フレーク出土
1511	LR53	28	23	
1512	LR53	26	9	
1513	LR52	22	17	
1514	LR52	28	8	
1515	LR52	30	35	
1516	LR52	50	34	
1517	LQ52	42	11	焼土極小微量混入
1518	LQ52	22	13	
1519	LQ52	18	18	
1520	LQ52	20	28	
1521	LQ52	30	16	焼土極小少量混入
1522	LQ52	22	13	
1523	LQ51	32	25	
1524	LQ52	24	19	
1525	LQ52	38	26	
1526	LQ52	48	4	
1527	LQ52	22	28	
1528	LQ52	22	19	
1529	LQ53	52	29	
1530	LQ53	40	11	
1531	LQ53	46	23	
1532	LQ53	34	22	
1533	LQ52	28	20	焼土極小少量混入
1534	LQ52	18	10	柱抜痕可能性強い
1535	LR52	28	6	
1536	LR54	14	12	
1537	LR54	20	24	
1540	LR54	50	22	
1541	LR54	40	26	焼土粒極小微量混入
1542	LQ54	24	14	
1543	LQ54	40	17	
1544	LS52	22	12	
1545	LS52	38	23	
1546	LS52	20	35	
1547	LS52	34	9	土器片出土
1548	LS52	22	18	土器片出土
1549	LS52	22	14	
1550	LS52	32	15	焼土粒極小微量混入、土器片出土
1551	LS52	22	18	不整形
1552	LS52	20	14	焼土小少量混入
1553	LS52	24	5	
1554	LS52	18	19	
1555	LS52	18	16	焼土粒極小微量混入
1556	LS52	22	14	
1557	LS52	32	20	焼土粒極小微量混入
1558	LS52	20	17	
1559	LS52	20	16	
1560	LS52	22	20	
1561	LT53	26	11	焼土極小微量混入
1562	LT53	32	21	焼土極小少量混入
1563	LT53	34	16	焼土極小少量混入、土器片出土
1564	LT53	34	6	焼土粒極小やや多量混入
1566	LT53	20	10	
1567	LT53	26	10	焼土粒小少量混入
1568	LT53	24	11	
1569	LT53	18	5	
1570	LT52・53	20	15	
1571	LT53	18	21	
1572	LT53	18	13	
1573	LT53	26	20	
1574	LT53	24	12	
1575	LT53	22	12	
1576	LS53	18	7	
1577	LS53	24	16	
1578	LS53	20	9	
1579	LS53	24	24	
1580	LS53	42	14	
1581	LS53	22	11	
1582	LS53	16	11	
1583	LS53	22	8	
1584	LS53	24	6	
1585	LS53	22	11	
1586	LS54	24	5	
1587	LS53	22	10	石器出土
1588	LS53	22	16	
1589	LS53	18	21	
1590	LS53	26	17	
1591	LS53	18	15	
1592	LS53	16	14	
1593	LS53	26	12	1593→1594
1594	LS53	28	12	
1595	LS53	78	15	1596→1595
1596	LS53	78	17	1597→1596→1595
1597	LS53	78	12	1597→1596→1595
1598	LS54	20	6	
1599	LS54	16	27	
1600	LS54	26	20	
1601	LS54	30	8	
1602	LS54	34	7	焼土極小微量混入
1603	LS54	20	17	
1604	LT53	32	12	
1605	LT53	16	11	
1606	LS53	12	13	
1607	LT53	22	13	
1608	LT53	28	8	
1609	LS53	16	7	
1610	LT53	22	16	
1611	LT53	22	10	
1612	LT53	18	10	
1613	LT53	22	30	1613→1614、柱の建て替えの可能性
1614	LT53	14	12	
1615	LT53	16	12	
1616	LT53	16	11	焼土極小微量混入
1617	LT53	22	24	
1618	LT53	22	9	
1619	LT53	30	8	
1620	LT53	18	17	
1621	LT53	20	11	焼土極小微量混入
1622	LT53	12	20	
1623	LT53	14	11	
1624	LT53	22	5	
1625	LT53	30	36	
1627	LT53	22	14	焼土極小多量混入、周囲にも焼土粒あり
1628	LT53	24	9	
1629	LT53	22	33	
1630	LT53	20	10	
1631	LT53	18	17	
1632	LT53	18	27	礫出土
1633	LT53	28	27	焼土極小少量混入
1634	LT53	34	35	
1635	LT53	16	15	土器片出土
1636	MA53	20	13	
1637	LT53	18	37	1638→1637
1638	LT53	36	30	焼土小少量混入、土器片出土
1639	LT54	30	14	
1640	LT54	40	14	
1641	LT54	28	32	
1642	LT54	36	8	
1643	LT54	22	10	
1644	LT54	34	11	
1645	LT54	24	11	
1646	LT54	20	12	
1647	LT54	30	16	
1648	LT54	28	12	石錘出土、底部まで炭化物が多く出土
1651	LT51	20	9	
1652	LS51	24	18	
1653	LT51	18	17	
1654	LT51	16	10	
1655	LT51	28	12	
1656	LT51	20	15	
1657	LS51	26	25	
1658	LT51	24	34	
1659	LT51	28	7	
1660	LT51	18	21	
1661	LT51	18	6	
1662	LT51	22	14	
1663	LT51	20	14	焼土極小微量混入
1664	LT51	20	4	焼土極小微量混入
1665	LT51	30	7	焼土極小微量混入
1666	LT51	18	8	焼土極小微量混入
1667	LT51	22	8	焼土極小微量混入
1668	LT51	20	11	1668→1669
1669	LT51	24	18	
1670	LT51	36	12	焼土やや多量混入
1671	LT51	34	3	土器片出土、北西側に粘土状（径10cm）の円が確認面で検出
1672	LT51	20	9	
1673	LT51	28	22	
1674	LT51	16	16	
1675	LT51	40	27	土器片、フレーク出土。柱当たりあり
1676	LT51	18	22	
1677	LT51	22	6	焼土極小微量混入
1678	MA51	20	15	
1679	LT51	20	7	焼土極小微量混入
1680	LT51	22	6	
1681	LT51	26	9	
1682	LQ51	30	24	
1683	LQ51	22	12	
1684	LQ51	28	51	
1685	LQ51	32	24	
1686	LQ51	28	10	
1687	LR51	34	20	
1688	LQ51	28	23	
1689	LQ51	28	34	
1690	LQ50	22	11	
1691	LS53	24	18	検出面で石錘出土、焼土極小微量混入
1692	LQ50	22	23	焼土極小少量混入
1693	LQ50	14	3	
1694	LQ50	56	25	
1695	LQ50	68	27	
1697	LQ50	26	30	
1698	LR50	28	37	
1699	LR50	40	56	焼土小やや多量混入
1700	LR50	30	40	
1702	LR50	30	14	
1703	LR50	40	43	土器・１８cm大の礫・炭化物出土
1704	LR50	32	26	
1705	LR50	20	16	
1706	LR50	30	26	
1707	LR50	30	30	土器片出土
1708	LR49	30	50	炭化物少量出土
1709	LR50	60	39	
1710	LR50	34	29	
1711	LR50	30	30	
1712	LR50	40	17	
1713	LS50	42	18	
1714	LS50	50	36	
1715	LT50	24	19	土器片出土
1716	LT50	24	22	
1717	LT50	28	18	
1718	LT50	40	12	土器片・礫出土
1719	LQ51	26	19	焼土極小微量混入
1720	LT50	24	13	
1721	LT50	24	13	
1722	LT50	30	14	
1724	LP49	54	19	1725→1724
1725	LP49	32	25	
1726	LP49	66	28	
1728	LP49	32	22	
1729	LP49	26	27	
1730	LP49	24	34	
1731	LP49	22	26	
1732	LP49	18	26	
1733	LP49	26	11	
1734	LP49	20	14	
1735	LP49	24	29	検出面で礫出土
1736	LP49	34	27	
1737	LP49	48	28	
1739	LP49	30	24	
1740	LP49	26	23	
1741	LP49	26	21	
1743	LQ49	28	17	フレーク（検出面）出土
1744	LQ49	34	17	
1745	LQ49	24	21	
1746	LQ49	28	9	焼土小少量混入
1747	LQ49	42	17	
1748	LQ49	32	24	
1749	LQ49	20	15	
1750	LQ49	30	28	
1751	LQ49	20	9	
1752	LQ49	50	11	
1753	LQ49	26	22	
1754	LQ49	18	17	
1755	LQ49	44	29	
1756	LQ49	30	16	
1757	LQ49	22	14	
1758	LR49	26	28	
1759	LR50	40	32	
1760	LR49	40	33	
1761	LR49	26	18	
1763	LR49	26	18	焼土極小微量混入
1764	LR49	18	25	焼土極小微量混入
1765	LR49	28	12	
1766	LR49	24	22	
1767	LR49	58	25	1767→1768
1768	LR49	58	12	径（1767～1768）

第６表　柱穴様ピット一覧（６）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
1769	LR49	34	56	土器片出土
1770	LS49	24	29	
1771	LS49	28	31	
1772	LS49	24	9	
1773	LS49	22	17	
1774	LS49	36	26	土器片出土
1775	LS49	20	20	
1776	LS49	22	13	
1777	LS49	26	18	
1778	LS49	28	6	２つの小ピットの重複の可能性
1779	LS49	22	15	
1780	LS49	20	15	
1781	LS49	30	20	
1782	LS49	22	10	
1783	LS49	26	21	
1784	LS49	26	16	
1785	LS49	18	8	
1786	LS49	20	11	
1787	LS49	28	19	
1788	LS49	20	13	土器片出土
1789	LS49	24	16	
1790	LS49	18	18	
1791	LS49	18	23	
1792	LS49	32	19	
1793	LS49	18	14	
1794	LS49	22	13	
1795	LS49	22	11	
1796	LS49	20	14	
1797	LT49	38	17	
1798	LT49	24	17	
1799	LT49	30	8	
1800	LT49	24	11	
1802	LT49	20	18	
1803	LT49	18	20	
1804	LT49	14	9	
1805	LT49	16	10	
1806	LT49	18	12	
1807	LT49	36	23	
1808	LT49	14	8	
1809	LT49	18	14	
1810	LT49	36	22	
1811	LT49	26	24	
1812	LT49	18	14	
1813	LT・MA49	22	8	土器片出土
1814	LT49	24	26	焼土極小少量混入
1815	LT49	24	11	土器片出土
1816	LT・MA49	20	4	
1817	LT49	56	13	石器出土
1818	LT49	22	10	
1819	LT49	22	14	
1820	LT・MA49	28	23	
1821	LT・MA49	26	15	
1822	LT・MA49	44	29	
1824	LQ48	16	7	
1825	LQ48	16	8	
1826	LQ48	28	23	
1827	LQ48	24	16	
1828	LQ48	20	21	土器片出土
1829	LQ48	20	14	
1830	LQ48	22	31	
1831	LQ48	18	18	
1832	LQ48	38	30	
1833	LQ48	22	29	
1834	LQ48	34	25	
1835	LQ48	24	23	
1836	LQ48	20	12	
1837	LQ48	22	17	
1838	LQ48	24	22	
1839	LQ48	22	17	
1840	LQ48	26	21	フレーク出土
1841	LQ48	30	12	
1842	LQ48	44	15	土器片出土
1843	LQ48	38	25	
1844	LQ48	28	24	土器片出土
1845	LQ48	26	14	
1846	LQ48	28	14	
1847	LQ48	36	18	
1848	LR48	28	23	焼土小少量混入、1850→1848
1849	LR48	14	18	1849→1850→1848
1850	LR48	30	10	
1851	LR48	28	19	南側の土坑を切る
1852	LR48	20	9	
1853	LR48	22	9	
1854	LR48	44	14	
1856	LR48	38	19	土坑に切られる
1857	LR48	30	18	
1858	LR48	22	13	
1859	LR48	26	17	
1860	LR48	52	32	土器片出土
1861	LR48	22	19	
1862	LR48	22	11	
1863	LR48	28	19	礫出土
1864	LR48	18	13	
1865	LR48	14	16	
1866	LR48	22	16	
1867	LR48	22	14	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
1868	LR48	34	13	
1869	LR48	24	30	
1870	LR48	18	16	
1871	LS48	24	27	
1872	LS48	20	21	土器片出土
1873	LS48	16	21	
1874	LS48	18	13	
1875	LS48	14	7	
1876	LS48	16	18	
1877	LS48	16	8	
1878	LS48	18	17	
1879	LS48	20	23	
1880	LS48	16	14	
1881	LS48	20	12	
1882	LS48	16	8	
1883	LS48	18	15	
1884	LS48	16	13	
1885	LS48	18	12	
1886	LS48	36	39	土器片出土
1887	LS48	22	24	
1888	LS48	20	17	
1889	LS48	22	15	
1890	LS48	24	16	
1891	LS48	14	11	
1892	LS48	22	11	
1893	LS48	24	31	
1894	LQ48	20	12	
1895	LR48	22	15	1895→1896
1896	LR48	24	15	
1897	LT48	14	13	
1898	LT48	22	15.4	
1899	LT48	18	15	
1900	LT48	18	11	
1901	LQ48	26	21	土器片出土
1902	LQ47・48	26	15	径（1902～1903）
1903	LQ47・48	26	－	〃
1904	LQ47	14	25	
1905	LQ47	16	18	
1906	LQ47	22	25	
1907	LQ47	18	26	
1908	LQ47	16	21	
1909	LQ47	18	24	
1910	LQ47	18	15	
1911	LQ47	22	14	
1912	LQ47	18	21	
1913	LQ47	18	27	
1914	LQ47	22	14	
1915	LQ47	18	22	
1917	LQ47	14	7	
1918	LQ47	22	5	
1919	LQ47	16	12	
1920	LQ47	20	17	
1921	LQ47	18	16	
1922	LQ47	16	17	
1923	LQ47	14	9	
1924	LQ47	18	17	
1926	LQ47	28	13	
1927	LQ47	24	11	
1928	LQ47	20	10	
1929	LQ47	18	21	
1930	LQ47	20	17	
1931	LQ47	20	24	
1932	LQ47	18	26	
1933	LQ47	40	17	
1934	LQ47	18	16	
1935	LQ47	18	16	
1936	LQ47	24	14	
1937	LQ47	18	15	
1938	LQ47	14	15	
1939	LQ47	16	21	
1941	LP47・48	18	36	
1942	LP47	18	8	
1943	LP47	20	37	
1944	LQ47	16	10	
1945	LQ47	14	15	
1946	LQ46	12	25	
1947	LQ47	18	14	
1948	LQ46	14	9	
1949	LQ46	14	12	
1950	LQ46	14	44	
1951	LT48	18	15	
1952	LT48	20	13	
1953	LT47・48	28	12	
1954	LT47	28	28	焼土やや大微量混入
1955	LT47	24	15	
1956	LT48	32	20	
1957	LT48	24	18	
1958	LT48	68	17	
1959	LT48	22	14	焼土極小微量混入
1960	LT48	22	12	土器片出土
1961	LT48	26	19	
1962	LT48	18	12	
1963	LT48	18	16	
1964	LT48	20	14	
1965	LT48	20	9	1966→1965
1966	LT48	18	16	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
1967	LT48	16	25	
1968	LT48	22	25	
1969	LT48	28	15	
1970	LT47	20	8	
1971	LT47	22	19	
1972	LT47	28	28	
1973	LT47	18	24	
1974	LS47	24	25	
1975	LT47	24	32	
1976	LT47	14	5	
1977	LT47	22	28	
1978	LT47	20	7	
1979	LT47	38	41	土器片やや多く出土
1980	LT47	22	13	
1981	LT47	24	14	
1982	LT47	22	14	土器片出土
1983	LT47	28	22	
1984	LT47	28	13	
1985	LT・MA47	30	7	1985→2000
1986	LT47	30	8	土器片出土
1987	LT47	22	8	焼土極小微量混入
1988	LT47	28	9	
1989	LT・MA47	30	16	焼土粒やや大やや多量混入
1990	LT47	20	21	
1991	LT47	16	9	
1992	LT47	24	29	
1993	LT47	28	23	
1996	LT47	32	11	
1997	LT47	22	20	
1998	LT47	22	16	
1999	LT47	16	13	
2000	LT47	22	18	
2001	MC57	38	28	
2002	MC58	34	36	
2003	MC58	38	34	
2004	MB59	32	18.9	
2005	MB59	28	8	
2007	MA60	20	18	
2008	MA59	26	5	
2009	MA58	24	21	検出面より石錐出土
2010	MA58	24	23	
2011	MA58	24	17	
2012	MC58	24	15	
2013	MC58	20	13	
2014	MC58	24	－	
2015	MA57	20	11	
2016	LT57	22	15	
2017	LT57	22	26	
2018	LT57	30	19	
2019	LT57	24	15	
2020	LT57	26	13	
2021	LT58	24	14	
2022	LT58	22	12	
2023	LT59	28	20	
2024	LS59	28	19	
2025	LT59	18	9	
2051	MG55	42	11	
2052	MG55	52	41	
2053	MG56	42	20	
2054	MH56	39	15	
2055	MH56	32	14	
2057	MG57	28	8	
2058	MH54	30	30	
2059	MH54	19	19	
2060	MH54	53	53	
2063	MF56	42	25	
2064	MF56	26	15	
2074	MC54	30	31	
2075	MC54	26	7	
2076	MC54	36	25	
2077	MD54	26	22	
2079	MD54	30	16	
2080	MD54	22	7	
2081	MD54	32	32	2071に含まれる
2083	MD55	24	8	
2084	MD54	22	9	
2085	MC54	54	20	
2086	MC53	18	21	
2087	MC54	16	11	
2088	MC54	16	4	
2089	MC53	34	16	
2090	MC54	10	8	
2091	MC54	16	15	
2092	MC54	12	14	
2093	MC54	18	11	
2094	ME53	28	41	
2095	ME53	20	11	2095→2096
2096	ME53	34	44	
2097	ME53	20	11	
2098	ME53	24	14	
2099	ME53	18	12	2100→2099
2100	ME53	24	11	
2101	ME53	40	22	
2102	ME53	34	26	
2103	ME53	22	18	
2104	ME53	22	25	

第７表　柱穴様ピット一覧（７）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
2105	ME52	18	26	
2106	ME52	16	10	
2107	ME52	24	26	
2108	ME52	14	16	土器片出土
2110	ME52	30	19	
2111	ME52	24	9	
2112	ME51	20	17	
2113	ME51	26	16	
2114	ME51	26	7	
2115	ME51	30	15	
2116	ME51	26	31	
2117	ME51	16	8	
2118	ME51	24	15	土器片出土
2119	ME51	26	16	
2120	ME51	14	9	
2121	ME51	16	14	2127→2121
2122	ME51	34	11	2123→2122
2123	ME51	24	13	
2124	ME51	28	9	2128→2124
2125	ME51	16	30	
2126	ME51	20	8	
2127	ME51	24	21	
2128	ME51	22	3	
2129	ME50	28	8	
2130	ME50	28	14	土器片出土
2131	ME50	20	8	焼土極小少量混入、2132→2131
2132	ME50	40	45	
2133	ME50	18	13	
2134	ME50	40	14	
2135	ME50	40	22	礫出土
2136	ME49	30	9	土器片混入
2138	ME・MD50	14	10	焼土極小微量混入
2139	ME50	20	11	土器片小微量混入
2140	MD50	20	10	
2141	ME50	28	21	
2142	ME49	24	10	2142→2137・2143
2143	ME49	16	18	
2145	MD53	20	10	
2146	MD53	24	12	
2147	MD53	20	15	
2148	MD53	20	21	
2149	MD53	26	21	
2150	MD53	20	5	
2151	MD53	22	22	2151→2158
2152	MD53	24	18	
2153	MD53	20	4	
2154	MD53	30	17	
2155	MD53	56	27	
2156	MD52	26	13	
2157	MD52	16	18	
2158	MD53	14	7	2151・2159→2158
2159	MD53	18	10	
2160	MD52	30	12	
2161	MD52	46	26	土器片出土、2161→2162
2162	MD52	18	7	
2163	MD52	24	10	
2164	MD52	30	9	
2165	MD52	24	10	
2166	MD52	22	11	
2167	MD52	28	37	
2168	MD52	20	15	
2169	MD52	26	25	
2170	MD52	16	15	
2171	MD52	18	11	
2172	MD52	12	8	
2173	MD52	20	18	
2174	MD52	16	9	
2175	MD52	16	17	
2176	MD51	20	12	
2177	MD51	28	9	
2178	MD51	20	26	
2179	MD51	16	9	
2180	MD51	16	13	
2181	MD51	30	4	
2182	MD51	34	19	
2183	MD51	16	6	
2184	MD51	20	12	
2185	MD51	18	13	
2186	MD51	20	14	
2187	MD51	30	19	焼土極小少量混入
2188	MD51	20	18	
2189	MD51	26	21	礫出土
2190	MD51	22	19	
2191	MD51	18	26	
2192	MD51	24	10	
2193	MD51	28	11	
2194	MD51	38	24	
2195	MD51	14	20	
2196	MD51	22	13	
2197	MD51	26	22	
2198	MD51	24	18	2199→2198
2199	MD51	20	11	
2200	MD51	22	20	
2201	MD51	16	11	2202→2201
2202	MD51	16	9	
2203	MD51	26	7	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
2204	MD51	34	12	
2205	MD51	16	13	2205→2206
2206	MD51	28	5	2205を切る
2207	MD51	18	16	
2208	MD51	20	12	
2209	MD51	14	19	
2210	MD51	58	14	
2211	MD・MC51	12	16	焼土極小少量混入
2212	MD51	14	14	
2213	MD50	16	11	
2214	MD50	18	12	
2215	MD50	20	4	
2216	MD50	16	7	
2217	MD50	28	6	
2218	MD50	18	5	
2219	MD50	18	12	
2220	MD50	14	9	
2221	MD50	20	7	
2222	MD50	24	15	
2223	MD50	24	15	
2224	MD50	14	13	
2225	MD50	20	11	
2226	MD50	16	7	
2227	MD50	14	5	
2228	MD50	20	11	
2229	MD50	14	13	
2230	MD50	20	16	
2231	MD50	18	5	
2232	MD50	30	18	土器片出土
2233	MD50	20	8	土器片出土
2234	MD50	16	11	
2235	MD50	18	11	
2236	MD50	18	12	焼土極小少量混入
2237	MD50	16	16	
2238	MD50	24	20	焼土極小少量混入
2239	MD50	46	13	土器片・礫出土
2240	MC50	34	10	2241→2240
2241	MC50	44	24	
2242	MD50	22	10	
2243	MC53	24	13	
2244	MC53	20	23	焼土小微量混入
2245	MC53	28	16	2246→2245
2246	MC53	12	11	
2247	MC53	20	30	
2248	MC53	14	11	
2249	MC53	16	17	
2250	MC53	16	14	
2251	MC53	30	30	
2252	MC53	22	10	
2253	MC53	26	9	
2254	MC53	28	34	
2255	MC53	16	9	
2256	MC53	32	16	焼土小微量混入
2257	MC53	20	14	
2258	MC53	24	23	焼土極小少量混入
2259	MC53	20	9	
2260	MD52	26	26	礫出土
2261	MC51・52	50	27	土器片大出土
2262	MC52	22	23	
2263	MC52	16	–	
2264	MC52	20	13	
2265	MC52	30	19	
2266	MC52	20	16	
2267	MC52	20	23	
2268	MC52	20	16	
2269	MC52	14	16	
2270	MC52	40	11	
2271	MC52	20	15	
2272	MC52	20	10	
2273	MC52	16	7	
2274	MB52	18	7	焼土極小少量混入
2275	MB52	20	4	
2276	MB52	20	15	
2277	MC53	18	15	
2278	MC53	24	11	
2279	MC51	22	21	小礫出土
2280	MC51	26	15	
2281	MC51	18	16	
2282	MC51	16	15	
2283	MC51	14	45	
2284	MC51	14	9	
2285	MC51	20	28	2285→2286
2286	MC51	10	8	土器片出土
2287	MC51	12	11	
2288	MC51	14	9	
2289	MC51	38	12	
2290	MC51	12	5	
2291	MC51	20	17	焼土小微量混入
2292	MC51	10	10	礫出土
2293	MC51	26	25	焼土極小微量混入、2294→2293
2294	MC51	44	22	
2295	MC51	20	8	
2296	MC51	30	24	
2297	MC51	20	19	
2298	MB51	16	12	
2299	MC51	18	10	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
2300	MC51	16	25	焼土極小少量混入
2301	MC51	20	23	焼土極小微量混入
2302	MC51	72	15	土器片出土
2303	MC50	20	32	焼土極小少量混入
2304	MC50	16	11	
2305	MC50	24	27	土器片少量出土
2306	MC50・51	26	26	焼土極小少量混入
2307	MC50	10	5	
2308	MC50	14	7	
2309	MC50	14	23	
2310	MC50	20	12	
2311	MC50	26	28	
2312	MC50	20	9	
2313	MC50	14	14	
2314	MC50	14	5	
2315	MC50	20	4	焼土小微量混入、土器片出土
2316	MC50	10	11	
2317	MC50	18	8	
2318	MC50	18	10	
2319	MC50	26	14	焼土極小微量混入
2320	MC50	14	12	
2321	MC50	34	10	
2322	MC50	20	36	
2323	MC50	28	20	焼土極小少量混入
2324	MB53	16	6	
2325	MB53	18	30	
2326	MB53	26	13	
2327	MB53	20	10	
2328	MB53	16	8	
2329	MB53	20	22	
2330	MB53	20	19	
2331	MB53	16	15	
2332	MB53	22	11	
2333	MB53	24	13	
2334	MB53	24	13	
2335	MB53	22	12	土器片出土
2336	MB53	28	18	
2337	MB53	14	13	
2338	MB53	16	6	
2339	MB53	18	6	
2340	MB53	18	9	焼土小微量混入
2341	MB53	14	–	
2342	MB52	20	12	
2343	MB52	16	12	
2344	MB52	34	31	土器片出土
2345	MB52	30	12	
2346	MB52	20	21	土器片出土
2347	MB52	30	24	2348→2347
2348	MB52	16	23	2348→2347・2349
2349	MB52	20	10	2348→2349
2350	MB52	20	23	
2351	MB52	30	8	
2352	MB52	20	17	
2353	MB52	26	17	
2354	MB52	34	19	
2356	MB52	28	9	土器片出土
2357	MB52	28	12	
2358	MB51	28	17	
2359	MB51	18	30	
2360	MB51	24	9	
2361	MB51	18	14	
2362	MB51	24	11	
2363	MB51	16	16	
2364	MB51	16	5	
2365	MB51	16	9	
2366	MB51	22	13	
2367	MB51	20	10	
2368	MB51	20	17	
2369	MB51	18	14	
2370	MB50	20	24	
2371	MB51	14	10	
2372	MB51	12	10	
2373	MB51	14	12	
2374	MB51	12	10	
2375	MB51	12	15	
2376	MB51	14	9	土器片出土
2377	MB51	14	11	
2378	MB51	16	20	
2379	MB51	20	21	焼土極小微量混入
2380	MB50	18	7	
2381	MB50	24	11	
2382	MB50	24	14	
2383	MB50	16	13	
2384	MB50	16	8	
2385	MB49	16	5	
2386	MB50	26	11	土器片出土
2387	MB50	30	28	
2388	MB50	26	4	
2389	MB50	14	32	石器・土器少量出土
2390	MB50	14	13	
2391	MB50	18	18	焼土極小少量混入、土器片出土
2392	MB50	14	19	
2393	MB50	16	9	
2394	MB50	14	10	底部から石錘２個、礫５個出土
2395	MB50	18	20	
2396	MB50	20	9	

第８表　柱穴様ピット一覧（８）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
2397	MB50	20	9	焼土極小少量混入
2398	MB50	14	16	
2399	MB51	14	8	
2400	MA・MB50	24	7	
2411	LT44	18	19	
2412	LS44	26	23	
2415	LT44	36	11	
2416	LS43	18	10	
2418	LS43	22	11	
2419	LS43	24	18	
2420	LS43	22	8	
2422	LS43	10	11	
2424	LS42	22	11	
2425	LR43	24	23	
2426	LS・LR43	26	19	
2427	LR42・43	18	20	
2428	LQ42	18	26	
2429	LQ42	18	7	
2430	LQ42	16	10	
2431	LQ42	16	9	
2432	LQ42	30	15	
2433	LQ42	16	4	
2434	LQ42	24	15	
2435	LQ43	24	18	
2436	LQ43	18	4	
2437	LP43	14	9	
2438	LP43	16	17	
2439	LP43	20	9	
2440	LP42	34	11	
2441	LP42	32	23	
2442	LQ42	32	21	
2443	LQ42	24	9	
2444	LQ42	26	10	
2445	LQ42	24	12	
2446	LR42	18	19	
2447	LR42	20	19	
2448	LR42	14	8	
2449	LR42	26	32	
2450	LR42	64	12	
2451	LR42	42	16	
2452	LS42	42	12	
2453	LS42	38	37	
2454	LS42	44	20	
2455	LS42	72	23	径(2457～2456～2455)
2456	LS42	72	－	径(2457～2456～2455)
2457	LS42	72	18	径(2457～2456～2455)
2458	LS42	38	11	
2459	LS42	32	19	
2460	LS42	24	9	
2501	MH・MI46	30	27	焼土ブロック極小微量混入
2502	MH46	18	15	
2503	MH46	26	10	焼土ブロック極小少量混入、土器片出土、被熱して覆土は赤みをおびる
2504	MI46	26	14	焼土ブロック極小微量混入
2505	MI46	28	27	焼土粒極小微量混入
2508	LT45	24	9	
2511	MH46	24	4	
2512	MF45	20	18	焼土ブロック小少量混入
2513	MH45	30	19	焼土ブロック極小少量混入、土器片出土、　被熱して覆土は赤みをおびる、白色粘土ブロック状極小少量混入
2514	MH46	18	9	
2515	MG46	18	14	
2517	MG46	20	15	
2518a	MG46	14	9	土器片出土
2518b	MG46	18	13	
2519	MG46	14	12	焼土粒極小微量混入
2520	MG46	20	4	土器片出土
2521	MG46	30	25	焼土粒極小少量混入、土器片出土
2522	MG46	14	19	
2523	MG・MF46	20	5	土器片出土
2524	MF46	42	2	
2525	MG46	16	4	
2526	MG46	20	9	焼土ブロック極小微量混入
2527	MG46	40	8	
2528	MG46	26	9	
2529	MG46	16	14	
2530	MH46	26	9	
2531	MG46	12	－	
2532	MG46	16	3	
2533	MG46	30	12	
2534	MG46	14	21	
2535	MG46	24	9	
2536	MG46	18	11	焼土ブロック極小微量混入、10YR2/2ブロック極小やや多量混入
2537	MG46	16	14	礫出土
2539	MF46	20	9	焼土ブロック極小少量混入、10YR2/2ブロック小やや多量混入
2540	MF46	20	15	
2541	MC45	32	7	
2542	MC46	20	18	
2543	MC46	22	11	
2544	MC46	20	12	
2545	MB46	22	19	
2546	MB46	14	18	
2547	MB45	28	16	
2548	MG46	20	6	
2549	MG46	12	11	
2550	MF45	32	9	焼土ブロック極小やや多量混入、10YR2/2ブロック状小やや多量混入
2551	LT46	36	18	
2552	LT46	32	20	
2553	LT46	36	22	
2554	LT46	36	23	
2555	LT46	34	18	
2556	LT46	36	13	
2557	LT46	34	13	
2558	LT46	18	22	
2559	LT46	18	19	
2560	LT45	34	15	
2561	LT45	22	30	
2562	LT45	20	16	
2563	LT45	24	18	
2566	LT46	50	4	
2567	LT46	26	34	
2568	LT46	24	5	
2569	LT46	42	8	径(2569～2570)
2570	LT46	42	8	〃
2571	LT46	42	8	
2572	LT46	26	31	
2573	LT46	40	7	
2574	LS46	28	17	
2575	LS46	22	26	
2576	LS46	24	12	
2577	LS46	14	10	
2578	LS46	26	10	
2579	LS46	22	4	
2580	LT46	32	13	
2581	LT46	18	8	
2582	LT46	38	14	
2583	LS46	16	13	
2584	LS46	20	20	
2585	LS45	38	13	
2586	LS45・46	24	22	
2587	LT45	24	9	
2588	LT46	14	9	
2589	LT45	16	9	
2590	LT45	22	13	
2591	LT45	28	25	
2593	LS45	22	11	
2594	LT・LS44	18	15	
2595	LS45	20	21	
2596	LS45	14	9	
2597	LS45	16	9	
2598	LS45	14	16	
2599	LS44	24	26	
2600	LS44	22	12	
2601	LS44	20	15	
2602	LS44	18	11	
2603	LS44	12	11	
2604	LS44	32	19	
2605	LR44	18	14	
2606	LR45	18	14	
2607	LS45	38	19	
2608	LR44	16	13	
2611	LR43	20	18	
2612	LR44	44	19	
2613	LR44	14	20	焼土小微量混入
2614	LR42	50	15	
2621	LQ46	24	11	
2622	LQ46	34	6	
2623	LQ46	28	7	
2626	LQ47	22	11	
2627	LQ46	32	8	
2628	LQ46	20	9	
2629	LQ47	16	16	
2630	LQ46	22	9	
2631	LQ46	14	12	
2632	LQ46	12	8	
2633	LQ46	10	6	
2634	LR46	18	8	
2635	LR46	14	10	
2636	LQ46	18	14	
2637	LQ46	22	20	
2638	LQ46	18	11	
2639	LQ46	14	8	
2640	LQ46	14	14	
2641	LQ46	16	11	
2643	LQ46	24	23	
2645	LQ46	16	22	
2646	LP46	38	14	
2647	LP46	24	15	
2648	LP46	20	17	
2649	LP46	18	10	
2650	LP46	22	18	
2651	LP46	22	12	
2652	LP46	22	20	
2653	LP46	26	15	
2654	LP46	16	15	
2655	LP46	20	30	
2656	LO46	14	12	
2657	LO46	18	8	
2658	LR46	30	25	
2660	LR46	24	25	
2661	LR46	14	6	
2662	LR46	18	17	
2663	LR46	18	23	
2664	LR46	14	15	
2665	LR44	18	19	
2666	LR46	30	13	
2667	LR46	28	20	
2668	LS46	24	16	
2669	LR46	12	5	
2670	LS46	28	16	
2671	LS46	30	22	
2672	LS46	20	16	
2673	LS46	18	13	
2674	LS46	22	12	
2675	LS46	22	11	
2676	LS46	32	9	
2677	LS46	16	10	
2678	LS46	20	14	
2679	LS46	22	12	
2680	LR46	20	17	
2681	LR45	12	27	
2682	LS46	22	17	
2683	LS46	40	25	
2684	LS46	22	21	
2685	LS46	22	15	
2686	LS46	20	3	
2687	LS46	24	9	
2688	LS46	18	13	
2689	LS46	18	10	
2690	LS46	16	12	
2691	LS46	22	8	
2692	LS46	26	4	
2693	LS46	24	18	
2694	LS46	12	7	
2695	LS46	18	7	
2696	LS46	14	11	
2697	LS46	14	24	
2698	LS46	24	15	
2699	LS46	30	16	
2700	LS46	18	21	
2701	LS46	30	16	
2702	LS47	18	12	
2703	LS46	24	14	
2704	LR46	16	5	
2705	LS・LR46	20	11	
2706	LQ46	18	24	
2707	LQ46	22	14	
2708	LQ46	18	13	
2709	LQ46	16	4	
2710	LQ46	20	18	
2711	LR46	16	16	
2712	LR46	24	26	
2713	LR46	18	35	
2714	LR46	26	20	
2715	LR46	18	15	
2716	LR46	18	22	
2717	LR46	24	26	焼土極小微量混入
2718	LR46	26	31	
2719	LR46	28	35	
2720	LR46	28	18	
2721	LR46	16	20	
2722	LR46	28	25	
2724	LR46	18	14	
2725	LR46	18	19	
2726	LR46	20	10	
2727	LR46	14	11	
2728	LR46	18	20	
2729	LR46	30	25	
2730	LR46	16	16	
2731	LP48	20	18	2732→2731
2732	LP48	30	34	
2733	LP48	40	7	土器片出土
2734	LP48	16	12	
2735	LP48	22	－	2732・2734→2735
2736	MA46	24	24	焼土極小微量混入
2737	MA46	38	47	焼土極小微量混入
2738	LT46	24	11	
2739	LT46	22	21	
2740	LT46	14	5	
2741	LT46	18	9	
2742	MA46	16	10	
2743	LT46	36	8	
2744	LT46	28	22	
2745	LT46	18	8	
2746	LT46	28	15	
2747	LT46	12	8	
2748	MA46	30	8	
2749	LT46	22	23	
2750	LT46	26	19	
2751	LT46	30	17	
2752	LT46	24	17	
2753	LT46	22	18	
2754	LT47	22	20	
2755	LT47	22	15	
2756	LT46	22	16	

第９表　柱穴様ピット一覧（９）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
2757	LT47	18	10	
2758	LT46	18	9	
2759	LT46	22	10	
2760	LT46	24	17	
2761	LT46	24	11	
2762	LT46	18	20	
2763	LT46	42	12	
2764	LT46	38	8	
2765	LT46	18	12	
2766	LS46	18	12	
2767	LS46	20	26	
2768	LS46	20	7	
2769	LS46	24	14	
2770	LS46	16	12	
2771	LS46	20	11	
2772	LT46	36	8	
3001	MA50	18	11	
3002	MA50	14	9	
3003	MA50	14	11	
3004	MA50	14	15	
3005	MA50	20	13	3006→3005
3006	MA50	16	13	
3007	MA50	12	15	
3008	MA50	16	15	
3009	MA50	20	13	
3010	MA50	20	8	焼土極小少量混入
3011	MA50	24	12	
3012	MA50	20	8	
3013	MA50	14	25	土器片出土、3013→3014
3014	MA50	14	10	土器片出土
3015	MA50	14	22	土器片出土
3016	MA51	18	13	
3017	MA51	18	11	
3018	MA51	18	11	
3019	MA51	18	13	
3020	MA51	18	17	
3021	MA51	20	9	
3022	MA51	18	11	
3023	MA51	18	11	
3024	MA51	18	8	
3025	MA51	12	16	
3026	MA51	16	–	
3027	MA51	18	15	
3028	MA52	16	6	
3029	MA52	20	6	
3030	MA52	20	17	
3031	MA52	20	50	
3032	MA52	34	20	
3033	MA52	34	26	
3034	MA52	20	9	
3035	MA52	20	29	
3036	MA52	32	29	
3037	MA52	22	16	
3038	MA52	24	12	
3039	MA・MB52	28	23	土器片出土
3040	MA52	14	7	土器片出土
3041	MA52	30	6	
3042	MA52	28	17	
3044	MA52	18	8	
3045	MA52	18	12	焼土極小微量混入
3046	MB53	16	5	3047→3046
3047	MB53	22	8	
3048	MA53	10	7	3048→3049
3049	MA53	24	28	
3050	MA53	16	15	
3051	MA53	18	13	
3052	MA53	18	26	フレーク出土
3053	MA53	16	7	
3054	MA53	8	12	
3055	MA53	10	9	土器片出土
3056	MA53	10	15	
3057	MA53	18	9	
3058	MA53	12	10	土器片出土
3059	MA53	16	15	
3060	ME54	26	19	
3061	ME54	20	19	
3062	ME54	26	28	
3063	ME54	30	8	
3064	ME54	16	7	
3065	ME54	16	13	
3066	ME54	16	25	
3067	ME55	28	17	
3068	ME49	16	18	
3069	ME49	22	8	
3070	ME49	24	5	
3071	ME49	28	15	
3073	ME49	20	14	
3075	ME49	24	8	
3076	ME49	18	25	
3078	ME49	8	10	
3079	ME49	16	11	焼土極小少量混入
3080	ME49	14	16	焼土極小少量混入
3081	ME49	18	12	
3082	ME49	16	9	
3083	ME49	10	6	3083→3084
3084	ME49	20	12	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
3085	ME・MD49	12	11	
3086	ME49	20	11	
3087	ME49	12	5	
3088	ME49	20	24	
3089	ME・MD49	20	17	
3090	ME・MD49	14	10	3090→3091
3091	ME・MD49	16	10	
3092	MD49	10	9	
3093	MD49	14	8	
3094	MD49	18	8	
3095	MD49	16	10	
3096	MD49	12	5	
3097	MD49	16	17	
3100	MD49	18	8	
3101	MD49	16	20	
3103	MD49	16	10	焼土極小微量混入
3105	MD49	18	19	3104を切る、焼土極小少量混入
3106	MD49	18	28	
3107	MD49	14	18	
3109	MD49	28	14	
3110	MD49	18	6	
3111	MD49	30	9	焼土極小少量混入
3112	MD49	20	13	
3113	MD49	16	11	焼土極小微量混入
3114	MD49	14	16	
3115	MD49	22	27	焼土小少量混入
3117	MD49	14	7	
3120	MD49	20	17	
3123	MD49	14	13	
3124	MD49	14	12	
3125	MD49	16	10	
3126	MD49	14	10	
3127	MC49	20	10	
3128	MC49	24	14	土器片出土
3129	MC49	20	7	焼土極小少量混入
3130	MC50	14	14	
3131	MC49	20	8	
3132	MC49	60	14	土器片・フレーク出土
3133	MC49	20	13	
3134	MC49	10	6	土器片出土、3135→3134
3135	MC49	36	7	焼土極小微量混入
3136	MC49	14	9	
3137	MC49	30	34	
3138	MC49	30	17	
3139	MC49	14	10	
3140	MC49	16	18	
3141	MC49	16	13	
3142	MC49	16	15	
3143	MC49	14	11	
3144	MC49	18	14	
3145	MC49	14	12	
3146	MC49	44	34	
3147	MC49	22	6	
3148	MC49	18	8	
3149	MC49	18	9	
3150	MC49	22	15	
3151	MC49	12	12	
3152	MC49	16	21	
3153	MC49	14	13	
3154	MC49	20	12	
3155	MC49	18	9	
3156	MC49	18	14	3157→3156
3157	MB49	16	12	〃
3158	MB49	18	20	
3159	MB49	16	7	
3160	MC49	18	7	焼土極小少量混入
3161	MB49	18	23	
3162	MB49	16	17	
3163	MB49	20	16	
3165	MB49	14	15	
3166	MB49	14	11	
3167	MB49	24	8	
3168	MB49	18	13	
3169	MB49	22	26	
3170	MB49	16	10	
3171	MB49	12	12	
3173	MB49	14	9	
3174	MB49	14	14	
3175	MB49	14	14	
3176	MB49	8	13	
3177	MB49	18	23	
3178	MB49	28	7	土器片出土
3179	MB49	16	20	
3180	MB49	30	14	
3181	MB49	28	14	
3182	MB49	16	14	
3183	MA49	16	18	
3184	MA49	14	10	
3185	MA49	20	19	
3186	MA49	14	9	
3187	MA49	18	7	
3188	MA49	18	22	土器片出土、3189→3188
3189	MA49	24	22	3189→3188
3190	MA49	24	22	
3191	MA49	24	9	
3192	MA49	34	12	土器片少量出土

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
3193	MA49	30	17	土器片大出土、3193→3194
3194	MA49	28	17	3193→3194
3195	MA49	26	13	
3196	MA49	14	22	
3197	MA49	20	13	
3198	ME48	20	11	
3199	ME48	10	5	焼土極小少量混入
3200	ME48	24	16	3200→3201
3201	ME48	16	10	〃
3202	ME47	22	16	焼土極小少量混入
3203	ME48	28	9	焼土極小少量混入
3204	ME48	12	10	3204→3205
3205	ME48	20	6	3204→3205、焼土極小少量混入
3206	ME48	16	10	焼土極小少量混入
3207	ME48	16	9	
3208	ME48	16	9	3209→3208
3209	ME48	24	9	焼土極小少量混入、3209→3208
3210	MD48	26	25	
3211	MD48	18	13	
3212	MD48	14	19	
3213	MD48	18	11	
3214	MD48	12	14	
3215	MD48	22	13	
3217	MD48	16	11	
3218	MD48	20	11	礫出土
3219	MD・ME48	16	5	
3220	MD48	24	8	
3222	MD48	18	8	
3223	MD48	24	19	
3224	MD48	24	20	
3225	MD48	24	16	
3226	MD48	16	20	石器出土
3227	MD48	20	14	
3228	MD48	14	14	
3229	MD48	18	10	
3230	MD48	19	24	
3231	MD48	20	14	
3232	MD48	14	12	
3233	MD48	16	14	フレーク出土
3234	MD48	20	21	
3235	MD48	12	14	
3236	MD48	20	11	
3237	MD48	20	15	
3238	MD48	32	21	土器片出土
3239	MD48	20	15	
3241	MD48	16	17	
3242	MC48	16	6	
3243	MC48	20	25	
3244	MC48	18	12	
3245	MC48	16	8	
3246	MC48	14	14	3246→3247
3247	MC48	16	8	〃
3248	MC48	8	6	3248→3249
3249	MC48	18	9	石器出土
3250	MC48	10	3	
3252	MC48	26	4	
3253	MC48	24	8	
3254	MC48	30	5	
3255	MC48	18	6	
3256	MC・MB48	24	20	礫出土
3257	MB48	16	9	
3258	MB48	18	6	
3259	MB48	20	15	
3260	MB48	12	10	
3261	MB48	20	12	
3262	MB48	26	9	
3263	MB48	16	13	
3264	MA48	20	13	焼土極小微量混入
3265	MA48	12	14	
3266	MA48	16	6	
3267	ME47	16	10	
3268	ME47	18	11	
3269	ME47	14	8	焼土極小少量混入
3270	ME47	18	8	
3271	ME47	26	8	土器片出土
3272	ME47	28	11	
3273	ME47	12	10	
3274	ME47	12	3	
3275	ME47	28	6	焼土極小少量混入
3276	ME47	40	15	
3277	ME47	24	13	
3278	ME47	20	10	焼土極小少量混入
3279	ME47	28	19	焼土極小少量混入
3280	ME47	16	11	焼土極小少量混入
3281	MD47	18	12	
3282	MD47	20	16	土器片出土
3283	MD47	16	16	
3284	MA46	24	14	
3285	MA46	30	27	
3286	MA46	20	6	
3287	MA46	26	9	焼土極小微量混入
3288	MA46	44	22	焼土小少量混入
3289	MA46	24	17	
3290	MA46	20	16	
3291	MA46	18	11	土器片出土、3292→3291
3292	MA46	14	5	

第10表　柱穴様ピット一覧（10）

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
3293	MA46	18	12	
3294	MA46	18	12	
3295	MA46	16	11	土器片出土
3296	MA46	26	12	土器片出土
3297	MA45	30	24	
3298	MA45	24	18	土器片出土
3299	MA45	10	12	フレーク出土
3300	MA45	16	6	
3301	MA45	20	12	
3302	MA45	16	21	
3303	MA45	12	9	
3304	MB45	16	16	
3305	MB46	22	25	
3306	MB45	20	13	
3307	MA・MB45	36	10	
3308	MB46	16	12	
3309	MB46	28	14	
3310	MB46	32	14	
3311	MB46	26	24	
3312	MA46	14	9	
3313	MA46	16	8	
3314	MA46	14	15	
3315	MB46	12	7	
3317	MA46	24	5	
3318	MB46	6	4	
3319	MA46	20	25	
3320	MA46	18	6	
3321	MA46	24	7	
3322	MA46	28	8	
3323	MA46	20	15	
3324	MA46	18	5	
3325	MA46	28	7	
3326	MA46	26	7	
3327	MA47	20	16	
3328	MA47	34	15	
3329	MA47	18	20	
3330	MA47	16	13	
3331	MA47	30	20	
3332	MA47	36	27	
3333	MA47	18	10	
3334	MA47	12	12	
3335	MA47	20	11	
3336a	MA47	10	11	
3336b	MA47	12	8	
3336c	MA47	10	7	
3337	MB47	30	8	
3338	MB47	16	24	
3339	MB47	14	10	
3340	MB47	18	20	
3341	MB47	24	16	
3342	MB47	18	15	
3343	MB47	18	12	
3344	MB47	10	11	
3345	MB47	20	12	
3346	MB47	26	7	
3347	MB47	16	8	
3348	MB47	18	9	
3349	MB47	12	13	
3350	MC47	18	13	
3351	MC47	16	13	
3352	MC47	24	11	
3353	MC47	16	16	
3354	MC47	22	15	
3355	MC47	14	15	
3356	MC47	18	22	
3357	MC47	18	22	
3358	MC47	12	14	
3359	MC47	18	8	
3361	MC47	18	25	
3362	MC47	14	7	
3363	MC47	26	19	
3364	MC47	20	18	
3365	MC47	10	11	
3366	MC47	12	15	
3367	MC47	16	18	
3368	MC47	18	8	
3369	MC47	20	10	
3370	MC47	16	20	
3371	MC47	18	14	
3372	MB47	12	18	
3373	MB47	6	6	
3374	MB47	16	17	
3375	MB47	14	8	
3376	MC47	13	23	
3377	MB47	22	5	
3378	MB47	18	7	
3379	MB47	20	26	
3380	MC47	18	17	
3381	MC47	28	23	
3382	MC47	24	19	
3383	MD47	26	11	
3384	MC47	18	17	
3385	MC47	40	29	
3386	MC47	10	7	
3387	MD47	24	14	
3388	MC47	30	17	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
3390	MD47	18	2	
3401	MD47	10	9	焼土極小微量混入
3402	MD47	14	－	
3403	MD47	10	20	土器片出土
3404	MD47	26	10	
3405	MD47・46	12	9	
3406	MD47	10	11	
3407	MD47・46	14	18	
3408	MD47	22	14	焼土極小微量混入
3409	MD47	14	9	3410→3409
3410	MD47	18	11	
3411	MD47	8	4	
3412	MD47	28	15	
3413	MD47	24	14	焼土極小微量混入
3414	MD47	16	8	
3415	MD47	10	11	焼土極小微量混入
3416	MD47	14	12	焼土極小やや多量混入
3417	MD47	18	10	焼土極小少量混入
3418	MD47	12	7	
3419	MD47	14	6	
3421	MD47	14	9	
3422	ME47	16	7	
3423	MD47	23	10	
3424	MD47	18	18	
3425	MD48	24	21	焼土極小微量混入
3426	MD47・48	18	27	
3427	MD47・48	20	19	
3428	MD48	24	21	3429→3428
3429	MD48	20	17	
3430	MD48	16	9	
3431	MA45	14	9	
3432	MA45	18	11	
3433	MA44	14	11	
3434	MA44	26	45	焼土極小少量混入
3435	MA44	18	10	
3436	MA44	20	14	礫混出土
3437	MA44	42	48	土器片出土、焼土極小少量混入
3438	MA44	22	12	土器片出土
3439	MA44	26	－	焼土極小少量混入、土器片出土
3440	MA44	20	8	焼土極小微量混入
3441	MA44	30	19	土器片少量出土
3442	MA43・44	28	25	土器片出土
3443	MA43	16	14	焼土極小少量混入、土器片出土
3444	MA43	28	13	
3446	MA43	20	7	
3447	MA43	30	25	
3448	MA43	18	5	
3449	MA43	24	19	
3450	MA43	24	31	
3451	MA43	42	42	
3452	MA42	16	11	
3453	MA42	22	16	
3454	MA42	20	6	
3455	MA42	12	5	
3456	MA42	26	22	
3457	MA42	22	7	
3458	MA42	14	18	
3459	MA42	26	13	焼土極小少量混入
3467	ME44	26	11	
3471	LR46	42	33	焼土微量混入、土器片出土
3472	LR48・49	22	23	
3473	LP48	36	20	
3474a	LP48	18	10	
3474b	LP48	18	20	
3475	LP48	34	15	
3476	LP48	22	8	
3477	LP48	26	9	
3478	LP48	12	15	
3479	LP48	20	9	
3480	LP48	22	12	
3481	LP48	28	10	
3482	LP48	18	17	
3483	LP48	18	14	
3484	LP48	14	5	
3485	LP48	34	26	
3486	LP48	18	12	
3487	LP48	20	20	
3488	LP48	22	25	
3489	LP48	24	37	
3490	LP48	54	28	
3491	LP48	16	10	
3492	Lo48	22	―	
3493	LP48	20	18	
3494	LP48	16	20	
3495	Lo48	22	5	
3496	Lo48	22	23	
3497a	Lo48	22	19	
3497b	Lo48	26	7	
3498	Lo47	36	13	
3499	Lo47	20	11	
3500	Lo47	22	20	
3501	Lo47	18	15	
3502	Lo47	26	13	
3503	Lo47	28	11	
3504	Lo47	16	16	
3505	Lo47	18	7	

SKP番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備　考
3506	Lo47	20	12	
3507	Lo47	20	14	
3508	LP53	54	30	
3509	LP53	42	41	
3510	LP52	32	37	
3511	LP43	22	5	
3512	LP43	40	11	
3513	LP43	26	24	
3514	LQ42	26	11	
3515	LQ43	26	15	
3516	LQ43	12	15	
3517	LQ43	24	9	
3518	LQ44	18	4	
3519	LR42	22	19	
3520	LR42	26	4	
3521	LR42	16	11	
3522	LR42	20	8	
3523	LQ・LR42	26	9	
3524	LR43	22	21	
3525	LR43	18	6	
3526	LR43	30	30	
3527	LR43	14	6	
3528	LR43	22	23	
3529	LR43	10	2	
3530	LR43	16	5	
3531	LR44	22	19	
3532	LR44	26	19	
3533	LR44	34	19	
3534	LQ44	34	17	
3535	LS42	24	20	
3536	LS42	18	10	
3537	LS42	30	19	
3538	LS42	8	8	
3539	LS42	28	12	
3540	LS42	12	19	
3541	LS42	18	8	
3542	LS42	20	9	
3543	LS43	48	21	
3544	LS43	44	20	
3545	LS43	20	20	
3546	LS44	28	13	
3547	LS44	28	28	
3548	LS44	28	9	
3549	LS44	64	55	
3550	LS44	20	11	
3551	LS44	22	2	
3552	MF44	26	11	
3553	MF44	28	19	
3554	MF44	28	7	
3555	MF44	24	16	
3556	MG44	14	9	
3557	MG44	20	25	
3558	MG44	18	12	
3559	MG44	18	15	
3560	MG44	24	9	
3561	MG44	26	9	
3562a	MG44	20	13	
3562b	MG44	14	13	
3563	MD47	14	13	
3564	MD47	16	5	
3565	MD47	24	5	
3566	MD47	26	10	
3567	MD47	18	15	
3568	MD47	18	8	
3569	MD47	20	21	
3570a	MD47	10	3	
3570b	MD47	18	15	
3571	MD57	72	49	
3572	MC57	38	39	
3573	MC57	30	26	
3574	MC57	24	15	
3575	MC57	38	―	
3576	MC57	26	7	
3577	MC56	26	15	
3578	MC56	26	36	
3579	MC56	20	19	
3580	MC56	26	15	
3581	MC・MD56	52	54	
3582	MD56	44	24	
3583	MD56	46	33	
3584	MD56	26	16	
3585	MD56	34	51	
3586	NC56	24	7	
3587a	MC56	44	29	
3587b	MC56	46	53	
3588	LP43	18	5	
3589	LS44	30	24	
3590	MC45	28	12	
3591	MD49	22	17	
3592	MA44	18	4	

２．遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、主に調査区の南側斜面に広がる捨て場から出土しており、ＭＫラインから東側にいくにつれて出土量が増加してくる。出土層位はⅢ層とⅣ層が主で、特にⅢ層は捨て場として人為的に形成された層と考えられる。遺物の出土量は、土製品を含む土器類が7,862.04kg、剥片・石製品を含む石器類が、218,055点に及ぶ。このうち土器は器表面が著しく摩滅しているが、地山が浸透性の低い粘質土なため、その上層にある包含層が水性作用を強く受けた結果と考えられる。

（１）土器（第40～56図、図版22・23）

土器は出土量に比べて内外面の摩滅しているものが多いため、全体の器形がわかるまでに接合・復元のできた数量は極めて少なく、また、施された文様や縄文の原体まで読み取ることが可能な土器破片の割合も、出土量に対しては極端に低いものとなっている。施文様、縄文原体、器形などからおおよその時期に分類しながら、出土土器の説明を行う。

①第１群土器（縄文時代早期の土器）

50・51の２点であるが、貝殻腹縁文の施された土器で、捨て場南側ＭＦ25グリッドのⅣ層から出土している。胎土は緻密で焼成も良好である。器外面は褐色を呈している。

②第２群土器（縄文時代前期の土器）

円筒下層ａ・ｂ・ｄ式土器に比定できる土器である。

１類土器（８・24・27～30・45・52～56・72～76・78～85・87～90・92～94）

直立気味の口縁部で、縄文や撚糸文の施される土器である。縄文のみが施されるものと、口縁部に体部と同一原体の押圧縄文が一～数条施されるものがある。なお、52～57では口縁部内面にも斜縄文が付される。縄文には単節と複節がある。

２類土器（28・84・89・96）

口縁部に数条の綾繰文が施される土器である。口縁部に綾繰文が施される土器は次の第３群土器にも見られるが、基本的に本類は口縁部と体部とを画する隆帯や刺突列などが施されない土器である。

綾繰文は体部に施される縄文原体によるＳ字状結節回転文であるが、口縁部を不整に巡るものが多い。

３類土器（６・７・８・10～13・42・49・85）

口縁部が外反し、体部がわずかに膨らみをもつ土器である。口縁部から体部には斜縄文、撚糸文などが施される。６・７のように口唇部にも体部と同じ原体により縄文が回転施文されるものや、49では口縁部上半に回転結節文が施されるものがある。

４類土器（１～５・43・46・47・58～86・91・101）

口縁部と体部とを画する隆帯のある土器である。粘土紐の貼り付けによる隆帯は一条ないしは二条で、隆帯上には円形の刺突、縄文の側面圧痕、斜縄文などが施される。口縁部には体部と同じ原体による斜縄文や、結節回転文施されるが、１・２のように隆帯下にも口縁部と同様の結節回転文が付される土器もある。体部には斜縄文、縦位の撚糸文などが施される。

５類土器（101・105～115）

口縁部文様帯に羽状縄文や菱形文の施される土器である。口縁部と体部とを画するのは、１～３条の縄文の側面圧痕が巡り、体部には斜縄文の施される土器が多い。

６類土器（103・104）

口縁部が一度内側に括れ、上半が大きく外反する器形である。口縁部には数条の縄文側面圧痕や絡条体の側面圧痕が施され、体部には斜縄文が付される。

③第３群土器（縄文時代中期の土器）

１類土器（116～123）

波状を呈する口縁部が大きく外反し、波頂部から垂下する隆帯や円形の貼り付けのある土器で、口縁部と体部とは低い隆帯で画されている。口縁部文様帯には縄文の側面圧痕や絡条体の圧痕文が数条付され、縦位の隆帯と口縁部下端の隆帯には縄文の側面圧痕や施され、122ではボタン状の隆帯上にも側面圧痕文がある。

２類土器（124～147）

口縁部文様帯に沈線による同心円文や鋸歯文、波状文などの施される土器である。143では細い隆帯上に半裁竹管による押し引きが行われる土器もある。126・147では体部に縦位の幾何学的な沈線文や、144では体部に縦位の平行沈線文が施され、124・145には細い沈線により格子状の文様が描かれる。

④第４群土器（縄文時代晩期の土器、148～150）

３点とも鉢形土器の体部破片で、ＲＬ縄文が縦位に回転施文されている。同一個体の破片である。

（２）土製品（第57図）

①土錘（151～159）

円筒形の土錘で、粗いケズリ痕を全面に残して成形している。胎土には砂粒を多く含むが、焼成は良好である。152が最も軽く4.9ｇで、159では99.2ｇある。

②土器片錘（164～170）

第２群土器の破片を利用したもので、打ち欠きが２側面にのあるものと、４側面にあるものとの２種がある。168・169の側面は丁寧に面取りが行われている。重さは最も軽い165が18.6ｇで、最も重いのは167で60.4ｇである。

③丸玉（160・161）

直径1.5㎝ほどの丸玉で、中央に穿孔がある。２点ともほぼ同じ大きさであり、土錘の可能性もある。160が3.4ｇ、161が4.5ｇである。

④筒状土製品（162）

直径2.2㎝、高さ3.4㎝上面・底面を含む全面に成形時の擦痕が残っている。

⑤円形土製品（163）

直径3.2㎝、厚さ1.6㎝、後述する石製品の円形岩盤に似ている。片面中央には小さな刺突があり、それを中心に擦痕が残っている。

⑥円盤状土製品（171～173）

第２群土器片を利用した円形の土製品で、173の直径は3.8㎝である。

（２）石器（第58～86図、図版25～29）

石器は剥片も含めて218,034点が出土しているが、このうち剥片が197,747点で全体の90.7%を占めている。以下に主な石器について説明を行う。

①石鏃（１～47）

石鏃は277点出土しており、全体の0.13%である。石質は全て頁岩が用いられている。形態から２分類とした。

１類：無茎鏃で、基部が直線的な１～６、丸みのある、内側に湾曲する、全体の形が菱形で基部も突出するものがある。

２類：有茎鏃である。

②石槍（48～54、190～208）

石槍は519点出土しており、全体の0.2%である。石質は下記に述べるように、類によって石質が異なっている。

１類（48～54）：珪質頁岩を石材とするものである。いずれも両面に調整が施され、平坦剥離が全面に及ぶ51や、長さが14㎝にもなる大型の54などがある。

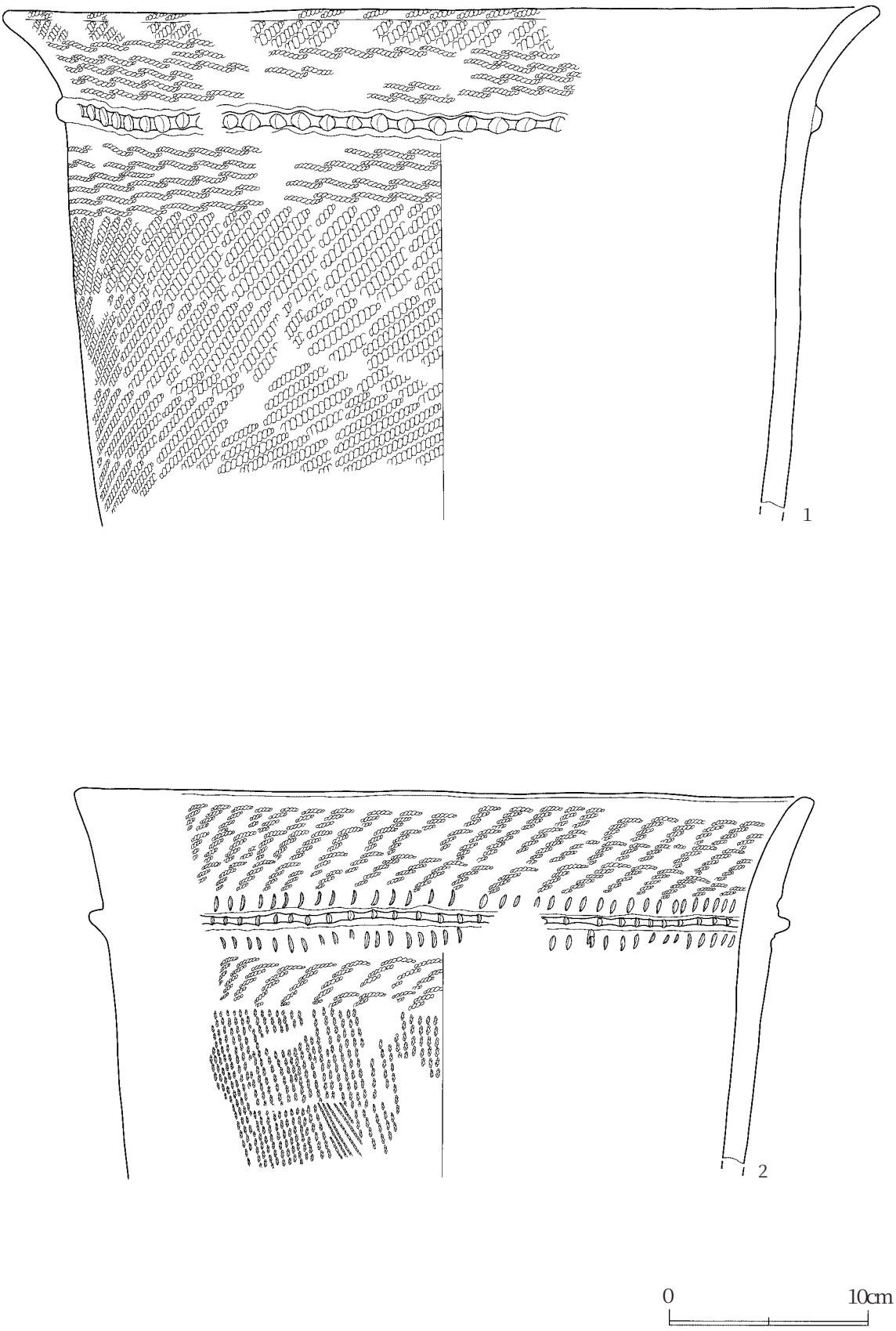
２類（190～208）：赤玉、流紋岩、輝石安山岩、シルト岩などの扁平な小判形をした礫を素材として、周辺を打ち欠いて190～194のような石槍状に作出したものである。190～192では、基部がつまみ状に作り出され、両面の周辺に剥離作業を行っているが、中央部には広く礫皮面を残している。本類は１類と違い、軟質の素材を使用しており、明瞭な使用痕なども確認できず石槍としての機能を有しているものとは考えがたいが、形態的に石槍と相似することから類別した。

③石匙（55～87）

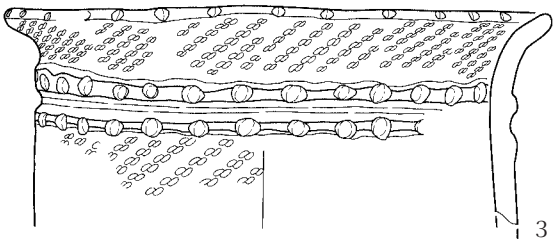
石匙は2,120点（21点は欠損）出土しており、全体の0.97%である。石質は全て頁岩である。

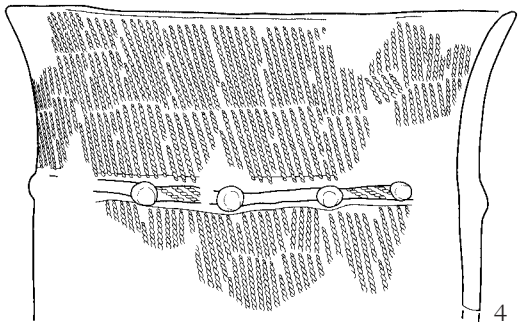
１類（55～81・83・85）：縦型である。縦長の剥片を素材として、素材剥片の打面側につまみ部を設けている。背面の周縁にのみ二次調整を行い、主要剥離面にはつまみ部を除くと先行剥離面を広く残す。1,633点が本類である。

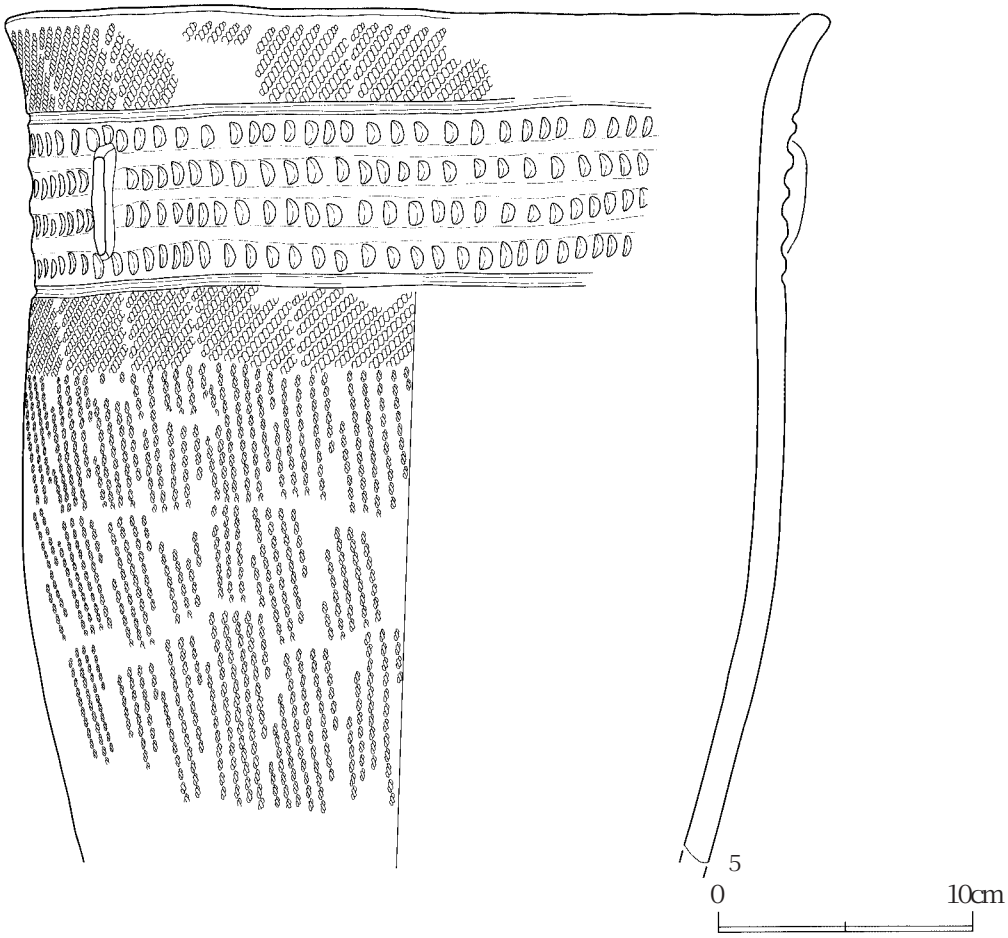
２類（82・84・86・87）：横型である。素材剥片の打面と90°に位置する側縁につまみ部を設けるもので、87を除いた他は１類と同じく両面に広く先行剥離面を残している。87は両面に深い平坦剥離が行われる。466点が本類である。



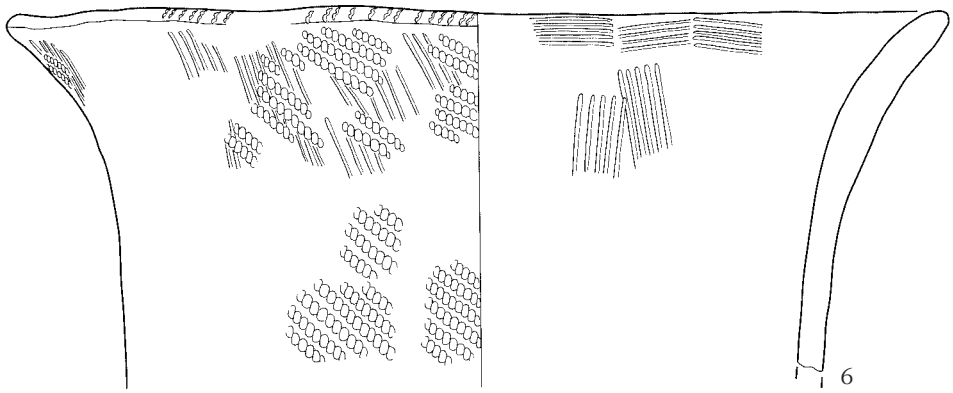
第40図　遺構外出土土器（１）

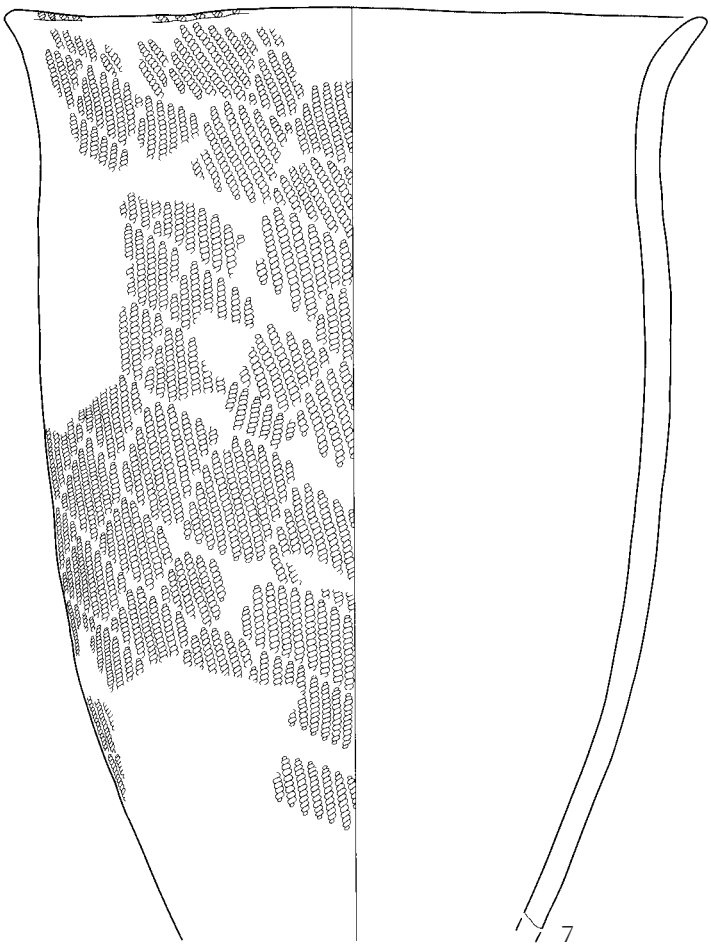






第41図　遺構外出土土器（２）

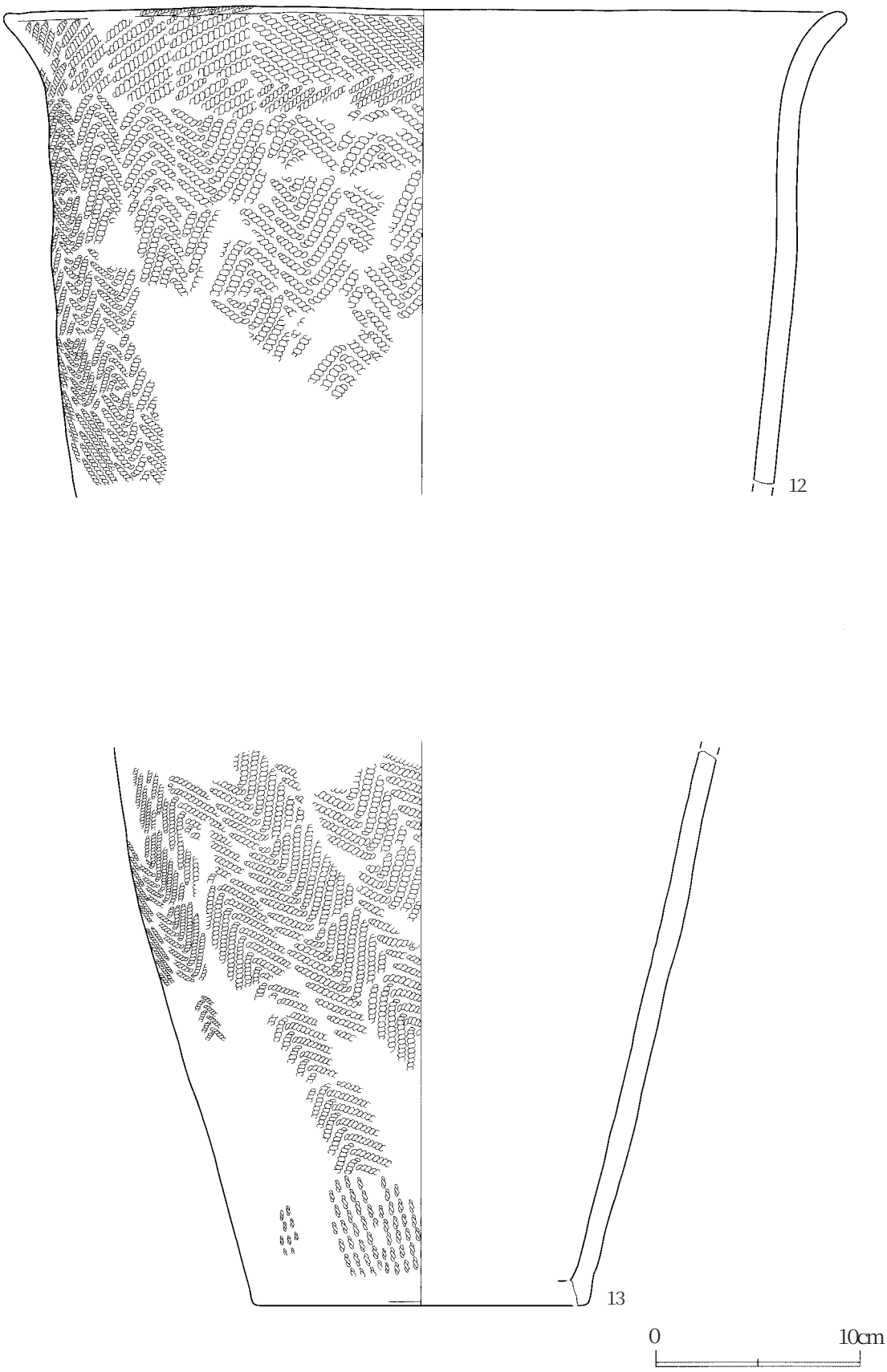




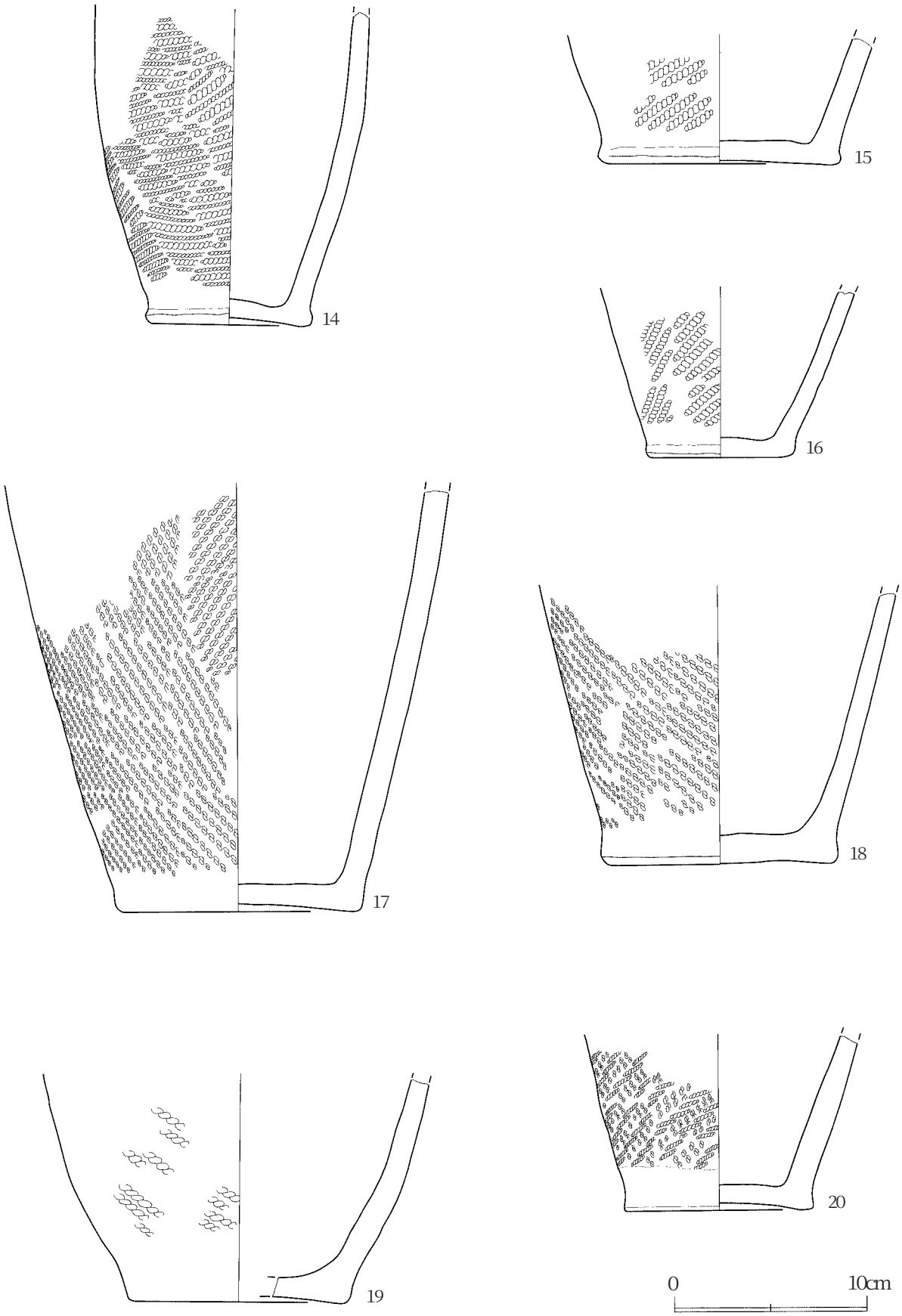
0　10cm

第42図　遺構外出土土器（３）

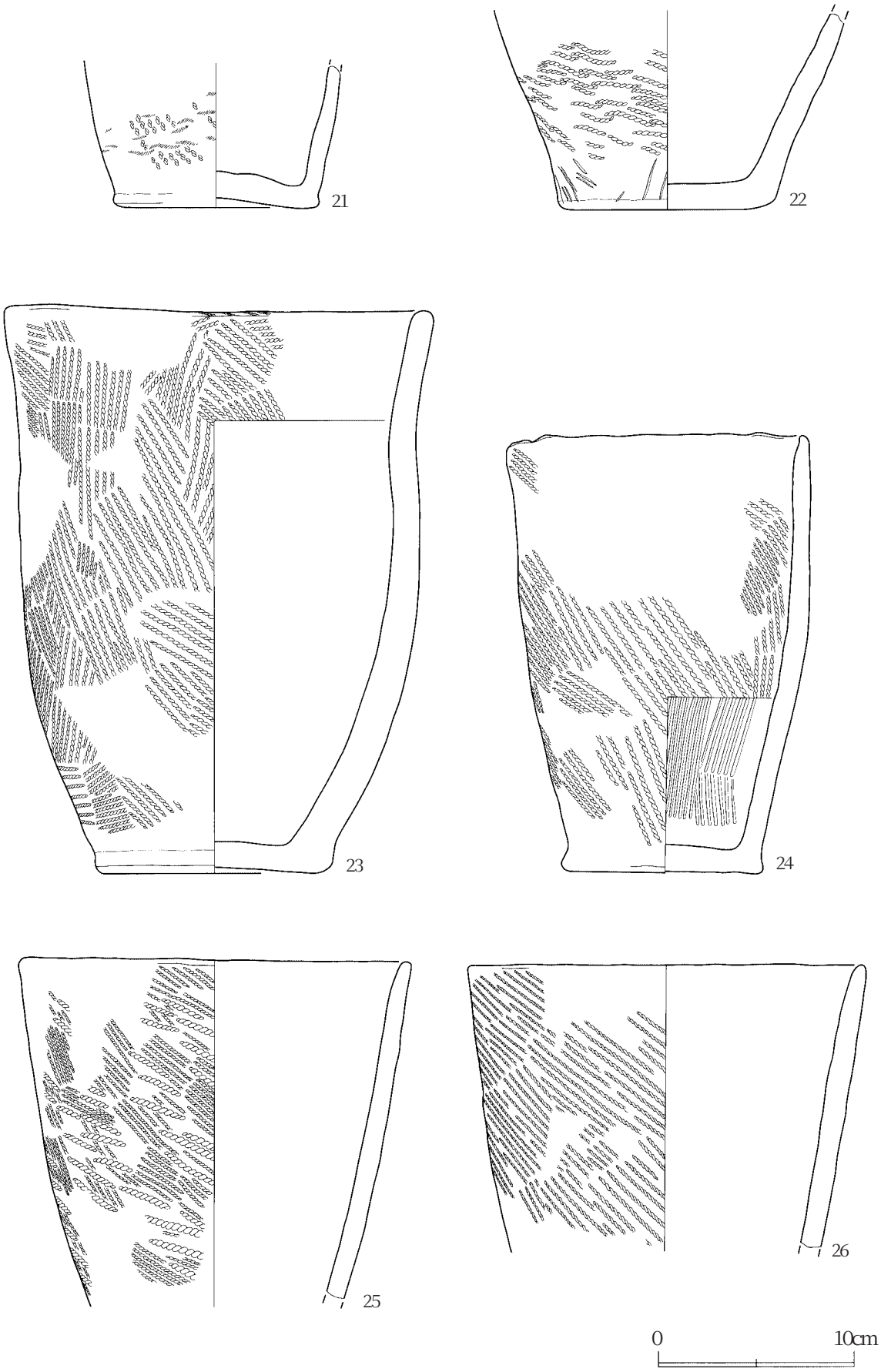
第43図　遺構外出土土器（４）



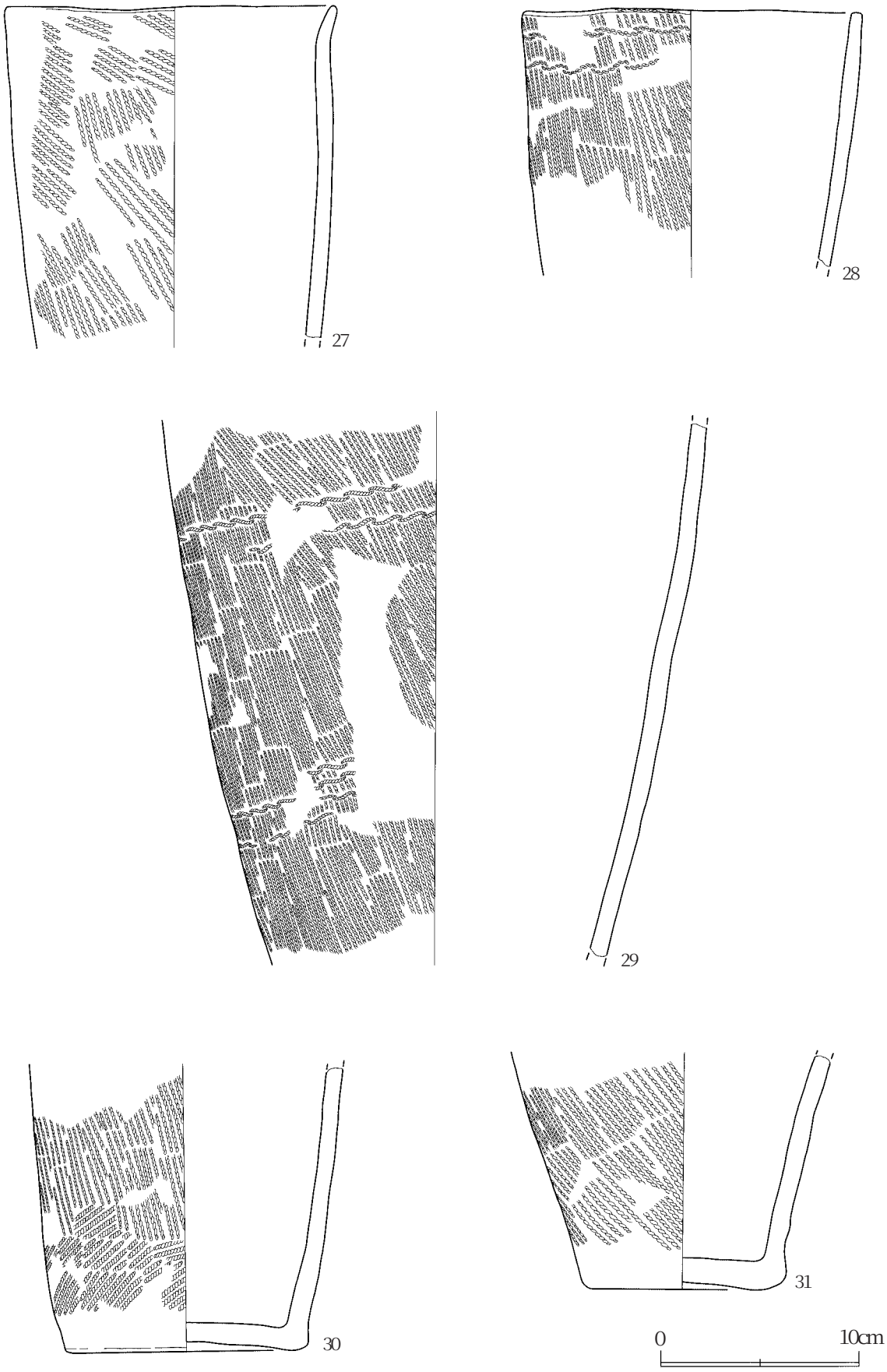
第44図　遺構外出土土器（５）



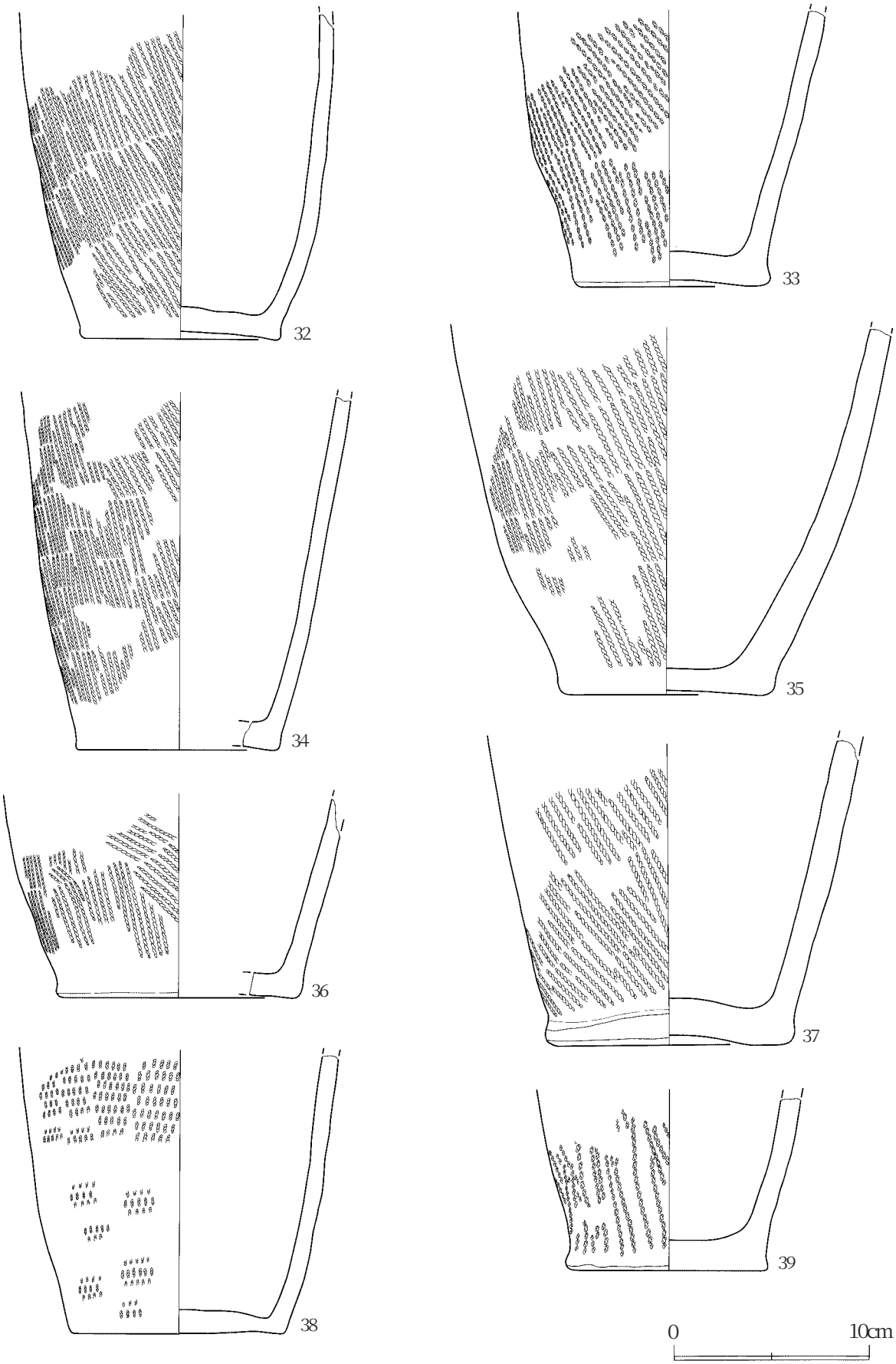
第45図　遺構外出土土器（６）



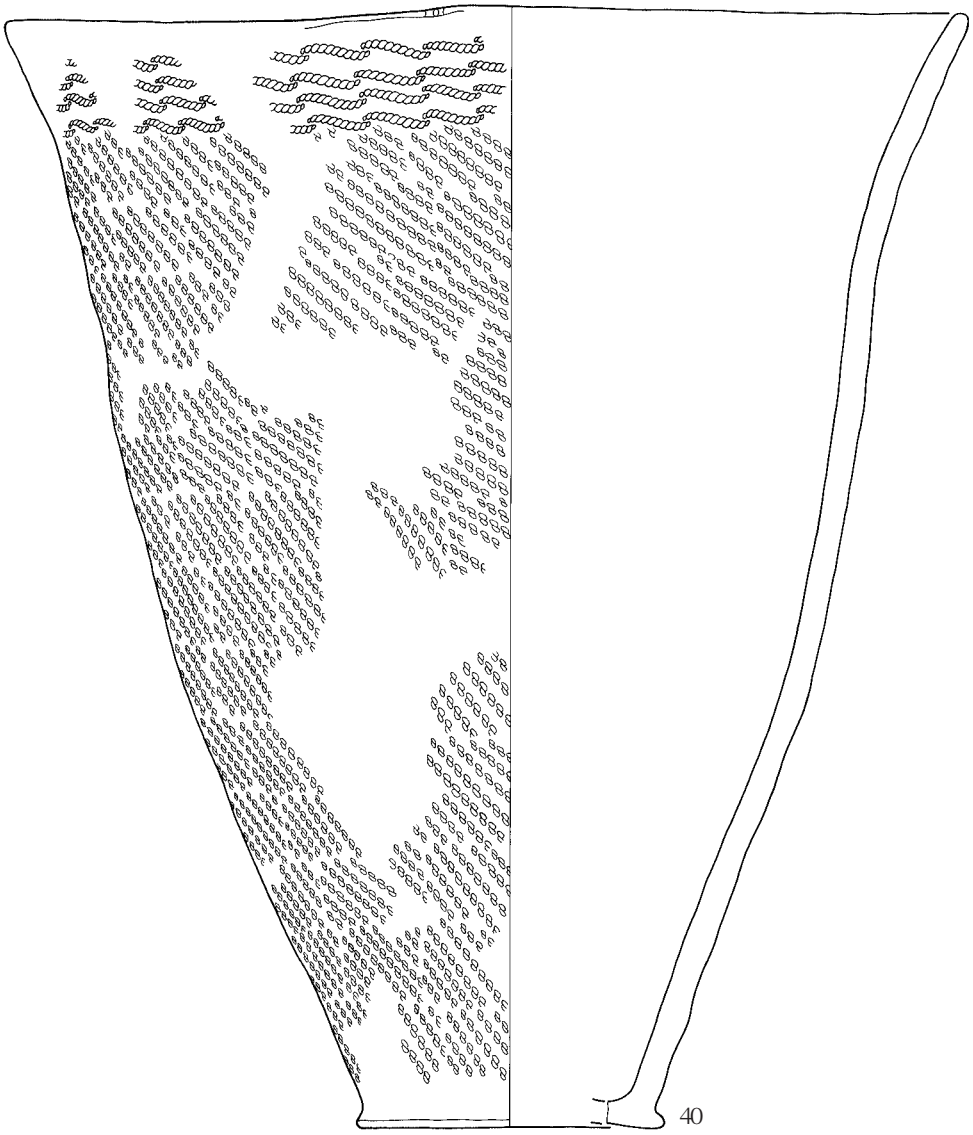
第46図　遺構外出土土器（７）

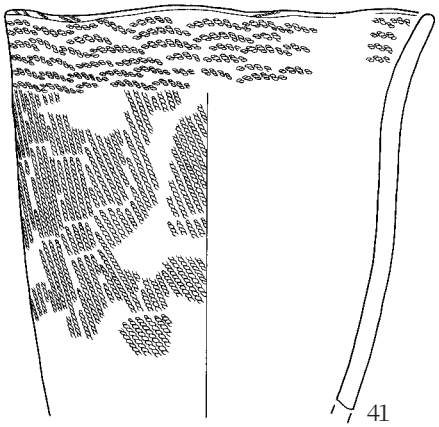


第47図　遺構外出土土器（８）



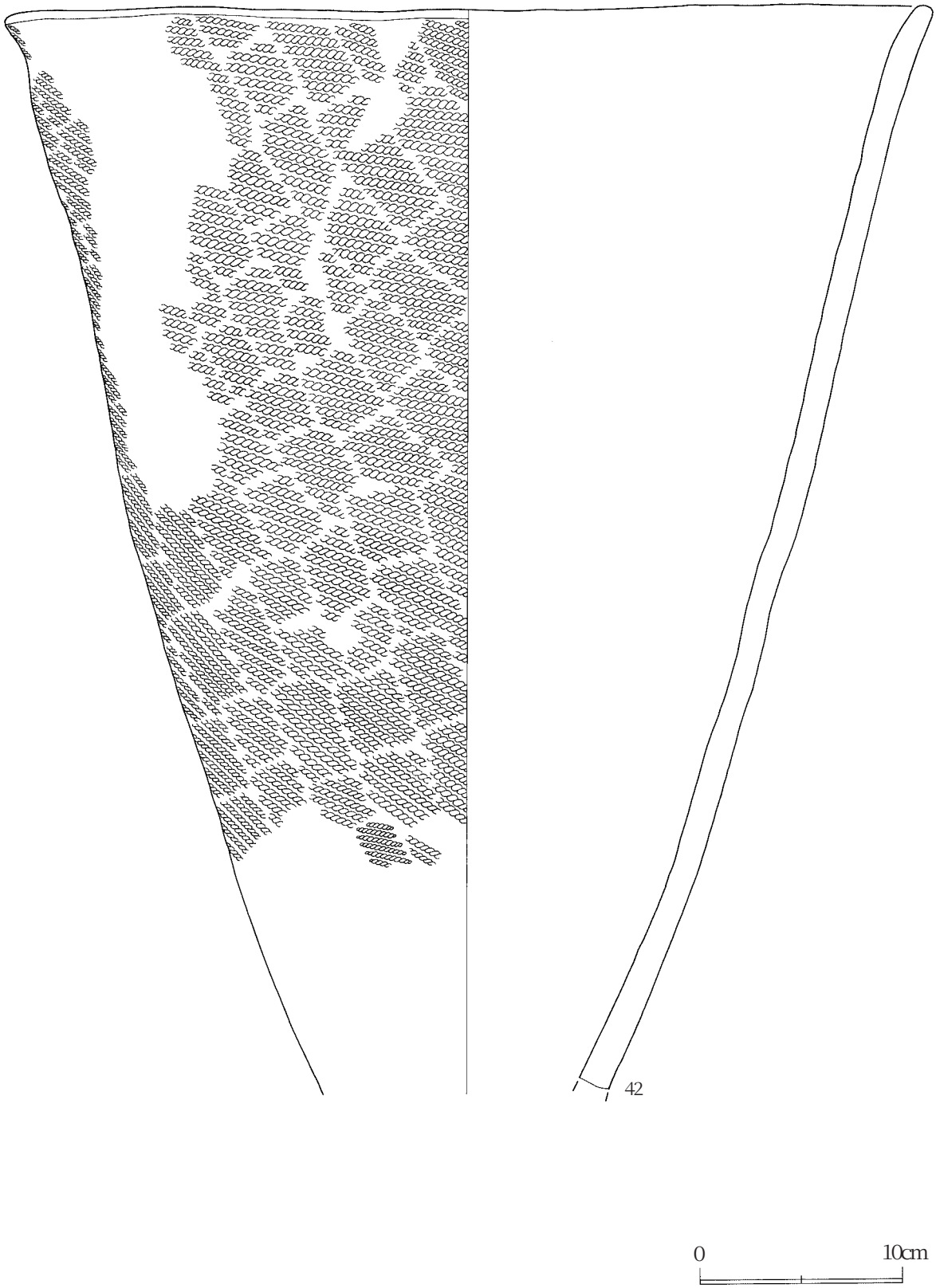
第48図　遺構外出土土器（９）



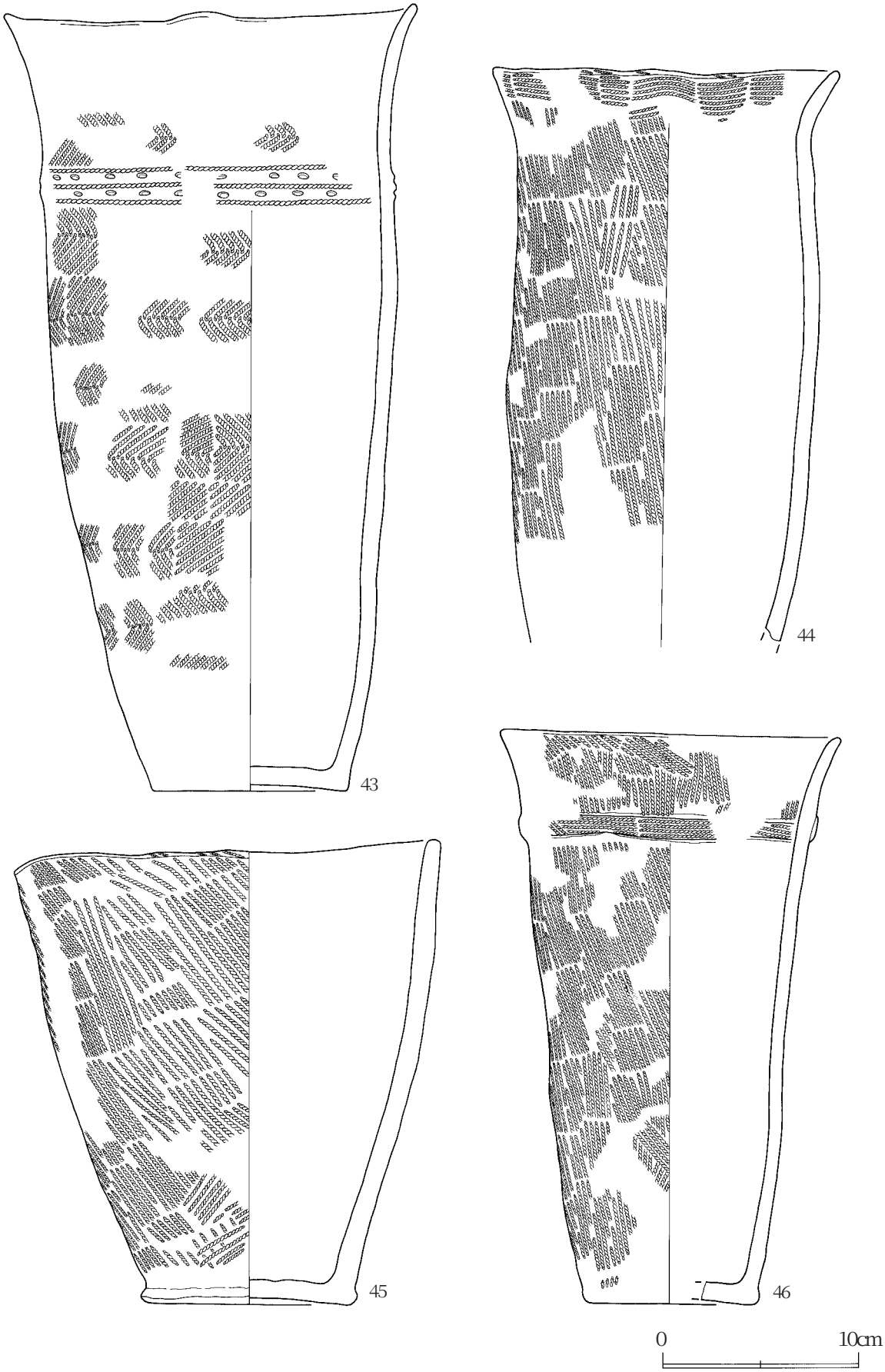


0　10cm

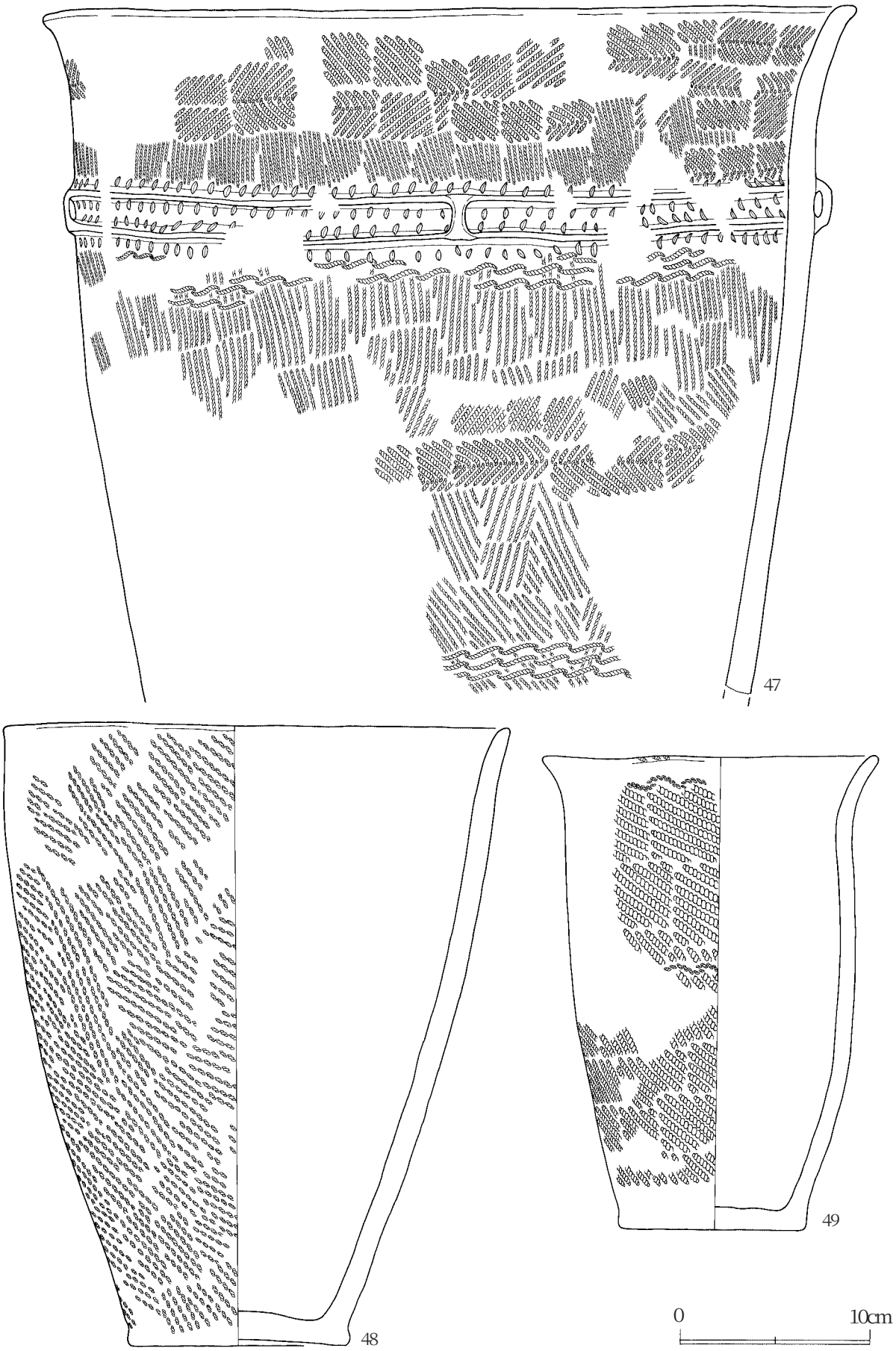
第49図　遺構外出土土器（10）



第50図　遺構外出土土器（11）

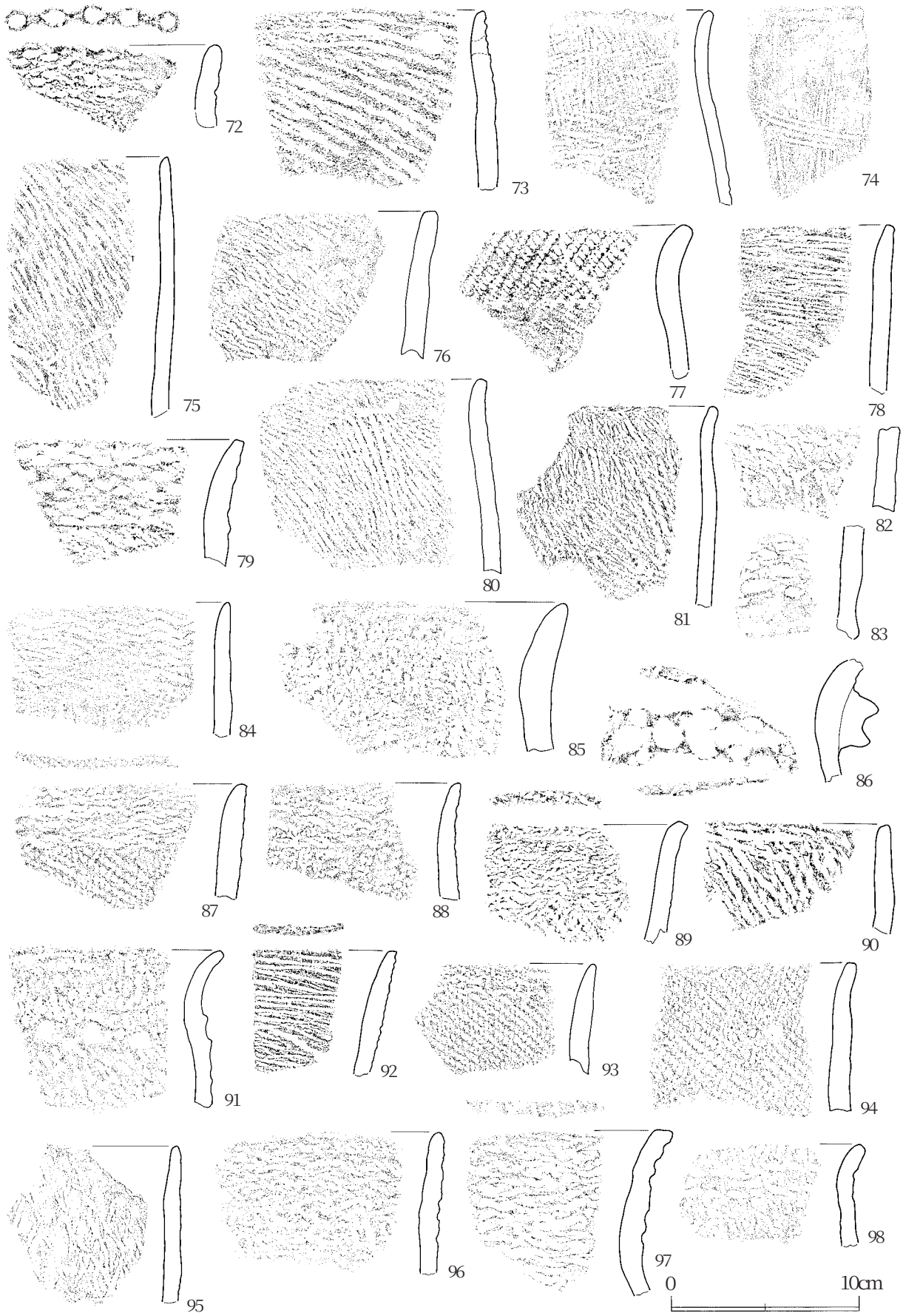


第51図　遺構外出土土器（12）

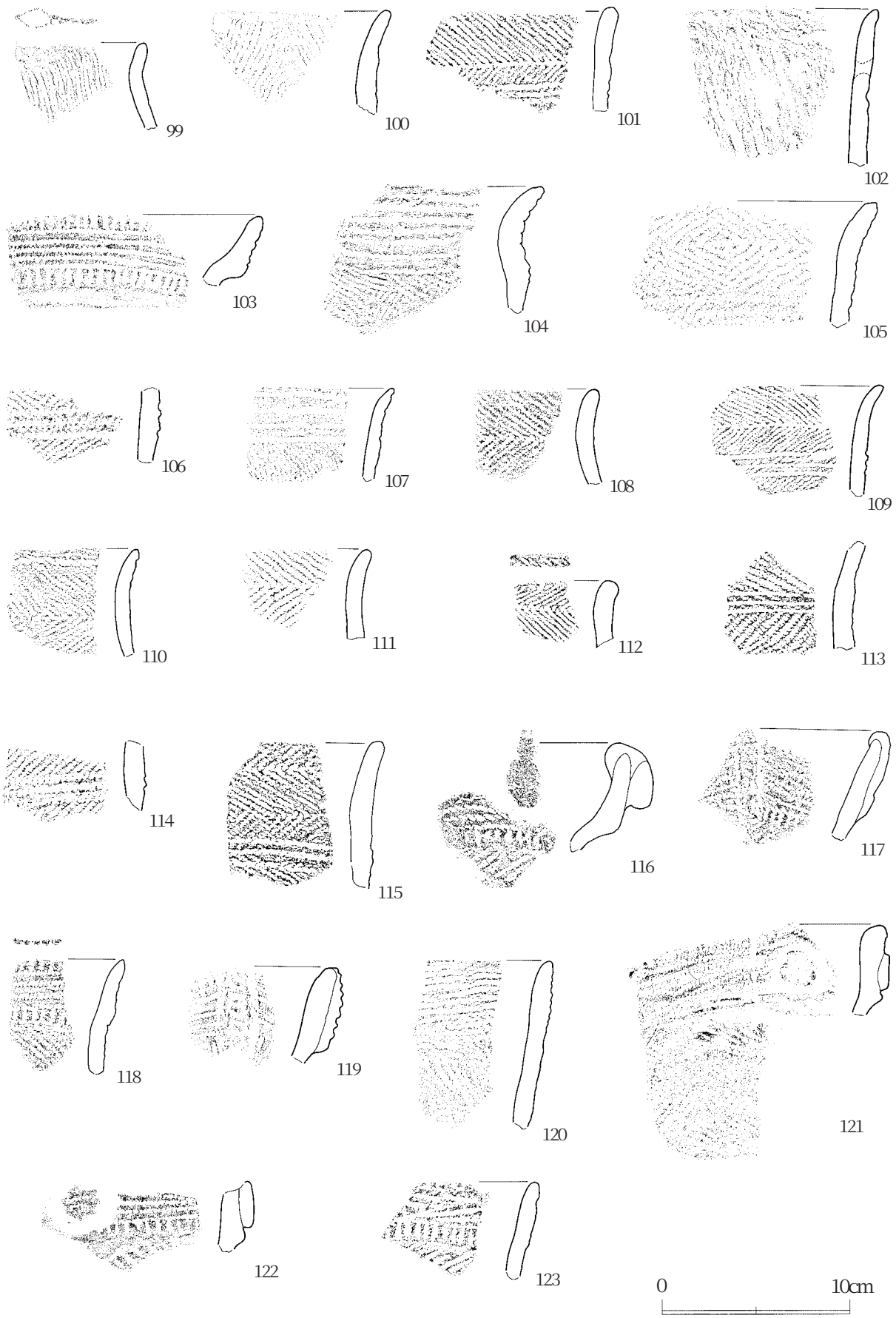


第52図　遺構外出土土器（13）

第53図　遺構外出土土器（14）

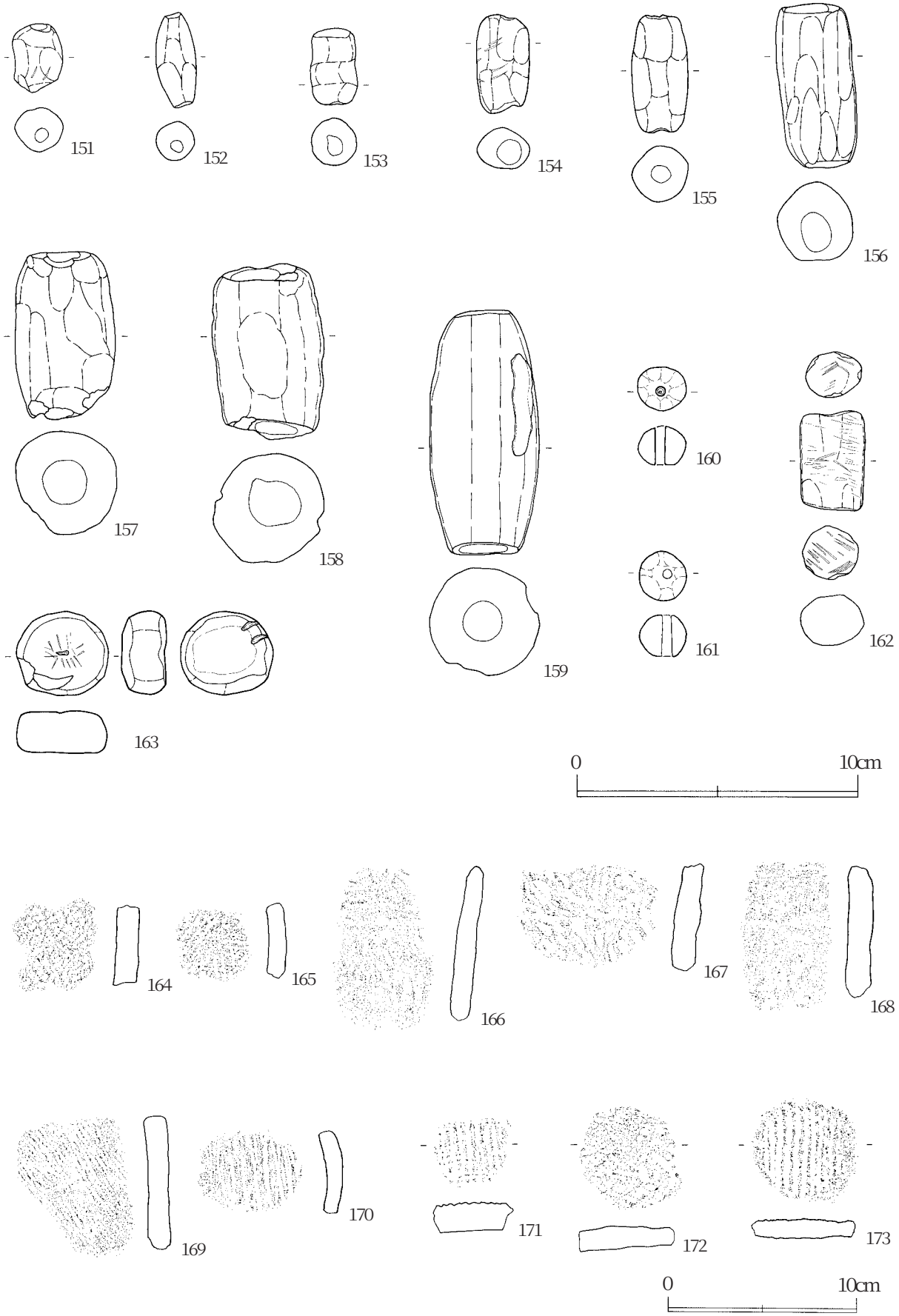


第54図　遺構外出土土器（15）



第55図　遺構外出土土器（16）

第56図　遺構外出土土器（17）



第57図　遺構外出土土製品

④石錐（88～118）：素材となる剥片の形状を変えることなく、一端に錐部を設けるもので、剥片の大きさは長さ４㎝から11㎝前後まである。剥片の二次調整は先端部のみに行われるが、89・95・96・104・105では全周縁に浅い剥離を行っている。また111～113では断面が三角形の厚みのある剥片が素材として用いられている。

⑤掻器（119～141）

掻器は2,514点出土しており、全体の1.15%である。石質は全て頁岩である。

１類（119～131）：剥片の一端に急角度の刃部を設けるもので、130以外は全て剥片素材の打面とは反対方向の縁辺部に刃部を作出している。197点が本類である。

２類（132～134・137）：半月形の剥片の湾曲部に刃部を設けるものである。132・133は湾曲する側縁に対する側縁にも二次調整が行われている。143点が本類である。

３類（135・136・138～141）：素材剥片の片側縁また両側縁に刃部を設けるものである。本類は2,174点である。

⑥石箆（142～161）

石箆は1,188点出土しており、全体の0.54%である。石質は全て頁岩である。両面に二次調整を施し、急角度の刃部を剥片素材の一端に設けるもので、形態的には撥形又は短冊形を呈している。

⑦楔形石器（162～169）

楔形石器は159点出土しており、全体の0.07%にすぎない。石質は全て頁岩である。剥片の片側縁に敲打による剥離痕があり、それに対する側縁にも抉り状の剥離のある石器である。

⑧磨製石斧（170～175）

磨製石斧は103点出土しており、全体の0.05%にすぎない。石質は輝石安山岩、粗部玄武岩、砂岩変質凝灰岩（グリーンタフ）などである。172・175では擦り切りの痕跡が認められ、174ではくぼみ石へ転用されている。

⑨くぼみ石（176～189）

くぼみ石は425点出土しており、全体の0.19%である。石質は凝灰岩、花崗閃緑岩、輝石安山岩などである。素材となる礫の形状も円形や長方形など多種にわたり、くぼみ部も多面に残されている。

⑩石錘（209～243）

石錘は5,750点（欠損品374点を含む）出土しており、全体の2.6%と全石器の中で最も多い。石質は輝石安山岩が最も多く次いで安山岩、石英斑岩などである。全て扁平な礫の端部に敲打を行い抉りを入れており、抉りの位置から２分類した。

１類（209～232）：楕円形ないしは長方形の長軸の両端に抉りを入れたもので、本類は4,807点である。

２類（233～243）：抉りが４方向にあるもので、本類は569点である。

１・２類5,376点の重量は、最も軽いものが5.2ｇで最も重いものは1,700ｇである。このうち、20ｇ～200ｇの間に１・２類全体の4,892点（91%）が集中し、さらに100ｇを中心として50ｇ～150ｇまでに3,839点（71.4%）が集中するという偏向性がみられる。なお、1,000ｇを超える石錘も８点ある。

⑪半円状扁平打製石器（244～267）

礫の長軸方向に抉りを入れ、打ち欠いた片側縁に磨り面の残る石器である。石質は安山岩が多用され、次いで凝灰岩、流紋岩などもある。2,025点出土しており、重量は最も軽いもので13.8ｇで最も重いものでは1,450ｇもある。このうち50ｇ～500ｇまでに1,696点があるが、一定の重量幅に偏向することはない。但し、全周縁を打ち欠いたり（262～267）、厚みを除去するために片面に剥離を加えている260～262などがあることから、この石器にはある程度決まった形が求められたものと考えれらる。

⑫敲き石（268～270）

礫の両端または一端に敲打痕の残るもので、118点出土しているいが全体の0.05%にすぎない。石質はデイサイト、輝石安山岩、頁岩、流紋岩などが用いられている。

⑬砥石（271～275）

砥石は107点出土しているが、全体の0.05%にすぎない。石質はデイサイト、輝石安山岩などが多用されている。271・274のように繊細な沈線や、太く粗い沈線が残るものがある。

（３）石製品（第86～89図、図版29・30）

①岩偶（276・277）

２点とも抽象的な岩偶で、石質は凝灰岩である。276は扁平な礫を素材として、三角形をした頭部とやや張った肩の部分を表現しているにすぎないが、側面も含めて全面を磨き出している。277は丸みのある礫を素材として、頭部と肩から腕を表現しており、276よりはやや写実的である。全体を削り出した後に磨きを行っているが、それほど丁寧な磨きではない。

②有孔石製品ほか（278・279）

278はデイサイトの礫を素材とし、一端に両面から穿孔行った有孔石製品である。279もデイサイトの礫を素材とし両端を磨き出したもので、擦痕が明瞭に残っている。

③円形岩盤（280～298）

縄文時代晩期にみられる円盤状石製品と混同を避けるために、円形岩盤という呼称をを付した。村越氏は、これら円筒土器に伴う石製品の一つとして円形をなした板状のものを円形岩版として紹介しているが、狐森遺跡出土の一連の石製品には、厚さが７㎝以上のものもあることから、板状とするよりは盤状とするほうがより適切と判断したもので、村越氏のいう円形岩版も含めるものである。

出土点数は143点で、重さ１ｇ・厚さ６㎜から、重さ1,240ｇ・厚さ7.9㎜まである。石質は凝灰岩

が最も多く使用され、次いで凝灰質砂岩・グリーンタフ・安山岩・砂質凝灰岩が用いられている。いずれも円く削り出すための面取りや磨きが行われているが、最終的な整形は粗い。中央に孔が穿たれる282や283、格子目状の刻線がある290、両面の中央部が突出する291などがある。また、286・291・292・293・296などでは側面にも粗い刻線が巡っている。この円形岩盤については、整形が粗いこと、穿孔のあるもの、格子目状の文様が描かれるものなど最終的な完成品がどういう形態であったのかを判断するのは極めて困難であるし、あるいはそれぞれに独自の用途があった可能性も否定できない。但し、側面に残る刻線については、さらに輪切りにして切断しようとした痕跡と考えられる。

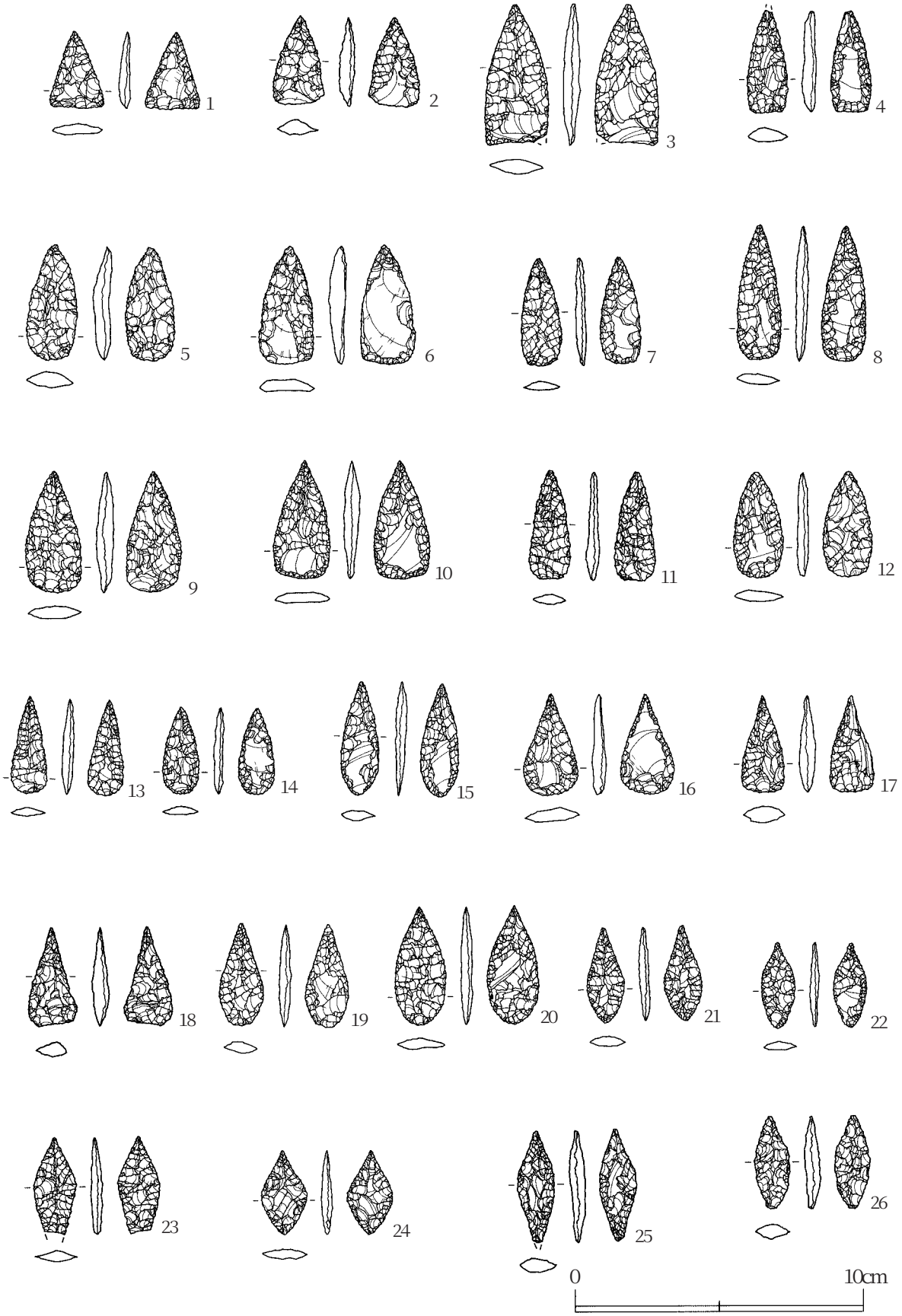
（４）琥珀

琥珀が１点出土している。整理作業中に３個に割れてしまっているが、表面には一部白色の礫皮面があり、その他は琥珀特有の飴色を呈している。琥珀は秋田県内では、大館市の池内遺跡から出土例があるだけで、本例は県内では２例目となる。

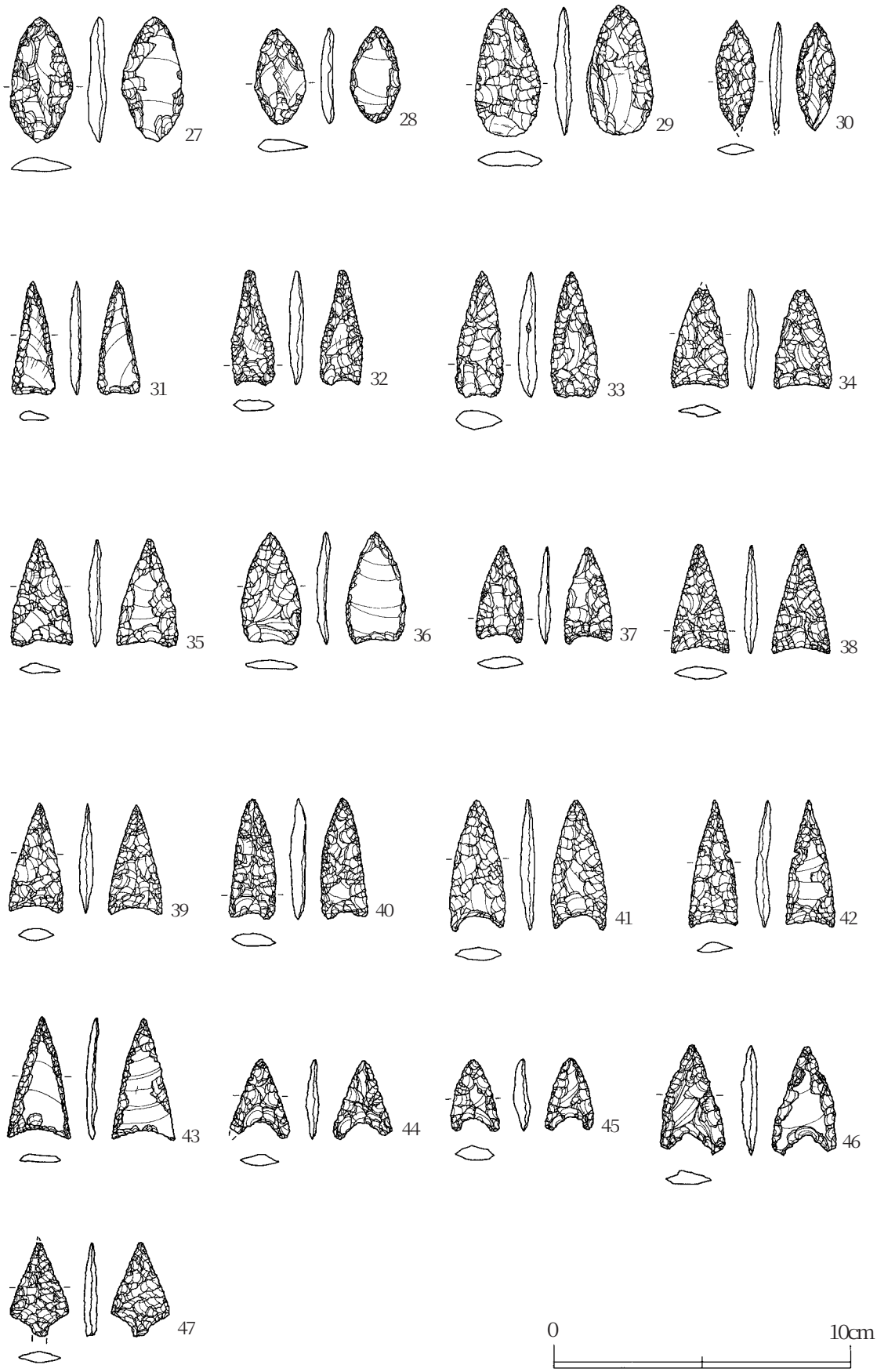
参考文献

村越　潔「円筒土器文化」雄山閣考古学選書10　雄山閣出版　1984(昭和59)年

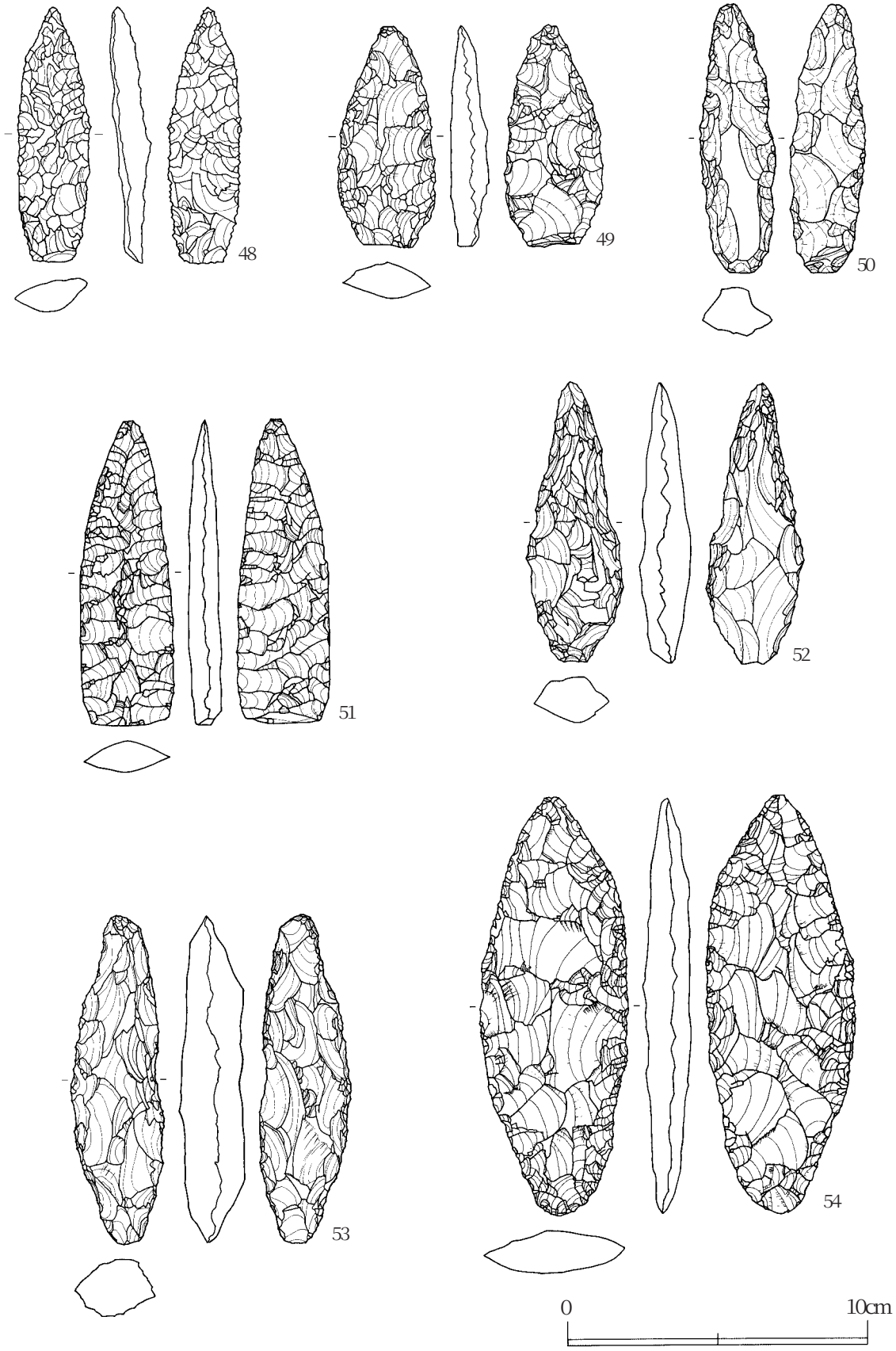
秋田県教育委員会「池内遺跡－国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－遺物・資料編」秋田県文化財調査報告書第282集　1999(平成11)年



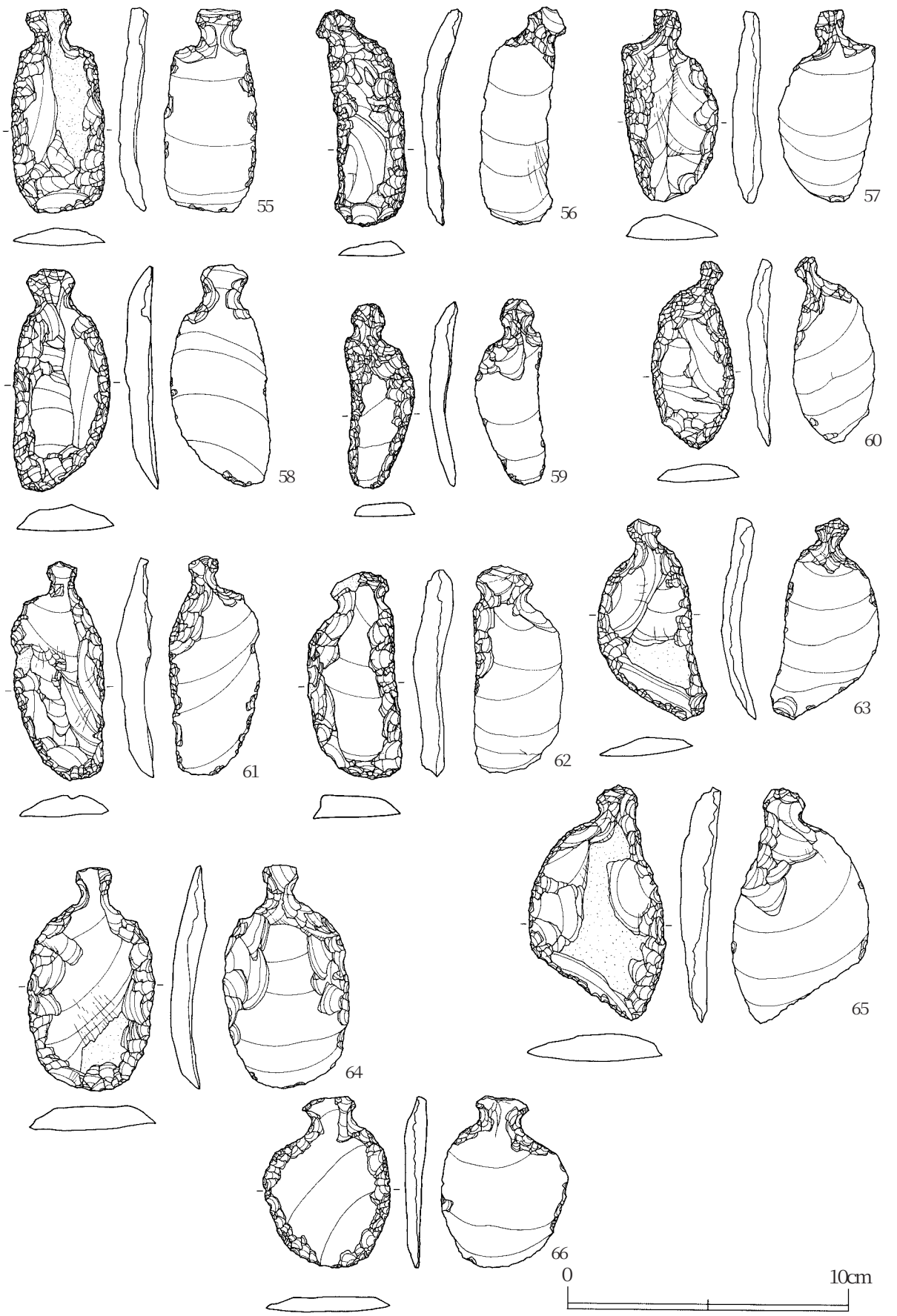
第58図　遺構外出土石器（１）



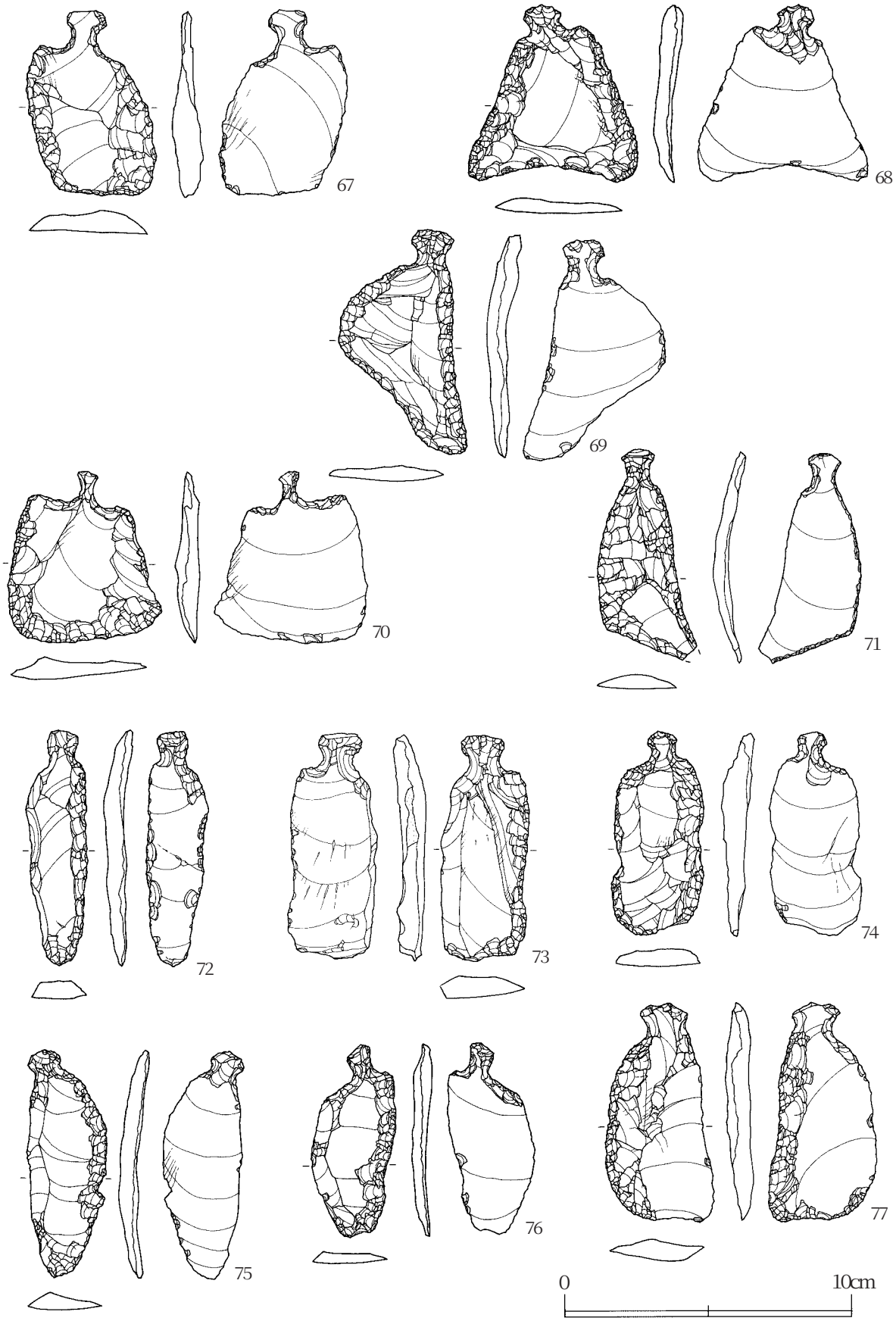
第59図　遺構外出土石器（２）



第60図　遺構外出土石器（３）



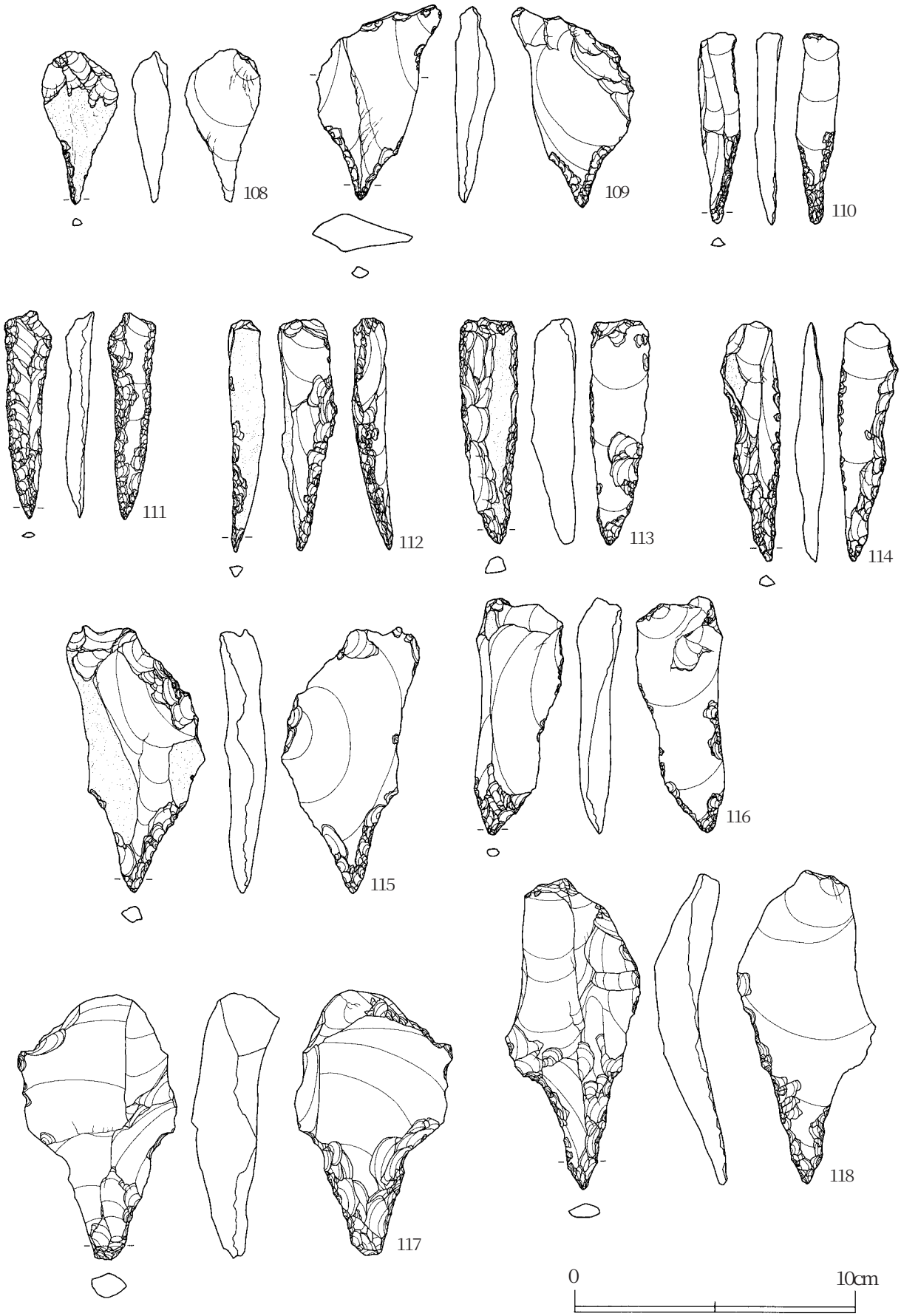
第61図　遺構外出土石器（４）



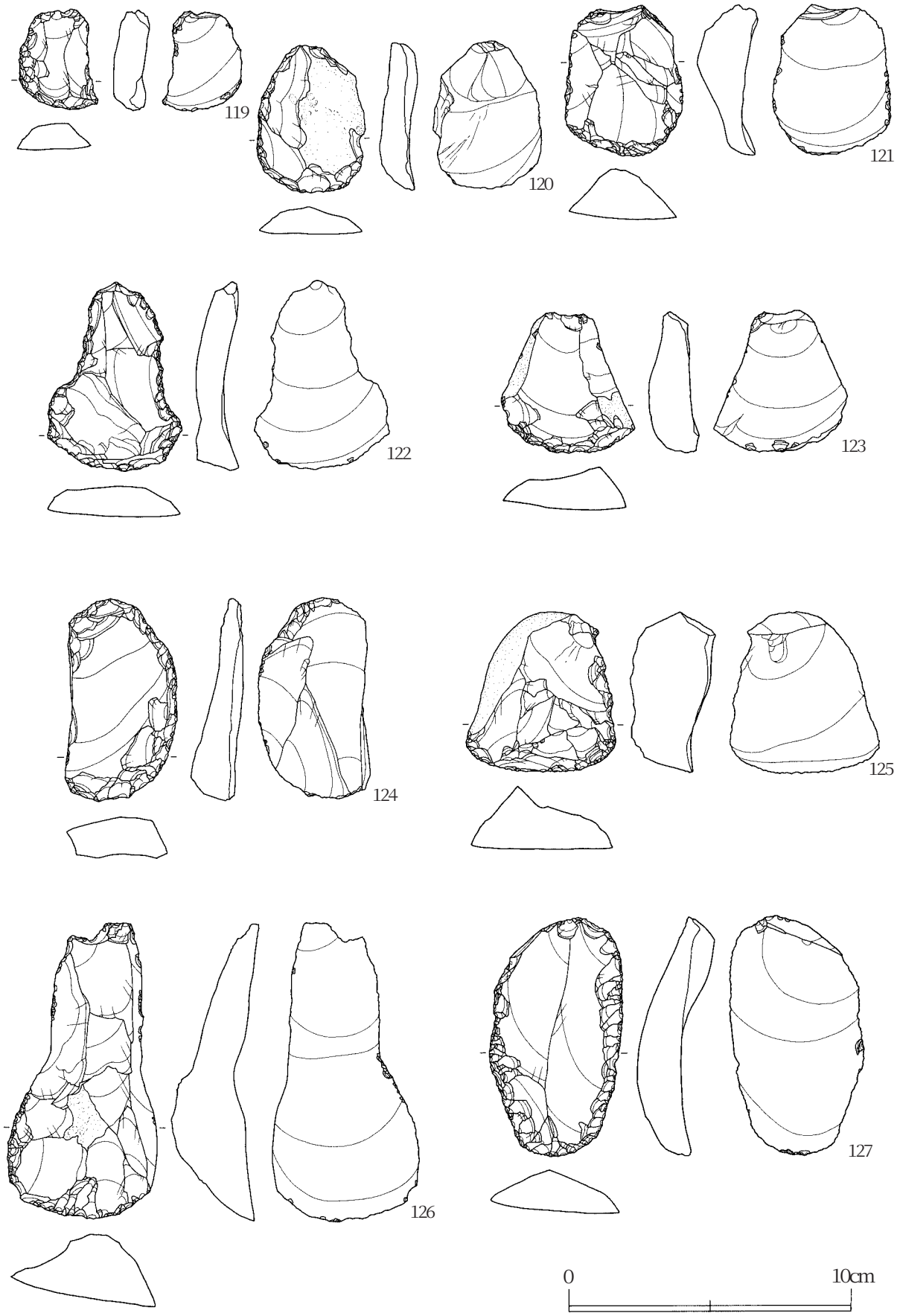
第62図　遺構外出土石器（５）

第63図　遺構外出土石器（６）

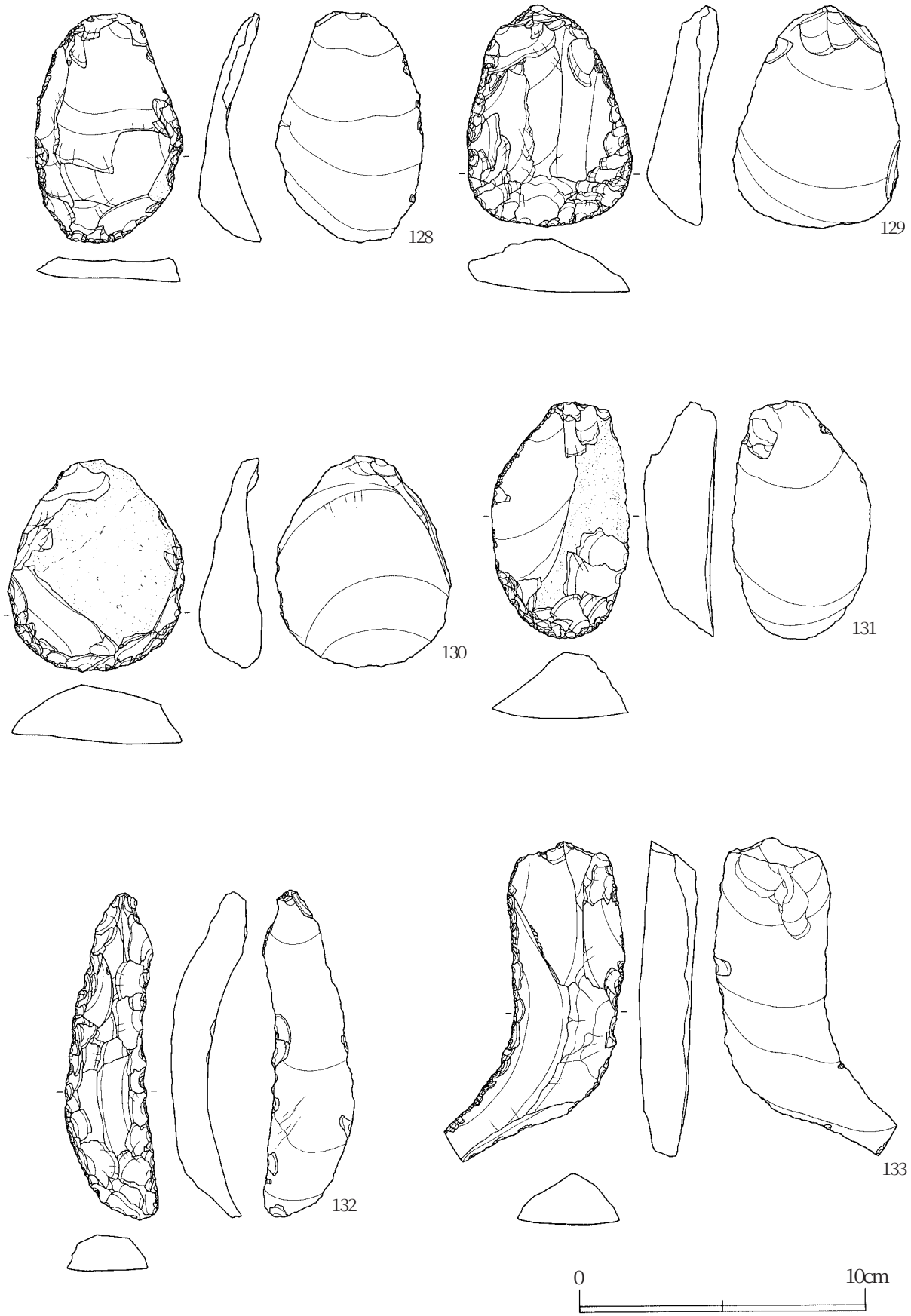
第64図　遺構外出土石器（７）



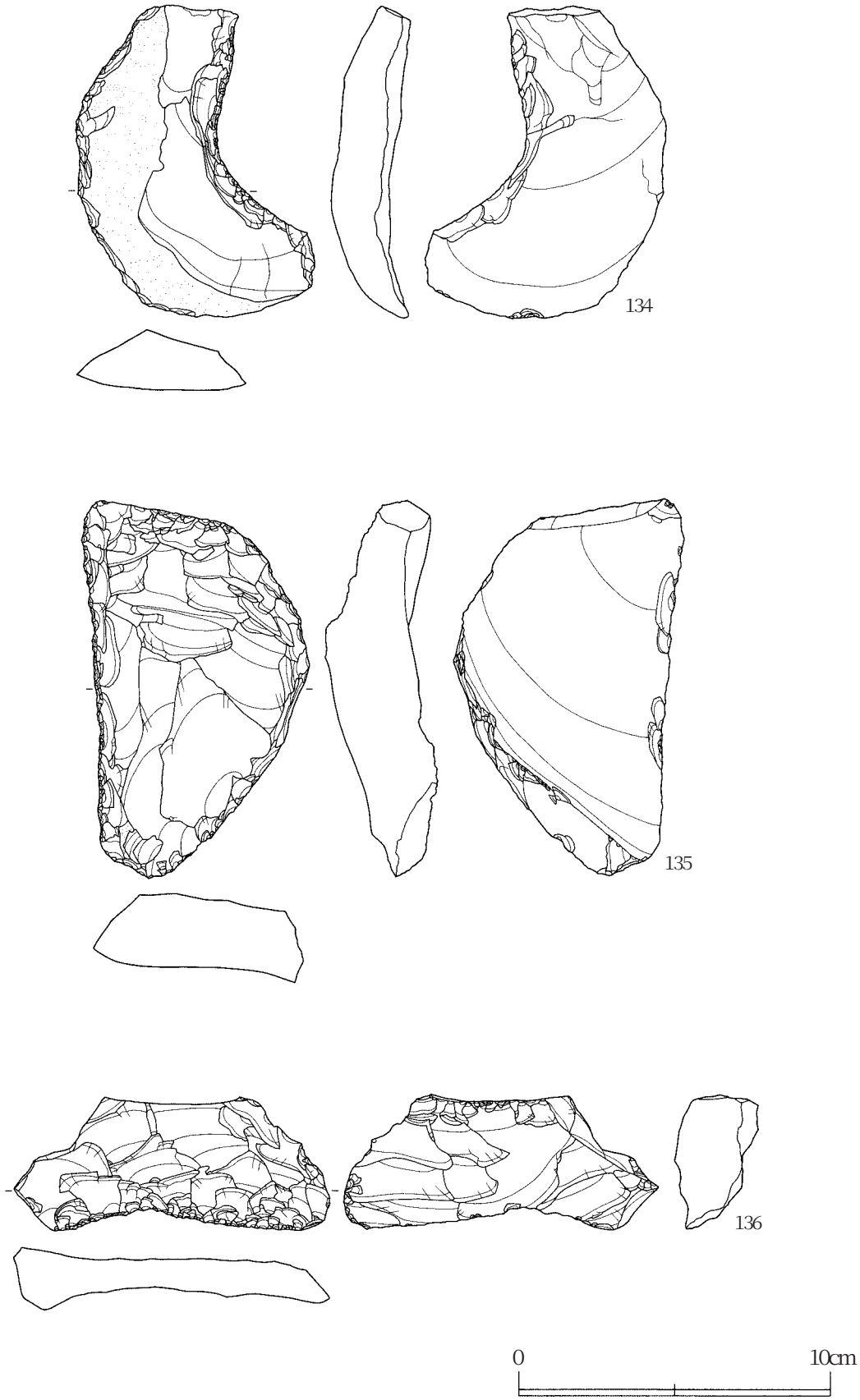
第65図　遺構外出土石器（８）



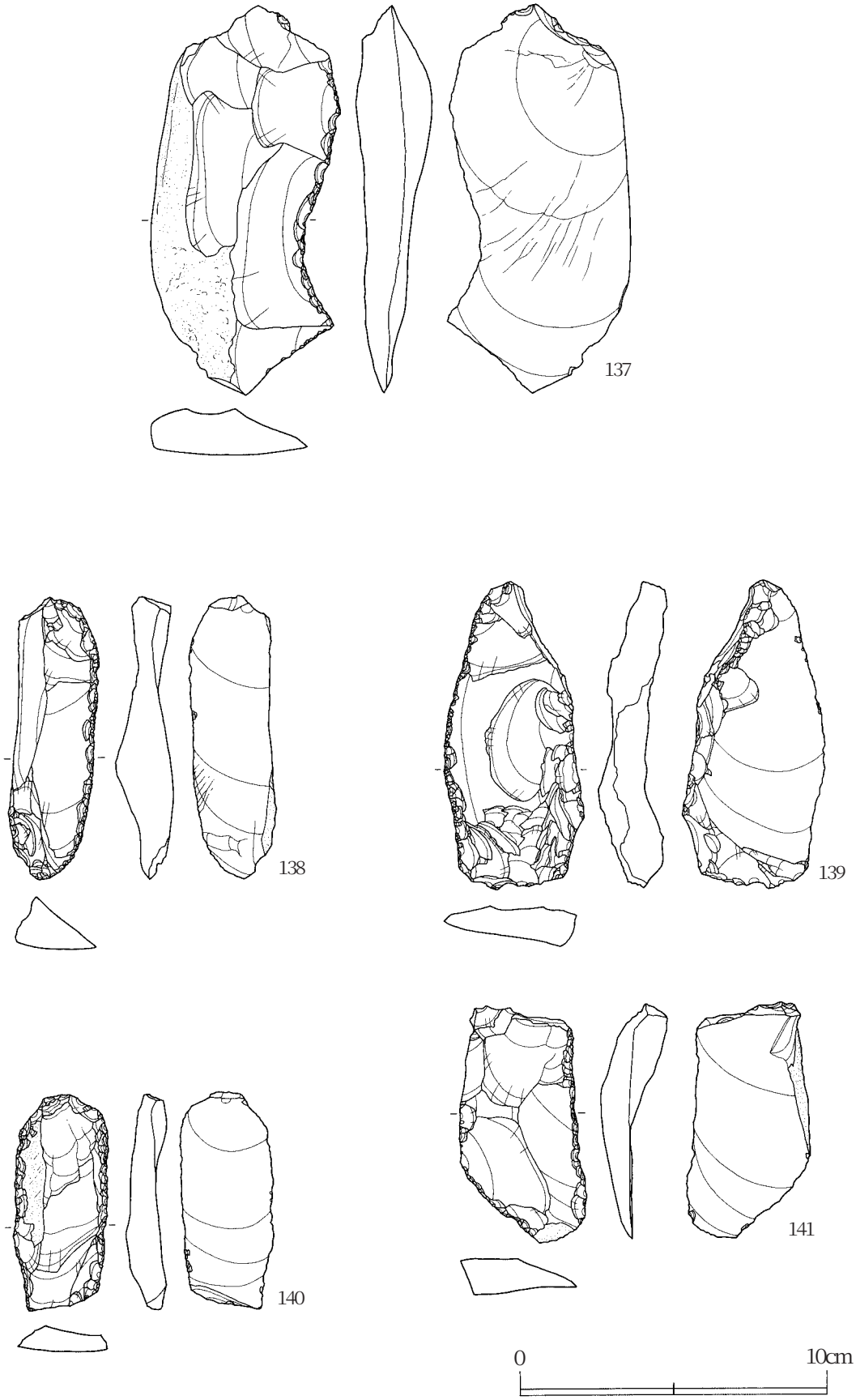
第66図　遺構外出土石器（９）



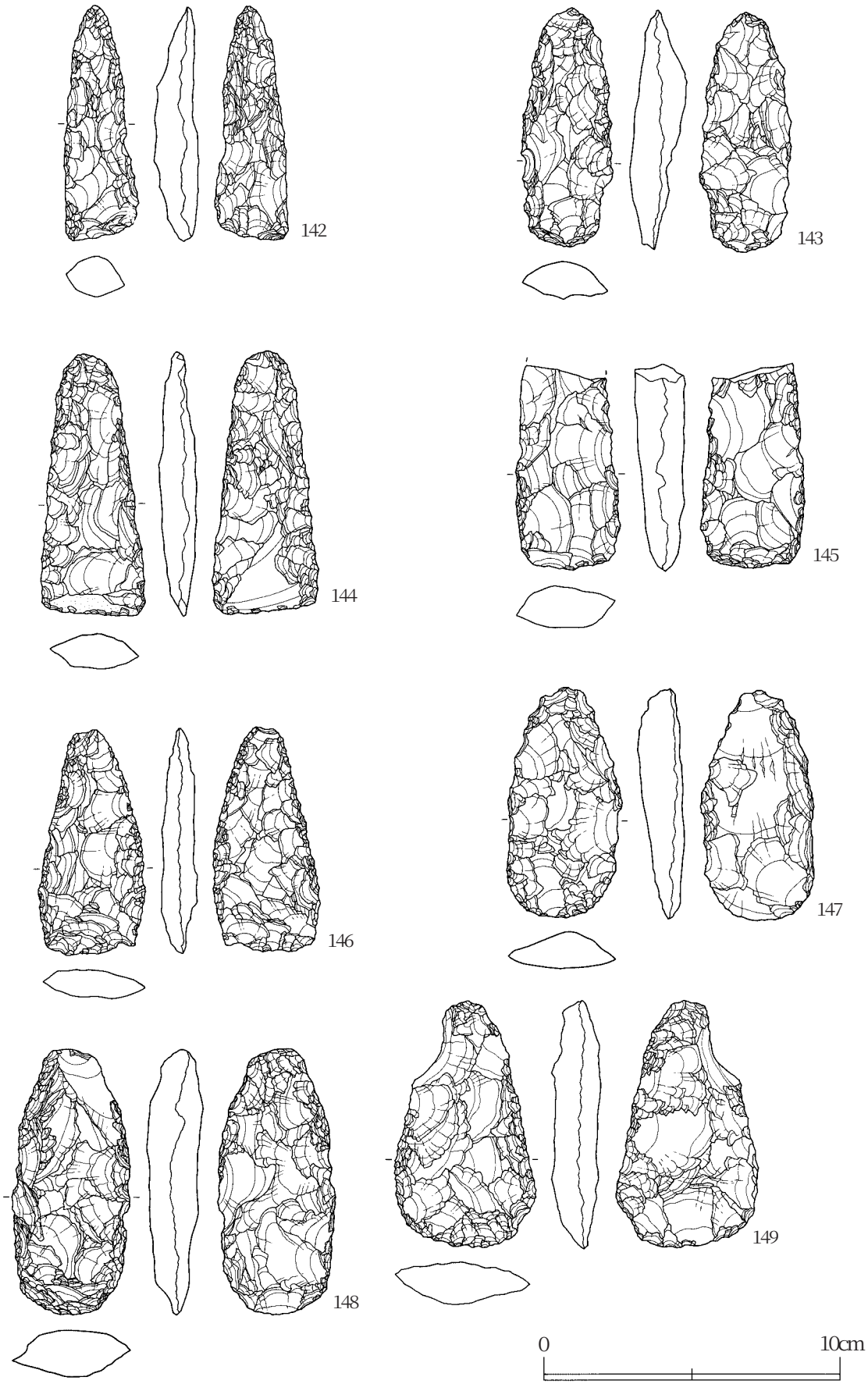
第67図　遺構外出土石器（10）



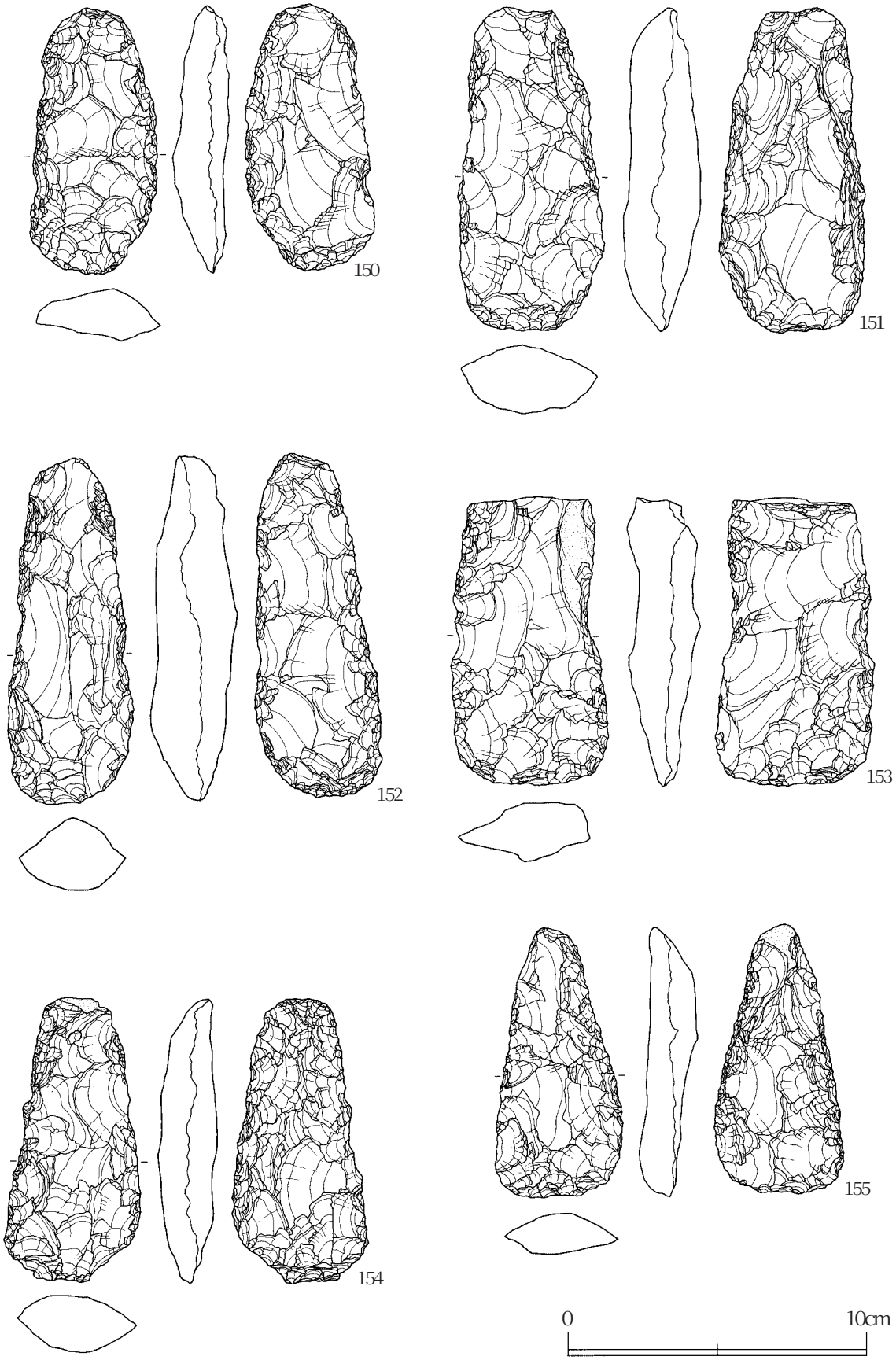
第68図　遺構外出土石器（11）



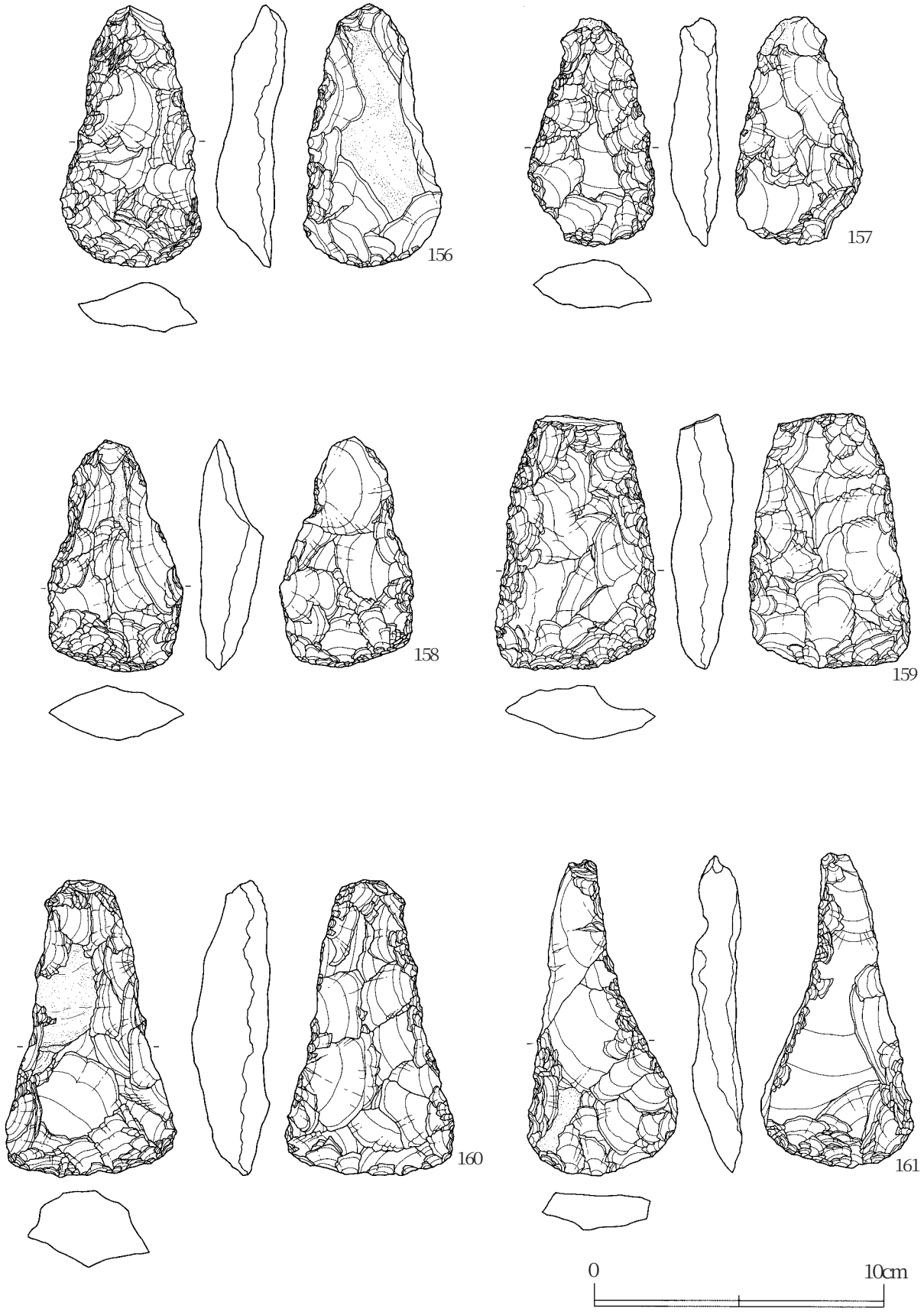
第69図　遺構外出土石器（12）



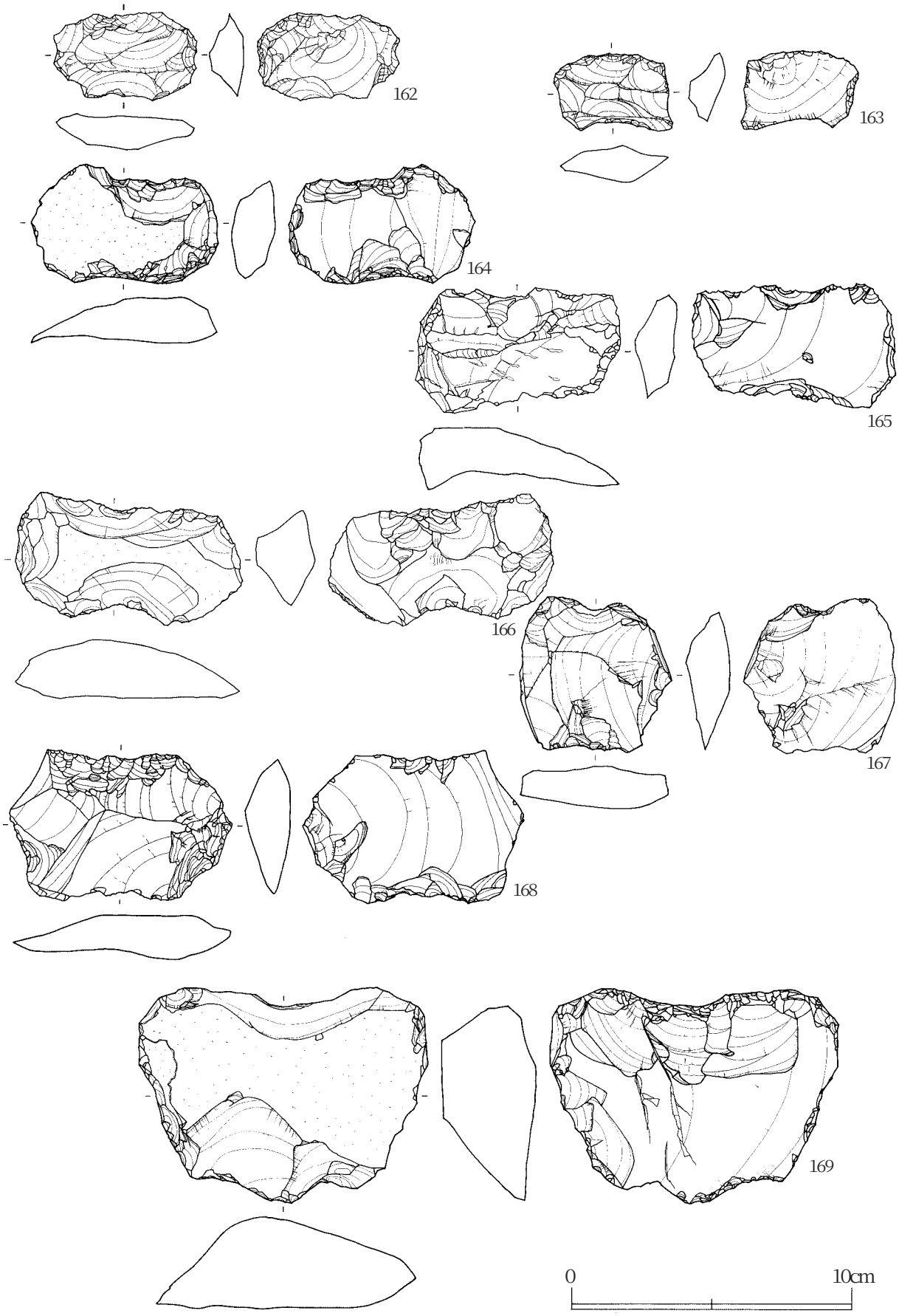
第70図　遺構外出土石器（13）



第71図　遺構外出土石器（14）

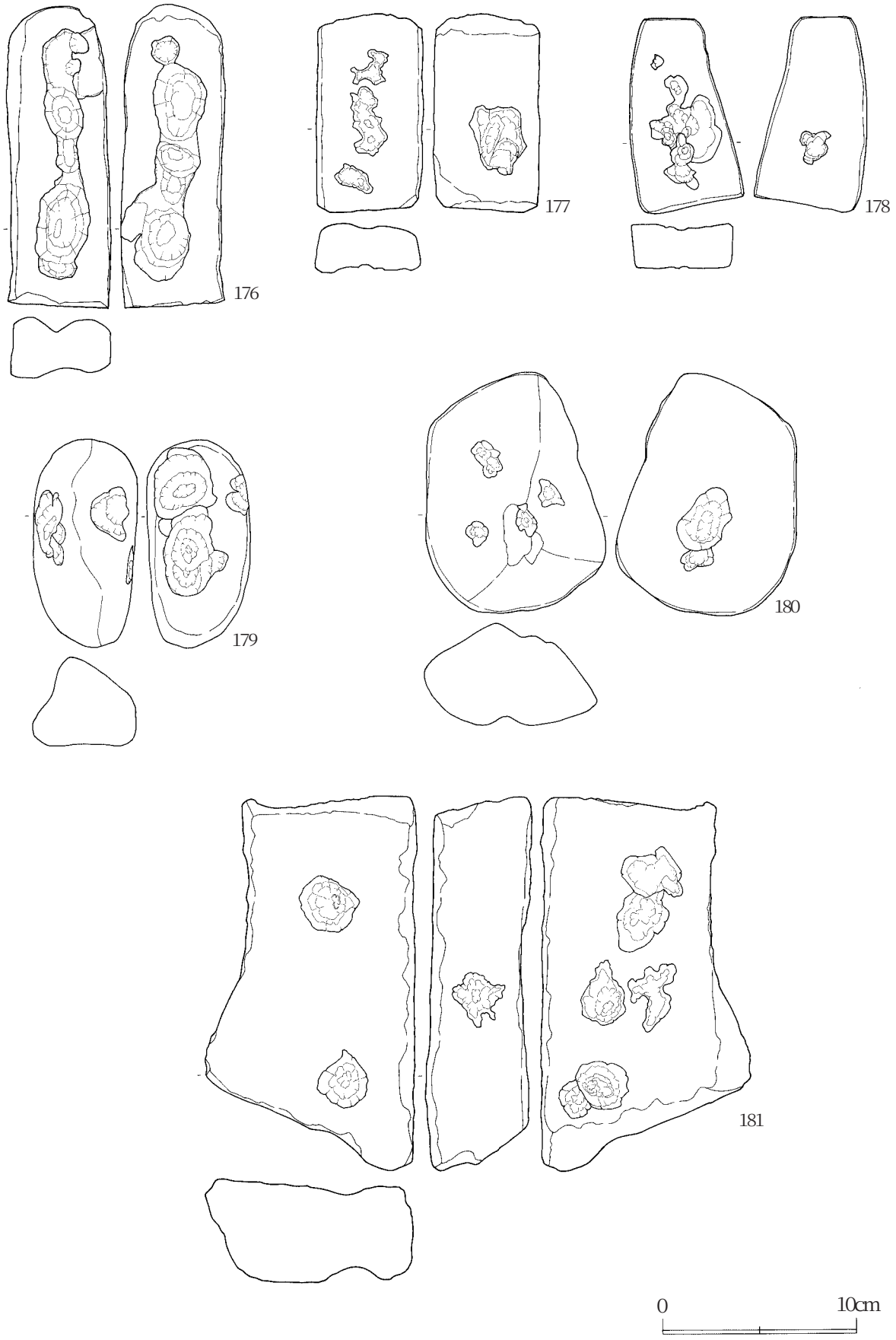


第72図　遺構外出土石器（15）

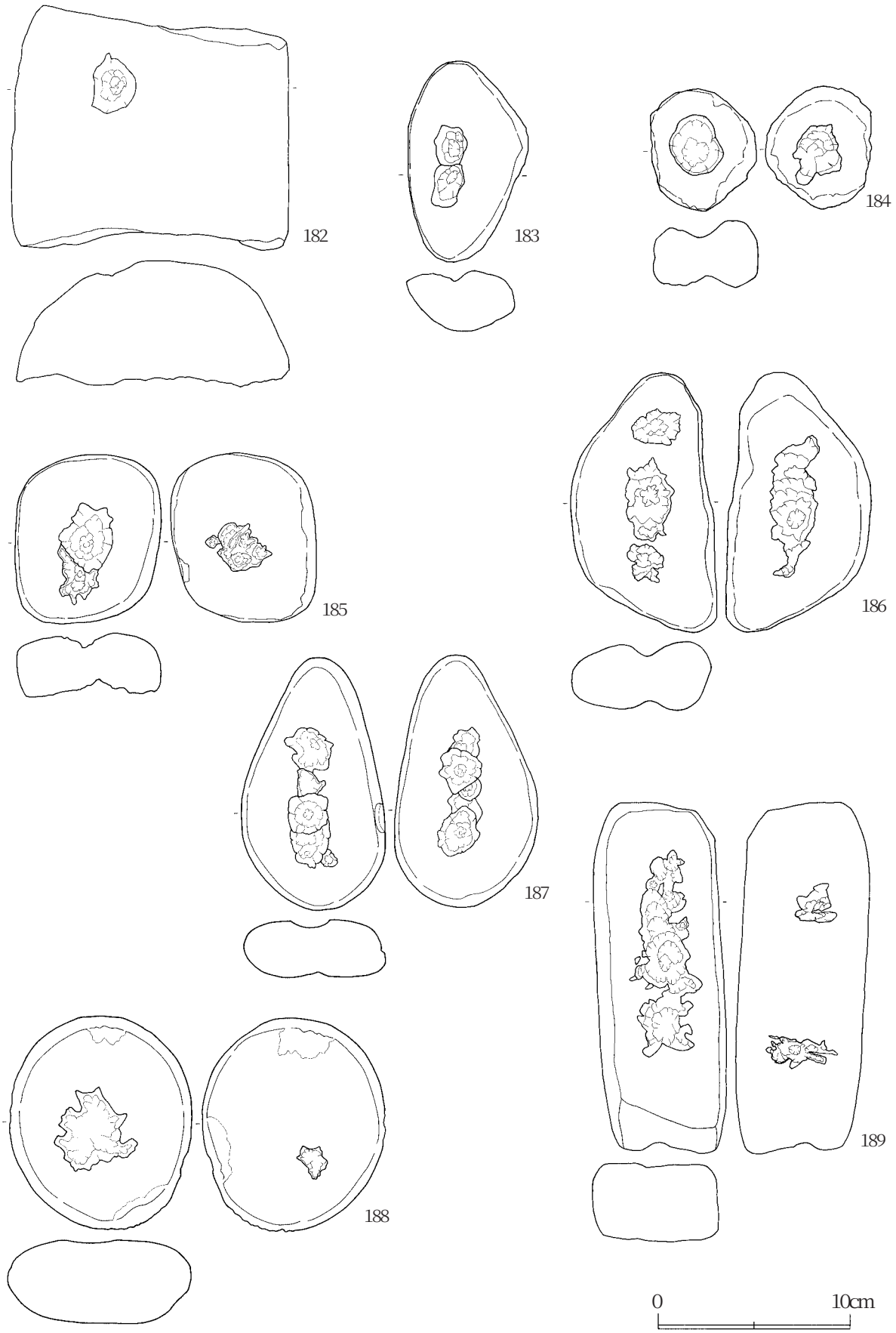


第73図　遺構外出土石器（16）

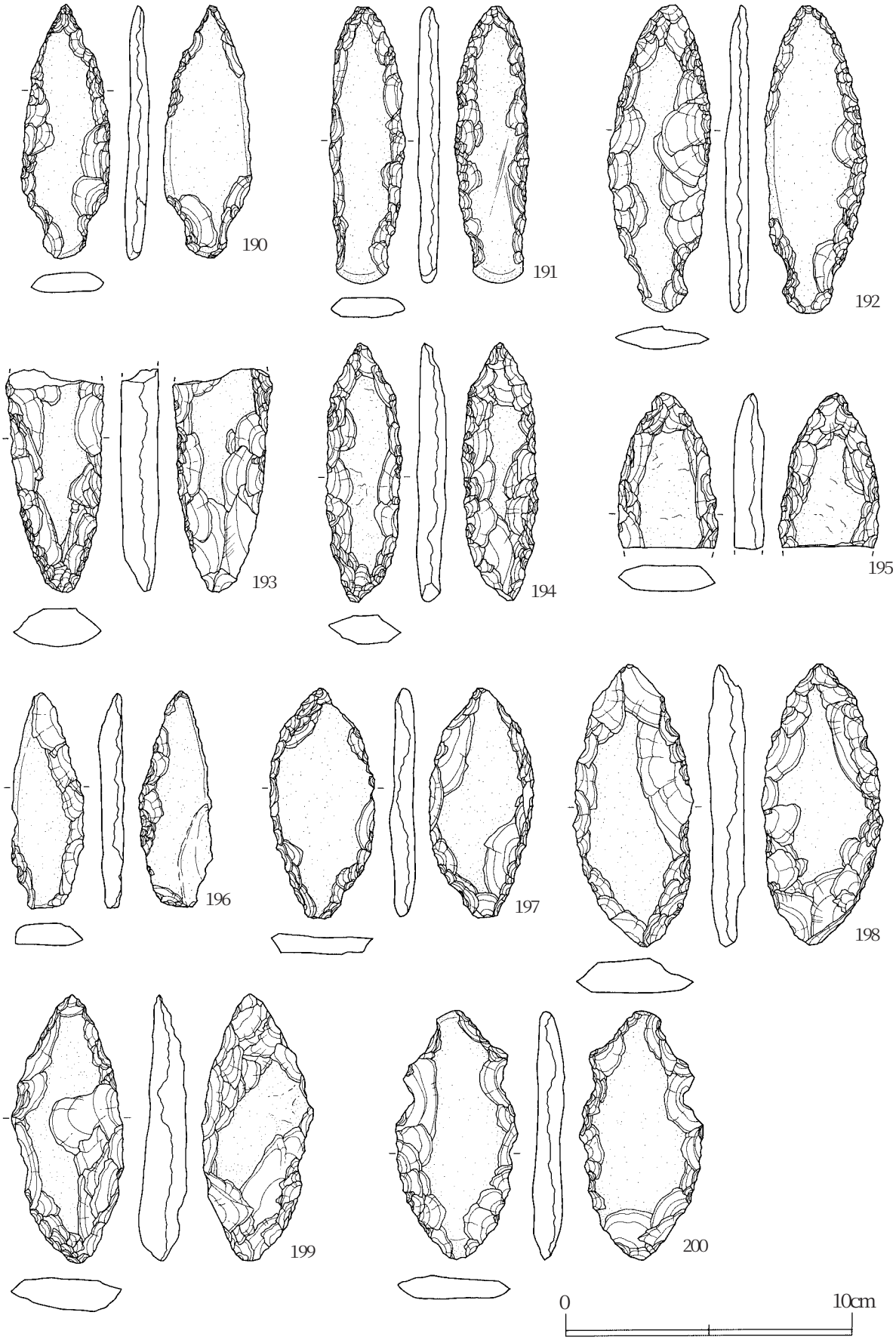
第74図　遺構外出土石器（17）



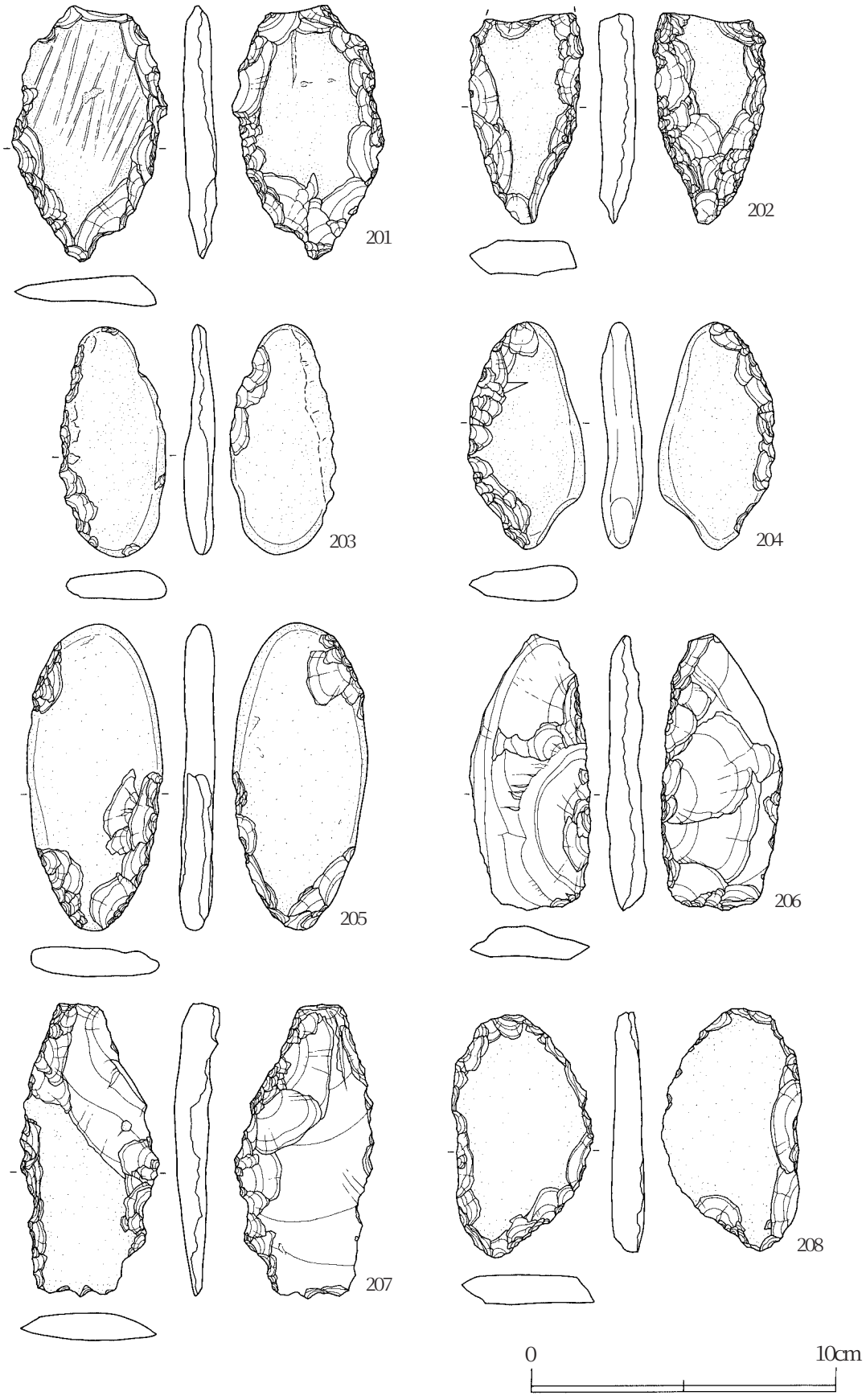
第75図　遺構外出土石器（18）



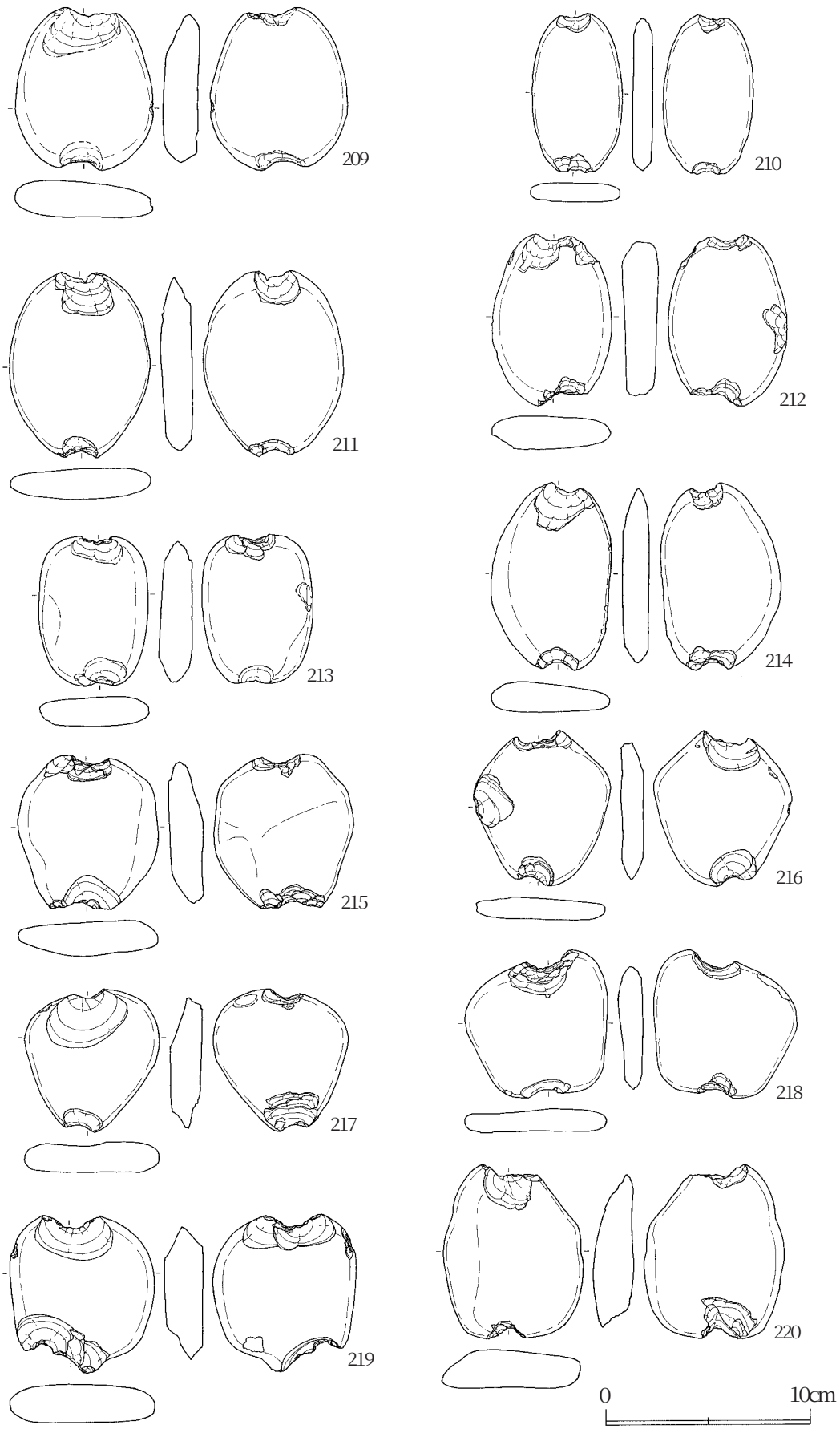
第76図　遺構外出土石器（19）



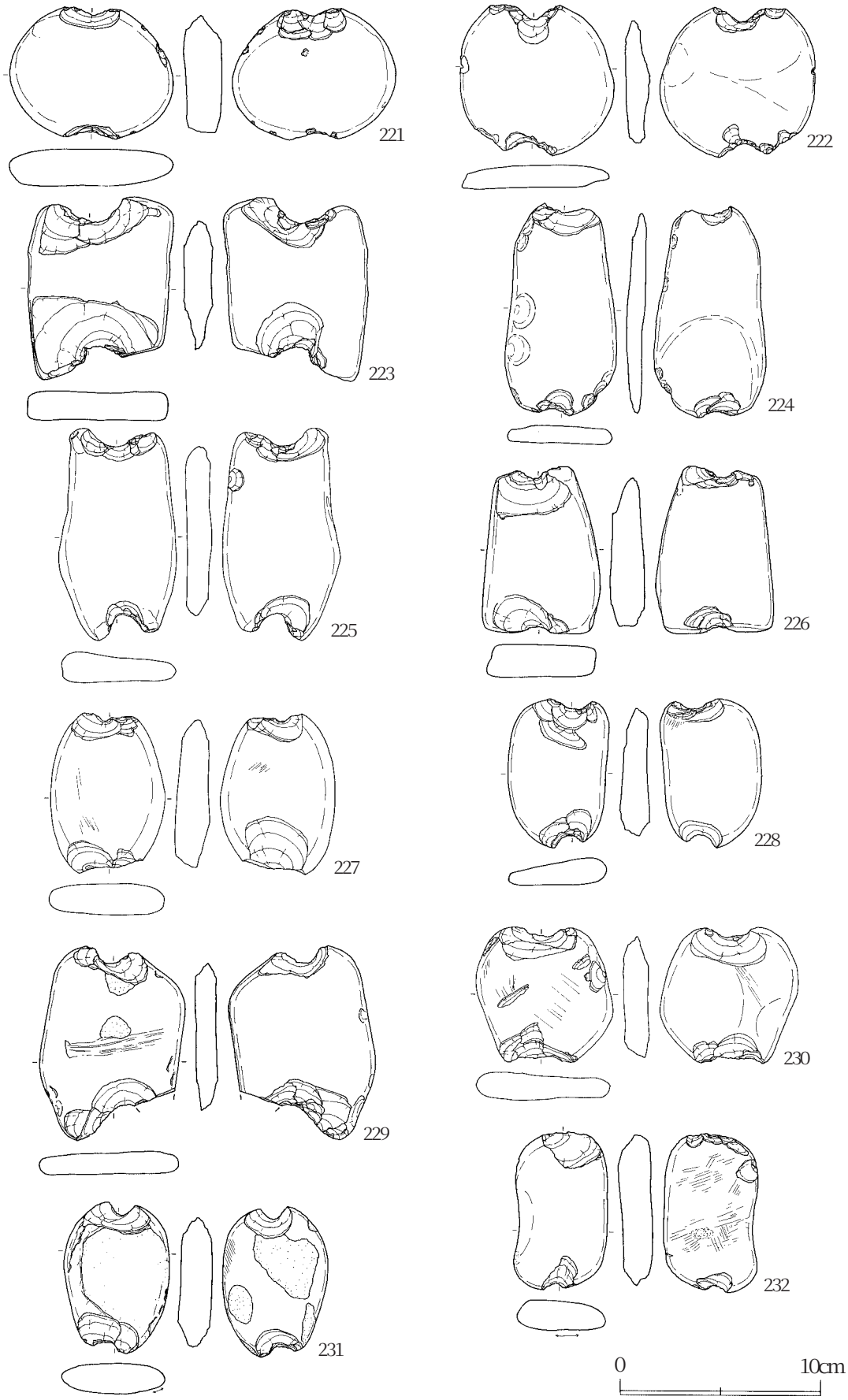
第77図　遺構外出土石器（20）



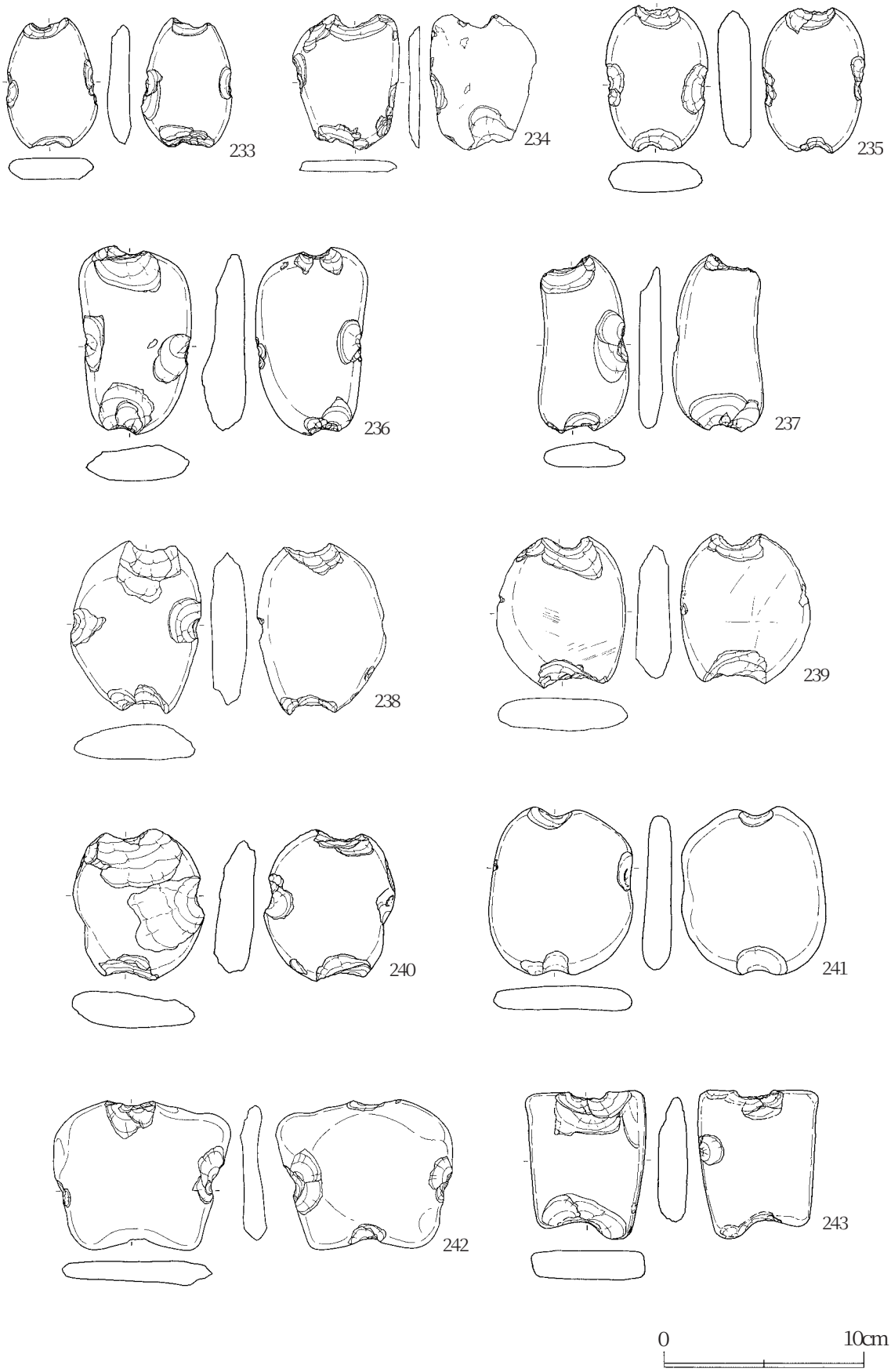
第78図　遺構外出土石器（21）



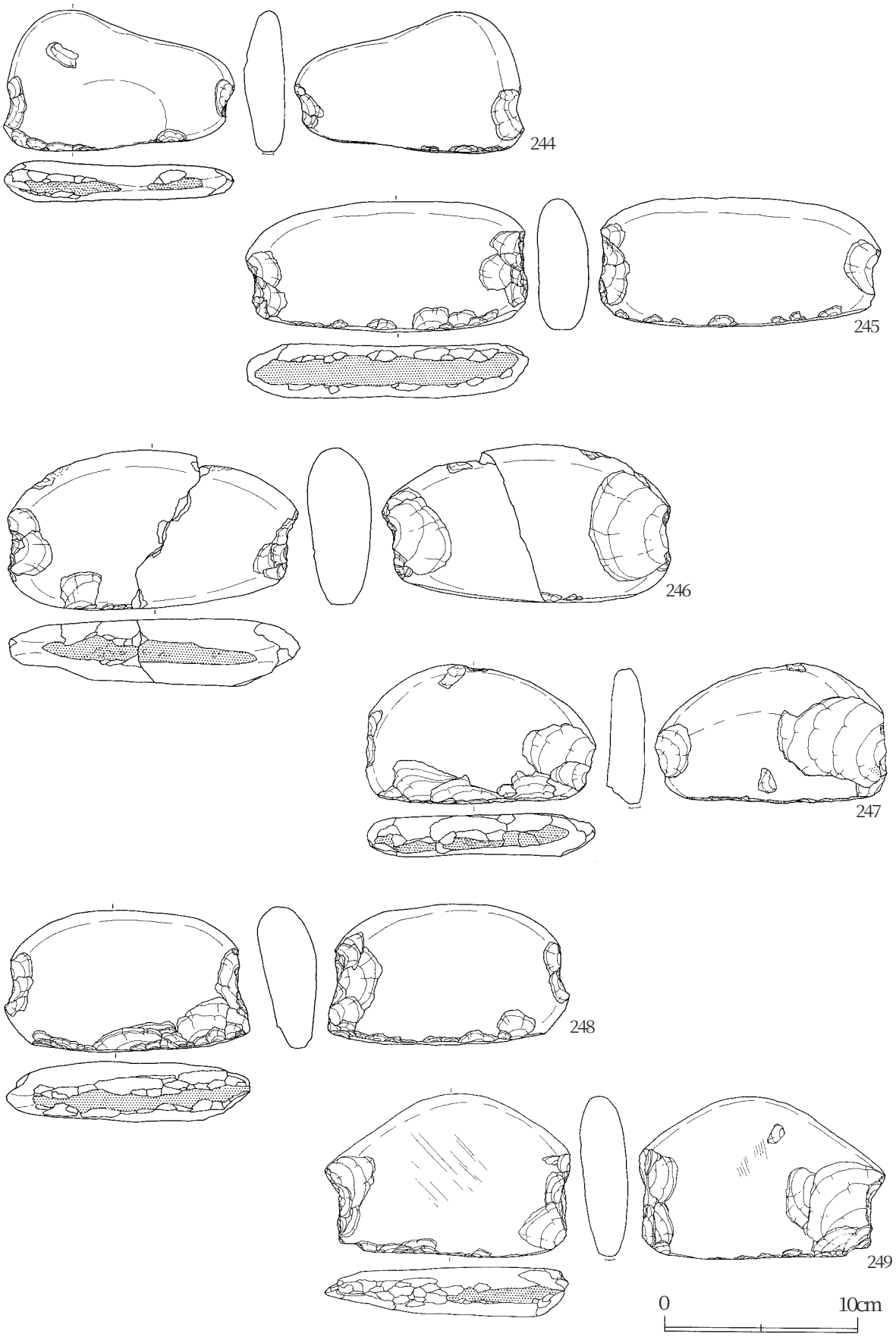
第79図　遺構外出土石器（22）



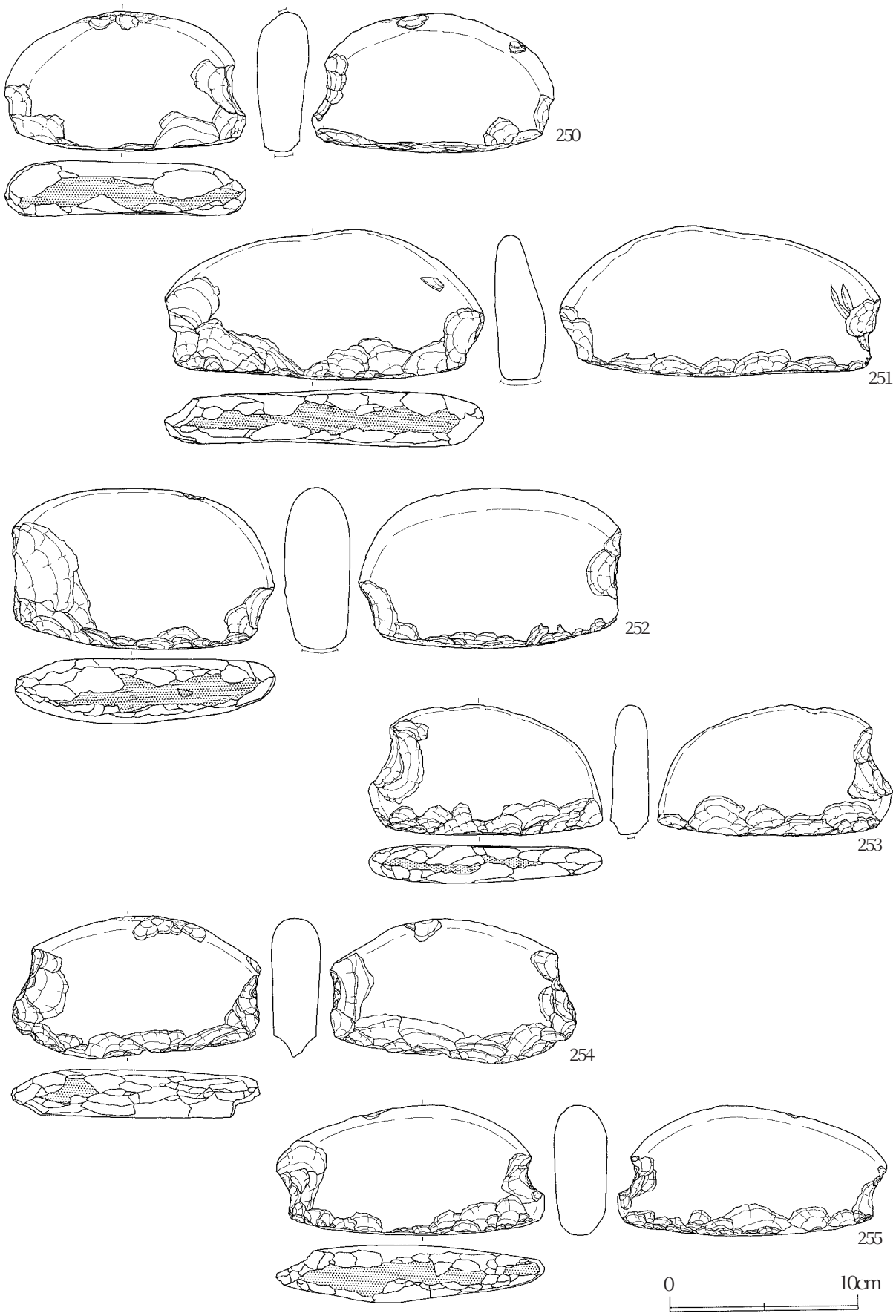
第80図　遺構外出土石器（23）



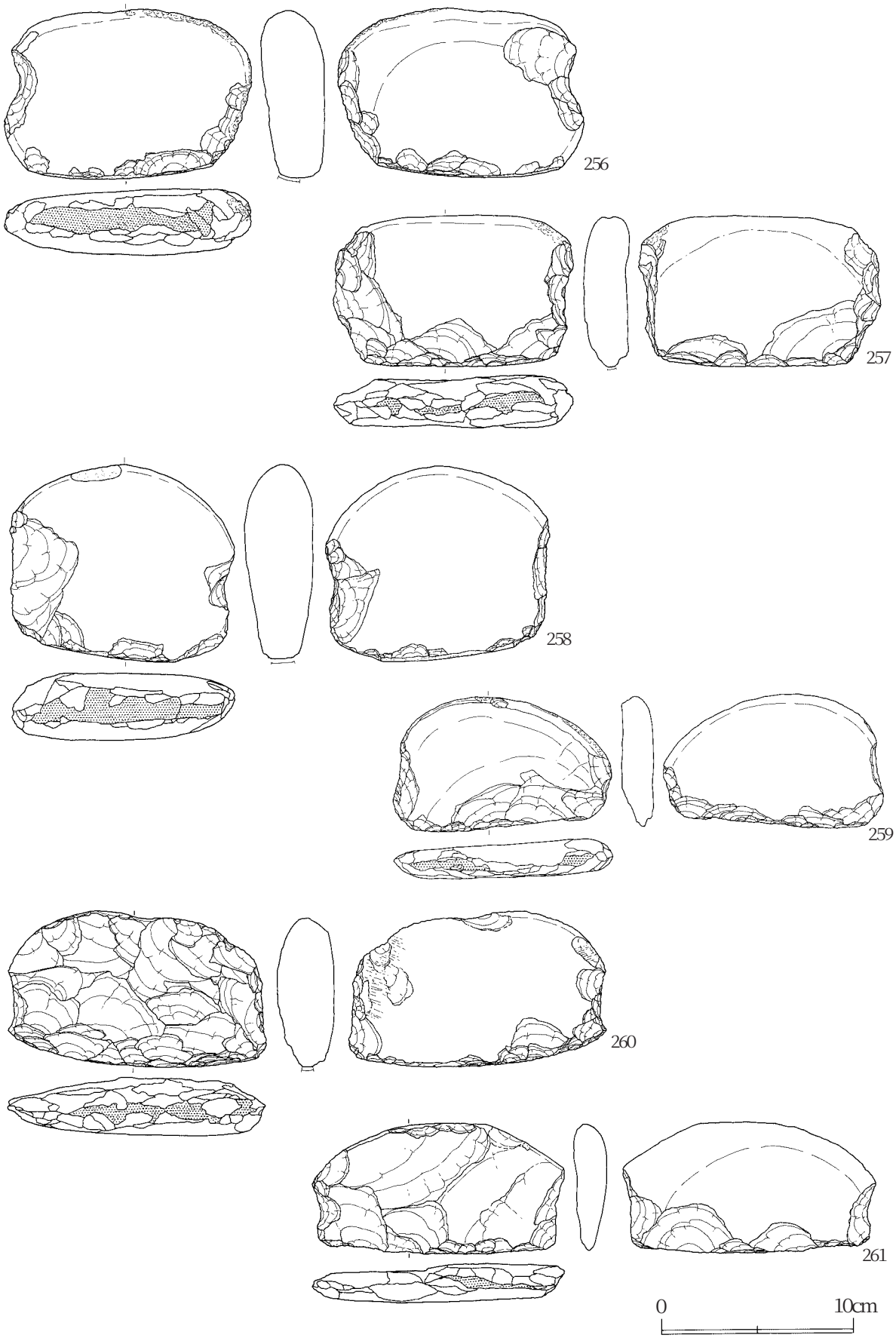
第81図　遺構外出土石器（24）



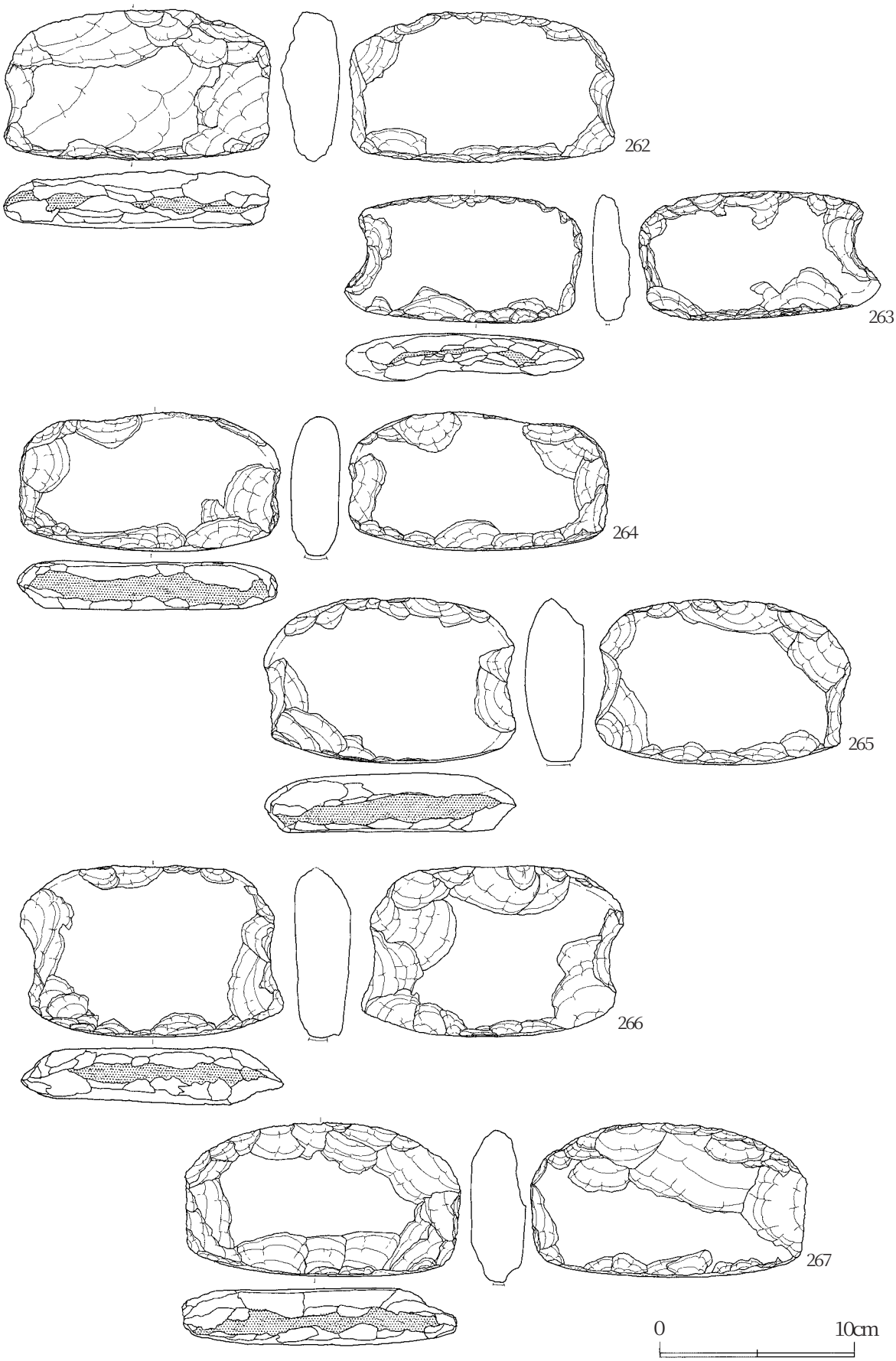
第82図　遺構外出土石器（25）



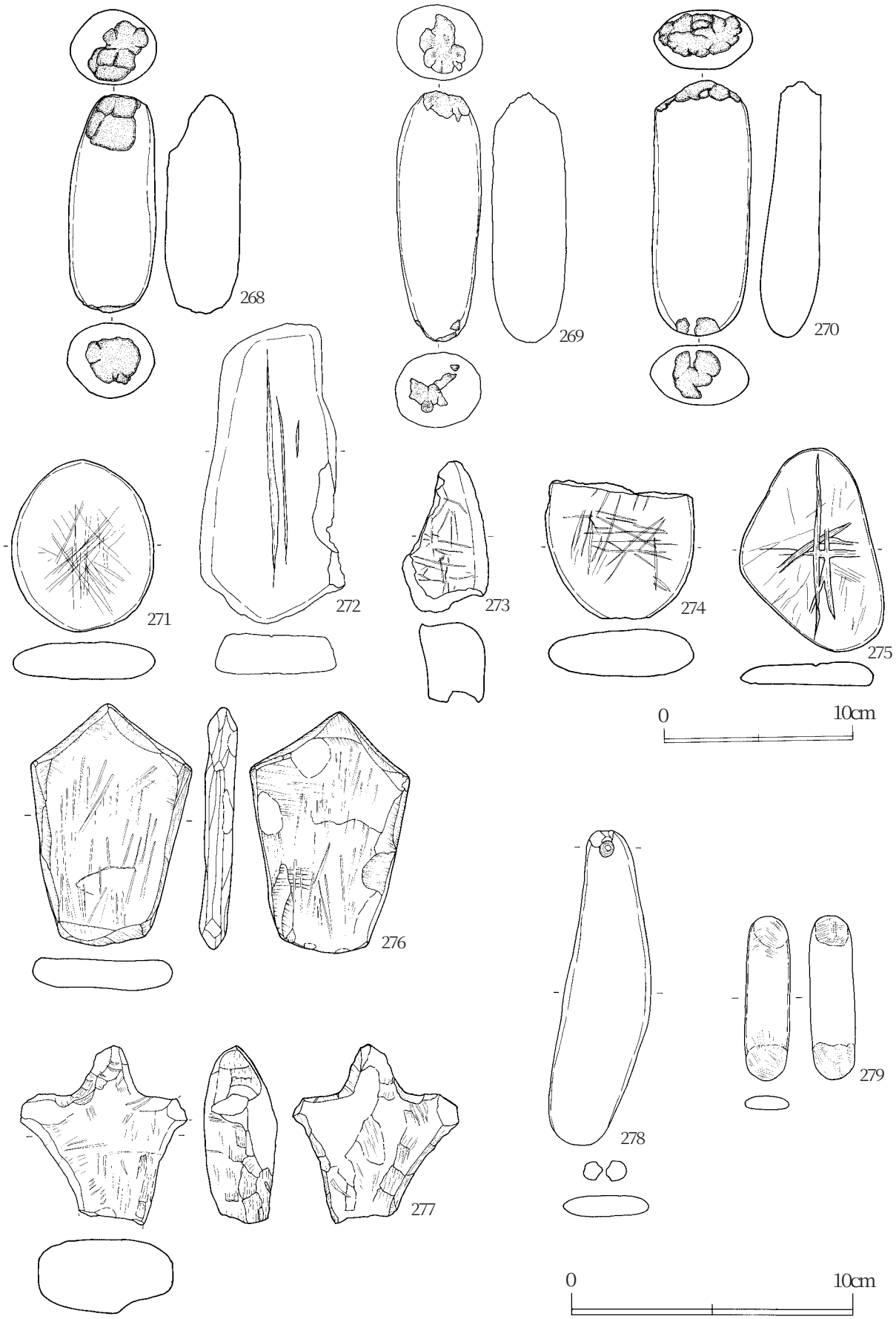
第83図　遺構外出土石器（26）



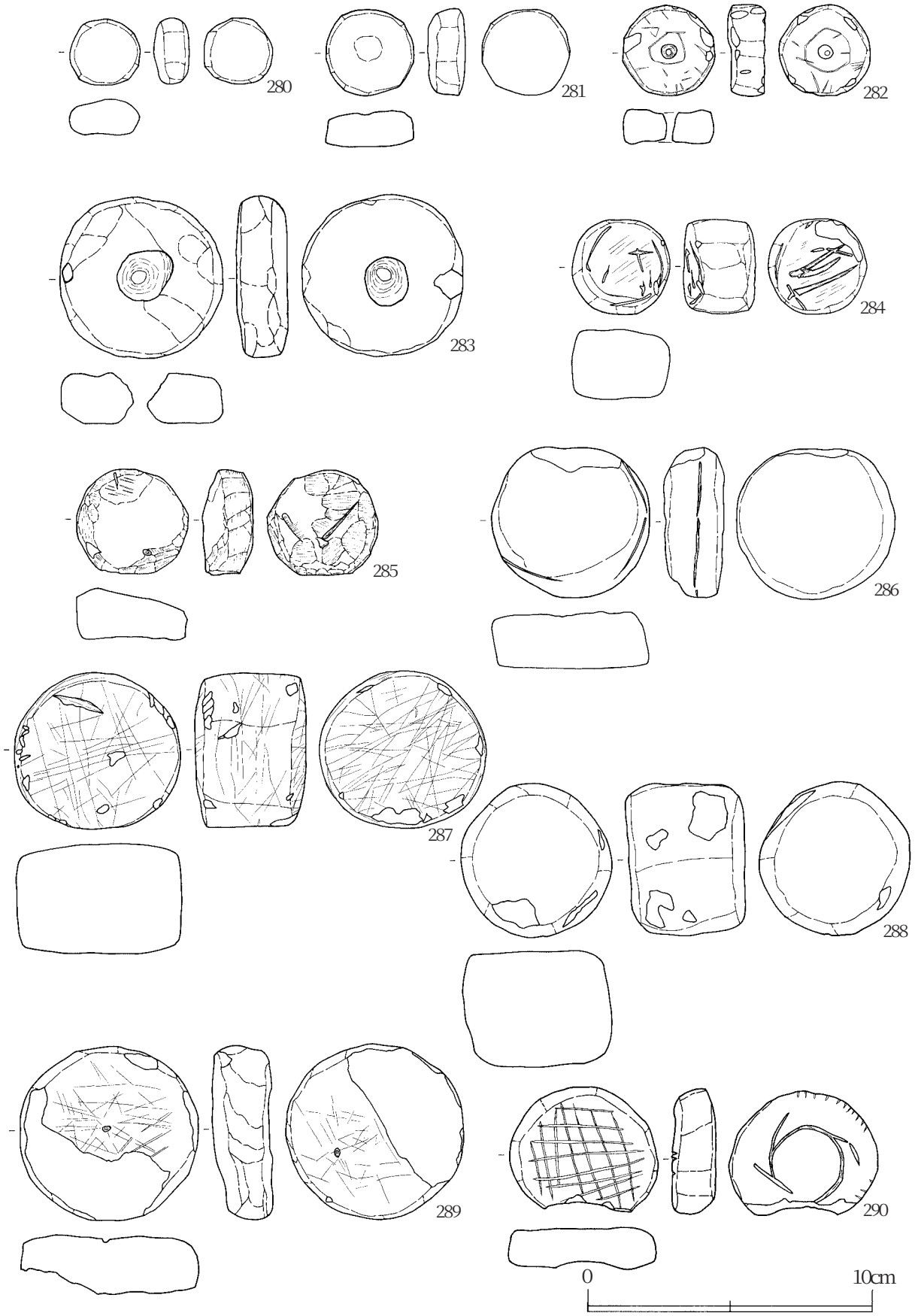
第84図　遺構外出土石器（27）



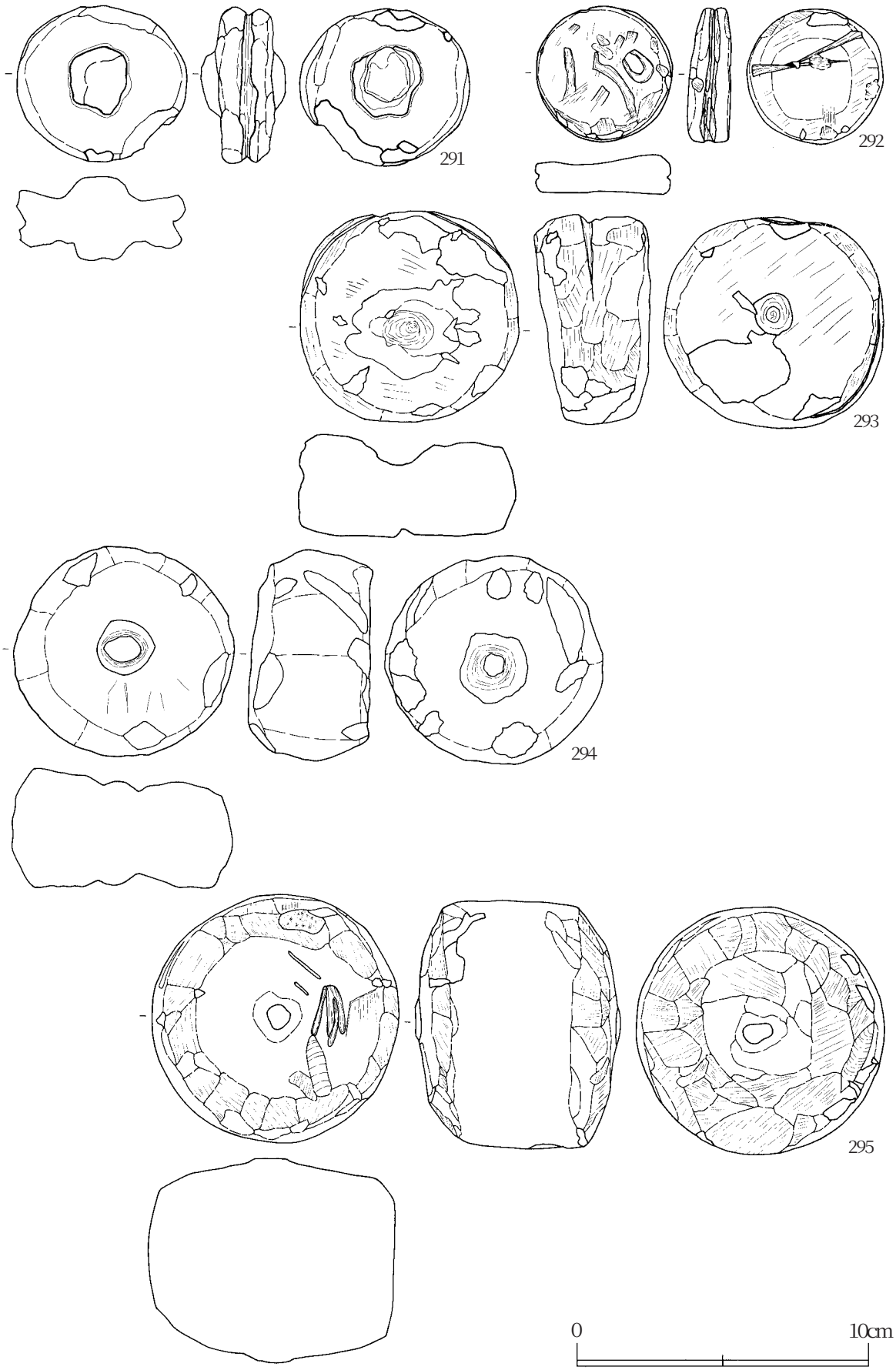
第85図　遺構外出土石器（28）



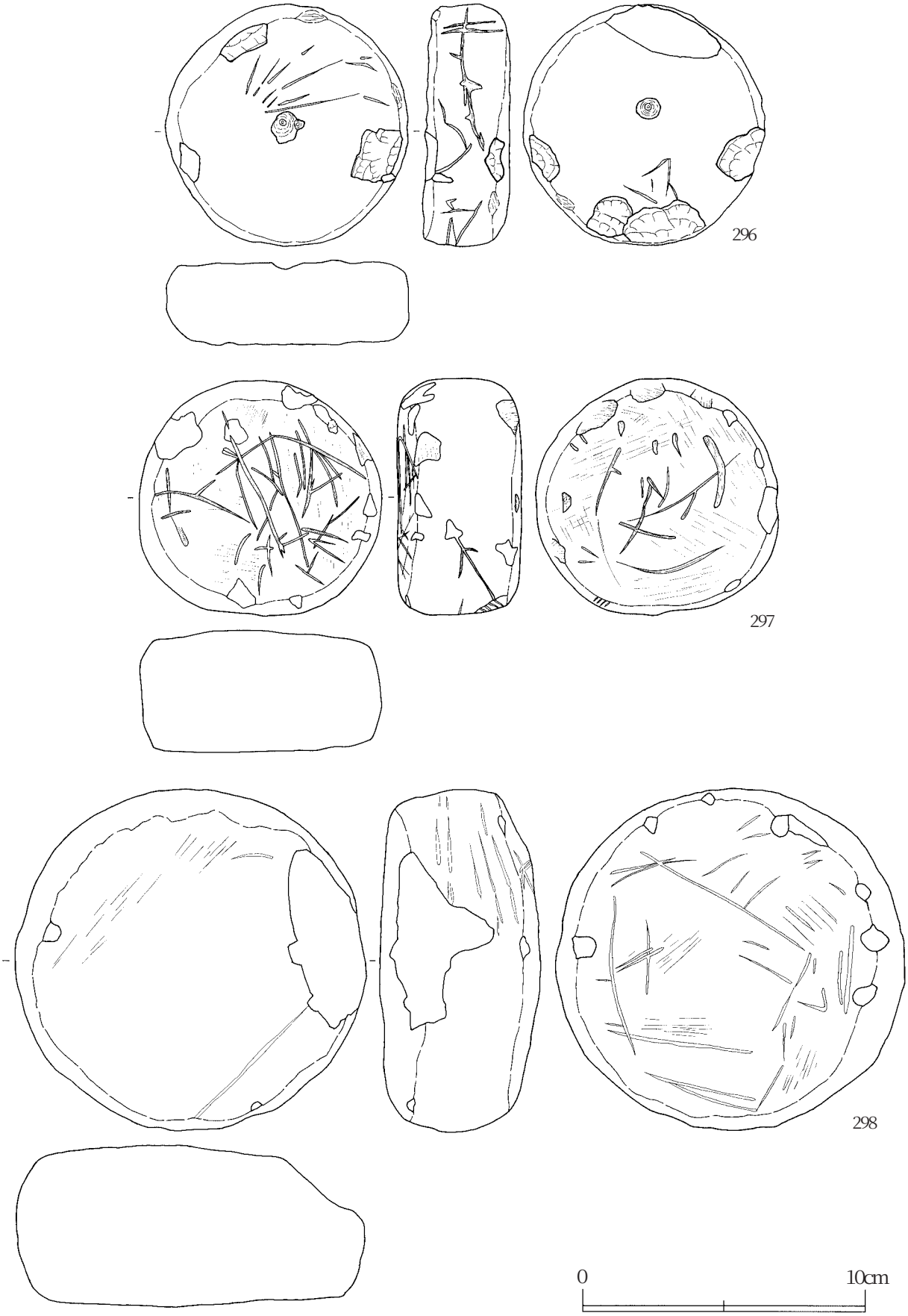
第86図　遺構外出土石器（29）・石製品（１）



第87図　遺構外出土石製品（２）



第88図　遺構外出土石製品（３）



第89図　遺構外出土石製品（４）

第３節　古代の遺構と遺物

ここでは、古代以降につくられた可能性のある遺構も含めて扱った。

１．遺構と出土遺物

（１）掘立柱建物跡

ＳＢ28（第90図、図版18）

位置：ＭＥ27～29、ＭＦ28～30グリッド

規模：北東－南西7.9m、北西－南東8.0m

北東隅の柱穴は木の根による撹乱のため、確認することができなかったが16基の柱穴による総柱の掘立柱建物跡と考えられる。柱穴は15基検出されたが、中心に位置する４本の柱穴が他より大きいのが特徴である。まわりの柱穴の直径が40㎝前後であるのに対し、これら４基の柱穴は70㎝前後である。Ｐ３からは根固めに使用したと考えられる円礫が多く出土した。Ｐ７から出土した炭化物の放射性炭素年代測定ではＢＰ840という年代が得られている。

（２）土坑

ＳＫ27（第91図、図版19）

位置：MH26グリッド

規模：長軸（北東－南西）1.1m、短軸（北西－南東）0.7m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は２重底で西側が一段深くなっている。覆土の観察から、外側の浅い掘り込み（ａ）と中心部の深い掘り込み（ｂ）の切り合いと判断した。新旧関係はｂが新しくａが古い。１層から石錘５（未完成２点）点、磨製石斧片１点、剥片、礫等が出土した。遺構の性格は不明であるが、一次使用の後、遺構の埋没過程で石器等を廃棄したものと考える。

ＳＫ35（第91図、図版19）

位置：ＭＦ27グリッド

規模：長軸（北東－南西）1.12m、短軸（北西－南東）0.98m

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は不明瞭である。覆土は自然堆積と考えられる。壁際から石錘、底面付近から剥片や割れた礫などが多く出土した。遺構の性格については、剥片や礫などを廃棄した遺構と考える。底面付近出土の炭化物の放射性炭素年代測定では、ＢＰ400という結果が得られている。

ＳＫ47（第91図、図版19）

位置：ＬＴ28グリッド

規模：径0.6mほどの円形

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は平で壁は急に立ち上がる。覆土の１層には炭化物が多く含まれていた。遺構の時期や性格は不明であるが、１層、２層の堆積状態から柱穴の可能性もある。

ＳＫ57（第91図、図版19）

位置：ＭＣ・ＭＤ40・41グリッド

規模：径0.85mほどの円形

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。一部撹乱の影響受けている。底面は平で、壁は緩い角度で立ち上がる。遺物は出土しなかった。時期や性格については不明である。

ＳＫ90（第91図、図版19）

位置：ＭＢ59グリッド

規模：径約0.5mの円形

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面と壁の境界は不明瞭で、壁は緩い角度で立ち上がる。覆土は自然堆積であると考える。遺物は出土しなかった。時期や性格については不明である。

ＳＫ91（第91図、図版19）

位置：ＭＢ59グリッド

規模：径約0.7mの円形

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ平で、南側に一段深いピット状の掘り込みがある。覆土は人為堆積の可能性がある。遺物は、鉄滓１点、被熱礫１点が出土した。時期は古代以降と考えられるが性格については不明である。

ＳＫ93（第91図、図版19）

位置：ＭＢ58グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.85m、短軸（南西－北東）0.76m

Ⅵ層で黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面には凹凸があり、壁の立ち上がりの角度は場所によって異なる。遺物は出土しなかった。時期や性格については不明である。

（３）炭窯

ＳＷ01（第92図、図版20）

位置：ＭＡ36・37、ＭＢ36・37グリッド

規模：長軸（北北東－南南東）1.7m、短軸（西北西－東南東）1.63m

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面はほぼ円形で平坦である。壁は急な角度で立ち上がる。底面は被熱した状態で、底面から３層にかけて多量の炭化材が出土した。覆土は１・２層が自然堆積層、３～５層が遺構の機能に伴い形成された層と考える。２層には地山土がブロック状に含まれるが、遺構構築時に掘り出された地山土が再堆積したものと考える。３層は炭化材を母材する層である。出土遺物は炭化材の他、剥片（１点）、被熱礫（２点）がある。Ｐ１と切り合うが、当遺構の方が新しい。

遺構の性格については、底面の被熱や多量の炭化材の存在から炭窯としての機能を推測する。出土した炭化材の放射性炭素年代測定では、ＢＰ1050±50という結果が得られた。

ＳＷ28（第92図、図版20）

位置：ＭＩ30グリッド

規模：長軸（東－西）1.68m、短軸（北－南）1.18m

ＳＱ38の周囲に広がる黒褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。底面は起伏があり、壁は緩い角度で立ち上がる。遺構の性格については、２層には大量の炭化物を含むこと、底面が被熱していること等から炭窯としての機能を推測する。放射性炭素年代測定ではＢＰ1010という結果が得られている。

ＳＷ34（第92図、図版20）

位置：MH28グリッド

規模：径１mほどの円形

Ⅵ層で暗褐色土の落ち込みとして遺構の平面形を確認した。確認面からの掘り込みが浅いため、壁は不明瞭である。底面は部分的に被熱している。壁際（２層）から多量の炭化物が出土した。覆土は自然堆積と考えられる。遺構の性格については、多量の炭化物の存在から、炭窯としての機能を推測する。

ＳＷ41（第92図、図版20）

位置：MH29グリッド

規模：長軸（南－北）（0.83）m、短軸（東－西）（0.18）m

サブトレンチの断面（Ⅳ層）で炭化物の集中地点として確認した。確認時点でほとんどが消失していたため、全体の形は不明である。覆土からは多量の炭化物が出土しているため、遺構の性格については、炭窯としての機能を推測する。炭化物の放射性炭素年代測定では、ＢＰ1060という結果が得られた。

（４）集石遺構

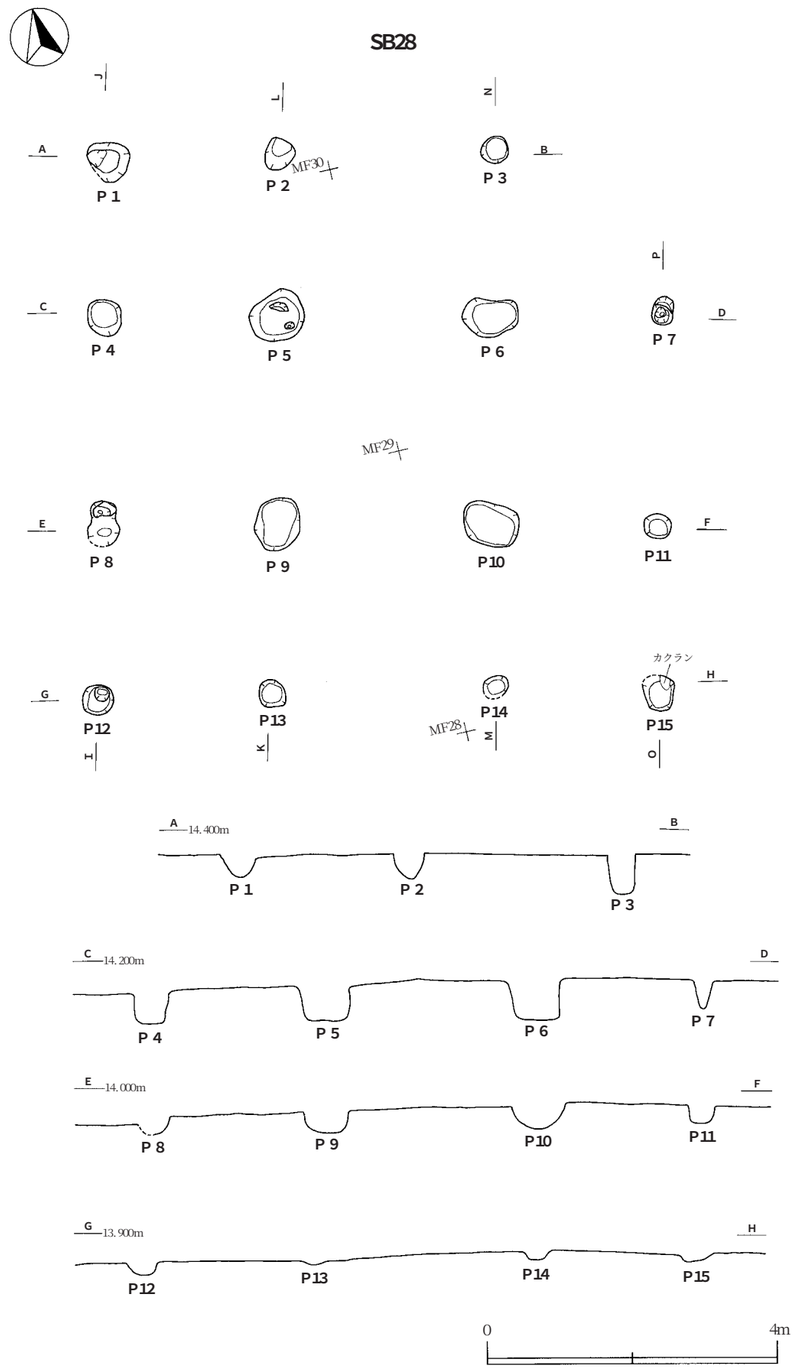
ＳＱとしたものは、全て集石遺構である。これらの遺構の特徴は、石錘や半円状扁平打製石器等の石器と礫が集積されていることである。このような遺構は４基確認したが、いずれも捨て場の下位斜面に位置する。このうち、ＳＱ38はＳＷ28の覆土の上に形成されている。ＳＷ28は炭焼き窯と判断した遺構で、放射性炭素年代測定法では古代の年代が与えられている。このため、ＳＱ38はこれより新しく古代以降の遺構といえる。他の集石遺構も同様な位置、特徴をもっていることから全て同じ時期につくられたものと判断した。性格については、穴を掘りこれらの石器や礫を廃棄したもののと推測するが掘り込みは確認することができなかった。そのため本来は土坑として扱わなければいけない遺構かもしれない。土坑として考えた場合、ＳＫ35のような遺構になると推測する。遺構形成の動機については耕作等で邪魔になる石を集めて廃棄したこと等が考えられる。なお、これらの遺構は、１．表土除去後の精査ではプランを確認することができなかったこと、２．遺物直上の堆積土がＩ層とは異なること、等の理由から近年のものではないと判断し、報告書に掲載することにしたものである。規模については遺物の広がりを遺構の大きさとして扱った。

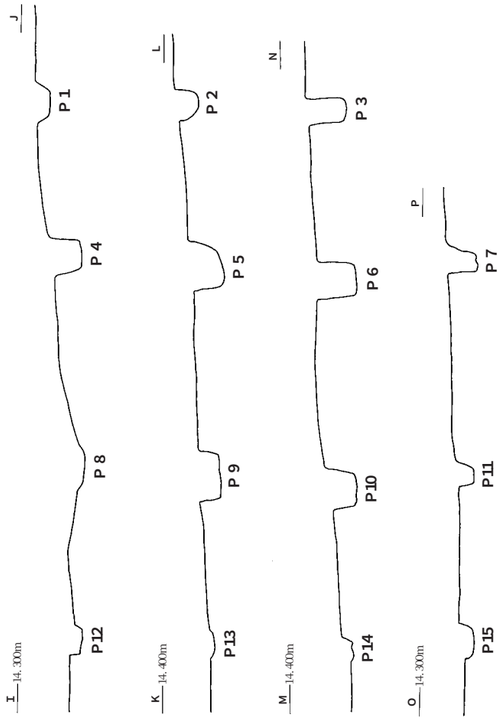
ＳＱ37（第91図、図版19）

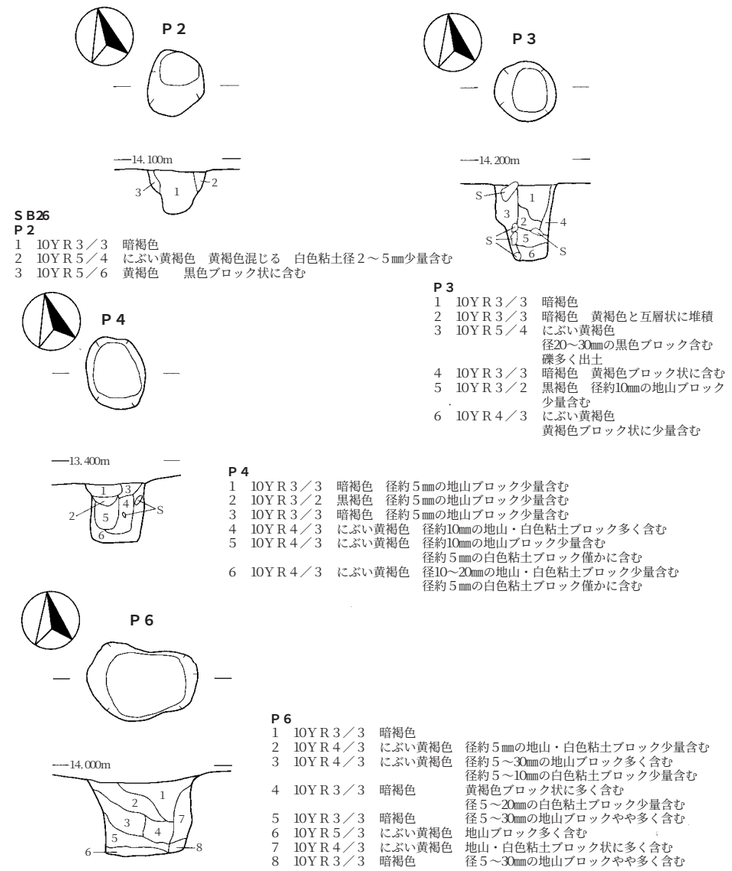
位置：ＭＪ30グリッド

規模：長軸（西北西－東南東）0.63m、（北北東－南南西）0.37m

Ⅳ層で確認した。遺物には半円状扁平打製石器、石錘、掻器、石核、剥片、礫等がある。





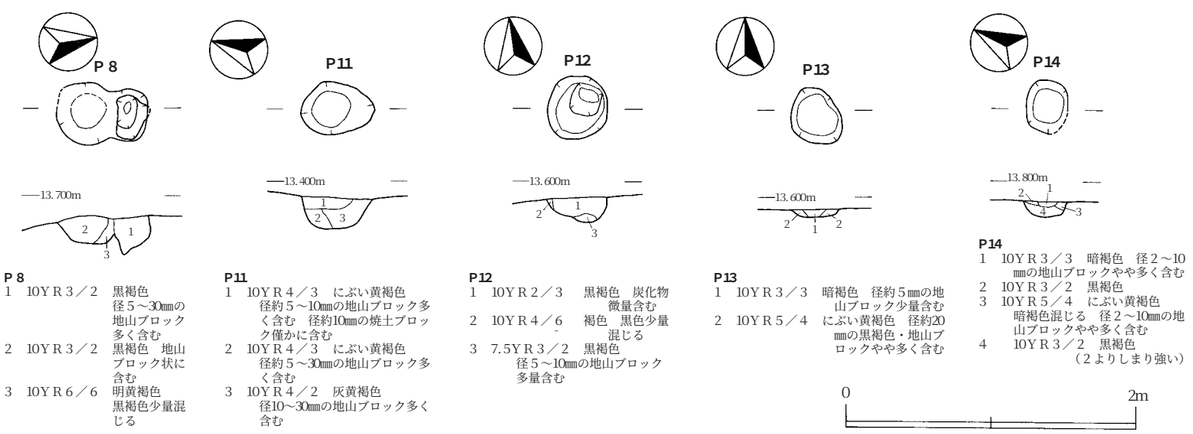


ＳＢ26
Ｐ２
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色　黄褐色混じる　白色粘土径２～５㎜少量含む
3　10ＹＲ５／６　黄褐色　　黒色ブロック状に含む

Ｐ３
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　黄褐色と互層状に堆積
3　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色
　　径20～30㎜の黒色ブロック含む
　　礫多く出土
4　10ＹＲ３／３　暗褐色　黄褐色ブロック状に含む
5　10ＹＲ３／２　黒褐色　径約10㎜の地山ブロック少量含む
6　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
　　黄褐色ブロック状に少量含む

Ｐ４
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径約５㎜の地山ブロック少量含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　径約５㎜の地山ブロック少量含む
3　10ＹＲ３／３　暗褐色　径約５㎜の地山ブロック少量含む
4　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径約10㎜の地山・白色粘土ブロック多く含む
5　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径約10㎜の地山ブロック少量含む
　　径約５㎜の白色粘土ブロック僅かに含む
6　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径10～20㎜の地山・白色粘土ブロック少量含む
　　径約５㎜の白色粘土ブロック僅かに含む

Ｐ６
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径約５㎜の地山・白色粘土ブロック少量含む
3　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　径約５～30㎜の地山ブロック多く含む
　　径約５～10㎜の白色粘土ブロック少量含む
4　10ＹＲ３／３　暗褐色　黄褐色ブロック状に多く含む
　　径５～20㎜の白色粘土ブロック少量含む
5　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５～30㎜の地山ブロックやや多く含む
6　10ＹＲ５／３　にぶい黄褐色　地山ブロック多く含む
7　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色　地山・白色粘土ブロック状に多く含む
8　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５～30㎜の地山ブロックやや多く含む



Ｐ８
1　10ＹＲ３／２　黒褐色
　　径５～30㎜の地山ブロック多く含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　地山ブロック状に含む
3　10ＹＲ６／６　明黄褐色
　　黒褐色少量混じる

Ｐ11
1　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
　　径約５～10㎜の地山ブロック多く含む　径約10㎜の焼土ブロック僅かに含む
2　10ＹＲ４／３　にぶい黄褐色
　　径約５～30㎜の地山ブロック多く含む
3　10ＹＲ４／２　灰黄褐色
　　径10～30㎜の地山ブロック多く含む

Ｐ12
1　10ＹＲ２／３　黒褐色　炭化物微量含む
2　10ＹＲ４／６　褐色　黒色少量混じる
3　7.5ＹＲ３／２　黒褐色
　　径５～10㎜の地山ブロック多量含む

Ｐ13
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径約５㎜の地山ブロック少量含む
2　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色　径約20㎜の黒褐色・地山ブロックやや多く含む

Ｐ14
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～10㎜の地山ブロックやや多く含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色
3　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色
　　暗褐色混じる　径２～10㎜の地山ブロックやや多く含む
4　10ＹＲ３／２　黒褐色
　　（２よりしまり強い）

第90図　ＳＢ28掘立柱建物跡

ＳＱ38（第91図、図版20）

位置：ＭＩ30グリッド

規模：長軸（北西－南東）0.63m、短軸（北東－南西）0.4m

ＳＫ28の覆土上にある。遺物には半円状扁平打製石器、石錘、石槍、掻器、石箆、剥片、礫等がある。

ＳＱ39（第92図、図版20）

位置：ＭＨ29グリッド

規模：径約0.35mの円形

Ⅳ層で確認した。遺物には半円状扁平打製石器、石錘、二次加工のある剥片、石核、剥片、礫等がある。

ＳＱ45（第92図）

位置：ＭＧ30グリッド

規模：径約0.55m前後の円形

Ⅳ層で確認した。遺物には半円状扁平打製石器、石錘、石核、剥片、礫等がある。

（５）溝状遺構

ＳＤ95～ＳＤ97（第93図、図版21）

位置：ＭＧ57・58・59、ＭＨ57・58・59グリッド

規模：ＳＤ95　長さ13.6m、幅0.5m前後

ＳＤ96　長さ4.05m、幅0.4m前後

ＳＤ97　長さ2.3m、幅0.45m前後

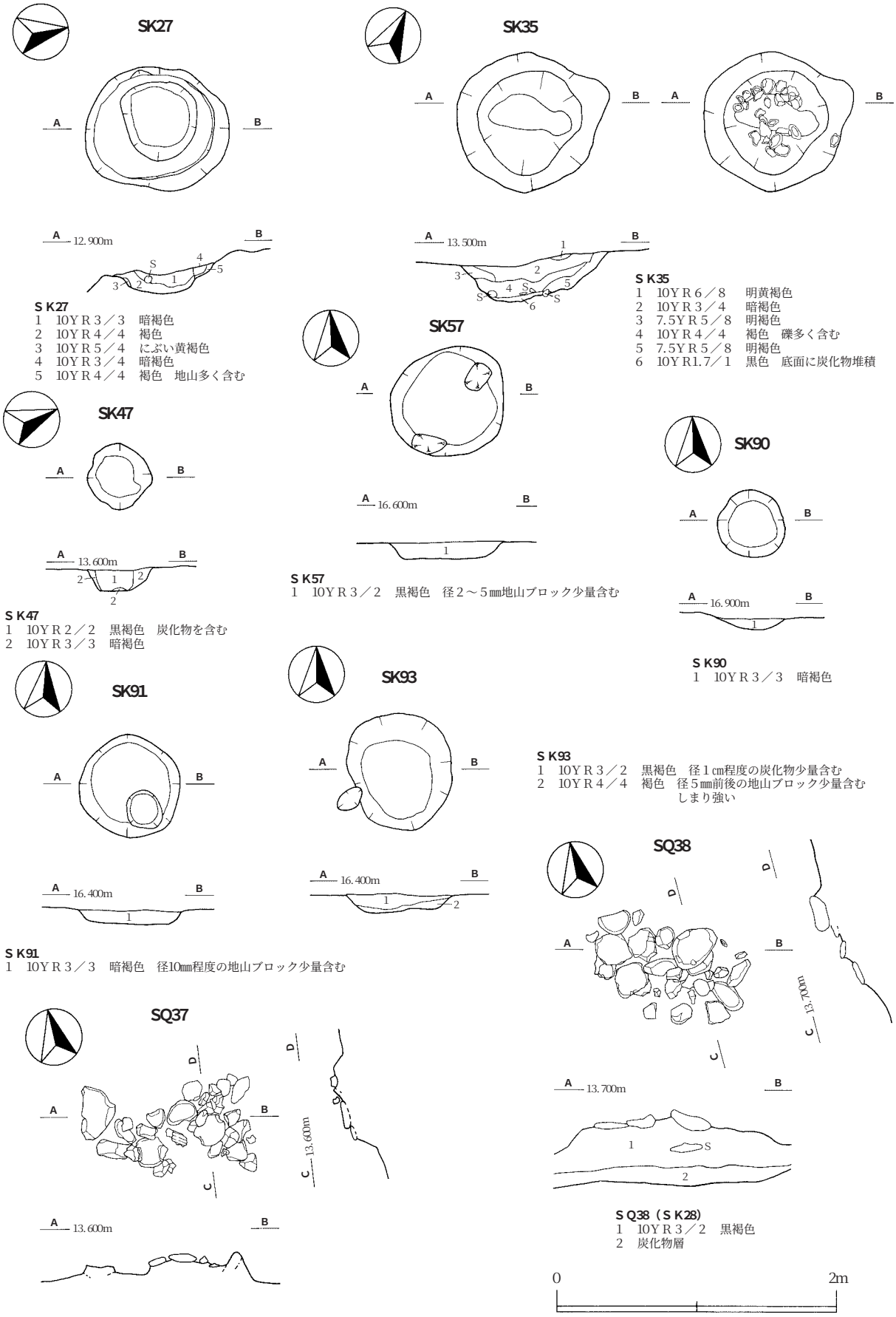
Ⅵ層で確認した。それぞれの溝の底面は、傾斜のみられる部分もあるがほぼ平坦である。ＳＤ95は調査区外へと続くため、全体のプラン、規模は不明であるが、ＳＤ96・97隅丸方形状に囲む溝という可能性も考えられる。ＳＤ96・97は長軸方向（溝の方向）が90°異なり、そのまま溝を延ばすと直交する関係にある。ＳＤ95を隅丸方形状に回る溝と捉えた場合、ＳＤ95の辺に平行する形でＳＤ96・97が配置されている可能性もある。ＳＤ95～97を一つの遺構と捉えた場合、古代の周溝墓に類似している。覆土は自然堆積と考える。遺物は出土しなかった。ＳＤ95はⅣ層を切ってつくられているため、縄文時代前期以降につくられたと考えられるが、詳細な時期については不明である。

ＳＤ98（第93図、図版21）

位置：ＭＧ58・59グリッド

規模：ＳＤ98長さ4.5m、幅0.5m前後

Ⅵ層で確認した。底面は傾斜しているが一つの面としてとらえられる。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。ＳＤ96とは長軸方向（溝の方向）が同じであるため、あまり時間差のない遺構の可能性もある。



ＳＫ27
1　10ＹＲ３／３　暗褐色
2　10ＹＲ４／４　褐色
3　10ＹＲ５／４　にぶい黄褐色
4　10ＹＲ３／４　暗褐色
5　10ＹＲ４／４　褐色　地山多く含む

ＳＫ35
1　10ＹＲ６／８　明黄褐色
2　10ＹＲ３／４　暗褐色
3　7.5ＹＲ５／８　明褐色
4　10ＹＲ４／４　褐色　礫多く含む
5　7.5ＹＲ５／８　明褐色
6　10ＹＲ1.7／１　黒色　底面に炭化物堆積

ＳＫ47
1　10ＹＲ２／２　黒褐色　炭化物を含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色

ＳＫ57
1　10ＹＲ３／２　黒褐色　径２～５㎜地山ブロック少量含む

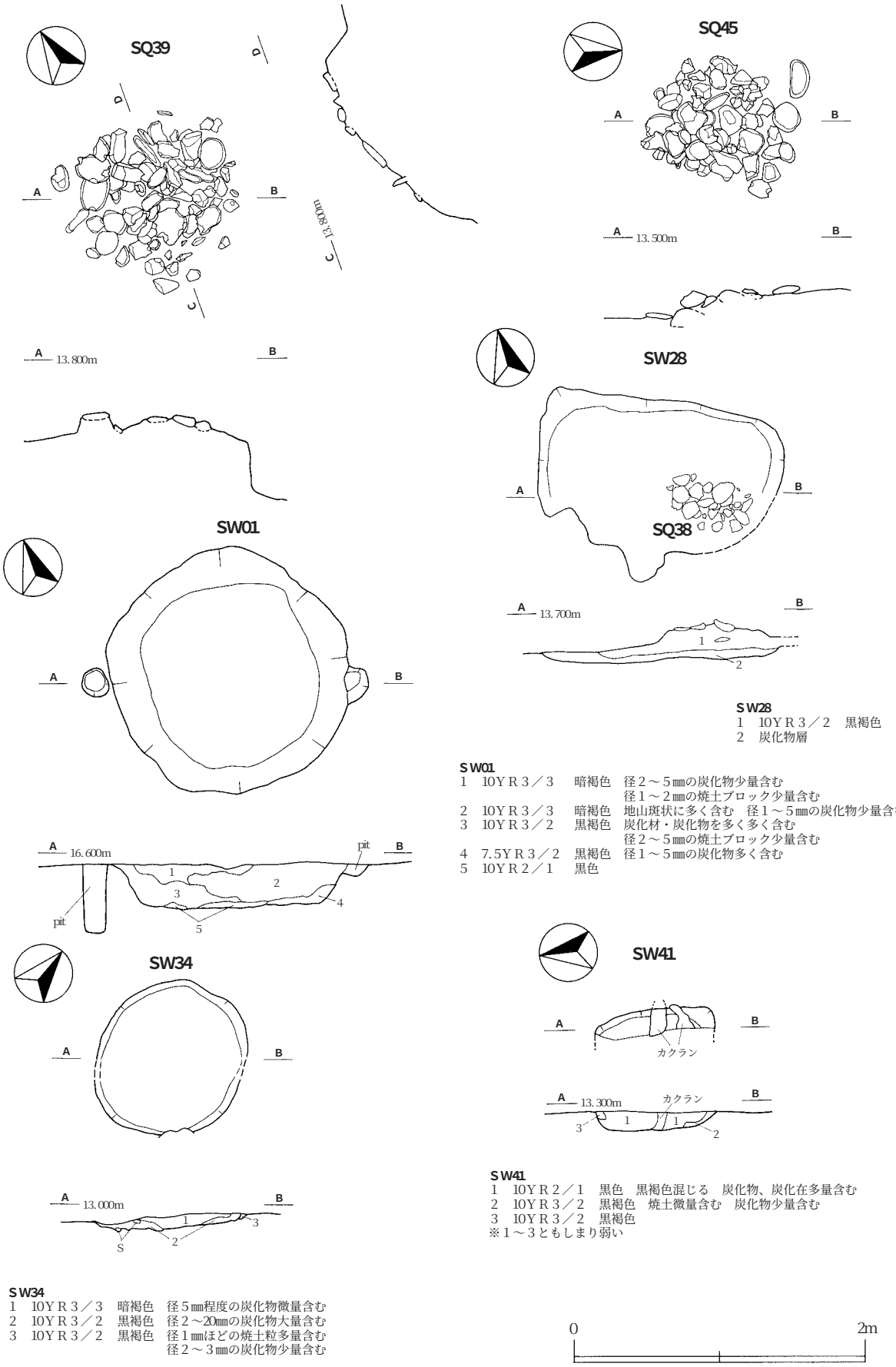
ＳＫ90
1　10ＹＲ３／３　暗褐色

ＳＫ91
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径10㎜程度の地山ブロック少量含む

ＳＫ93
1　10ＹＲ３／２　黒褐色　径１㎝程度の炭化物少量含む
2　10ＹＲ４／４　褐色　径５㎜前後の地山ブロック少量含む
しまり強い

ＳＱ38（ＳＫ28）
1　10ＹＲ３／２　黒褐色
2　炭化物層

第91図　ＳＫ27・35・47・57・90・91・93土坑、ＳＱ37・38配石遺構



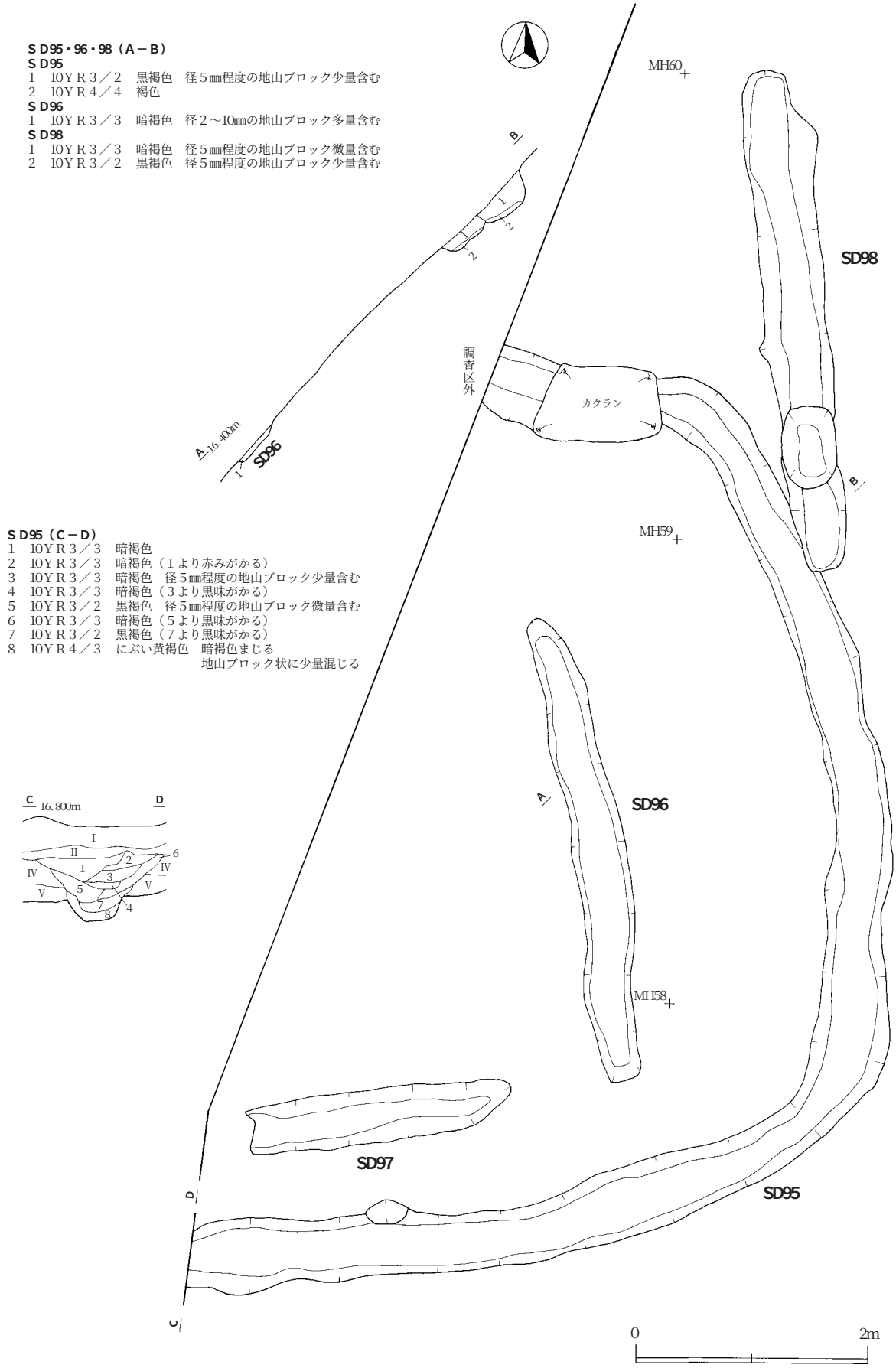
SW28
1　10ＹＲ３／２　黒褐色
2　炭化物層

SW01
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径２～５㎜の炭化物少量含む
　　径１～２㎜の焼土ブロック少量含む
2　10ＹＲ３／３　暗褐色　地山斑状に多く含む　径１～５㎜の炭化物少量含む
3　10ＹＲ３／２　黒褐色　炭化材・炭化物を多く多く含む
　　径２～５㎜の焼土ブロック少量含む
4　7.5ＹＲ３／２　黒褐色　径１～５㎜の炭化物多く含む
5　10ＹＲ２／１　黒色

SW41
1　10ＹＲ２／１　黒色　黒褐色混じる　炭化物、炭化在多量含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　焼土微量含む　炭化物少量含む
3　10ＹＲ３／２　黒褐色
※１～３ともしまり弱い

SW34
1　10ＹＲ３／３　暗褐色　径５㎜程度の炭化物微量含む
2　10ＹＲ３／２　黒褐色　径２～20㎜の炭化物大量含む
3　10ＹＲ３／２　黒褐色　径１㎜ほどの焼土粒多量含む
　　径２～３㎜の炭化物少量含む

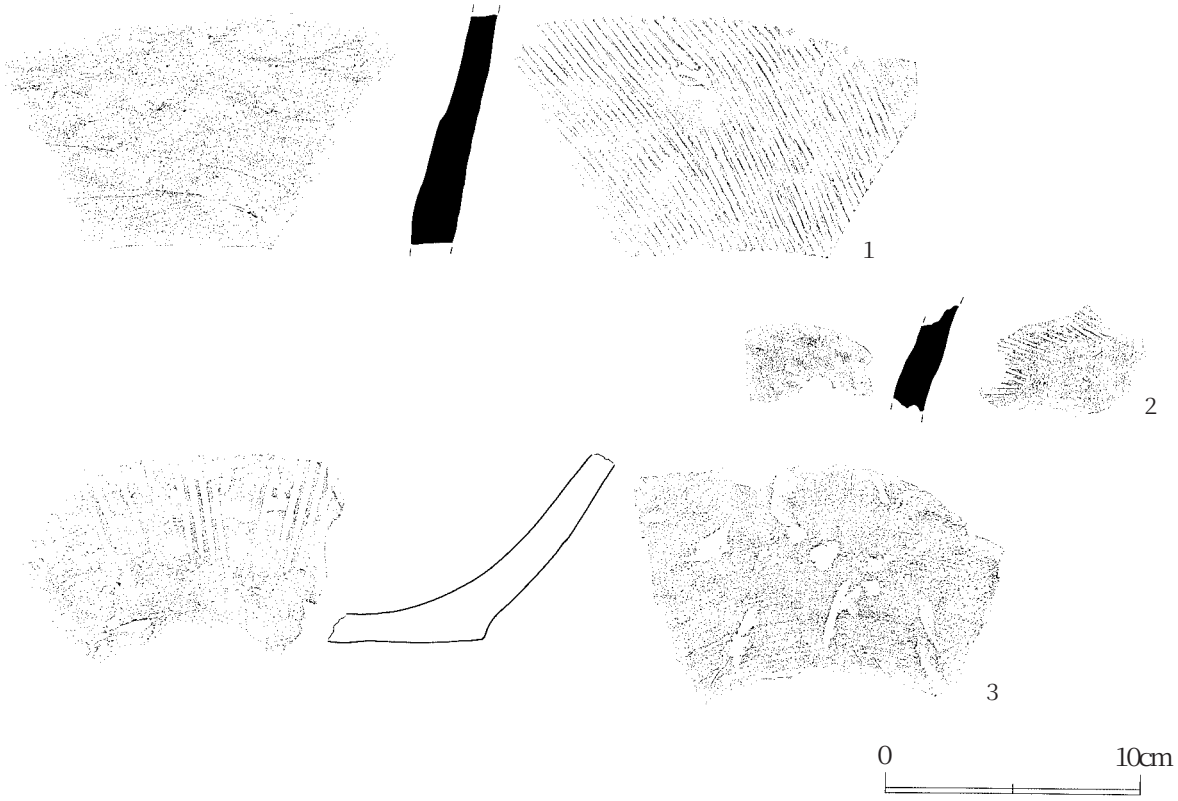
第92図　ＳＱ39・45配石遺構、ＳＷ01・28・34・41炭窯



第93図　ＳＤ95～98溝跡

２．遺構外出土遺物（第94図）

古代以降の遺構外出土遺物は第94図に示した３点だけである。１・２は須恵器甕の体部破片である。３は珠洲系陶器の擂鉢で、内面には４本１組の卸し目がある。全体に灰オリーブ色を帯びている。



第94図　遺構外出土遺物

第５章　自然科学分析

第１節　狐森遺跡出土石器等の岩質鑑定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

秋田県山本郡琴丘町狐森遺跡の発掘調査では、縄文時代前期を中心にした石器群が出土している。今回これらの石器のうち代表的な器種・石材について肉眼鑑定を行い、器種毎の石材の使用傾向を把握した。また、石材産地と思われる遺跡付近および周辺の踏査を行い、可能な限り産地に関する情報を得ることにした。

１．試料

肉眼鑑定を行った試料は、本遺跡から出土した縄文時代前期の石器564点である（表１）。そのほか、現地踏査時に採取した原石試料についても、随時鑑定を行った。

２．方法

肉眼鑑定は、平成15年３月12日～３月14日の計３日間、当社技師１名が中央調査課に赴き実施した。なお、現地調査は、途中３月13日午後に実施した。

３．結果

（１）秋田県山本郡地方の地質の概略

太平山を中心とする山地には基盤となる先第三系の太平山複合プルトン（花崗岩類と変成岩類の複合岩体）が露出し、この岩層の上部を覆って漸新統～中部中新統下部の主に火山岩および火山砕屑岩で構成されるいわゆるグリーン・タフを経て、中部中新統～鮮新統の主に珪質頁岩・泥岩・シルト岩・砂岩で構成される含油第三系が分布している。さらにこの上部を段丘堆積物・沖積層・砂丘堆積物・火山噴出物などの第四系が覆っている。

秋田県山本郡地方の地質の主役は新第三紀層である。新第三紀層は男鹿半島に分布する地層を対比の標準として扱われている。

（２）狐森遺跡後背地の地質

狐森遺跡は八郎潟干拓地の東側の段丘上にあり、段丘を横断する河川はいずれも小沢で、段丘東側の主として上部新第三系で構成される丘陵地から流出している。

広域的にみた狐森遺跡の後背地はほとんど新第三系が広く露出し、下部から小谷沢層・女川層・船川層・天徳寺層に区分され、その上に更新世中期の石倉山層と後期の潟西層が堆積している（大沢ほか、1985）。最下部の小谷沢層はいわゆるグリーン・タフに属し、玄武岩を主とする大潟玄武岩部層を伴っている。女川層・船川層・天徳寺層は含油第三系とも呼ばれ、中部中新統上部～鮮新統にわたる堆積岩が優勢な地層であるが、しばしば火山岩類を挟在することが多く、凝灰岩を挟在している。

以下に各地層および火成岩類の概略を述べる。

①中新世中期

小谷沢層：模式的には琴丘町小谷沢に露出し、さらに北方に分布が広がっている。主として泥岩・酸性凝灰岩で構成されている地層を小谷沢層の主部、玄武岩を主とする部分を大潟玄武岩部層に区分している。化石から男鹿半島の西黒沢層に対比されている。

②中部中新世後期～鮮新世

・女川層：女川層は主として珪質頁岩で構成され、遺跡周辺に広く分布し全域的に酸性凝灰岩を挟在している。珪質頁岩は非常に微細な葉理を有し、ときに無葉理の玉髄質レンズを挟む。珪質頁岩の割れ口は貝殻状断口を示す。秋田油田第三系の代表的な地層の一つで、「硬質頁岩」とも呼ばれている。狐森遺跡から出土する石器の多くは珪質頁岩を材料としている。

・船川層：本地域の船川層は女川層を被覆して段丘東側の丘陵地に広く分布する。主として暗灰色泥岩で構成され、下部に下部七座凝灰岩部層、上部に上部七座凝灰岩部層を挟在する。女川層とともに秋田油田第三系の代表的な地層の一つで、「黒色頁岩」とも呼ばれている。

・天徳寺層：本層は船川層を被覆して主に塊状のシルト岩で構成され砂岩・酸性凝灰岩・砂質凝灰岩を伴う。船川層と同様の分布を示す。

③　第四系

・石倉山層：狐森遺跡周辺では丘陵西斜面の高位段丘堆積物として、南北に細長く分布している。砂を主構成物とし、礫と泥を伴っている。礫は安山岩・流紋岩・凝灰角礫岩および花崗岩の細～中礫を主とし、赤色風化を受けている特徴を有している。

・潟西層：主として礫・砂・泥で構成され、潟西段丘を形成している。狐森遺跡は潟西段丘面に立地している。潟西層の礫は一般に亜円－円礫で、安山岩・流紋岩・凝灰角礫岩・花崗岩および泥岩の中－細礫を主とし、部分的には珪質頁岩礫に富み、赤玉（鉄石英）等の含有も認められる。これらの礫種から潟西層は主に米代川から供給された堆積物で構成されていると判断される。米代川は脊梁山地に源とする流域面積の大きい河川で、地質的には上流地域には多種の岩石が分布する。米代川支流の大又川や小阿仁川上流には太平山複合プルトンとよばれる花崗岩類と変成岩類の複合岩体が分布し、小又川上流には竜ヶ森－小繋森花崗岩体が露出し、安山岩で構成される森吉火山も存在する。また、流域は全域的にグリーン・タフと総称される第三系漸新統～中新統が堆積している。狐森遺跡から出土した石器のうち安山岩類は森吉火山起源と見られる新鮮な岩相を示し、流紋岩・デイサイト等は上部新第三系を貫く火成活動とみられる岩相を有している。

（３）狐森遺跡出土石器の石質

①石器の岩種

観察した試料は合計564試料である。狐森遺跡出土石器試料は多種にわたり、今回の肉眼鑑定では次の29の岩種と３種の鉱物に区分した。石器の石質を器種別に整理し第11票に総括した。本遺跡から出土した石器の石質構成は第95図－１に示すように火山岩類がもっとも多く303試料で全体の54%である。次いで、堆積岩類が104試料（18%）、火山砕屑岩類が103試料（18%）である。半深成岩・深成岩類は22試料（４%）、変質岩類は20試料（3.5%）、変成岩類は５試料（0.9%）、鉱物は６試料（１%）で構成比は低い（第95図－１）。

第95図－２に堆積岩類･火山砕屑岩類の岩石構成を示した。凝灰岩に区分される岩石が85試料で41％を占め、次いで凝灰質砂岩が40試料（19％）、珪質頁岩が24試料（11.6％）、頁岩が20試料（9.7％）、シルト岩が17試料（8.2％）、砂質凝灰岩が16試料（7.7％）の順になり、凝灰質岩石（凝灰岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩）の比率が141試料（68％）と高いことが特徴となっている。

第95図－３には火山岩類の岩石構成を示した。火山岩の中では安山岩類の占める比率が245試料で80.1％と圧倒的に高く、全石器試料の43.4％となっている。次いでデイサイトが42試料（14％）、流紋岩が11試料（3.6％）、玄武岩が5試料（1.7％）の順になる。

堆積岩類（104試料）

頁岩　20、珪質頁岩　24、シルト岩　17、砂岩（古期）　３、凝灰質砂岩　40

火砕岩類（103試料）

砂質凝灰岩　16、凝灰岩　85、 火山礫凝灰岩　2

火山岩（303試料）

流紋岩　11、デイサイト　42、安山岩類　245（安山岩　42、輝石安山岩　193、角閃石輝石安山岩　２、緻密質安山岩　６、玄武岩質安山岩　２、玄武岩　5

半深成岩（21試料）

石英斑岩　15、アプライト　１、粗粒玄武岩　5

深成岩（１試料）

花崗閃緑岩　1

変成岩（５試料）

黒色千枚岩　３、珪質千枚岩　１、ホルンフェルス　1

変質岩（20試料）

変質凝灰質砂岩　４、変質砂質凝灰岩　３、 変質凝灰岩　10、 変質火山礫凝灰岩　１、変質流紋岩　１、 珪化岩　1

鉱物（６試料）

赤玉（鉄石英）　４、 石英（珪石）　１、琥珀　1

②岩種と器種の関係

１）．　石錘の石質構成

鑑定対象とした石器のうち、石錘は168試料で最も多く検出される石器で多種の岩石が使用される。第95図－４に示すように安山岩類が最も多く、安山岩と輝石安山岩の合量は102試料で石錘の61％は安山岩類である。次いでデイサイトが10％、シルト岩が８％、石英斑岩が６％となる。

２）．半円状扁平打製石器

石錘に次いで多く見られる石器で、166試料対象とした。安山岩類が用いられる比率はさらに高く、69％に達する。次いで、凝灰岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩と流紋岩・デイサイトがそれぞれ11％を占める（第95図－５）。

３）盤状製品

前二者と異なり、円盤状製品では全116試料のうち凝灰岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩の合計が93試料で80％を占め、ついでグリーン・タフに属する火山砕屑岩が13試料で11％である。従って火山砕屑

岩系の岩石で全体の91％となり、盤状製品の大部分は火山砕屑岩を石材としている特徴が明瞭である。安山岩は８試料で７％に過ぎない。

火山岩についで多く見られる岩種は堆積岩類および火山砕屑岩類で、とくに凝灰岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩は合計141試料で堆積岩・火山砕屑岩の68％を占め（第95図－２）、石器全体の25％に達している。これらの岩種も多角的に使用されているが、とくに円盤状製品に多用され80．2％が凝灰岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩となっている（第95図－６）。

（４）岩石の産地推定

①堆積岩（５種　104試料）

砂岩（古期）：砂岩（古期）とした岩石は堅硬なグレーワッケ質砂岩で磨製石斧に用いられている。中－古生層起源の砂岩で本地域では異地性岩と判定される。

頁岩：半円状扁平打製石器に使用されている黒色頁岩。黒色頁岩は船川層を構成する主要岩石で入手しやすい岩石の一つであり、在地性岩石と認められる。

珪質頁岩：岩質から女川層を構成する岩種であると判定される。典型的な在地性岩石である。

凝灰質砂岩：円盤状製品に31試料使用されているほかに、砥石に１試料、石皿に３試料、磨製石斧に１試料、半円状扁平打製石器に３試料、石錘に１試料が使用されている。凝灰質砂岩は新第三系の構成員として普通に存在する岩石で、在地性と考えられる。

②　火山砕屑岩（３種　103試料）

砂質凝灰岩：円盤状製品に７試料、石錘に３試料、半円状扁平打製石器に４試料、磨製石斧に１試料、凹石に１試料使用している。磨製石斧に使用されている砂質凝灰岩は比較的緻密堅硬で岩相から新第三系下部の地層に起源すると思われる。砂質凝灰岩は凝灰質砂岩と同様に新第三系に普遍的に存在し、在地性岩と考えられる。

凝灰岩：円盤状製品に55試料、半円状扁平打製石器に11試料、石製品に６試料使用しているほかに、石錘・石皿・くぼみ石、線刻礫、礫石器、岩遇に使用されている。凝灰岩は凝灰質砂岩と同様に新第三系に普遍的に存在し、在地性岩と考えられる。

火山礫凝灰岩：くぼみ石として２試料検出されている。火山礫凝灰岩は凝灰岩と同様に新第三系に普遍的に存在し、在地性岩と考えられる。

③　火山岩（５種　174試料）

流紋岩・デイサイト：遺跡が立地する潟西層を構成する、段丘堆積物中の基底礫を利用したものと考えられる。米代川流域には複数の山地が存在している。在地性と判定される。グリーン・タフ地域における流紋岩とデイサイトの肉眼的な区別は困難であることが多い。流紋岩は石英斑晶を伴うことがあり、また、一部は黒雲母を伴っている。流紋岩は礫石器として検出されるものが５試料と最も多く、このほか、石錘・半円状扁平打製石器・くぼみ石・線刻礫に使用されている。

デイサイトは暗灰色から明灰色まで多彩な色調を示す火山岩で、秋田県下では流紋岩とほぼ同一の地域を産地とすることが多い。石錘に17試料、半円状扁平打製石器に16試料、礫石器に５試料が使用されているほか、磨製石斧・石皿・くぼみ石・円盤状製品に各１試料が使用されている。

安山岩類：表１では肉眼的に斑状組織を有する安山岩のうち、輝石を斑晶とする安山岩を輝石安山岩、角閃石・輝石を斑晶とする安山岩を角閃石輝石安山岩、輝石を多量に含むものを玄武岩質安山岩、斜

長石斑晶は存在するが輝石斑晶に乏しいものを安山岩とした。緻密質安山岩としたものは全般に緻密ガラス質で肉眼的に無斑晶に近い岩相を有している。遺跡近辺には安山岩を産する地点は見られないが、安山岩類は潟西層の主要礫種となっている。米代川流域には森吉火山をはじめとして複数の安山岩産地があり、在地性岩石と判定される。安山岩類は石錘として106試料、半円状扁平打製石器として114試料が使用され、主石材となっている。この他には磨製石斧として６試料、くぼみ石として５試料、盤状製品として８試料礫石器として５試料が用いられている。

玄武岩：玄武岩は石錘として３試料、半円状扁平打製石器として２試料が検出されている。米代川流域の新第三系中にはしばしば玄武岩の活動がみられる。これらの玄武岩体を起源とする礫として潟西層に含まれることから在地性の岩石と判定される。

④　半深成岩（３岩種　21試料）

石英斑岩：石英斑岩は石錘として10試料、半円状扁平打製石器に３試料、礫石器として２試料が検出されている。米代川流域では仁別花崗岩類とされているものの構成岩石の一つで、太平山複合プルトンあるいは新第三系下部層中の貫入岩体として産出している。潟西層の礫から採取したとすると在地性岩である。

アプライト：石錘に１試料使用されている。花崗閃緑岩と同一起源を有する岩石である。

粗粒玄武岩：半円状扁平打製石器に２試料、磨製石斧に２試料、石錘に１試料使用されている。米代川流域の新第三系中には諸所に貫入岩体として粗粒玄武岩が産することが知られている。在地性岩石であろう。

⑤　深成岩（１岩種　２試料）

花崗閃緑岩：花崗岩は石錘に１試料、くぼみ石に１試料が使用されている。片理構造が認められ太平山複合プルトンを構成する深成岩類を起源とする岩石で潟西層礫の構成礫伴っている。在地性岩石と認められる。

⑥　変成岩（３岩種　５試料）

黒色千枚岩・珪質千枚岩：石製品に４試料が使用されている。本地域では分布が報告されていない岩種で、異地性岩と判定される。

ホルンフェルス：石錘として１試料検出されている。泥質岩が花崗岩マグマの貫入により熱変成されて生成した変成岩である。太平山複合プルトンを構成する深成岩活動に伴う岩石で潟西層礫の構成礫の一つと考えられる。

⑦　変質岩（６岩種　20試料）

変質凝灰質砂岩・変質砂質凝灰岩・変質凝灰岩・変質火山礫凝灰岩・変質流紋岩：これらはいわゆる「グリーン・タフ」に属し、本地方では新第三系下部層に産する在地性岩である。円盤状製品に13試料、磨製石斧に３試料用いられているほかに、石製品・線刻礫・礫石器に使用されている。

珪化岩：岩石が熱水作用を受けて珪化した硬質岩石で、原岩は不明である。グリーン・タフ地域には普遍的にみられる変質岩で在地性岩と判定される。礫石器として１試料検出されている。

⑧　鉱物（３種　８試料）

赤玉（鉄石英）：赤玉としたものは礫石器として４試料検出される。酸化鉄に富む玉髄質鉱物で、流紋岩が熱水変質して生成される。潟西層礫の構成員の一つで在地性の鉱物である。

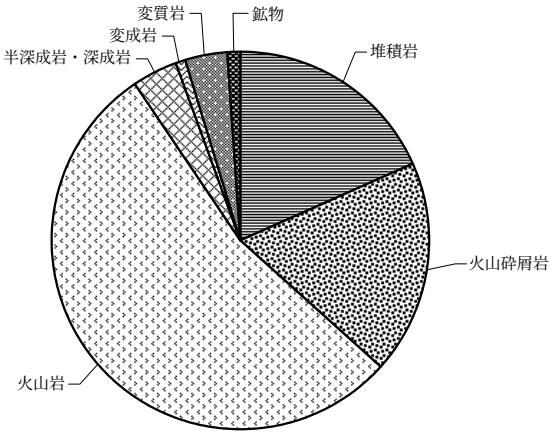
石英（珪石）：熱水性石英脈の破片で、石英の集合体である。グリーン・タフ地域には比較的普遍的にみられる。在地性の鉱物である。
琥珀：褐色半透明の琥珀。東北地方では岩手県久慈地方が琥珀の特産地となっているが、秋田県下での産地は知られていないことから異地性の鉱物と判定される。しかし、秋田県下にも阿仁合炭田など琥珀を産する可能性が残されている地区がある。詳細な産地を推定するためには、今後琥珀の産出情報および赤外線分析による産地推定などが必要になると考えられる。

４．まとめ

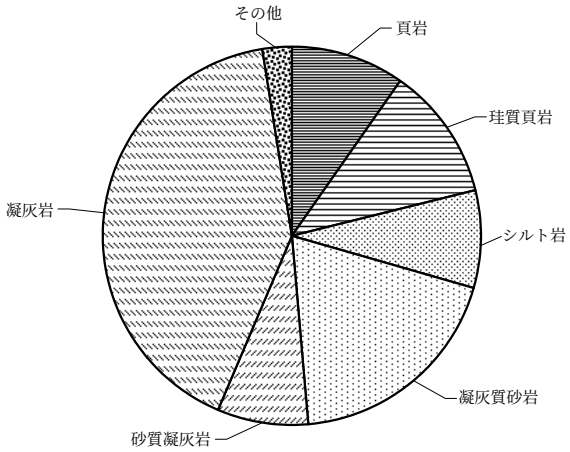
狐森遺跡から出土する縄文時代前期の石器は、多種の岩石で構成されているが、今回の鑑定試料でみる限りでは安山岩類に富む特徴がある。また、岩種の組み合わせは、一部の異地性と考えられる硬質砂岩や千枚岩類を除くと潟西層中の礫種と一致するものが多い。大沢ら（1985）によれば礫の大部分を占める安山岩・流紋岩・凝灰角礫岩および花崗岩の礫は当時の米代川から供給されたと推定している。石器に使用されている安山岩類についても（１）大部分の安山岩の有色鉱物は新鮮で変質作用を受けていないのにもかかわらず、（２）やや風化が進んでいる特徴を有している。（１）の特徴は火山活動が第四紀であること、（２）の特徴は堆積してやや長時間を経過していること、すなわち現在の河川礫等ではなく、段丘堆積物としてやや風化が進んだ状態であると考えられ、安山岩の供給源は米代川支流の上流域にある森吉火山である可能性が最も高い。
なお、異地性の岩石としては、磨製石斧に使用されている砂岩（古期）と石製品に使用されている黒色千枚岩および珪質千枚岩の３岩種７試料にすぎない。

参考文献

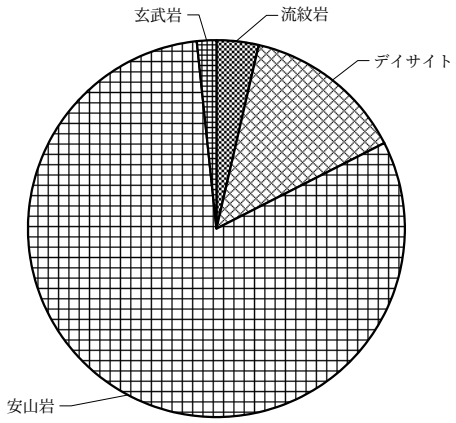
大沢・鯨岡　明・粟田泰夫・高安泰助・平山次郎(1985)森岳地域の地質．地域地質研究報告(５万分の１図幅)、地質調査所.



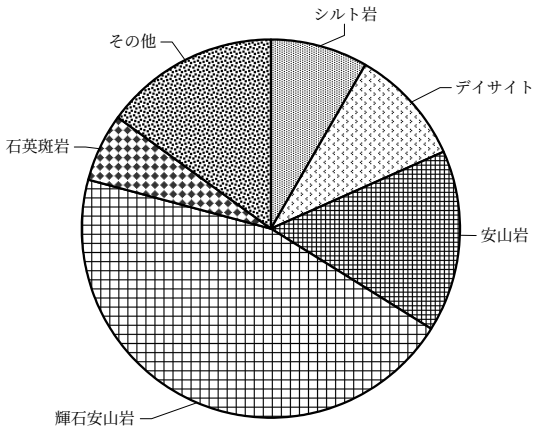
1　石器の岩種別構成



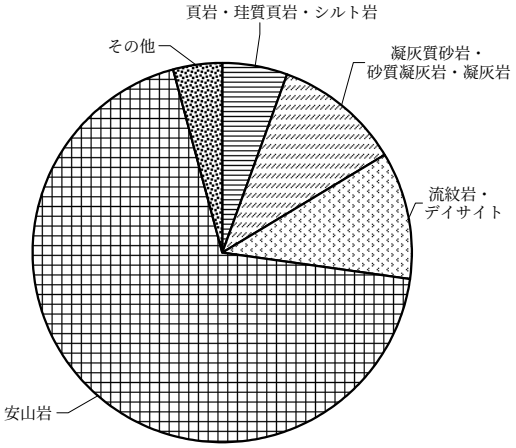
2　堆積岩・火山砕屑岩の岩種別構成



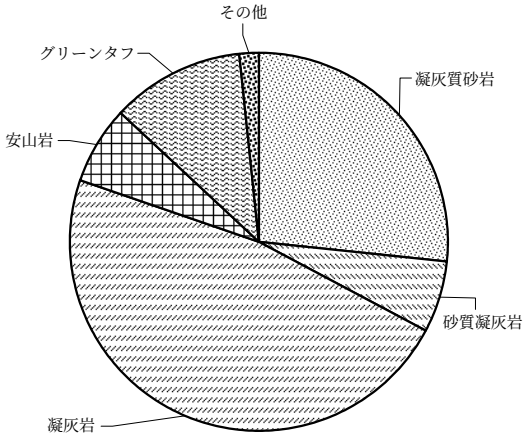
3　火山岩の岩種別構成



4　石錘の岩種別構成



5　半円状扁平打製石器の岩種別構成



6　円形岩版の岩種別構成

第95図　岩種別構成

第11表　石器の岩種別構成

岩種	岩石名	石錘	半円状扁平打製石器	磨製石斧	石皿	砥石	くぼみ石	石製品	線刻礫	円形岩盤	礫石器	岩遇	琥珀	計
堆積岩	頁岩	2	5								13			20
	珪質頁岩	4	2	2						1	15			24
	シルト岩	14	2				1							17
	砂岩（古期）			3										3
	凝灰質砂岩	1	3	1	3	1				31				40
火山砕屑岩	砂質凝灰岩	3	4	1			1			7				16
	凝灰岩	2	11		2		3	6	3	55	1	2		85
	火山礫凝灰岩						2							2
火山岩	流紋岩	2	2				1		1		5			11
	デイサイト	17	16	1	1		1			1	5			42
	安山岩類	106	114	6			5		1	8	5			245
	安山岩	26	14							1	1			42
	輝石安山岩	76	96	5			5		1	7	3			193
	角閃石輝石安山岩		1								1			2
	緻密質安山岩	4	2											6
	玄武岩質安山岩		1	1										2
	玄武岩	3	2											5
半深成岩	石英斑岩	10	3								2			15
	アプライト	1												1
	粗粒玄武岩	1	2	2										5
深成岩	花崗閃緑岩	1					1							2
変成岩	黒色千枚岩							3						3
	珪質千枚岩							1						1
	ホルンフェルス	1												1
変質岩	変質凝灰質砂岩			2						2				4
	変質砂質凝灰岩									3				3
	変質凝灰岩			1				1	1	7				10
	変質火山礫凝灰岩									1				1
	変質流紋岩										1			1
	珪化岩										1			1
鉱物	赤玉										4			4
	石英（珪石）										1			1
	琥珀												1	1
計		168	166	19	6	1	15	11	6	116	53	2	1	564

第２節　狐森遺跡の樹種同定と年代測定結果

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．狐森遺跡出土炭化材の樹種同定

１．試料

試料は、ＳＫ01の３層より出土した炭化材１点である。

２．方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作成し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結果

結果は第12表に示し、各断面の顕微鏡写真を示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

第12表　狐森遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試　料	樹　種	（和名／学名）
炭化材	ケヤキ	Zelkova serrata Makino

ケヤキ　Zelkova serrata Makino　ニレ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は１～６細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径３ｍに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

４．所見

同定された樹種はケヤキであった。ケヤキは温帯の適潤地に広く分布する。考古遺跡では刳り物として多く出土している。

参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹の細胞．木材の構造，文永堂出版，ｐ．20－48.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹の細胞．木材の構造，文永堂出版，ｐ．49－100.

Ⅱ．狐森遺跡出土試料の放射性炭素年代測定

１．試料と方法

No.	試　料	試料の種類	前処理・調整	測定法
1	ＳＫ01	炭化物	酸／アルカリ／酸洗浄 ベンゼン処理	β－線計数法 （液体シンチレーション）
2	ＳＫＦ04	炭化物	酸／アルカリ／酸洗浄 長時間測定 ベンゼン処理	β－線計数法 （液体シンチレーション）
3	ＳＫＦ05	炭化物	酸／アルカリ／酸洗浄 ベンゼン処理	β－線計数法 （液体シンチレーション）
4	ＳＫ10	炭化物	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調整	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）

２．測定結果

試料名	^{14}Ｃ年代 （年ＢＰ）	δ^{13}Ｃ （‰）	補正^{14}Ｃ年代 （年ＢＰ）	暦年代	測定NO. Beta-
No. 1	1090±50	−27.7	1050±50	交点 AD 1000 2σ AD 890 TO 1040 1σ AD 970 TO 1020	128839
No. 2	4670±70	−26.3	4650±70	交点 BC 3490, 3465, 3375 2σ BC 3635 TO 3330, BC 3215 TO 3180 1σ BC 3515 TO 3355	128840
No. 3	4720±70	−26.0	4700±70	交点 BC 3510, 3420, 3390 2σ BC 3645 TO 3350 1σ BC 3630 TO 3575, BC 355 TO 3370	128841
No. 4	4850±60	−25.4	4840±60	交点 BC 3645 2σ BC 3710 TO 3515 1σ BC 3665 TO 3630, BC 3565 TO 3540	128842

（2σ:95% probability, 1σ:68% probability）

１）^{14}Ｃ年代測定値

試料の^{14}Ｃ／^{12}Ｃ比から、単純に現在（1950年ＡＤ）から何年前（ＢＰ）かを計算した値。^{14}Ｃの半減期は5,568を用いた。

２）δ^{13}Ｃ測定値

試料の測定^{14}Ｃ／^{12}Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}Ｃ／^{12}Ｃ）。この値は標準物資（ＰＤＢ）の同位対比からの千分偏差（‰）で表す。

３）補正^{14}Ｃ年代値

δ^{13}Ｃ測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}Ｃ／^{12}Ｃの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

４）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}Ｃ濃度の変動を補正することにより、暦年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Ｃの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年ＢＰより古い試料には適用できない。

５）測定No.

測定は、Beta Analytic Inc.（Florida, U.S.A）において行われた。Bete-は同社の測定No.を意味する。

第３節　狐森遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

狐森遺跡は、八郎潟東岸に分布する段丘上に位置する。この段丘は、標高と分布から、八郎潟をはさんで対岸の男鹿半島東部に広がる、潟西段丘に対比される。潟西段丘を構成している潟西層は、砂層や泥層および砂礫層からなる高海面期の沿岸成堆積物であるとされ、関東における下末吉層に対比されている（潟西層団体研究グループ，1983）。したがって、狐森遺跡の位置する段丘は、下末吉面に相当する。

発掘調査では、様々な遺構とともに約3000基の柱穴状ピットが検出されている。これらは、その形態や単位などが検討されているが、発掘調査所見により縄文時代のものと古代のものとが認識されている。また、これらとは別に、時期不明の炭窯様の遺構や炭化物が充填された性格不明の遺構なども検出されている。このような状況から、放射性炭素年代測定によるこれらの遺構の年代資料作成が要望された。

今回の分析調査では、上記各遺構の覆土中から採取された炭化材について、放射性炭素（^{14}C）年代測定を行い、遺構の年代に関する資料を得る。なお、炭化材については樹種同定も行い、当時の古植生や用材について考察する。

１．試料

試料は、11基の遺構覆土から採取された炭化材である。試料は、遺構ごとに試料番号１～11が付されてまとめられている。一つの試料の中には多数の炭化材片が含まれているが、試料によっては炭化材片の非常に少ないものもある。

ここでは、炭化材の非常に少ない試料番号６、７、11の３点を測定対象から外し、計８点の試料について年代測定を行った。また、炭化材の樹種同定は一試料につき１片の炭化材を抽出して、試料番号１～11までの全点について行った。なお、試料番号10では明らかに形状の異なる複数種の炭化材と炭化種子が認められたため、それぞれについて同定を行った。

なお、各試料の採取された遺構の詳細については、各結果を示した表１、表２に併記する。

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は、ベンゼン合成による液体シンチレーション法を用いた。ただし、炭化材のやや少ない試料番号５と９の２点については、微少量でも測定の可能な加速器質量分析計（ＡＭＳ）による測定を行った。ＡＭＳによる測定は、（株）地球科学研究所の協力を得た。以下に、液体シンチレーション法の処理過程を述べる。

ａ）前処理

乾燥、粉砕したものを水に入れて、浮上してきたものを除去した。次に水酸化ナトリウム溶液で煮沸した。室温まで冷却した後、水酸化ナトリウム溶液を傾斜法で除去した。この作業を除去した水酸

化ナトリウム溶液の色が薄い褐色になるまで繰返した。次に、濃硝酸を加えて煮沸した。室温まで冷却した後、傾斜法により除去した。充分水で洗浄した後、乾燥して蒸し焼き（無酸素状態で400℃に加熱）にした。蒸し焼きにした試料は、純酸素中で燃焼して二酸化炭素を発生させた。発生した二酸化炭素は捕集後、純粋な炭酸カルシウムとして回収した。ただし、試料が少量（試料表中で試料少量と記載がある試料）の場合は、水酸化ナトリウム溶液による処理を省略し、硝酸の代わりに塩酸で煮沸した。

ｂ）測定試料の調製

前処理で得られた炭酸カルシウムから、真空状態で二酸化炭素、アセチレン、ベンゼンの順に合成した。最終的に得られた合成ベンゼン３㎖（足りない場合は、市販の特級ベンゼンを足して３㎖とした）に、シンチレイターを含むベンゼン２㎖を加えたものを測定試料とした。

ｃ）測定

測定は、１回の測定時間50分間を20回繰返す、計1,000分間行った。未知試料の他に値が知られているスタンダード試料と、自然計数を測定するブランク試料を一緒に測定した。

ｄ）計算

放射性炭素の半減期として、LIBBYの半減期5,570年を使用した。

（２）炭化物の同定

ａ）炭化材

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

ｂ）種実

試料を実体顕微鏡で形態的特徴を観察し、種類を同定する。

３．結果

（１）放射性炭素年代測定

測定結果を表１に示す。測定した８点の試料のうち、試料番号１、２、９、10の４点は約4500～4900年前の縄文時代中期頃、試料番号４、５、８の３点は800～1000年前の平安時代、試料番号３は400年前の中世末～近世の年代をそれぞれ示す。

第13表　放射性炭素年代測定結果

試料番号	遺構	層位	所見	測定年代	誤差			δ13C（‰）	補正年代	測定番号	測定方法
					+2σ	−2σ	±1σ				
1	ＳＢ66Ｐ８（掘立柱建物跡）	層位１	縄文時代	4790	380	360	−	−	−	PAL−619	液体シンチレーション
2	ＳＢ66Ｐ８（掘立柱建物跡）	層位５	縄文時代	4930	290	280	−	−	−	PAL−620	液体シンチレーション
3	ＳＫ35（土坑）	底付近	時期不明	400	160	160	−	−	−	PAL−621	液体シンチレーション
4	ＳＷ41（炭窯）		時期不明	1060	150	140	−	−	−	PAL−622	液体シンチレーション
5	ＳＢ28Ｐ７（土坑・掘立柱建物跡）		古代	840	−	−	40	−27.7	840	Beta−139347	AMS
8	ＳＱ38（集石・炭窯？）		時期不明	1010	150	150	−	−	−	PAL−623	液体シンチレーション
9	ＳＢ216Ｐ２（掘立柱建物跡）		縄文時代	4560	−	−	40	−26.3	4560	Beta−139348	AMS
10	ＳＫＰ222（柱穴）		縄文時代	4890	210	210	−	−	−	PAL−624	液体シンチレーション

注.（１）所見：発掘調査所見による推定年代。
（２）年代値：1，950年を基点とした値。
（３）誤差：測定誤差２σ・１σ（測定値の95・68％が入る範囲）を年代値に換算した値。
（４）δ13C：試料炭素の13C／12C原子比を質量分析器で測定し、標準にＰＤＢを用いて算出した値。
（５）補正年代：δ13Cにより同位体補正された年代。
（６）ＰＡＬ：パリノ・サーヴェイ株式会社で測定。Beta：Beta Analytic社により測定。

（２）炭化物の同定

同定結果を表２に示す。炭化材は、針葉樹１種類（マツ属複維管束亜属）と広葉樹３種類（ハンノキ属ハンノキ亜属・クリ・エゴノキ属）に同定された。また、炭化種実は、コナラ属に同定された。炭化材の主な解剖学的特徴や種実の形態的特徴等を、以下に記す。

＜炭化材＞

・マツ属複維管束亜属（*Pinus subgen. Diploxylon*）　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やか。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、１～15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属（*Alnus subgen. Alnus*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または２～４個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、１～30細胞高のものと集合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・エゴノキ属（*Styrax*）　　エゴノキ科

散孔材で道管は単独または２～４個が複合して散在し、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性ＩＩ型、１～３細胞幅、１～20細胞高。

＜種実＞

・コナラ属（*Quercus sp.*）　　ブナ科

炭化した子葉が検出された。大きさは１㎝程度。一方のみが残存しているので半球状であるが、両方の子葉があわさるとほぼ球形になる。表面には維管束の跡が筋状に残る。

第14表　樹種同定結果

試料番号	遺構	層位	所見	試料の質	樹　　種
1	ＳＢ66Ｐ８（掘立柱建物跡）	層位１	縄文時代	炭化材	クリ
2	ＳＢ66Ｐ８（掘立柱建物跡）	層位５	縄文時代	炭化材	クリ
3	ＳＫ35（土坑）	底付近	時期不明	炭化材	マツ属複維管束亜属
4	ＳW41（炭窯）		時期不明	炭化材	クリ
5	ＳＢ28Ｐ７（土坑）		古代	炭化材	エゴノキ属
6	ＳＫ89（土坑）		時期不明	炭化材	クリ
7	ＳＫＰ216（掘立柱建物跡）		時期不明	炭化材	クリ
8	ＳＱ38（集石）		時期不明	炭化材	クリ
9	ＳＢ216Ｐ２（掘立柱建物跡）		縄文時代	炭化材	クリ
10	ＳＫＰ222（柱穴）		縄文時代	炭化材	ハンノキ属ハンノキ亜属
					クリ
				炭化種実	コナラ属
11	ＳＫＰ1332（柱穴）		時期不明	炭化材	クリ

４．考察

（１）遺構の年代について

放射性炭素年代が4500～4900年前の縄文時代中期頃を示した試料は、いずれも発掘調査所見により縄文時代とされたＳＢ66Ｐ８、ＳＢ216Ｐ２、ＳＫＰ222の各遺構から採取されたものである。また、後述するようにこれらの試料は、いずれも縄文時代に住居構築材に使用されることの多かったクリである。これらのことから、年代測定試料とした炭化物は、検出された掘立柱建物に伴う可能性が高い。したがって、上記３遺構の掘立柱建物跡は、縄文時代中期頃の遺構である可能性が高い。なお、ＳＢ66Ｐ８とＳＫＰ222は、その試料の年代がおよそ4800～4900年前で、100年程度の間で近接している。放射性炭素年代の測定精度を考慮すれば、これらの遺構はほぼ同時期にあった可能性があるといえる。これに対してＳＢ216Ｐ２は、これらの遺構より若干新しい可能性がある。

古代の年代を示した試料が採取された遺構のうち、ＳＢ28Ｐ７は３間×３間の総柱の掘立柱建物跡の柱穴であるとされている。測定年代は古代末頃を示しており、遺構の状況とも調和する。誤差を考慮すれば、ほぼ遺構に係わる年代を示している可能性が高い。一方、他の古代の年代を示した試料が採取された遺構は、ともに炭窯の可能性が考えられているが、２遺構ともに約1000年前という年代であることから、これら２遺構とＳＢ28Ｐ７を含む掘立柱建物跡との関連性は低いかも知れない。ただし、ＳＢ28Ｐ７試料と他の２遺構の試料とでは測定方法が異なっているため、これも年代値の違いに影響している可能性がある。この場合には、３遺構がともに同時期のものであることも考えられる。

今回の年代測定では、ＳＫ35出土試料のみが中世末～近世の年代を示した。採取された炭化物は土坑の底にあったことから、その年代は土坑の年代に近いと考えて良い。そうであるとすれば、ＳＫ35は近接する古代の掘立柱建物とは関係のない遺構になる。樹種同定結果において縄文時代の年代試料も古代の年代試料もいずれもクリが多い中にあって、ＳＫ35の試料のみがマツ属複維管束亜属であることも、ＳＫ35が中世末～近世の土坑であることを示唆する。

（２）炭化材の樹種について

炭化材は、柱穴や土坑から出土しており、構築材や燃料材などに由来する可能性がある。また、炭窯とみられる土坑から出土した炭化材は、製炭材に由来する可能性がある。今回は、これらの炭化材に合計４種類が認められた。

掘立柱建物跡の柱穴などから出土した炭化材は、全ての試料でクリが確認された。また、ＳＫＰ222ではクリの他にハンノキ亜属の炭化材とコナラ属の種実も認められた。このことから、ＳＫＰ222では、構築材以外の炭化物も混入していることが推定される。

クリは、縄文時代の住居構築材などに多数利用されていたことが知られており、秋田県内でも小田Ⅳ遺跡、上谷地遺跡、虫内遺跡等で報告されている（未公表資料）。この背景には、クリの強度や耐朽性に優れた材質を考慮した用材と共に、栽培によるクリ材の有効活用があったと考えられている（千野，1983）。実際に、青森県三内丸山遺跡では、花粉分析やＤＮＡ分析からクリ栽培の可能性が指摘されている（辻，1997；佐藤，1997）。本遺跡でもクリの栽培が行われ、果実の安定した収穫と、クリ材の有効活用が行われていた可能性もある。

土坑から出土した炭化材についても、クリが多く見られ、構築材の他にも燃料材などにも利用されていたことが推定される。時期不明の炭窯でもクリが確認され、クリの木炭が製炭・利用されていたことが推定される。

一方、ＳＫ35ではマツ属複維管束亜属が認められた。この炭化材の年代測定結果は、中世末～近世を示している。群馬県館林市茂林寺沼の調査では、複維管束亜属が人間の植生干渉によって増加したことが指摘されている（辻ほか，1986）。本遺跡でも、同様に人間活動の拡大に伴って、周囲に複維管束亜属が増加した可能性がある。

引用文献

千野裕道（1983）縄文時代のクリと集落周辺植生－南関東地方を中心に－．東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，ｐ．25－42.

潟西層団体研究グループ（1983）男鹿半島北東部潟西地域における潟西層．地球科学，37，ｐ．69－80.

佐藤洋一郎（1997）ＤＮＡ分析でよむクリ栽培の可能性．岡田康博・ＮＨＫ青森放送局編「縄文都市を掘る　三内丸山から原日本が見える」，ｐ．163－173，ＮＨＫ出版.

辻　誠一郎（1997）三内丸山を支えた生態系．岡田康博・ＮＨＫ青森放送局編「縄文都市を掘る　三内丸山から原日本が見える」，ｐ．174－188，ＮＨＫ出版.

辻　誠一郎・南木睦彦・小杉正人（1986）館林の池沼群と環境の変遷史．110ｐ．，館林市教育委員会.

第６章　まとめ

第１節　遺構について

今回の調査で狐森遺跡の当調査区は縄文時代前期後半から中期初頭と古代の遺跡であることがわかった。このうち、主体となるのは縄文時代で、捨て場を中心とする調査区のほぼ全域にわたって円筒下層ａ・ｂ式期、円筒下層ｄ式土器が多く出土した。これ以外にも円筒上層ａ１式の古手の土器が出土している。遺構については、遺物を伴う遺構が少なかったため、これらのどの時期に伴うものか不明な点が多く、調査結果そのものからは各時期の集落の状態を復元することはできなかった。そこで捨て場、掘立柱建物跡等の遺構の位置関係や周辺遺跡の調査結果を検討し、以下に遺跡の復元を試みることにする。

１．捨て場について

調査結果から調査区南側の緩斜面には大規模な縄文時代前期の捨て場が広がっていることがわかった。捨て場はさらに調査区外の東西にかなり広い範囲にわたっていることが周辺の状況から推測できる。調査区外東側は水田造成に伴い、台地の縁の斜面が大きく削平され、その法面周辺には縄文時代前期の土器を中心とする多くの遺物が散在している。西側については調査区境界付近でも遺物量が多いことや同様な地形が調査区外へ続くことから、捨て場がすぐに途切れることは考えにくく、むしろ平坦にちかい緩斜面に捨て場の他にも様々な遺構が残されている可能性が高いといえる。

捨て場からは主に円筒下層ａ・ｂ式期と円筒下層ｄ式期の２つの時期の土器が出土しているが、この他に円筒上層ａ１式の古手の土器や大木式土器も少数ではあるが出土している。出土量は円筒下層ａ・ｂ式期のものが多い。数値で示すことはできなかったが、遺物の出土傾向として、下層ａ・ｂ式は捨て場の全域で出土しているのに対し、下層ｄ式期については捨て場の南東部で多く出土している。出土層位については下層ｄ式期のものはⅢ層から多く出土し、下層ａ・ｂ式期のものはⅣ層から多く出土している。なお、下層ａ・ｂ式期の土器は繊維を多量に含んでいるせいか非常に脆弱で表面も劣化が著しく、縄文原体が判別できないものが多かった。

捨て場からは、土器とともに石器も多く出土している。石器の中では石錘の出土量が際立っている。石錘の用途については様々な見解があるが、沿岸部に位置するという遺跡の立地と出土量の多さをみると当遺跡の石錘は魚撈に使用されたものが多いと考える。

２．大型の掘立柱建物跡について

今回の調査では縄文時代の２つの大規模な掘立柱建物跡が検出された。この遺構の特徴として、桁行き方向の直線を意識してつくられた遺構であることがあげられる。また、このうちの１棟であるＳＢ66は、南北に並ぶ２つの柱穴を境にして東西に対称構造をもつことが大きな特徴である。柱の配置をみるとロングハウスのような竪穴住居跡を想定することもできるが、本文中に述べた理由により、倉庫または作業場としての機能を考える。この遺構で注目されるのは、２つの柱穴Ｐ15、16の底から

石錘を中心とする石器や礫が多数出土している点である。これらの遺物は、柱や裏込め土を入れる前に柱穴底面に置かれたことが土層断面から確認できる。つまり建物廃絶後に埋納されたものではないことが明らかといえる。この２つの柱穴の特殊な遺物の出土状態は、建物を建てる手順（柱の位置を決める手順）を明らかにするうえで重要と考える。

この建物は26.2m（Ｐ１～10）にわたって桁行きの軸線上にほぼ正確に柱穴が配置されている。このように正確に柱を配置するためには、長い縄や紐を張ることによってできる直線上に柱穴の位置を設定して行く方法がある。この他にも増築時に、既存する建物の柱が見通せる場合、その延長線上に柱を設置することができる。では、どの柱から最初に位置を決めていったかという点であるが、その手順を示すと次のようになる。

最初に特殊な遺物の出土状態を示す柱穴であるＰ15（東）、16（西）の位置が決められる。次にこの２点の西方向延長線上にＰ17の位置が決められる。Ｐ15から16までの距離とＰ16からＰ17までの距離はほぼ同じであるため、Ｐ17はＰ16を中心にするとＰ15と対称の位置に設置されたといえる。この段階で直線上に同間隔で並ぶ３つの柱穴の位置が決まる。その後、これら３つの柱穴に対応する梁行き方向のＰ８・７・６の位置が決められる。こうして２基の柱穴をもとに６基の柱穴が他の柱穴に先がけて決定された。

以上のように考える根拠として、

①　６基の柱穴による方形プランは桁行き（約３m）・梁行き（約2.25m）の間隔がほぼ同じで他の柱穴に比べ正確に配置されている。

②　６基の柱穴は遺構内の他の柱穴よりプランが一回り大きい。

という２点をあげる。特に重要なのが１点目である。６基の柱穴は梁・桁行きとも一定の間隔で配置されているのに対して、これ以外の柱穴は桁行きの軸線上には位置するものの、間隔は一定ではない。つまり６基の柱穴の位置は他の柱穴に比べ、より正確に決められていることがわかる。２点目については、建物を構成する全ての柱穴の中で６基の柱穴による方形プランを明確に区別できるということである。この２点から、６基の柱穴（プラン）が、建物を構成する全柱穴の中で中核をなす柱穴であることがわかる。中でもＰ15、16の他の柱穴にはみられない特殊な遺物の出土状態は、建物を建立する際の地鎮のような儀式を意味する可能性が高いといえる。従ってこの２つの柱穴は６本の柱の中で最も重要な柱、つまり最初に設置された柱と考えるのである。また、この６基の柱穴はある尺度を基準にして造られた可能性が高いことが柱穴間の距離からいえる。この６基の柱穴の間隔は桁行き方向が3.01～3.09m、梁行き方向が約2.25～2.27mであるが、これを岩田重雄氏の縄文時代の尺単位（ＢＣ5000～1087）17.3㎝を基準にして考えてみると梁行きは17.3㎝の13倍が2.249mとプラス0.1～2.1㎝の差で極めて近い値を示すことがわかる。桁行きについても最初に決められたと考えるＰ15～16間が3.07m、Ｐ16～17間が3.09mと17.3㎝の18倍にあたる3.114mとはマイナス2.4、4.4㎝の差とこれも近い値といえる。このため、この建物は17.3㎝前後の長さを基準に造られた可能性が高いと考える。

３．縄文時代前期後半から中期前葉の狐森遺跡周辺の状態

ここでは周辺の調査区や周囲の遺跡の調査成果から、当調査区（平成10・11年度調査）の性格についてふれたい。

まず、当調査区の北側の沢を挟んだ台地（北に200m）にある金仏遺跡では、縄文時代、弥生時代、古代、中世の遺跡であることがわかっている。このうち縄文時代においては縄文時代前期末葉から中期初頭と中期末葉の２時期の遺構・遺物が確認され集落跡であることがわかっている。前時期については、竪穴住居跡２軒、土坑墓等の遺構が検出され、遺物はこれらの時期に伴うものとみられる円筒下層ｄ式から上層ａ式土器が少量出土している。

平成12年度調査部分（当調査区から北東に150～200m）は、縄文時代と平安時代の集落跡であることがわかっている。縄文時代前期末葉から中期前葉については竪穴住居跡４軒、中期後半の竪穴住居跡１軒、多数のフラスコ状土坑などがみつかっている。包含層からは円筒上層ａ、ｂ、ｃ式土器が出土している。

当調査区から沢を挟んで東にあたる部分（圃場整備事業関連調査）は、主に中世の集落跡であることがわかっている。縄文時代の遺構遺物ともに希薄な部分といえる。

当調査区の南の沢を挟んだとところにある兵ヶ沢遺跡（当調査区から南に100m）は、縄文時代と古代の遺跡であることがわかっている。縄文時代では、円筒下層ｂ式期の竪穴住居跡１軒、遺構外遺物として円筒上層ｂ式、ｄ式が数点出土している。

以上、当調査区の周辺の状況から円筒下層ａ・ｂ式期については当調査区の南側つまり台地の南縁を中心に沢を挟んで向かい側の台地にも居住の痕跡が残されていること、逆に当調査区のより北側では円筒下層ａ・ｂ式期の遺構や遺物が検出されていないことがわかる。

円筒下層ａ・ｂ式期については住居の位置が問題となる。一般的には大規模な捨て場は居住区域より低いところ形成されるため、当遺跡の捨て場を残した人々の居住区域は、捨て場より標高の高い調査区中央部や調査区外の東西にあるのが自然と考える。ＳＩ21は捨て場より低い面に位置し、ＳＩ101については捨て場から遠く離れたところにあるため、これらの住居と円筒下層ａ・ｂ式期の遺物が大量に廃棄された捨て場とを関連ずけるには地形的にみて不自然である。この２つの住居についてはこれ以前・以後の竪穴住居の可能性が高いといえる。住居の可能性があるものとしては、炉がないもののＳＫＩ59やＳＫＩ104などの竪穴状遺構があげられるが、これらをもって大規模な捨て場に対応させるには不十分である。当該期の集落として県内では上ノ山Ⅱ遺跡を代表としてあげることができるが、当調査区からは上ノ山Ⅱ遺跡のような複数の炉をもつロングハウスは検出されなかった。ただし、ＳＢ87は本文中に述べたようにロングハウスのような竪穴住居であった可能性がある。ＳＢ13、19は柱穴の配置だけをみるとロングハウスに似ているが炉がなく、柱穴の配列にもＳＢ60・66のような規則性がないため性格については不明な点が多い。当調査区からは約3000基の縄文時代の柱穴様ピットが検出されている。これらは本来、竪穴住居や掘立柱建物を構成するものと考えるが、調査ではこれを明らかにすることができなかった。ピットの覆土には焼土を含むものが少なからずみられ、この焼土の由来が竪穴住居の地床炉の可能性も考えられる。これらのピットについては今後、調査区外の東西にある柱穴の分析によって、竪穴住居や掘立柱建物への復元が達成される可能性がある。

次に下層ｄ式～上層ａ式期であるが、当調査区の北側の金仏遺跡から12年度調査部分を経て当調査区に至る広い範囲にわたって遺構・遺物が散発的に存在する傾向がある。この中で、金仏遺跡と12年度調査区については住居とフラスコ状土坑・土坑墓のセット関係から小規模な集落の存在が指摘されている。当調査区の掘立柱建物跡（ＳＢ60・66）は縄文時代前期末から中期初頭に属する可能性が高

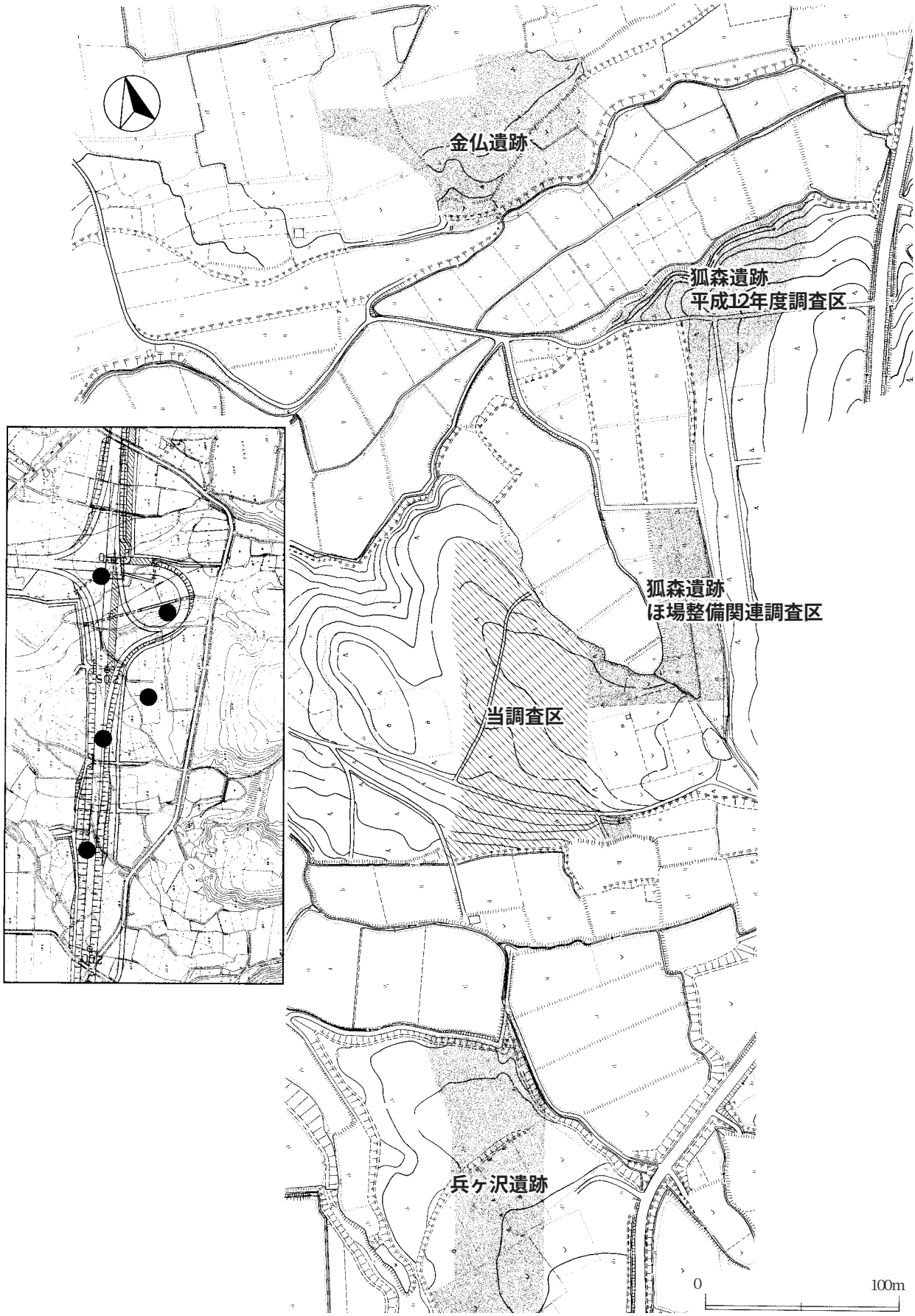
いが、この時期の竪穴住居跡と断定できるものは当調査区からは検出されなかった。当調査区では中央部より南側にフラスコ状土坑が集中する傾向がある。これらの遺構が仮に当該期に属するのであれば、住居とフラスコ状土坑や土坑墓とのセットを考えた場合、居住区域は調査区外東側の畑地に存在する可能性もある。

以上のように縄文時代前期末から中期初頭にかけては、当遺跡周辺の広い範囲にわたって人々の生活の痕跡が認められるため、当調査区周辺には小規模な集落が点在していた可能性が高い。このような環境の中で、突出したあり方を示すＳＢ60・66は周辺集落共有の施設あるいは共同作業の場であったことが推測される。仮にＰ15・16の遺物の出土状態を、様々な共同作業で使用する道具を地鎮の意味で埋納したとものと考えるのであれば、出土した石錘は共同作業の一つとして魚撈が行われていたことを示唆するものになるだろう。

第２節　遺物について

１．土器

狐森遺跡からは、総重量78,672kgの土器が出土している。これは主に調査区南側の緩斜面に東西に広がる捨て場から出土したものである。既述のとおり土器はその出土量に比べて、図示できた資料は極めて少ない。第１群土器は数量的にも少なく、詳しい時期については明らかにできないが、縄文時代早期中葉の物見台式の系統と考えられる。第２群土器については、縄文前期中葉と後葉の円筒下層ａ式、ｂ式と円筒下層ｄ式として捉えている。狐森遺跡の捨て場の主体をなすのは前者の円筒下層ａ式、ｂ式で圧倒的に多い。円筒下層ａ式については、江坂氏はａ１式とａ２式とに分け、ａ２式になり隆帯が巡るとし、山内氏は少数ではあるが隆帯を有するものがあるとしている。また、村越氏も当該形式に隆帯のある土器も存在することを述べている。これらに対し三宅氏はａ２式には隆帯を有する土器は含まないとし、両者で見解が異なっている。狐森遺跡の第２群土器のうち第４類の隆帯の巡る土器は、口縁部文様帯に綾繰文や斜縄文が施されるものの、網目状の撚糸文はみられない。また口縁部も波状を呈するものが無いことなどからも、円筒下層ａ式とするのが妥当と思われるが、詳細な検討が必要である。第３群土器は縄文時代中期前半の土器であり、１類は円筒上層ａ式、２類は大木７式として捉えている。秋田県の中央部から北部では、縄文時代前期中葉から後葉にかけては円筒下層様式と、大木様式の土器が供伴して出土するようになる。協和町の上ノ山Ⅱ遺跡では、円筒下層ｂ式に並行して大木５式土器が出土する。中期前葉の山本町の和田Ⅲ遺跡では、円筒上層ａ式及びｂ式に多少の大木７ａ式が伴う。また、男鹿市の大畑台遺跡でも上層ａ式、ｂ式に伴って大木７式が出土している。縄文時代前期中葉には秋田県の中央南部まですでに円筒下層様式と前期大木様式の土器が供伴し、中期前葉には両様式の土器が中央部より北の地域である能代山本地域においても共伴することが認められる。これらからは、前期から中期にかけて大木様式の土器が徐々に北の地域にも浸透していったことがうかがえるのであり、こうした過程の中に狐森遺跡も位置付けられものと考えられるのである。



第96図　狐森遺跡と周辺の遺跡

２．石器・石製品

石器・石製品は剥片も含めて218,034点が出土している。土器同様に捨て場から出土したものが大半で、円筒下層ａ式とｂ式に伴うものと判断される。石器の種類には、既述のとおり多岐にわたるが、石錘が極めて多く、次に掻器や石匙、半円状扁平打製石器などがある。各器種の出土点数をまとめたものが第15表である。

第15表　狐森遺跡出土石器の器種別出土量

器種	石錘	掻器	石匙	半円状扁平打製石器	石篦	石槍	くぼみ石	石鏃	石錐	楔型石器	敲石	砥石	磨製石斧	石皿	総計
点数	5,750	2,514	2,120	2,025	1,188	456	426	277	194	159	118	107	103	42	15,479
割合	37.1%	16.2%	13.7%	13.1%	7.7%	2.9%	2.7%	1.8%	1.3%	1.0%	0.8%	0.7%	0.7%	0.3%	100.0%

石器の器種構成と出土量が、遺跡あるいは遺構群の性格を反映するかどうかは慎重な検討を要するが、狐森遺跡との比較資料として、縄文時代前期の協和町の上ノ山Ⅱ遺跡における石器の器種組成と種別毎の出土頻度をまとめたものが第16表である。

第16表　上ノ山Ⅱ遺跡出土石器の器種別出土量

器種	石錘	掻器	石匙	半円状扁平打製石器	石篦	石槍	くぼみ石	石鏃	石錐	楔型石器	敲石	砥石	磨製石斧	石皿	総計
点数	942	958	2,507	2,466	1,076	298	2,240	978	225	2	25	－	270	39	12,026
割合	7.8%	8.0%	20.9%	20.5%	8.9%	2.5%	18.6%	8.2%	1.9%	0.02%	0.2%	－	2.2%	0.3%	100.0%

＊　掻器は、削器との合計
＊　石篦は、打製石斧との合計
＊　石槍は、尖頭器・尖頭様石器・有撮石器の合計

狐森遺跡における石錘の出土頻度は全石器の37.1%を占めており他を圧倒している。次いで掻器や石匙などの加工具と考えられる石器群が優位といえる。一方、上ノ山Ⅱ遺跡では、石匙、半円状扁平打製石器、くぼみ石が優位であるが、狐森遺跡の石錘のように突出する器種はみあたらない。上ノ山Ⅱ遺跡では、第16表に掲げた石器のほかに、玦状耳飾りや多様な石製品も数多く出土しており、縄文時代前期が保有する石器・石製品が全て揃っているとみることも可能である。それに対して、狐森遺跡のようにある器種のみが出土頻度が高いことは、それ自体遺跡の特徴を顕しているものと考えることができないだろうか。石錘には漁網錘や編物の製作時に使用する錘とする説などがあるが、狐森遺跡の石錘の場合、その重さのピークが50ｇ～200ｇで、また１kgを超えるものも８点あり、編物の錘とは考えがたい。また、全てが漁網錘とする説にも肯定できるほどの根拠は持たないが、何れにしろ狐森遺跡の石器組成と器種別の出土頻度は、遺跡で行われた生業を示す資料となり得る可能性をもっているものと考えることもできるのではないだろうか。

参考文献

日本鉱業株式会社船川精油所『大畑台遺跡発掘調査報告書』1979(昭和54)年

秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ－上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡－下』秋田県文化財

調査報告書第166集　1988(昭和63)年

秋田県教育委員会『金仏遺跡』秋田県文化財調査報告書第333集　2000(平成14)年

秋田県教育委員会『狐森遺跡』秋田県文化財調査報告書第302集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会『兵ヶ沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第296集　2000(平成12)年

秋田県教育委員会『和田Ⅲ遺跡－農免農道整備事業金岡西部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書　第350集　2003(平成15)年

秋田県教育委員会『狐森遺跡』秋田県文化財調査報告書第345集　2003(平成15)年

秋田県教育委員会『兵ヶ沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第296集　2000(平成12)年

浅川滋男編『先史日本の住居とその周辺』同成社　　1998（平成10）年

岩田重雄「中国・朝鮮・日本の長さ標準－（第１報）300 B.C. － A.D. 1700－」『計量史研究』Vol.16 No. 11994(平成６)年

岩田重雄「中国・朝鮮・日本の長さ標準－（第２報）5000～300 B.C. －」『計量史研究』Vol.17 No. 11995年(平成７)年

江坂輝弥『石神遺跡』ニュー・サイエンス社　1970(昭和45)年

三宅徹也「円筒土器の概念とその崩壊」『青森県立郷土館調査研究年報３』 1977(昭和52)年

三宅徹也「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』小学館　　1989(平成元)年

村越潔『円筒土器文化』 雄山閣　1974(昭和49)年

狐森遺跡遠景（南→）

捨て場精査

北側調査区終了（北東→）

北側調査区終了（南東→）

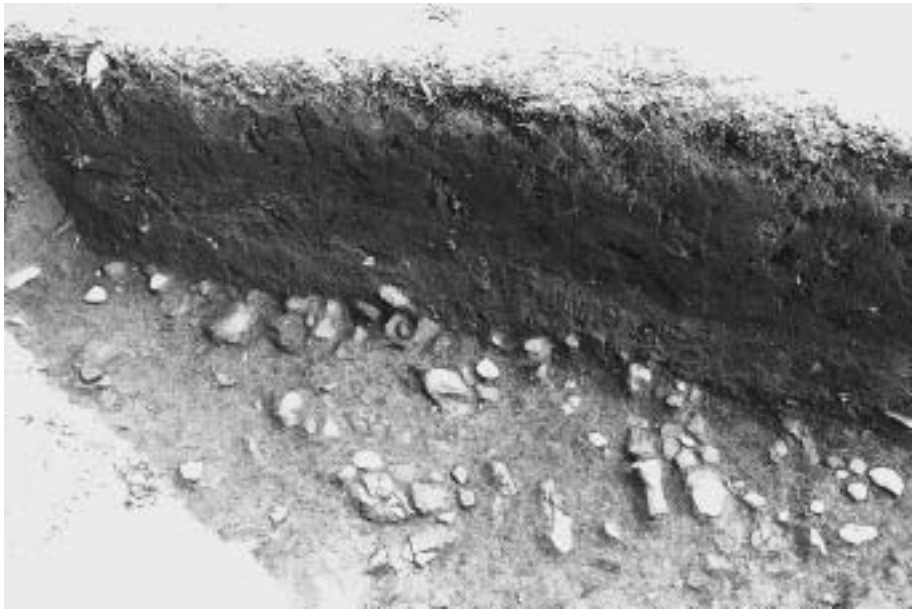
側道南側終了
（北西→）

98年度調査区終了
（北西→）

南側調査区終了
（北東→）

側道南側土層断面
（北西→）

南側調査区土層断面
（西→）



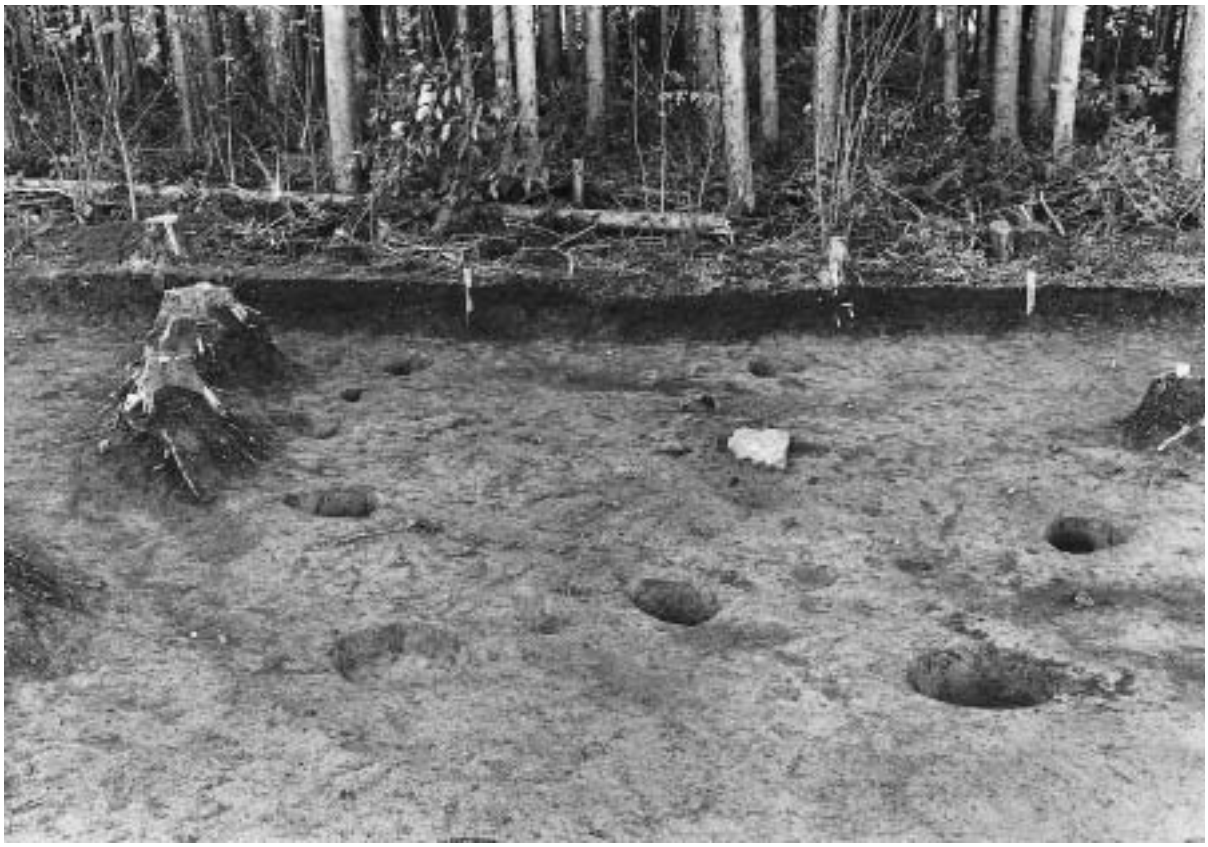
南側調査区土層断面
（西→）

捨て場遺物出土状態
（北西→）

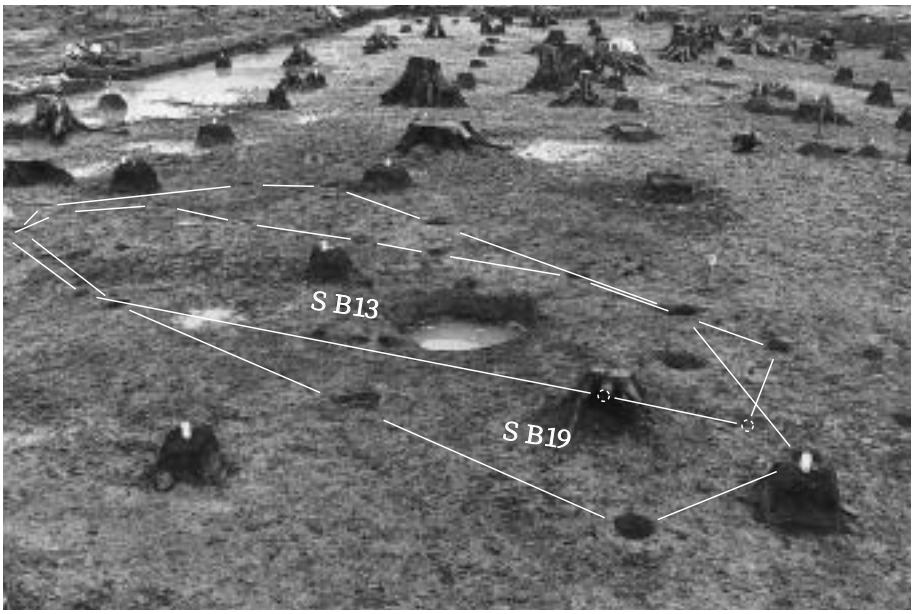
捨て場遺物出土状態
（北西→）

捨て場遺物出土状態
（南東→）

ＳＩ22完掘（南東→）

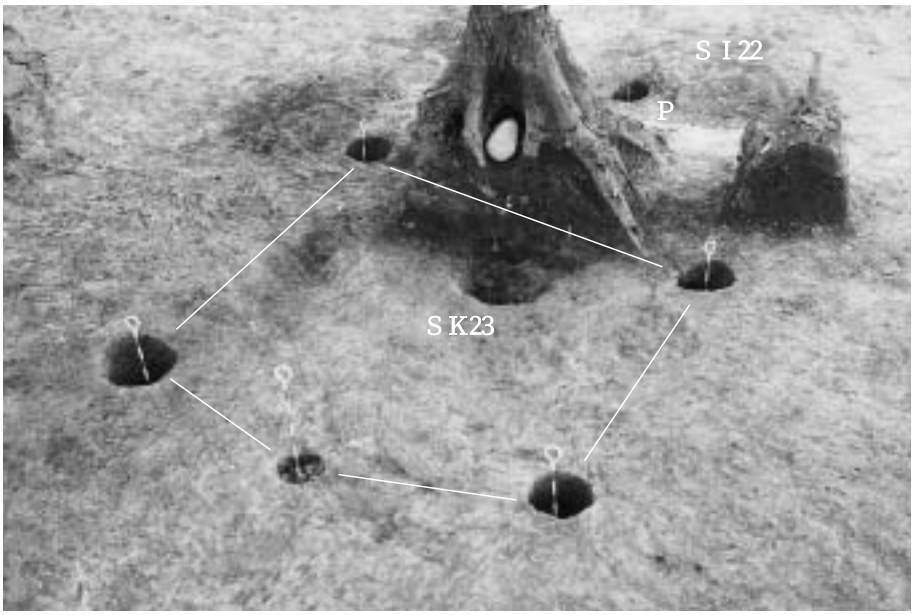


ＳＩ101完掘（東→）



S B13・19完掘
（西→）

S B13・19完掘
（西→）

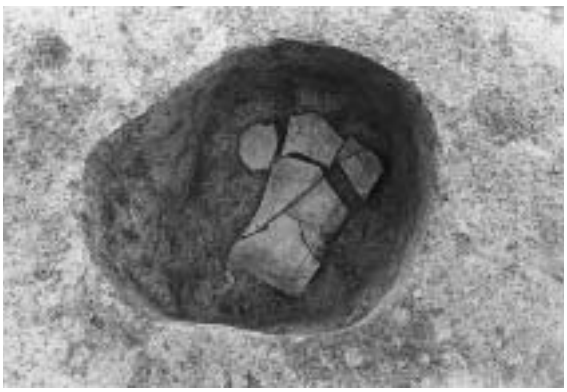


S B24完掘
（北西→）

ＳＢ60・66周辺（南東→）

ＳＢ60確認（南→）

SB60・66（南東→）



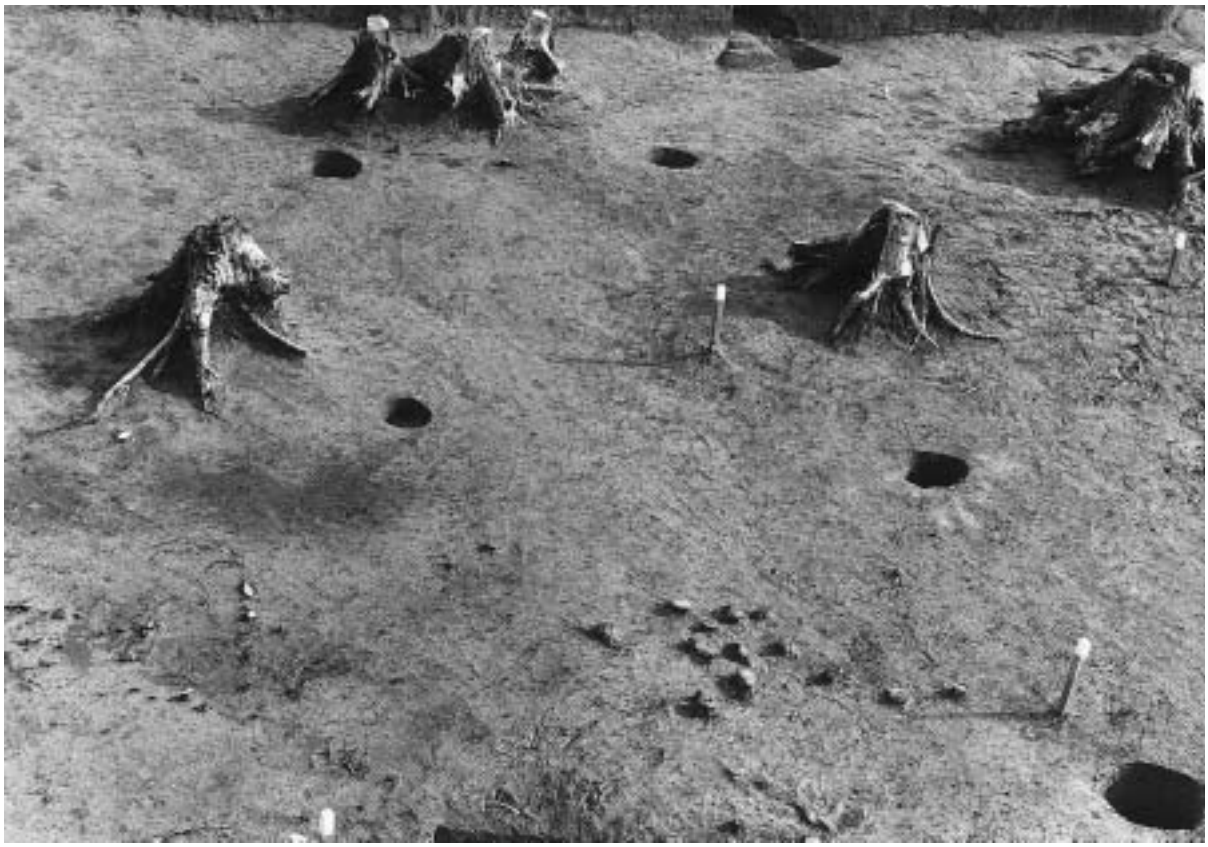
SB66P15遺物出土状態（上位）

SB66P16遺物出土状態（上位）

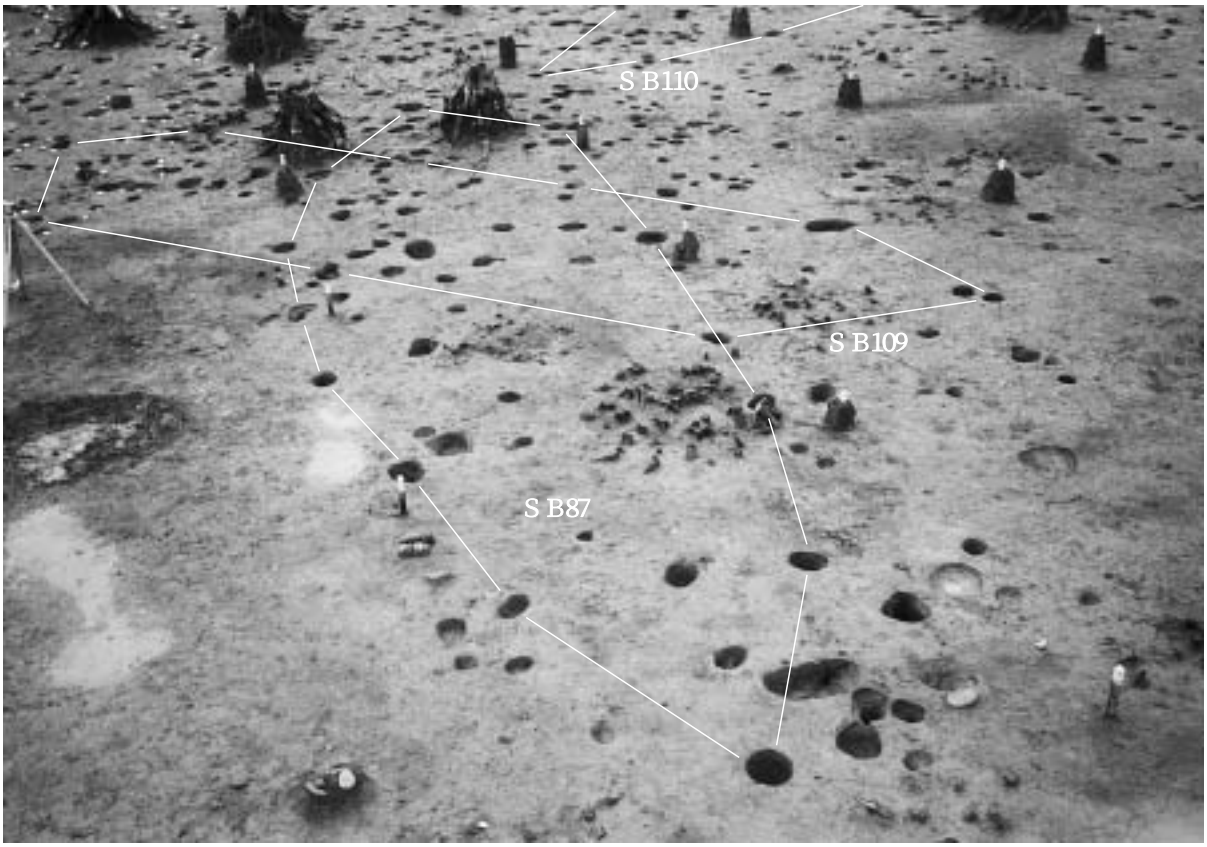
SB66P15遺物出土状態（下位）

SB66P16遺物出土状態（下位）

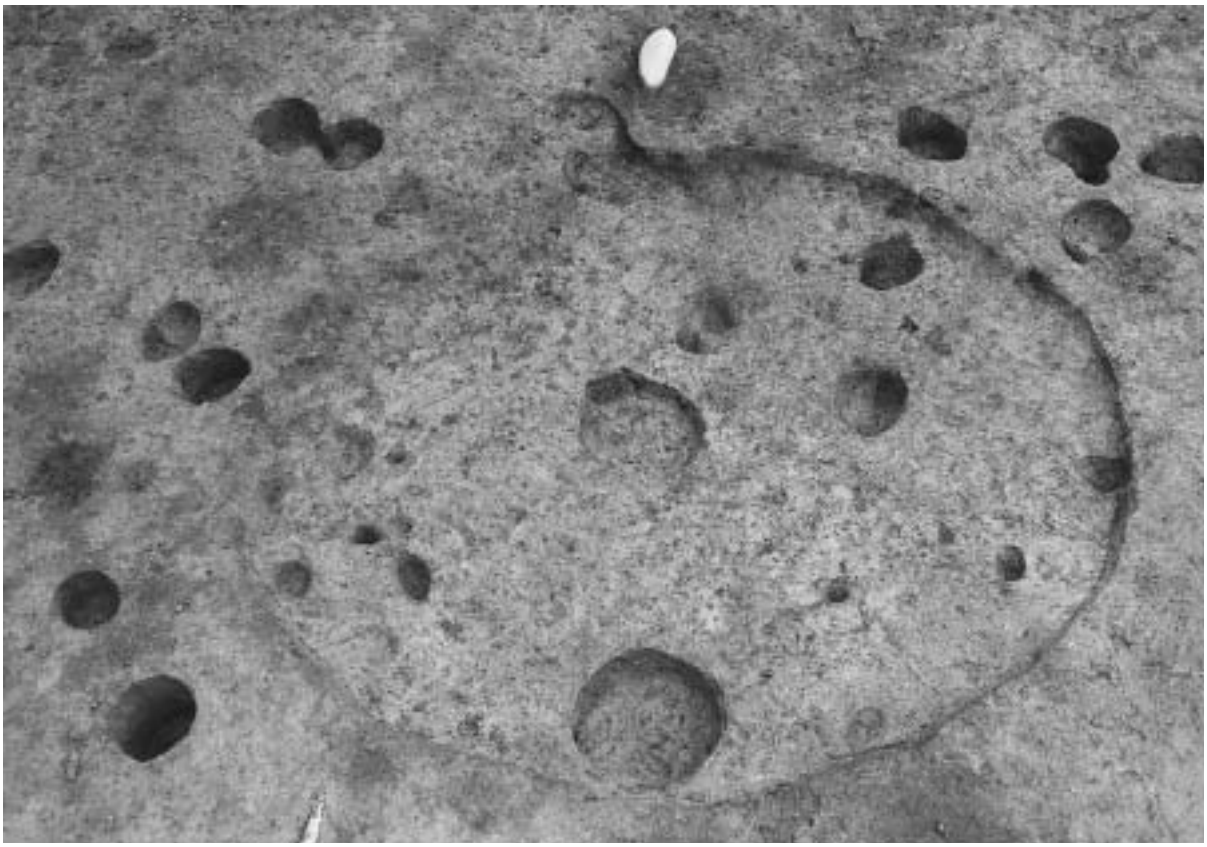
ＳＢ87・ＳＢ109周辺（南西→）



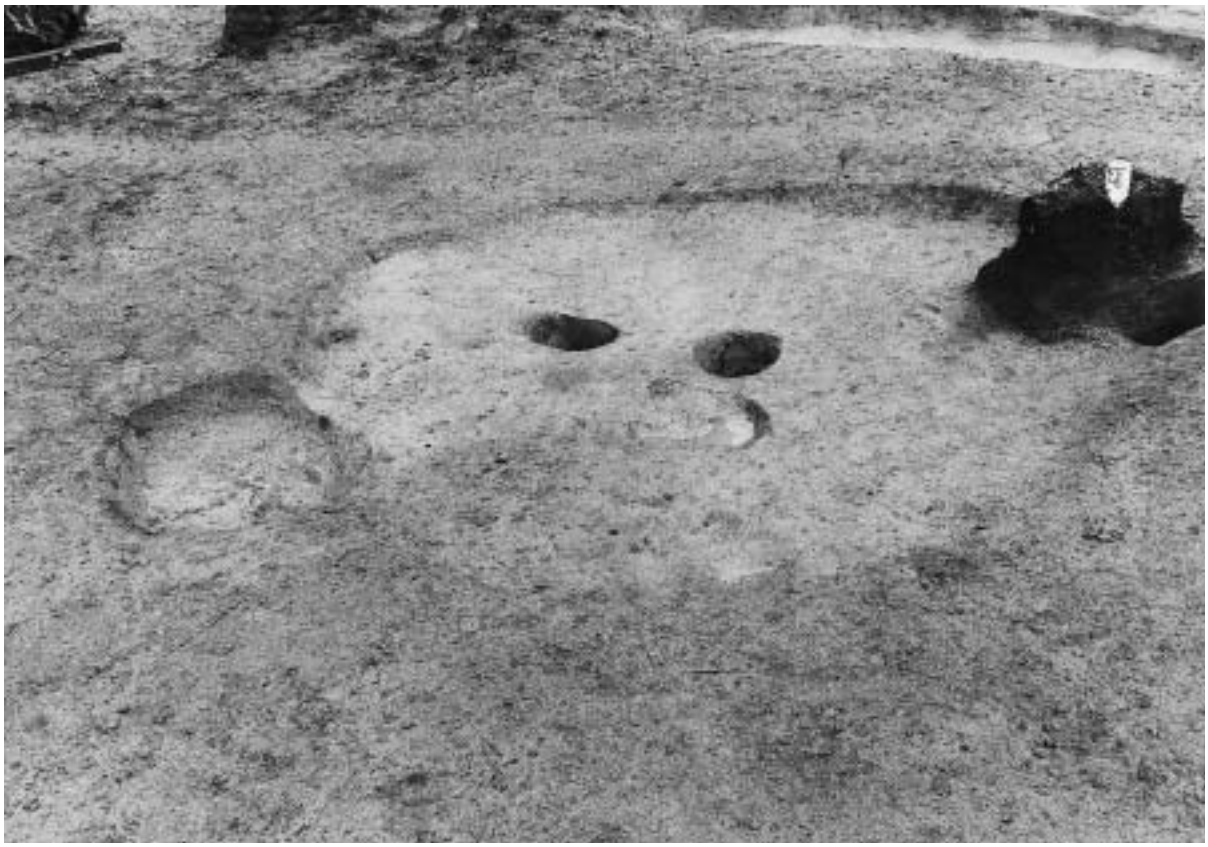
ＳＢ215完掘（北西→）



S B87・S B109・S B110（南西→）



S K I 59（南→）



ＳＫⅠ104完掘（南東→）

ＳＫＦ04土層断面（南西→）

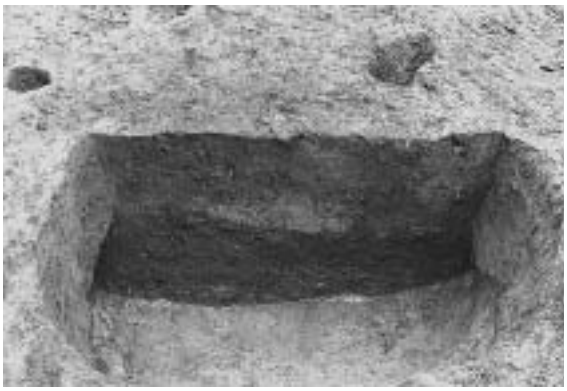
ＳＫＦ04完掘（南西→）

ＳＫＦ05土層断面（南西→）

ＳＫＦ05・14土層断面（南→）

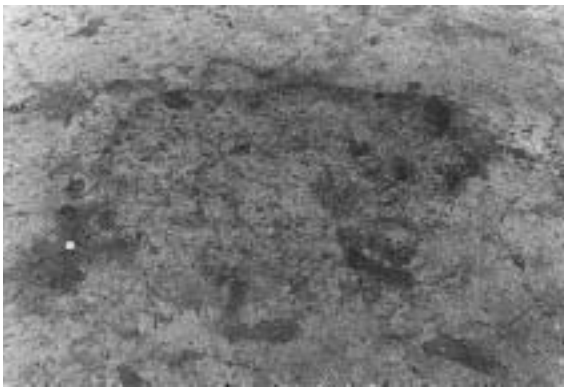
ＳＫＦ06土層断面（南→）

ＳＫＦ06完掘（南東→）



ＳＫＦ20土層断面（西→）

ＳＫＦ20完掘（南西→）

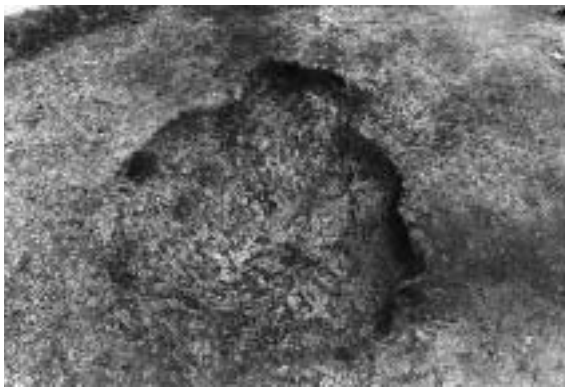


ＳＫ02完掘（西→）

ＳＫ10土層断面（南西→）

ＳＫ11完掘（南西→）

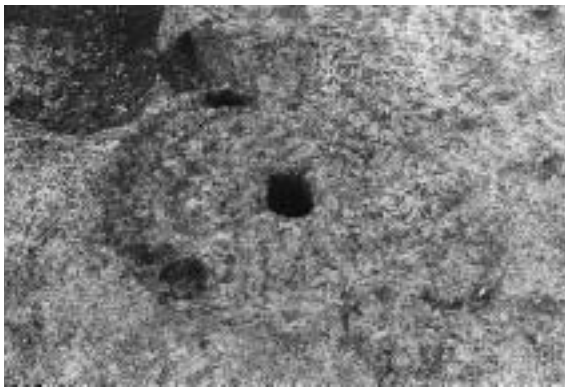
ＳＫ31完掘（西→）



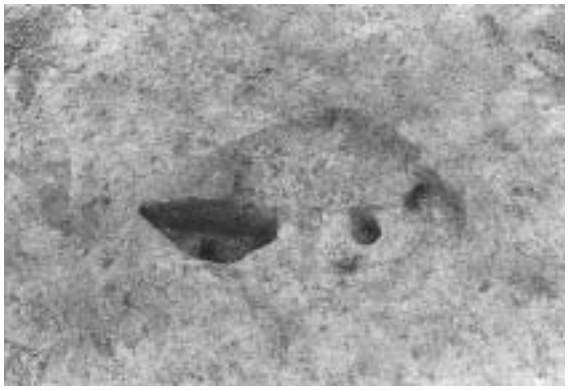
SK33完掘（西→）

SK54完掘（西→）

SK55完掘（南西→）



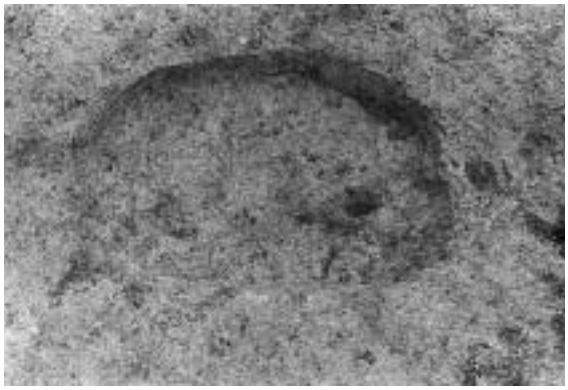
SK71完掘（東→）



SK72完掘（東→）

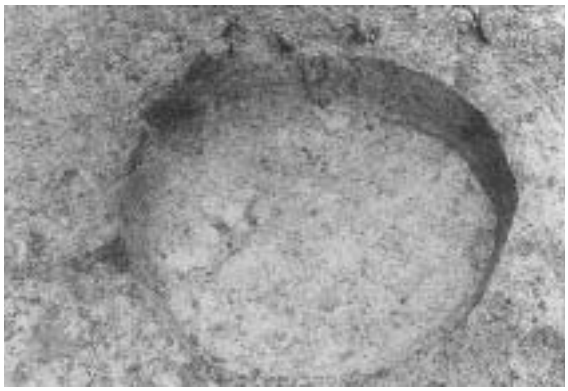
SK76完掘（南→）

SK73周辺完掘（南東→）



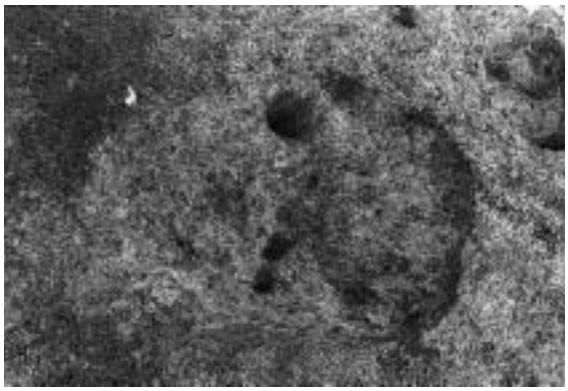
SK86完掘（南西→）

ＳＫ88完掘（南西→）

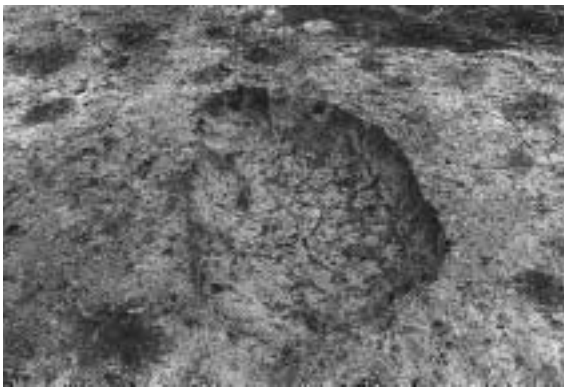


ＳＫ89完掘（南西→）

ＳＫ94完掘（南西→）



ＳＫ99完掘（南→）

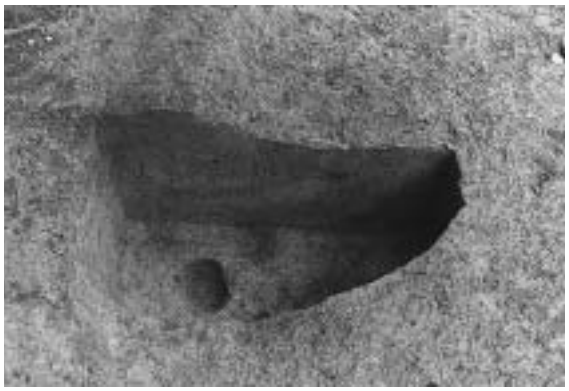


ＳＫ105完掘（南→）

ＳＫ201土層断面（西→）

ＳＫ202土層断面（北東→）

ＳＫ203土層断面（北東→）



S K204土層断面（南→）

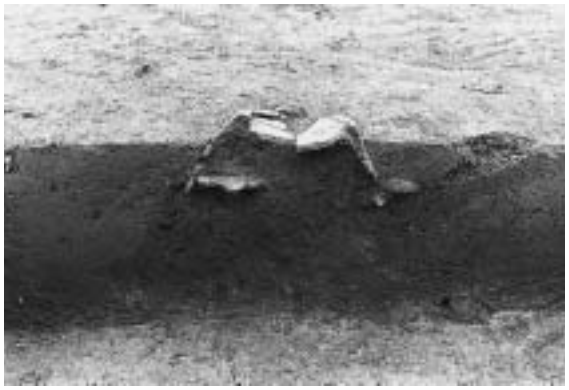
S R09断面（南西→）

S R12断面（南→）

S R15断面（南東→）

S R30断面（南西→）

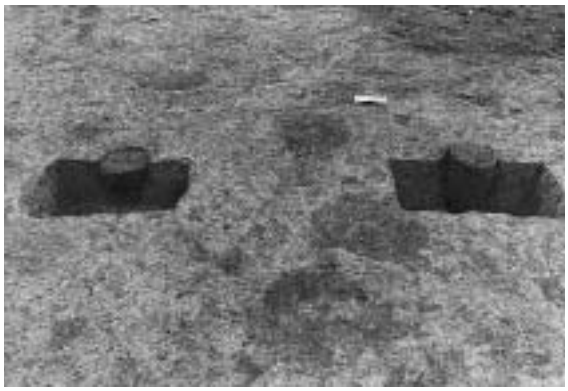
S N61周辺（南東→）



S R62断面（南西→）

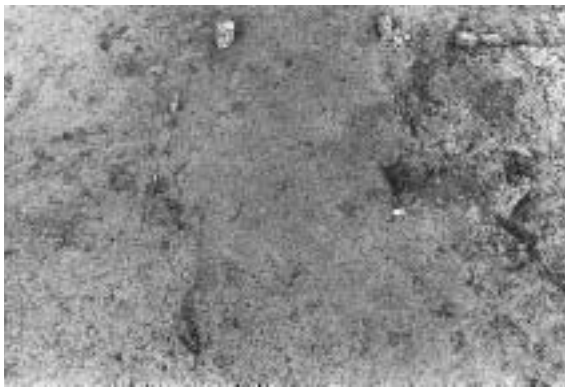
S R69断面（南→）

ＳＲ78断面（南→）

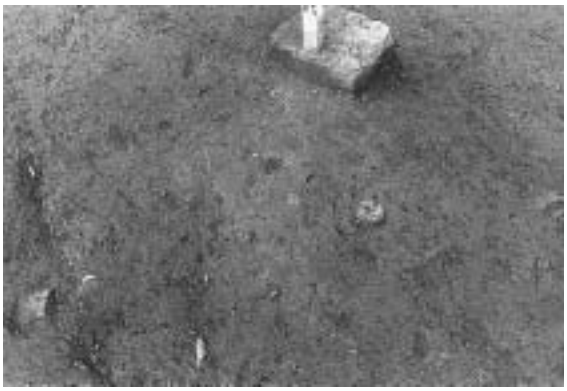


ＳＲ84・85断面（西→）

ＳＮ03確認（南東→）

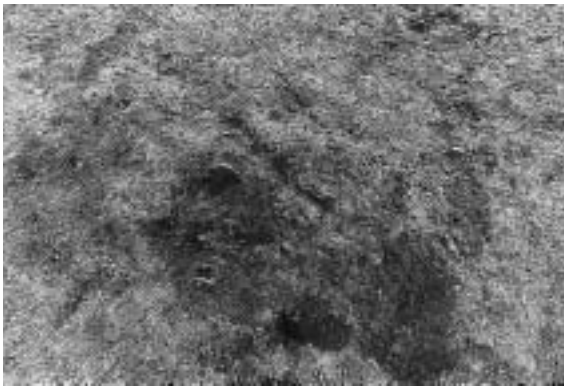


ＳＮ18確認（南→）



ＳＮ61確認（南東→）

ＳＮ70確認（南西→）



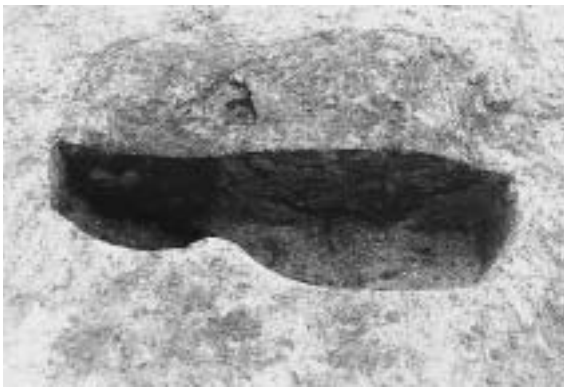
ＳＮ102確認（西→）

ＳＤ25完掘（南西→）

ＳＢ28完掘（西→）

ＳＢ28Ｐ３（南西→）

ＳＢ28Ｐ４（南→）



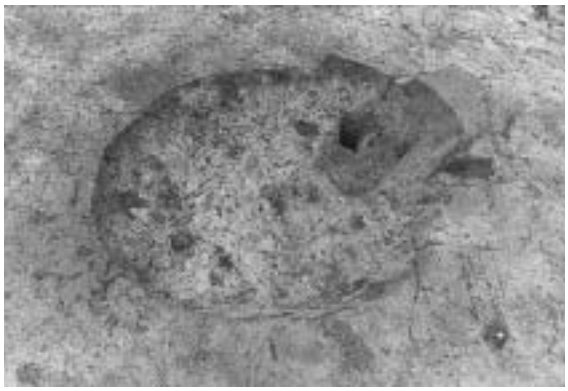
ＳＢ28Ｐ６（南西→）

ＳＢ28Ｐ８（西→）

S K27完掘（北→）

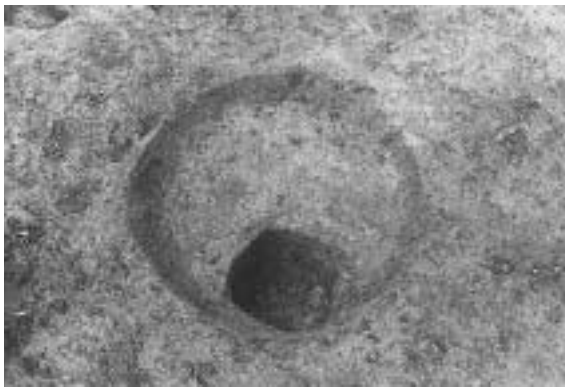
S K35遺物出土状態（南→）

S K47土層断面（東→）

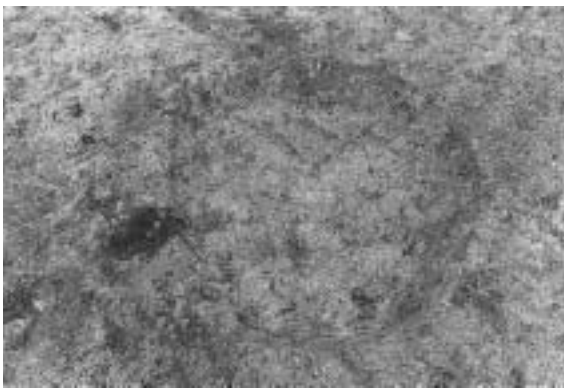


S K57完掘（南→）

S K90土層断面（南→）



S K91土層断面（南→）



S K93完掘（南→）

S Q37確認（南→）

ＳＱ38確認（南→）

ＳＱ39確認（西→）

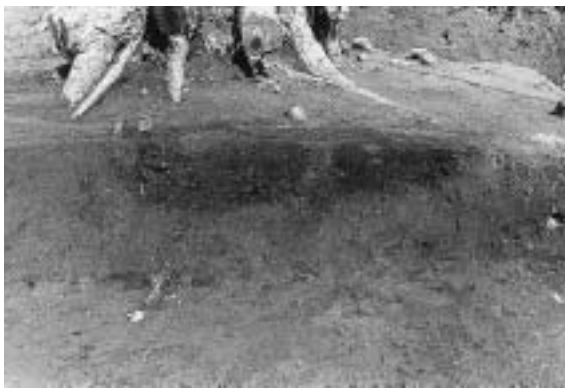
ＳＷ01炭化材出土状態（南西→）

ＳＷ01完掘（南→）

ＳＷ28土層断面（南→）

ＳＷ28完掘（南西→）

ＳＷ34完掘（北西→）



ＳＷ41土層断面（西→）

ＳＤ95～98確認（南→）

98年11月中旬の大雪

40

42

43

10

遺構外出土土器（1）

11

8

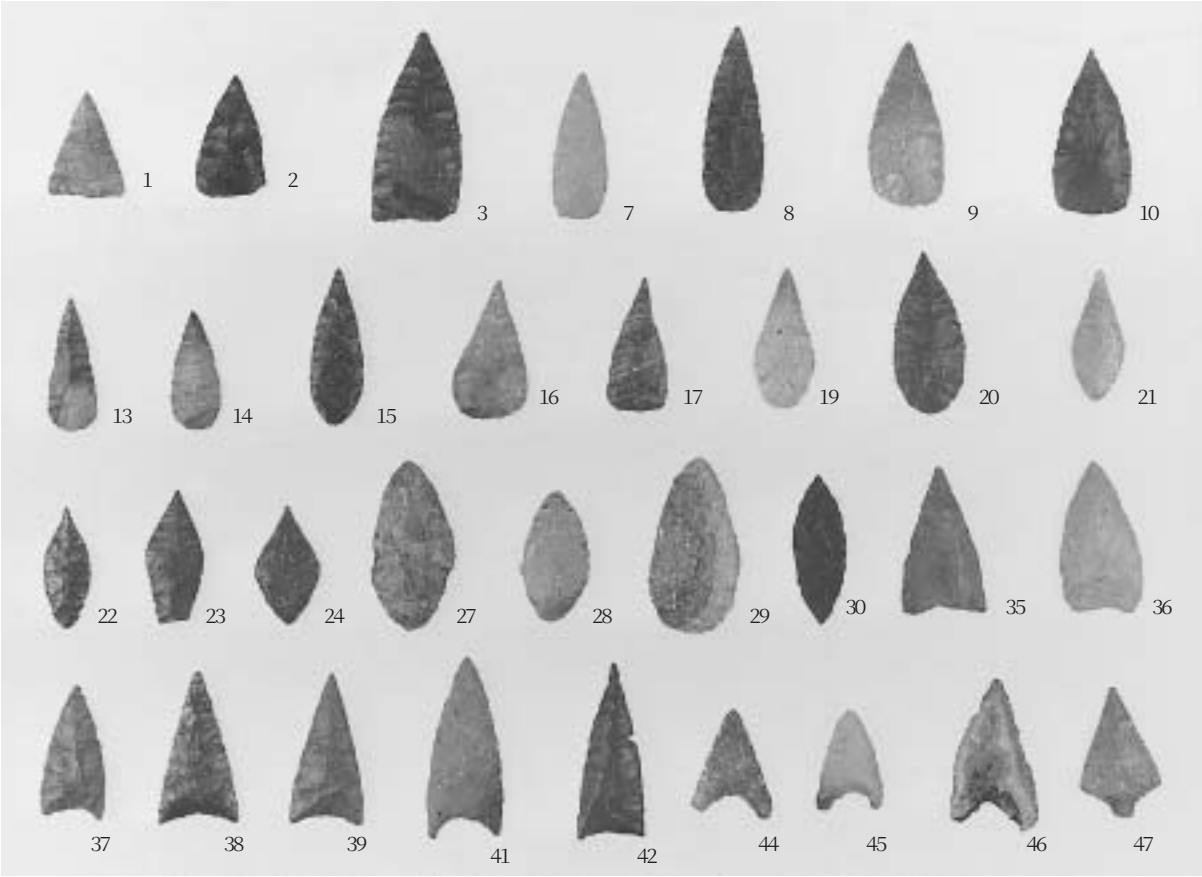
44

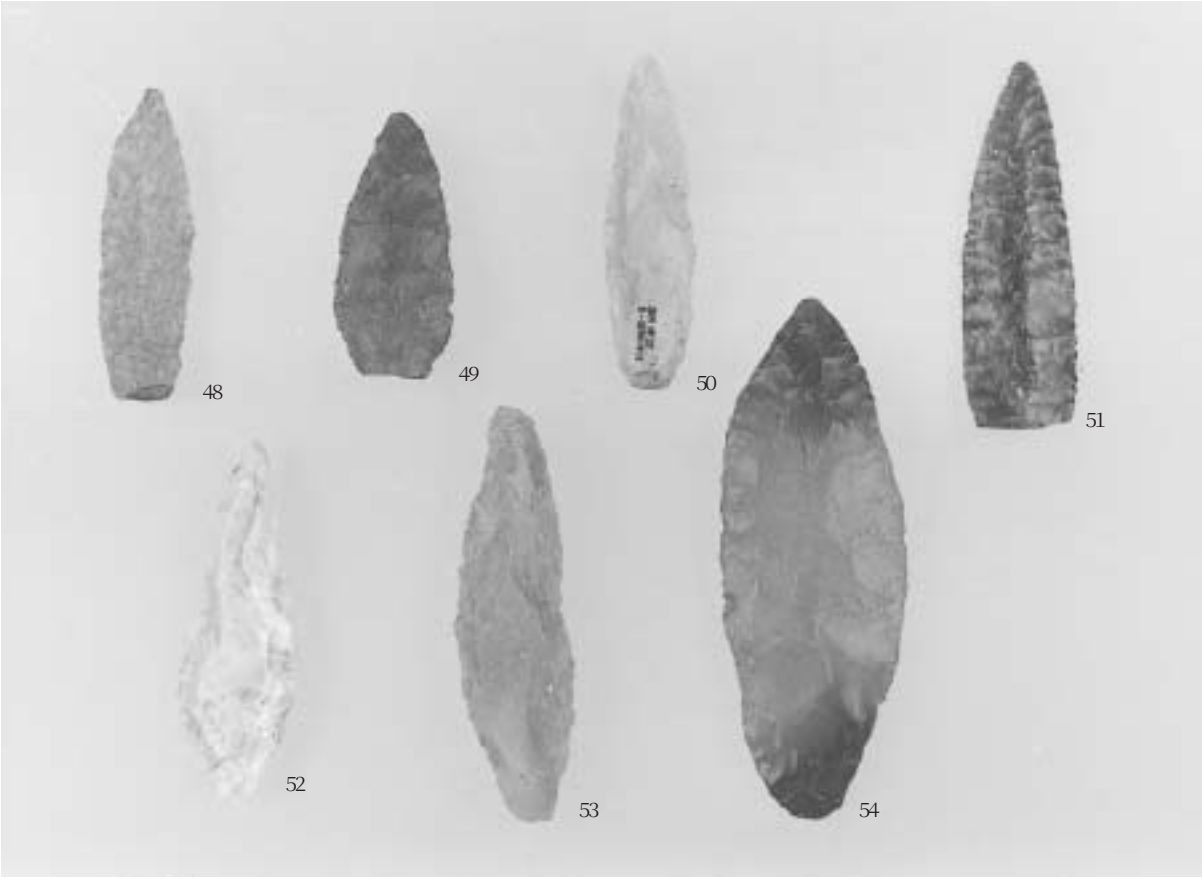
45

46

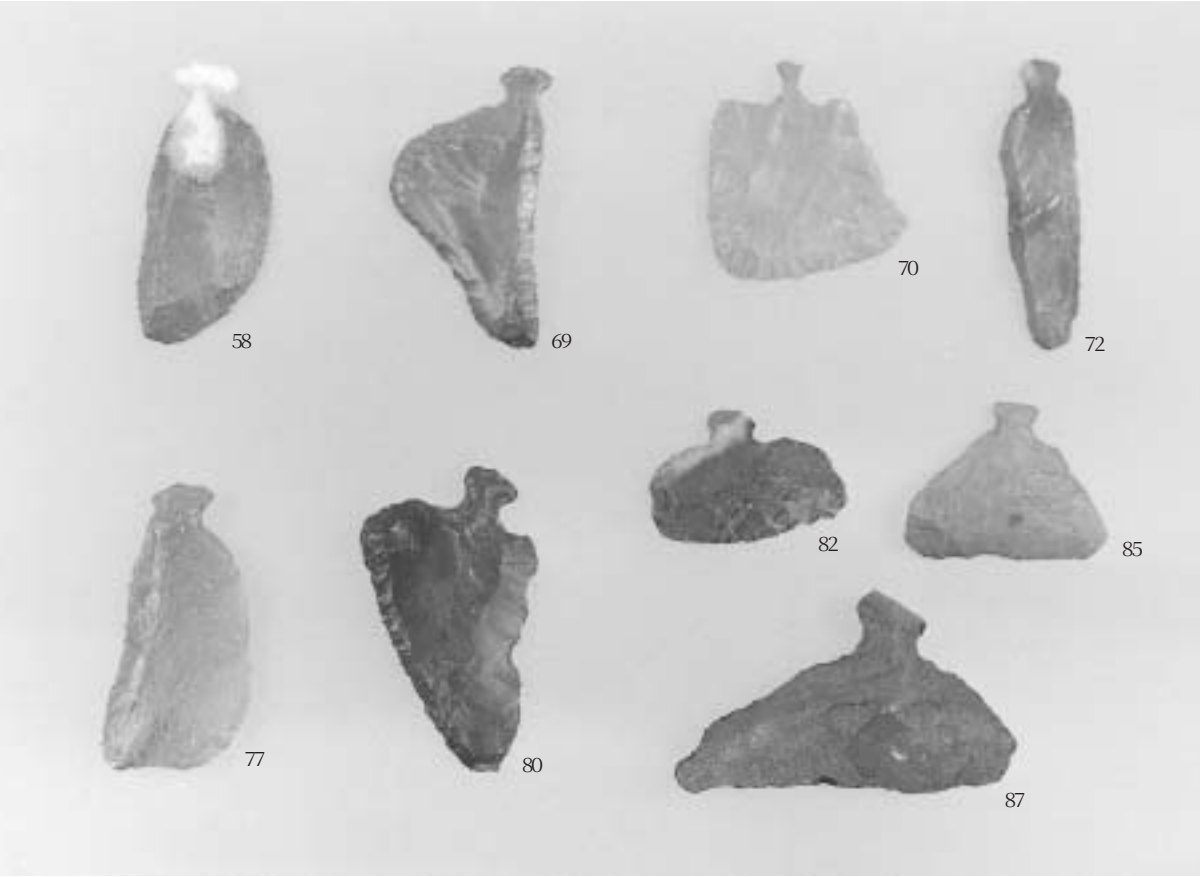
48

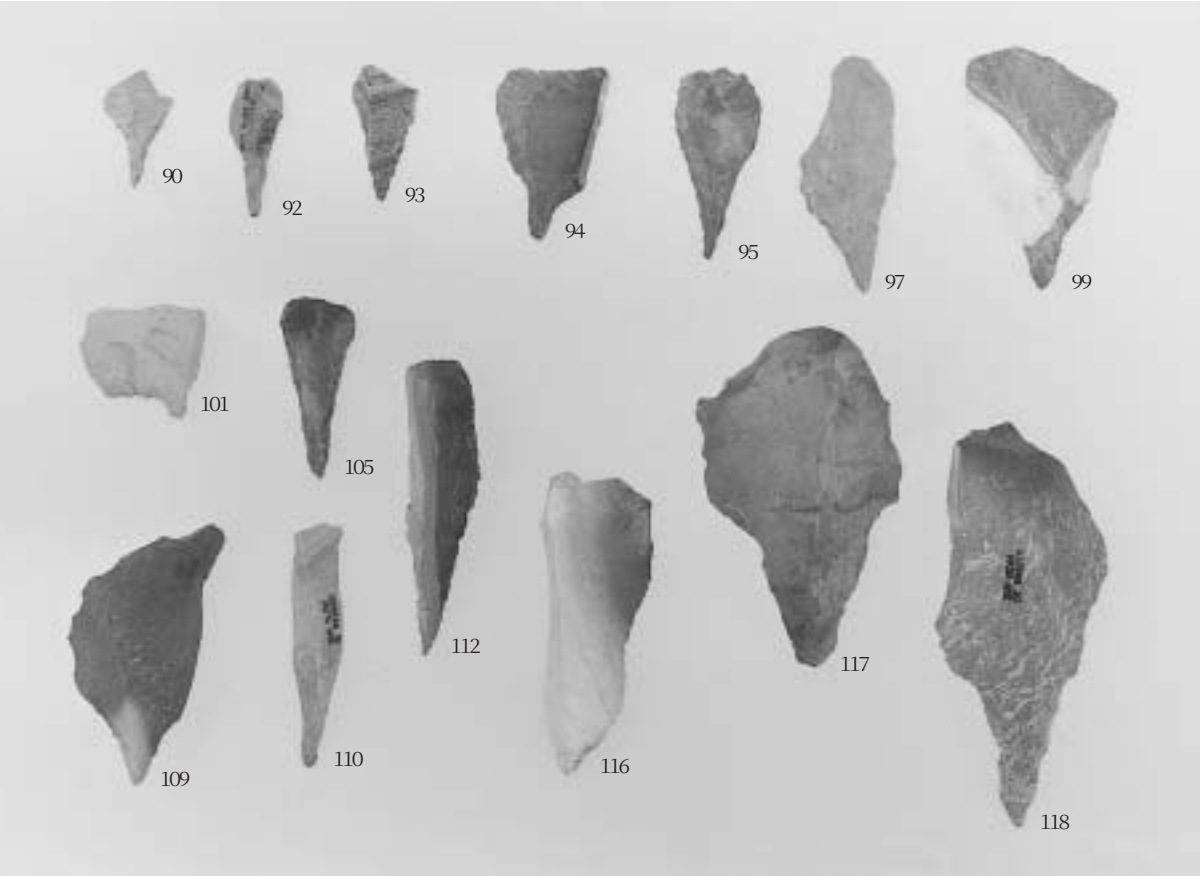
遺構外出土土器（2）


1
2
3
7
8
9
10
13
14
15
16
17
19
20
21
22
23
24
27
28
29
30
35
36
37
38
39
41
42
44
45
46
47

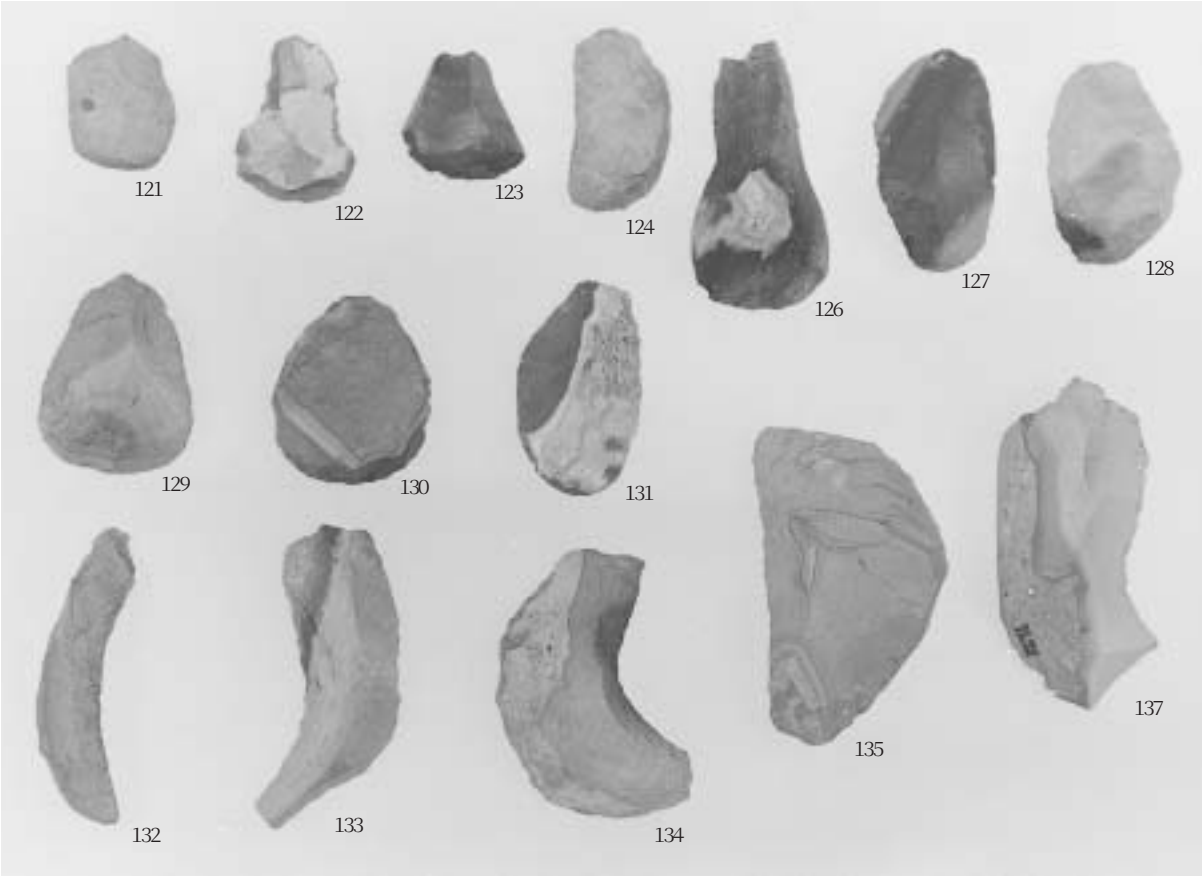

48
49
50
51
52
53
54

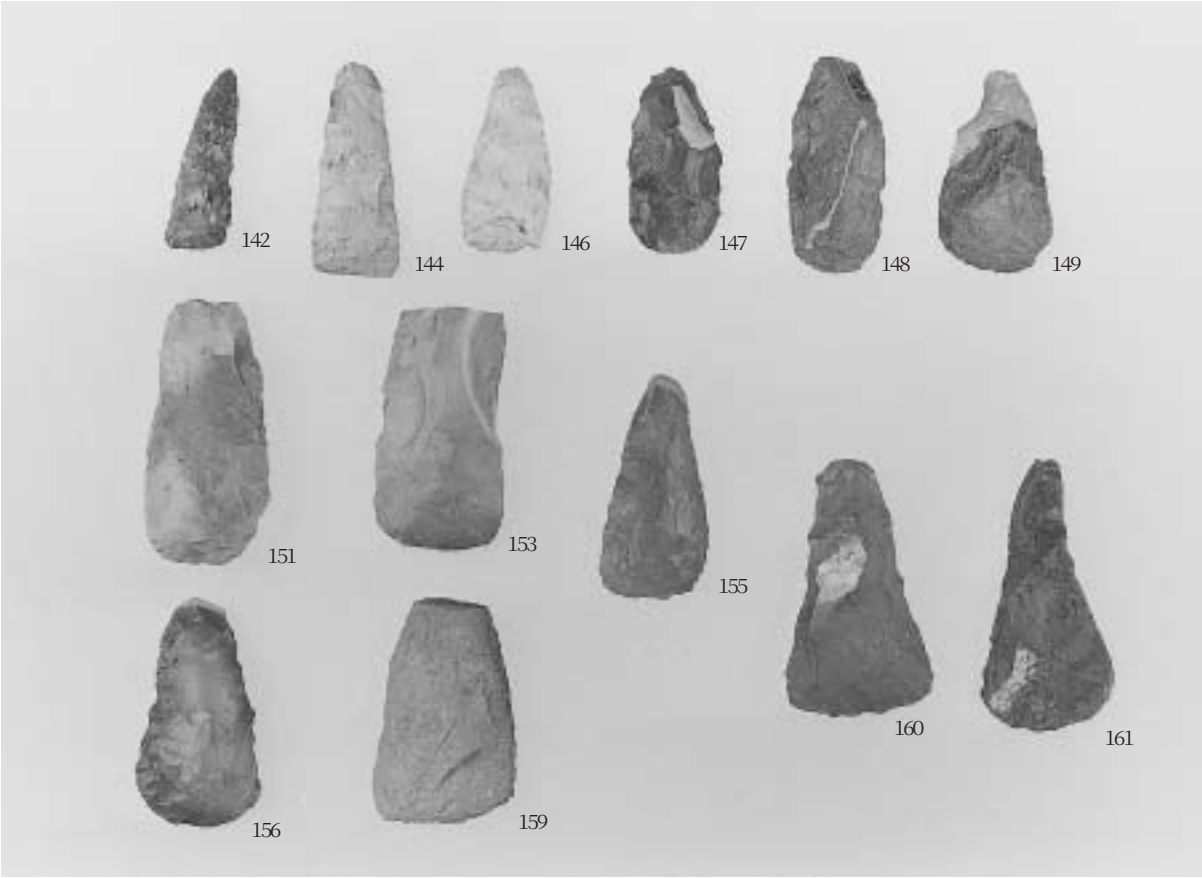
遺構外出土石器（1）


58
69
70
72
77
80
82
85
87

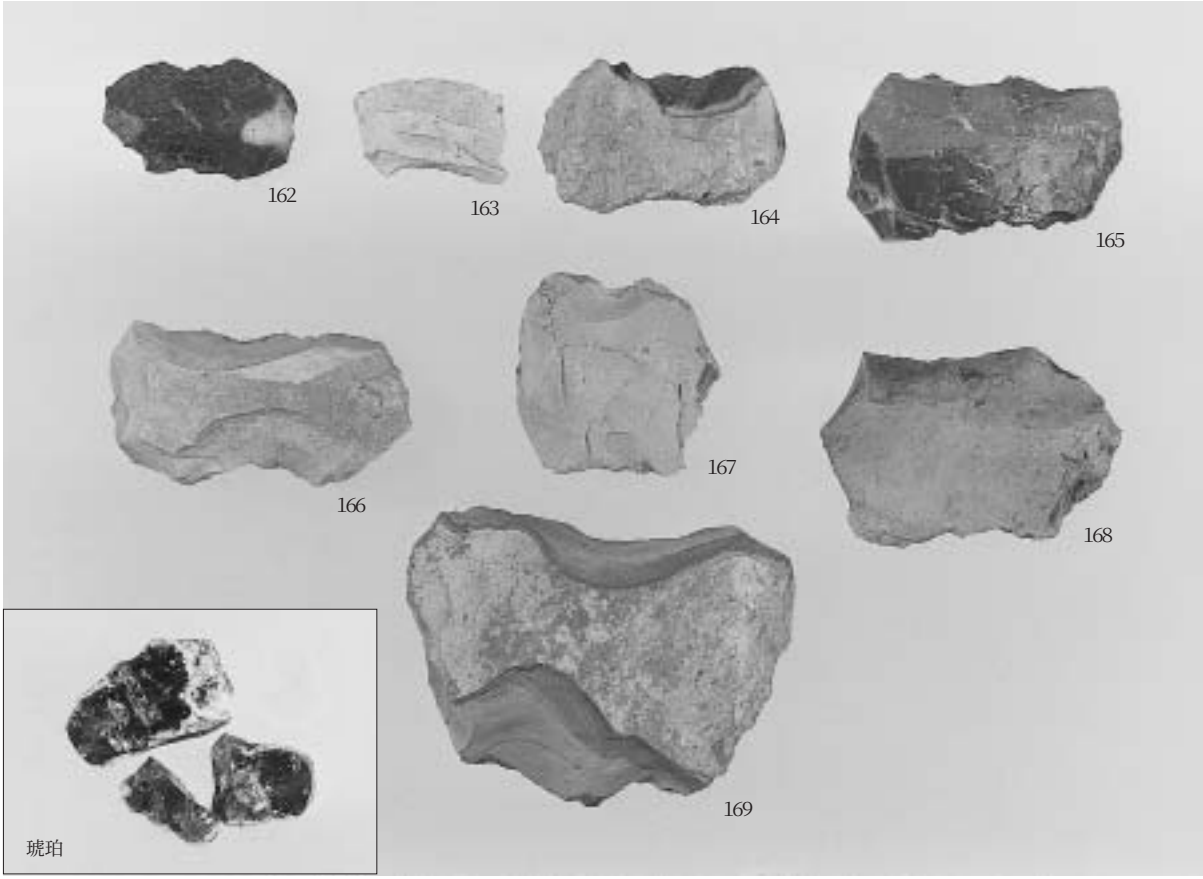

90
92
93
94
95
97
99
101
105
109
110
112
116
117
118

遺構外出土石器（2）

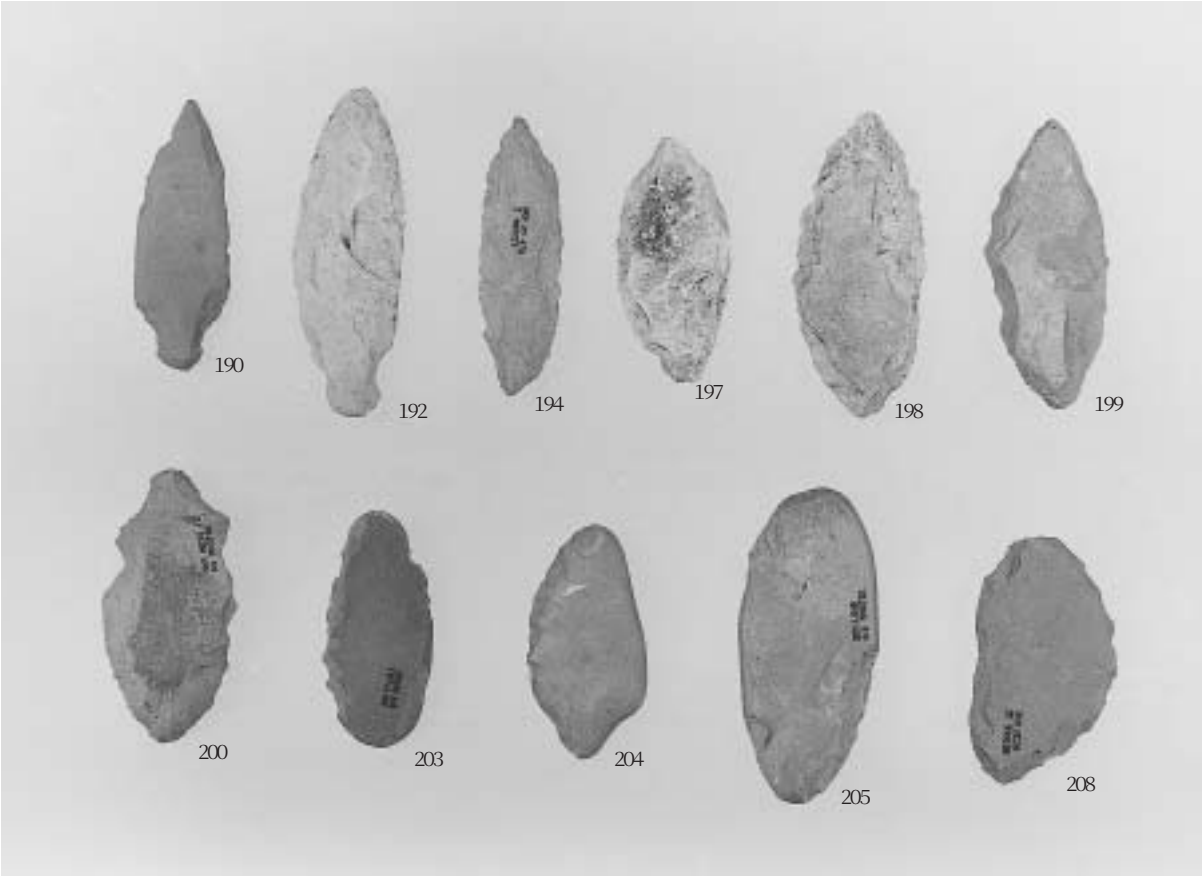

121
122
123
124
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
137


142
144
146
147
148
149
151
153
155
156
159
160
161

遺構外出土石器（3）

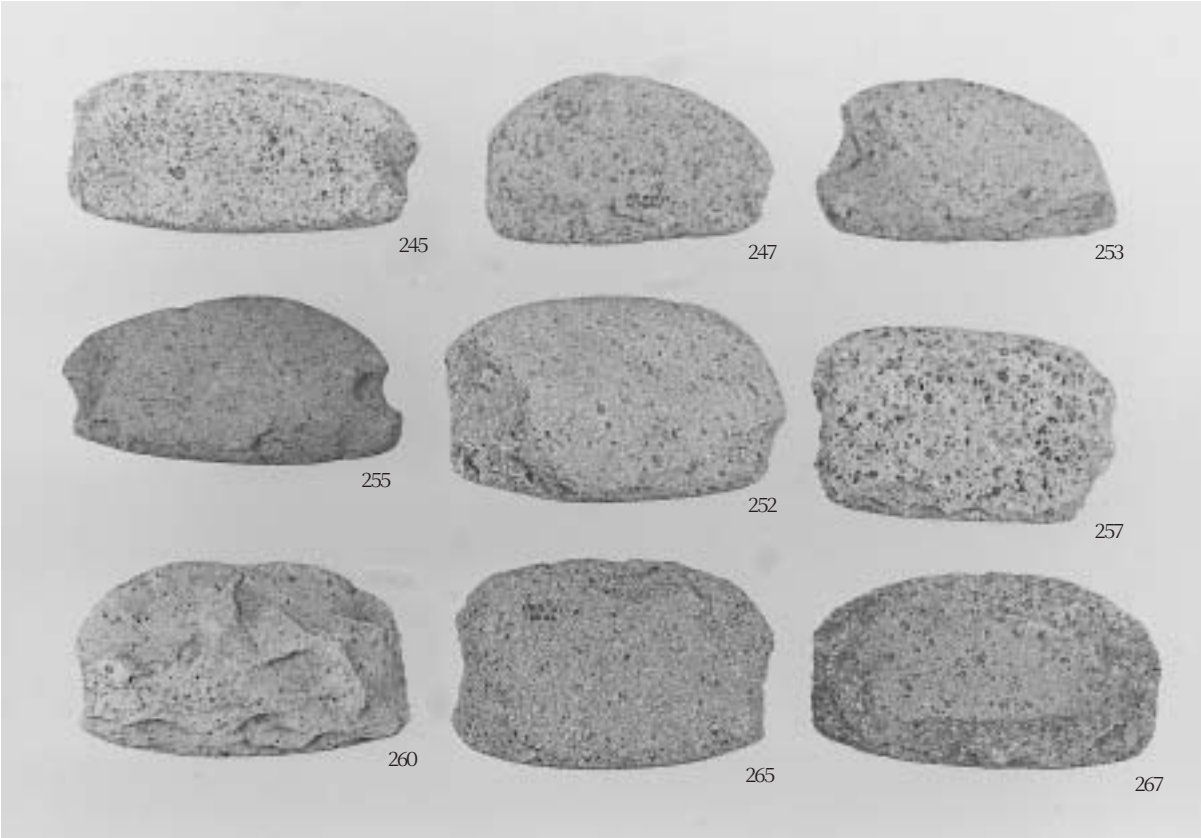


遺構外出土石器（4）


190
192
194
197
198
199
200
203
204
205
208

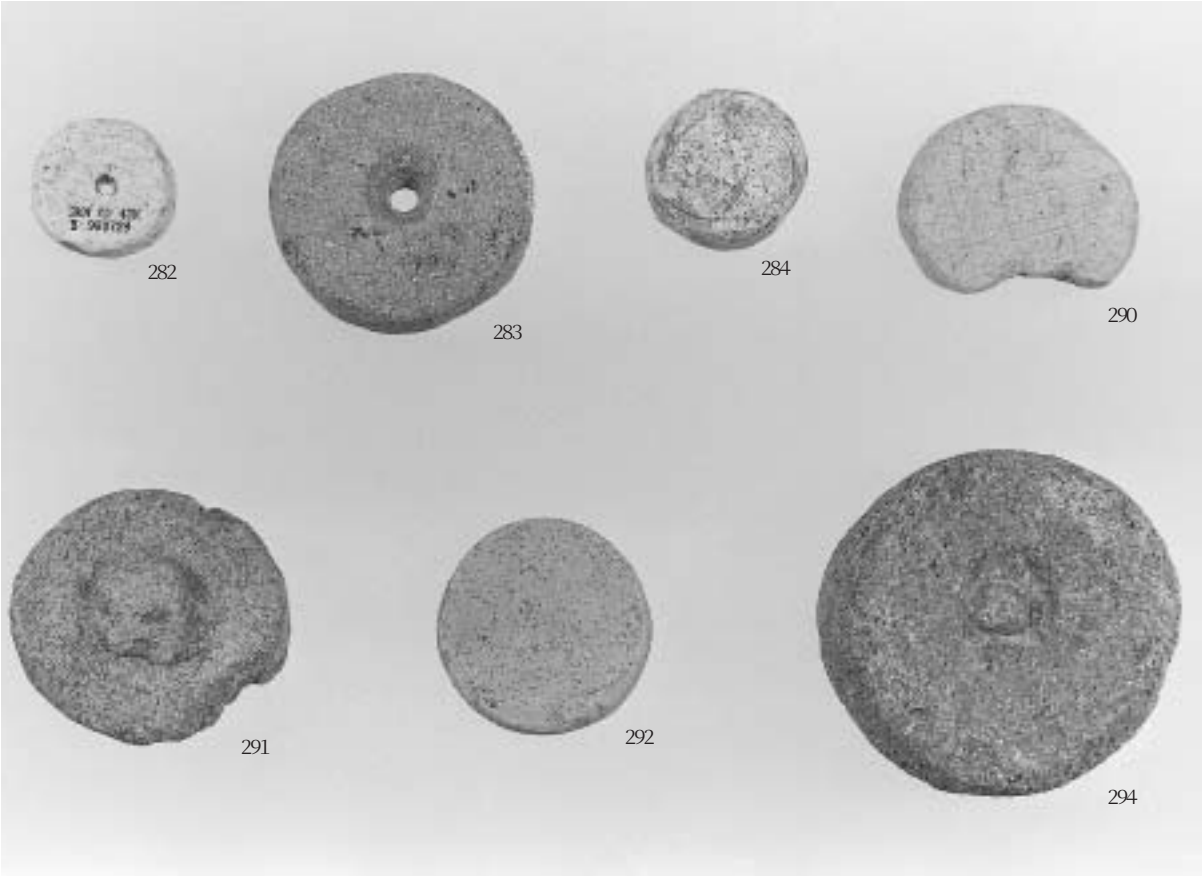
209
210
212
211
213
214
215
218
221
223
225
234
235
236
237
238
240

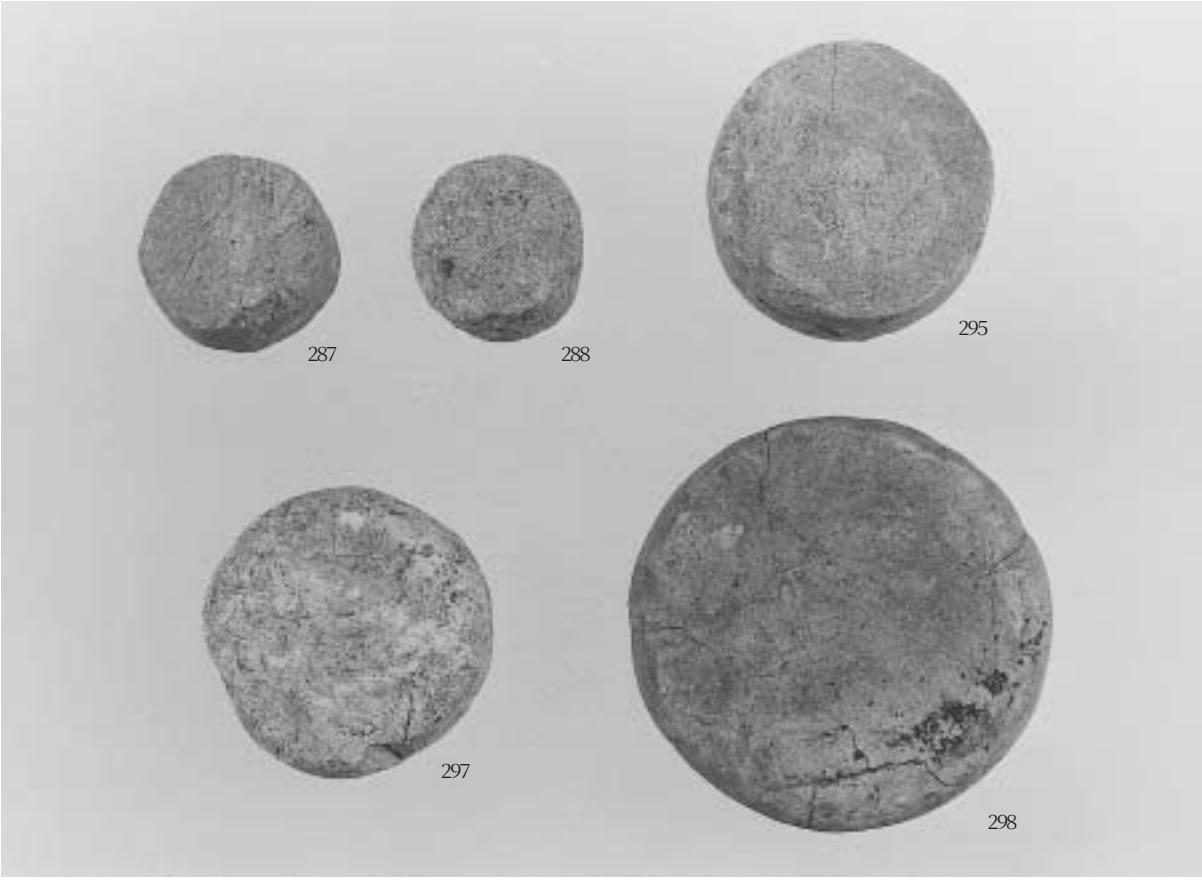
遺構外出土石器（5）



遺構外出土石器（6）

遺構外出土石製品（1）





遺構外出土石製品（2）

報告書抄録

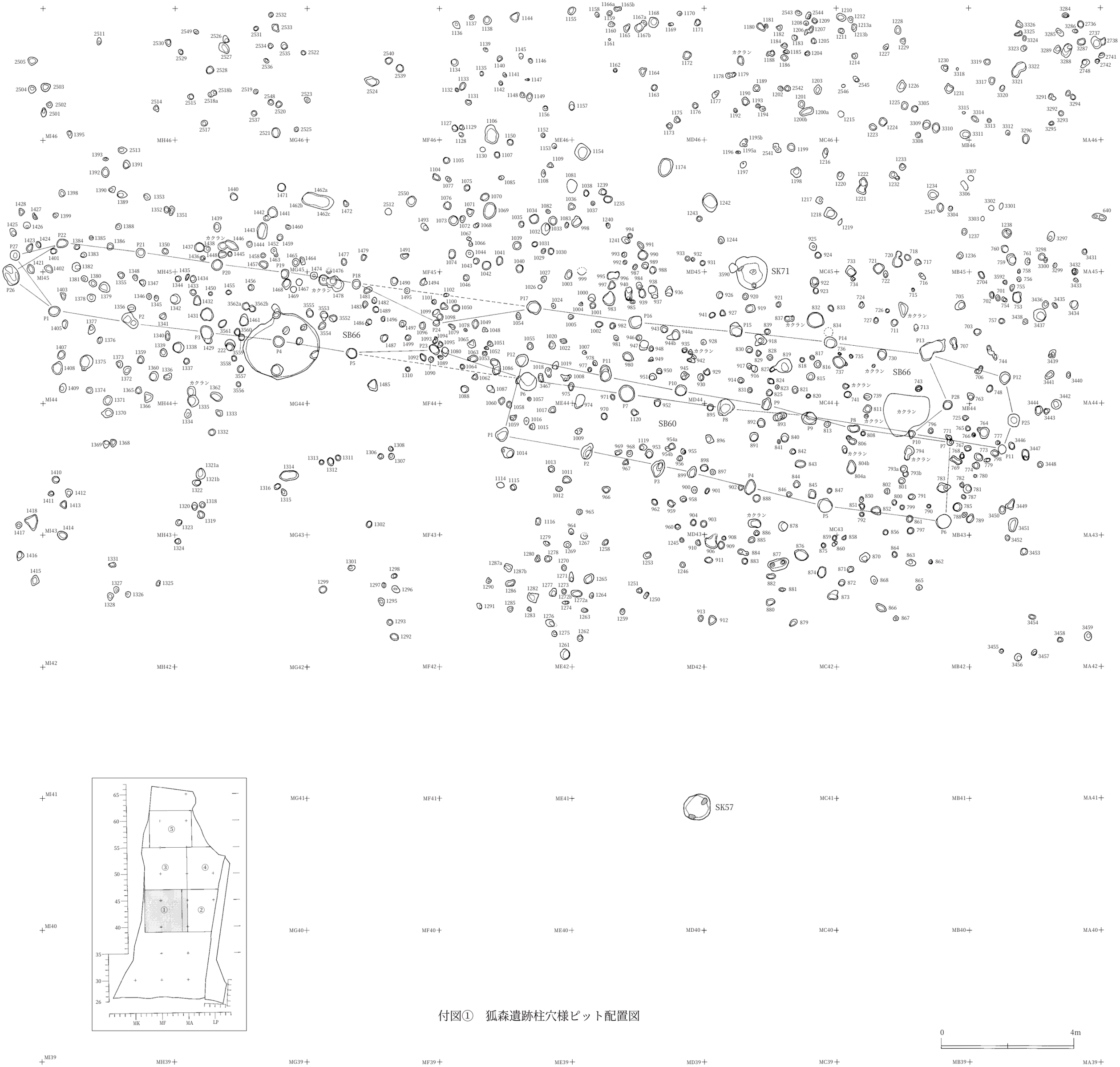
ふ り が な	きつねもりせき
書　　名	狐森遺跡
副 書 名	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	ＸＸＩ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第378集
編 著 者 名	村上義直・高橋忠彦
編 集 機 関	秋田県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20　　TEL0187-69-3331
発行年月日	西暦2004年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
狐森遺跡（きつねもりいせき）	秋田県山本郡琴丘町鹿渡字狐森33外（あきたけんやまもとぐんことおかまちかどあざきつねもりほか）	05341	18-10	40度 1分 44秒	140度 5分 24秒	19980427 ～ 19981127 19990426 ～ 19991112	2,400㎡ 7,000㎡	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る事前発掘調査

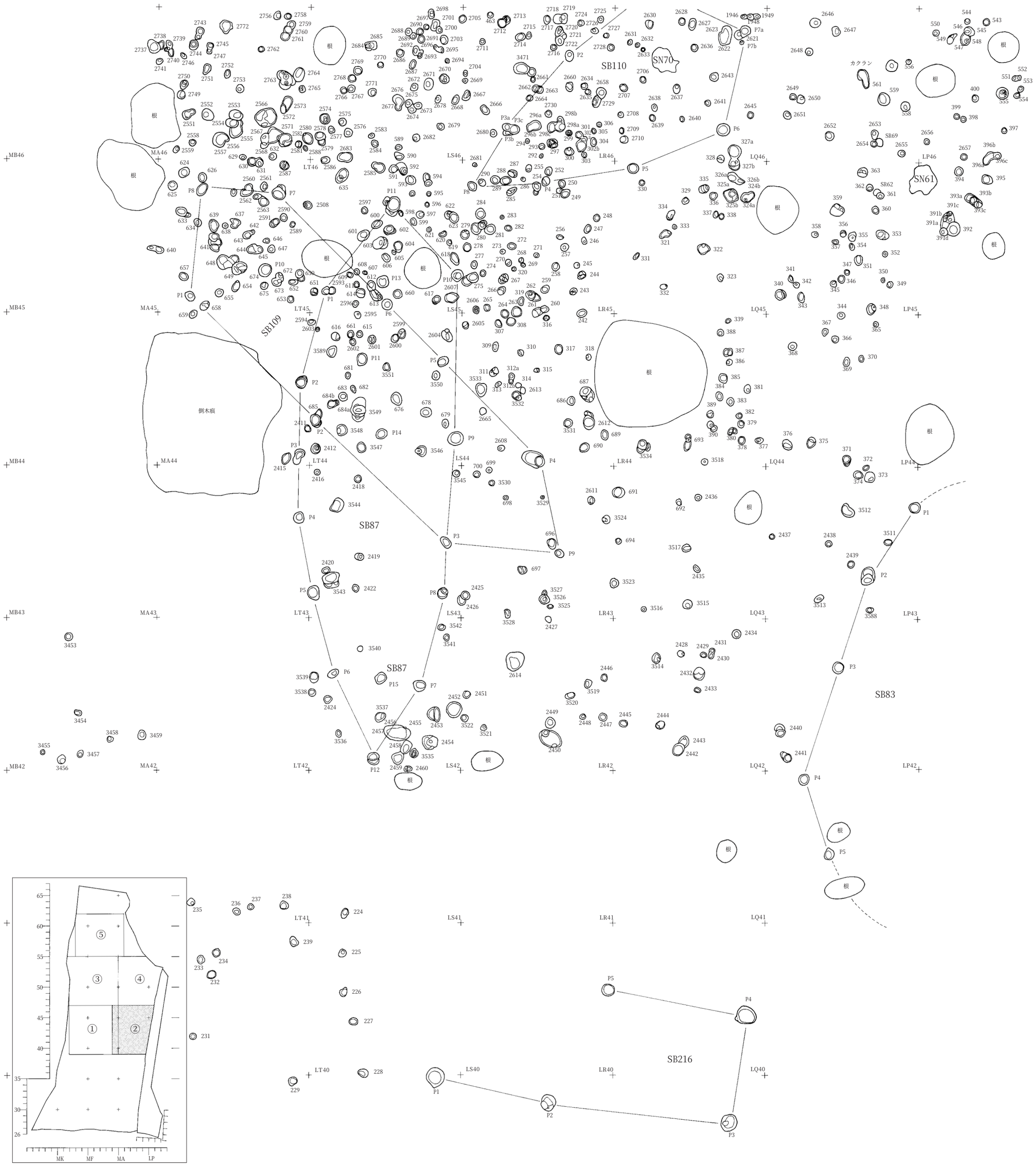
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特　記　事　項
狐森遺跡（きつねもりいせき）	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	２軒	縄文土器 土製品 石器 石製品	縄文時代前期を中心とする集落跡で、掘立柱建物跡・竪穴住居跡・土器埋設遺構などで構成される。
			竪穴住遺構	２基		
			掘立柱建物跡	12棟		
			フラスコ状土坑	５基		
			土坑	24基		
			土器埋設遺構	10基		
			溝状遺構	１条		
		古代	掘立柱建物跡	１棟	須恵器	掘立柱建物跡・土坑などで構成される集落跡。
			土坑	７基		
			炭窯	４基		
			集石遺構	４基		
			溝状遺構	５基		

秋田県文化財調査報告書第378集
狐　森　遺　跡
－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＩ－

印刷・発行　平成16年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187（69）3331　FAX（0187）69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王３丁目１番１号
電話 018（860）5193
印　　刷　株式会社 江川印刷所

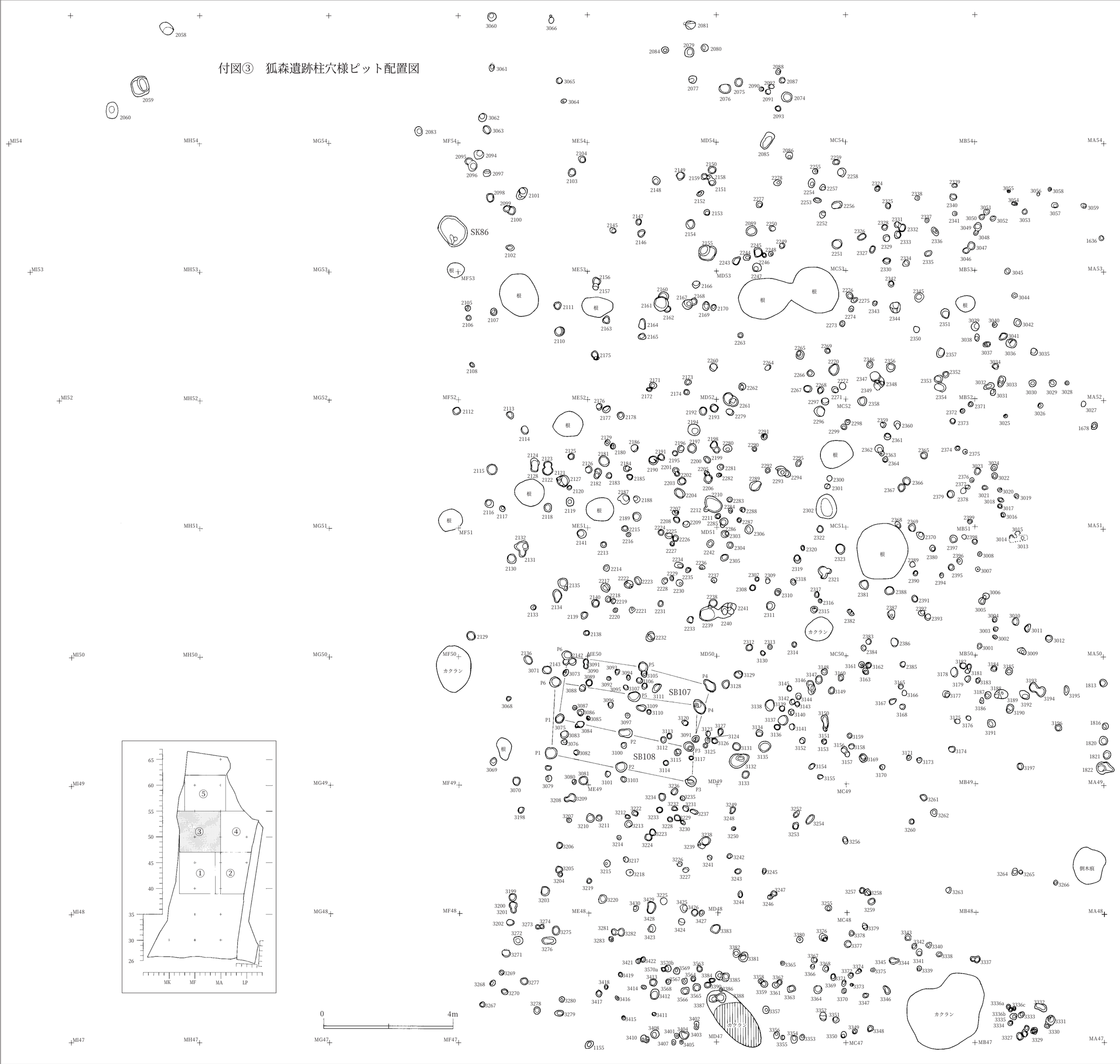


付図①　狐森遺跡柱穴様ピット配置図

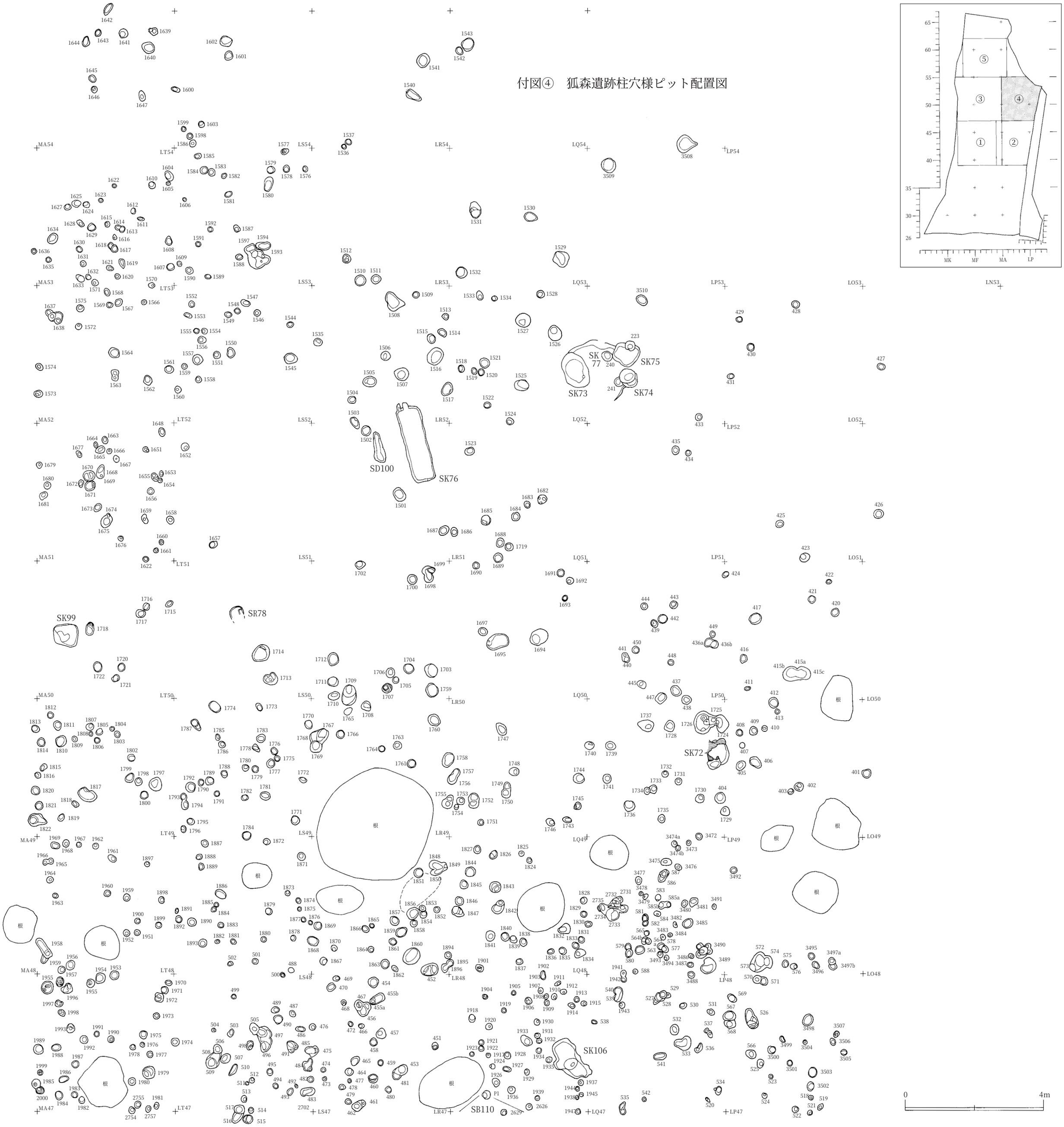
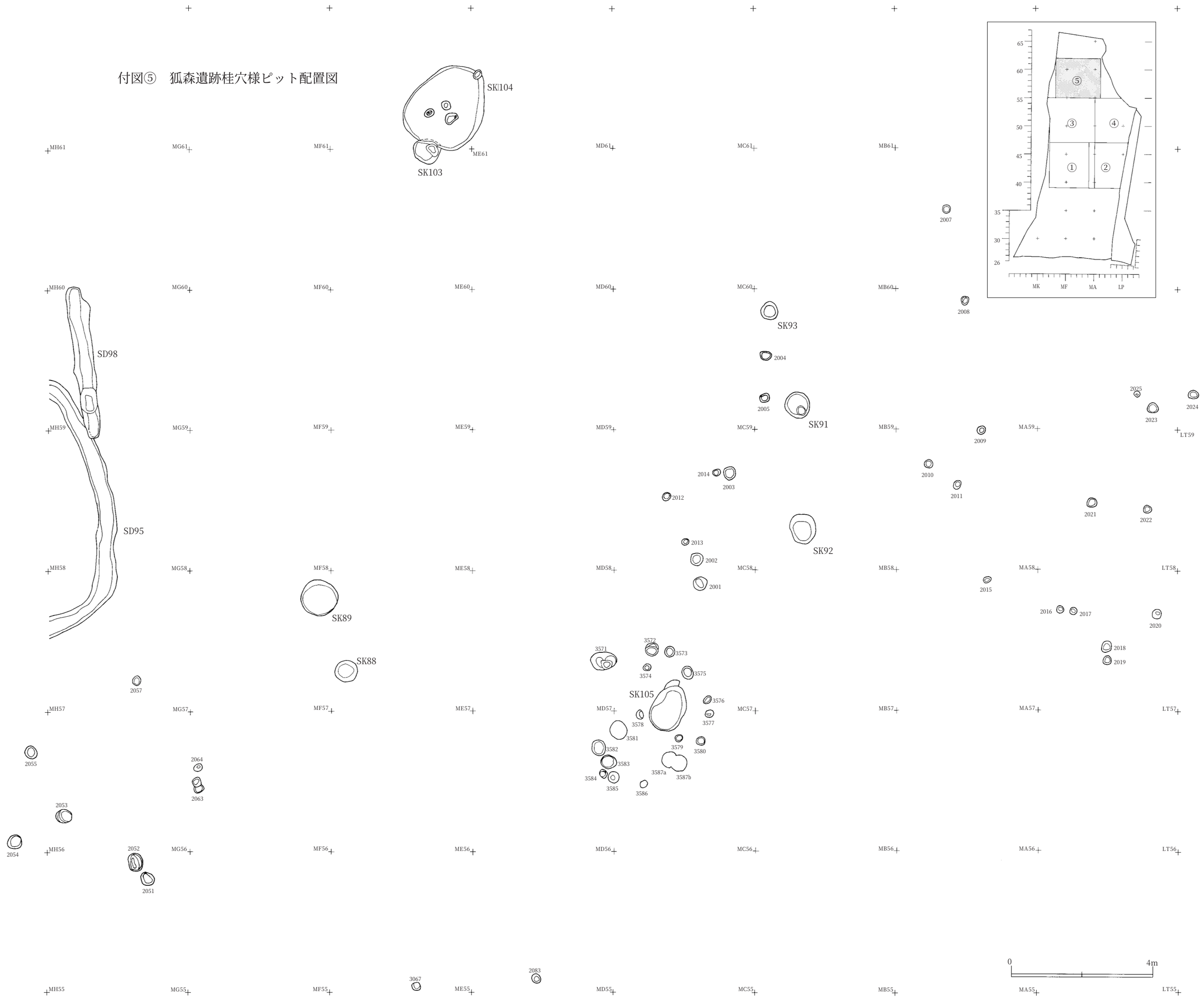


付図②　狐森遺跡柱穴様ピット配置図

付図③　狐森遺跡柱穴様ピット配置図



付図④　狐森遺跡柱穴様ピット配置図



付図⑤　狐森遺跡桂穴様ピット配置図